

取扱説明書

Sceata[®]
CT4-LX



目次

はじめに.....	8
本書について.....	8
安全にお使いいただくために.....	9
設置および取り扱い上のご注意.....	14
安全な場所を選択.....	14
電源.....	15
印字について.....	16
電波に関する注意事項.....	17
環境負荷物質.....	19
著作権.....	20
商標.....	21
本製品でできること.....	23
製品の特長.....	23
色々な発行方法の紹介.....	24
汎用ソフトウェアを使用して発行する.....	24
ホストから発行する.....	25
専用コマンドを使用して発行・制御する.....	26
スタンドアロン（AEP）アプリケーションを使用して発行する.....	27
基本情報.....	28
同梱品.....	28
オプション製品.....	30
各部の名称.....	31
操作パネルの使い方.....	35
LEDインジケータ.....	35
タッチパネルの操作方法.....	36
ホーム画面の操作.....	38
オンライン状態/オフライン状態の操作.....	39
画面をスワイプして表示されるパネルの操作.....	41
ステータスアイコン.....	42
エラー発生時の操作.....	47
印字中に印字設定を調整する方法.....	48
印字をキャンセルする方法.....	50
ヘルプ動画.....	52
ヘルプ動画の一覧.....	53
エラー画面からヘルプ動画を再生する方法.....	55
オンライン状態からヘルプ動画を再生する方法.....	56
ヘルプ動画の操作方法.....	58
設定モード.....	59
設定モードのメニュー.....	60
設定モードに切替える.....	61
設定モードにログイン/設定モードからログアウトする.....	63
設定モードの操作.....	64
設定値の入力.....	66
本製品のメモリについて.....	68
本体メモリとUSBメモリ.....	68
本製品内部にUSBメモリを取り付ける.....	69

はじめて使うとき.....	73
設置スペースについて.....	73
正面.....	73
側面.....	74
底面.....	75
電源のオン/オフ.....	76
ACアダプタと電源コードを接続する.....	76
本製品の電源を入れる.....	77
本製品の電源を切る.....	79
初期設定（スタートアップガイド）.....	81
スタートアップガイドの流れ.....	82
スタートアップガイドのキャンセル.....	87
動作モードを手動で設定する.....	88
コンピュータとの接続.....	90
コンピュータとの接続の流れ.....	91
インタフェースを接続する.....	92
使用できるインタフェース.....	92
USBインタフェース接続（標準）.....	93
NFCインタフェース接続（標準）.....	94
LANインタフェース接続（標準）.....	95
RS-232Cインタフェース接続（オプション）.....	95
無線LANインタフェース接続（オプション）.....	97
Bluetoothインタフェース接続（オプション）.....	97
インタフェース設定.....	99
インタフェース設定の方法.....	99
本製品の設定モードからインタフェース設定をおこなう.....	99
All-In-One Toolを使用してインタフェース設定をおこなう.....	100
プリンタドライバをインストールする.....	101
All-In-One Toolでできること.....	102
用紙とリボンのセット.....	103
用紙とリボン、印字方式について.....	103
用紙のセット.....	104
使用できる用紙について.....	104
用紙の巻き方向について.....	105
用紙をセットするときの注意.....	106
ロール紙をセットする.....	107
ロール紙をセットする（オプションのハクリユニット取り付け時）.....	110
ロール紙をセットする（オプションのカッタユニット取り付け時）.....	115
ロール紙をセットする（オプションのノンセパカッタユニット取り付け時）.....	118
ファンフォールド紙をセットする.....	121
リボンのセット（熱転写方式のみ）.....	125
リボンアダプタをセットする.....	126
リボンをセットする.....	127
リボンを交換する.....	131
用紙に応じた設定.....	135
用紙無駄なし機能について.....	135
用紙無駄なし機能を使用するときの注意.....	136
印字設定をメディアスタートアップで一括設定する（1種類の用紙のみを使用する場合）.....	140
印字設定をメディアプロファイルとして登録する（複数種類の用紙を使用する場合）.....	147
印字方式（感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ）.....	155
用紙センサタイプ.....	157
用紙やリボンの交換時期.....	159
用紙やリボンの残量を確認する.....	159
ペーパーエンドの発生条件.....	160

リボンエンドの発生条件（熱転写方式のみ）	164
リボンニアエンドの発生条件（熱転写方式のみ）	165
本製品の各種設定	166
本製品の [設定] メニュー	166
[印字] メニュー	167
[メディア種]	167
[用紙長]	167
[用紙幅]	168
[ラベル自動測長]	168
[印字方式]	169
[リボンニアエンド]	169
[印字速度]	169
[センサタイプ]	170
[自動モード]	170
[動作モード]	170
[バックフィード動作]	172
[排出カット]	172
[濃度レンジ]	173
[印字濃度]	173
[基点補正]	173
[詳細設定]	175
[通信設定] メニュー	186
[ネットワーク]	186
[RS-232C]	211
[USB]	213
[NFC]	214
[CR/LFカット]	214
[CAN/DLEカット]	214
[RFID]	214
[アプリケーション] メニュー	223
[プロトコル]	223
[Auto Switch Group]	224
[SBPL]	225
[SZPL]	228
[SIPL]	230
[STCL]	231
[SDPL]	233
[SEPL]	240
[スタンドアロン] メニュー	242
[システム] メニュー	243
[地域]	243
[お知らせ機能]	245
[ブザー音]	246
[低消費電力モード]	247
[LCD表示濃度]	248
[総発行枚数表示]	248
[パスワード]	248
[AC電源起動機能]	250
[互換]	250
[テーマ]	256
[ツール] メニュー	257
[メディアスタートアップ]	257
[メディアプロファイル編集]	257
[テスト印字]	258
[HEXダンプ]	266
[リセット]	270
[プロファイル]	271

[サービスモード]	272
[工場モード]	272
[Wi-Fiサイトサーベイ]	273
[証明書登録]	273
[証明書削除]	274
[Clone作成]	274
[AutoClone設定]	275
[ログ採取]	276
[スタートアップガイド]	277
[インフォメーション] メニュー	278
[ヘルプ動画]	278
[ビルドバージョン]	281
[アプリケーション]	281
[インストールログ]	281
[印字モジュール]	281
[センサモジュール]	282
[FPGAバージョン]	282
[カウンタ]	282
[LAN]	283
[Wi-Fi]	283
[Wi-Fi Direct]	283
[Wi-Fiバージョン]	283
[Bluetooth]	284
[認証]	284
[表示言語] メニュー	285
[Bluetooth] メニュー	286
[有効]	286
[デバイス名]	286
[PINコード]	286
[BDアドレス]	286
[BDバージョン]	287
[ホストBDアドレス]	287
[ペアリング]	287
[IAP機能]	287
[iOS再接続]	287
[認証モード]	287
[ISI]	288
[ISW]	288
[PSI]	288
[PSW]	288
[CRCチェック]	288
[通信プロトコル]	289
[Wi-Fi] メニュー	290
[有効]	290
[Wi-Fi設定]	290
Webブラウザからの本製品の設定	306
Web設定ページにアクセスする	306
ダッシュボード	308
設定	310
ツール	313
証明書	315
SATO App Storageを有効にする	316
 本製品の調整	 320
印字有効範囲	320
用紙センサ位置および用紙停止位置	321
印字動作のフロー	322

印字動作について.....	322
連続発行モードの動作フロー.....	323
ティアオフモードの動作フロー.....	325
カットモードの動作フロー.....	329
印字中カットモードの動作フロー.....	335
パーシャルカットモードの動作フロー.....	338
ハクリモードの動作フロー.....	342
ノンセパカットモードの動作フロー.....	348
ノンセパティアオフモードの動作フロー.....	350
RFID書込み時の動作フロー（RFIDモデルのみ）.....	352
用紙センサ無効時の動作フロー.....	374
用紙無駄なし機能有効時の動作フロー.....	375
基点を調整する.....	390
基点について.....	390
印字位置を調整する.....	393
用紙停止位置を調整する.....	396
さまざまな用紙の停止/カット位置調整ガイドライン.....	399
用紙頭出しセンサの位置を調整する.....	401
印字の品質を調整する.....	403
印字濃度の調整.....	403
印字速度の調整.....	405
ブザーの音量を調整する.....	407
RFID設定（RFIDモデルのみ）.....	409
使用できるRFIDの規格.....	409
RFIDタグ型式を読み出す.....	410
RFIDタグの印字エラー.....	414
RFID印字のヒント.....	418
本製品の設定とデータを自動バックアップする.....	419
本製品の初期化.....	422
初期化の手順.....	422
初期値一覧.....	425
[印字] メニュー.....	425
[通信設定] メニュー.....	428
[アプリケーション] メニュー.....	436
[スタンドアロン] メニュー.....	441
[システム] メニュー.....	441
[ツール] メニュー.....	444
[インフォメーション] メニュー.....	447
[Bluetooth] メニュー.....	448
[Wi-Fi] メニュー.....	449
メンテナンス.....	453
本製品のお手入れ.....	453
お手入れについて.....	453
お手入れ時期の目安.....	454
本製品内部のお手入れ.....	455
本製品内部のお手入れ（オプションのノンセパユニット取り付け時）.....	459
ラッピングシートでのサーマルヘッドのお手入れ.....	462
消耗部品の交換.....	465
サーマルヘッドを交換する.....	465
プラテンローラーを交換する.....	468
オプションのノンセパプラテンローラーを交換する.....	470
SOS（SATO Online Services）オンデマンドモードの通知画面の操作方法.....	472
SOS（SATO Online Services）専用アプリについて.....	474
困ったとき.....	475

エラーメッセージが表示されたら.....	475
SOS (SATO Online Services) 有効時のエラーメッセージ表示と操作方法.....	542
SOS (SATO Online Services) 有効時のプロビジョニングエラーメッセージ.....	543
困ったときのお問い合わせ先.....	544
製品仕様.....	545
ハードウェア.....	545
インタフェース.....	549
対応インタフェース.....	549
USBインタフェース.....	550
NFCインタフェース.....	551
LANインタフェース.....	552
Bluetoothインタフェース.....	553
RS-232Cインタフェース.....	554
無線LANインタフェース.....	556
プリンタ言語.....	558
規格.....	559
使用できる用紙.....	560
使用できるリボン.....	565
使用できるフォント.....	566
使用できるバーコード.....	590
保証と保守について.....	592
保証登録について.....	592
保守サポートについて.....	593
保証規定について.....	594
製品保証期間における消耗部品の保証について.....	595
よくあるご質問 (Q&A) ・ 関連マニュアル.....	596

はじめに

本書について

このたびは、当社CT4-LX（以下、本製品）をお買い求めいただきまして、まことにありがとうございます。

本書は、はじめて本製品をお使いになる方に、基本的な操作を習得していただくことを目的としています。本書をよくお読みいただき、本製品の機能をご理解のうえ操作してください。

記号について

この取扱説明書では、以下の記号を使用しています。

項目	説明
 (警告)	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 (注意)	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。
 (補足)	知っていると便利な補足情報を示しています。
 (参照)	関連情報の参照先を示しています。



- 本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。
- 本書の内容に関しては、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容について万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、購入された販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。



- 本書のイラストや画面は、特に断りがない限り感熱方式/熱転写方式兼用モデルを使用しています。
- 本書の説明では、ビルドバージョン6.6.2-r1のファームウェアを使用しています。

安全にお使いいただくために

ここでは、製品のご使用時における安全について記載しています。

製品をご使用になる前に必ずお読みください。

絵表示について

この取扱説明書と製品には、いろいろな絵表示が記載されています。これらは、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害、財産への損害を未然に防止するための表示です。絵表示の意味をよく理解してから本文をお読みください。

 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の説明



 の絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」です。



 の絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。



 の絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

警告

 指定以外の電圧は使用しない	指定された電源電圧以外は、使用しないでください。火災・感電の原因になります。
 危険な場所で使用しない	本製品は防爆認定機器ではありません。爆発性雰囲気では使用しないでください。引火・爆発の危険があります。
 不安定な場所に置かない	ぐらついた台の上や傾いた場所、振動のある場所などに置かないでください。本製品が落ちたり倒れたりして、ケガをするおそれがあります。
 高温になる場所に置かない	本製品を発熱するもの（加熱調理器具やストーブなど）のそばなど、高温になる場所に置かないでください。本製品が破損し、火災・感電の原因になります。
 落下・破損した場合は	本製品やACアダプタを落下させたり破損したりした場合は、すぐに製品の電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いて、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
 電源コードやケーブルの取り扱い	電源コードやケーブルが傷んだら（芯線の露出・断線・変形など）、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
 ACアダプタや電源コード、ケーブルの取り扱い	- ACアダプタや電源コード、ケーブルを傷つけたり、破損したり、加工したり、重いものを載せたり、加熱したり、高温になる場所に置いたりしないでください。また、電源コードやケーブルを無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。火災・感電の原因になります。 - ACアダプタや電源コード、ケーブルに水をかけたり、濡らしたりしないでください。故障・感電の原因になります。 - 同梱品のACアダプタおよび電源コードは本製品専用です。他の電気製品に使用しないでください。また、本製品に他のACアダプタや電源コードを使用しないでください。火災・感電の原因になります。
 異常な状態で使用しない	煙が出ている、変な臭いがするなどの異常が発生したまま本製品を使用しないでください。火災・感電の原因になります。すぐに電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いて、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクに修理をご依頼ください。

 水などの入った容器を置かない	本製品の周辺に花ビン、コップなど水や薬品の入った容器を置かないでください。万一、水や薬品が中に入った場合は、すぐに電源を切り、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
 水中に落下させない	本製品を水の入った容器の周辺で使用しないでください。万一、水中に落下した場合は、すぐに電源を切り、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。
 内部に異物を入れない	本製品の開口部（ケーブルの出口など）から金属物や燃えやすいものを差し込んだり、落としたりしないでください。万一、内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切り、電源コードのプラグをコンセントから抜いて、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。そのまま使用すると火災・発火・発熱・感電の原因になります。
 ケーブルやオプション機器の接続について	- ケーブルやオプション機器を接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。電源を入れたまま接続すると、オプション機器が突然動いてケガ・感電・故障の原因になります。 - ケーブルやオプション機器を取り付けるときは、取り付ける向きや手順を間違えないでください。ケガ・火災・感電・故障の原因になります。 - 同梱品または推奨品以外のケーブルを使用しないでください。発煙・火災・感電・故障の原因になります。
 濡れた手で操作しない	濡れた手で電源の操作ならびに電源コードやケーブルの抜き差しをしないでください。感電・故障の原因になります。
 分解しない	本製品およびACアダプタを分解したり、改造したりしないでください。火災・感電の原因になります。内部の点検・調整・修理は、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご依頼ください。
 プリンタ清掃液の取り扱い	- 同梱品または推奨品以外のプリンタ清掃液を使用しないでください。 - プリンタ清掃液は、火気厳禁です。絶対に加熱したり、火の中に投入したりしないでください。 - お子様が間違えて飲み込まないように手の届かない場所に保管してください。万一飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。
 カッターに手やものを入れない	カッターの刃に触れたり、用紙以外の異物を入れたりしないでください。ケガをするおそれがあります。

注意

 持ち運び	• 用紙や外付けのオプション機器をセットしたまま、本製品を持ち運ばないでください。用紙やオプション機器が落ちてケガをするおそれがあります。 • 本製品を床や台の上などに置くときは、指や手を挟まないように注意してください。 • 本製品を移動するときは、必ず電源を切ってから電源コードのプラグをコンセントから抜き、接続したケーブルを外してください。そのまま移動すると、電源コードやケーブルが傷ついて火災・感電・故障の原因になります。
 湿度が高い場所に置かない	• 本製品を湿度の高い場所や結露する場所に置かないでください。結露した場合は、すぐに電源を切り、乾くまで使用しないでください。結露したまま使用すると、火災・感電・故障の原因になります。
 ACアダプタ	• ACアダプタが熱くなることがあります。火傷をしないように注意してください。
 電源コード・ケーブル	• 電源コードやケーブルをコンセントやコネクタから抜くときは、必ずプラグを持って抜いてください。電源コードやケーブルを持って抜くと芯線が露出したり断線したりして、火災・感電・故障の原因になります。 • 電源コードやケーブルに熱器具を近付けないでください。電源コードやケーブルの被覆が溶けて、火災・感電・故障の原因になります。
 ファンフォールド紙のセット	• 用紙供給口やカバーでケガをしないように注意してください。
 ロール紙のセット	• ロール紙をセットするときは、用紙と供給部の間に指を挟まないように注意してください。
 サーマルヘッド	• 印字後のサーマルヘッドは、高い温度になっています。用紙を交換するときや清掃をするときは、火傷をしないように注意してください。 • サーマルヘッドを素手で触らないでください。ケガ・故障の原因になります。 • サーマルヘッドは取扱説明書の手順に従って交換してください。手順が示されていない場合はお客様ご自身による交換はせず、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡ください。

 カバー	• カバーを開閉するときは、指を挟まないように注意してください。また、カバーが滑り落ちないようにしっかりと持ってください。
 長期間使用しないとき	• 本製品を長期間使用しないときは、安全のため電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。
 お手入れ・清掃のとき	• 本製品のお手入れや清掃をするときは、安全のため電源コードのプラグをコンセントから抜いてください。

設置および取り扱い上のご注意

安全な場所を選択

本製品の動作は、設置環境の影響を受ける可能性があります。

本製品の設置および取り扱いについては、以下の指示内容をご覧ください。

水平で平らな面の上に本製品を設置してください。

水平でない傾いた面の上に本製品を設置すると、印字品質が低下するおそれがあります。この場合、誤動作が引き起こされて、本製品の寿命が短くなる可能性もあります。

振動のある場所に本製品を設置しないでください。

大きな振動や衝撃を本製品に与えると、誤動作や製品の損傷が引き起こされ、本製品の故障につながります。

高温多湿の場所で本製品を使用、または保管しないでください。

温度や湿度が高い場所や急激に変動する場所は避けてください。

発熱するもの（加熱調理器具やストーブなど）のそばなどの高温になる場所は避けてください。

本製品が破損する可能性があります。

水分や油分にさらされる場所で本製品を使用、または保管しないでください。

水分や油分が本製品の内部に入ると、火災、感電、誤動作、故障などの原因になるおそれがあります。

ホコリを避けてください。

ホコリが付着すると、印字品質の低下や誤動作、故障の原因になるおそれがあります。

直射日光を避けてください。

本製品には、光学センサが内蔵されています。直射日光が当たると、センサの誤検知につながり、製品が正常に動作しないおそれがあります。なお、本製品を使用するときは、カバーを閉じてください。

危険場所で使用しないでください。

爆発性雰囲気では使用しないでください。引火・爆発の危険があります。

消費電力の大きい電気製品の近辺にあるコンセントから、電源を供給しないでください。

電気ノイズや電圧低下による誤動作や故障の原因になります。

電源

本製品の動作は、設置環境の影響を受ける可能性があります。

本製品の設置および取り扱いについては、以下の指示内容をご覧ください。

本製品にはAC電源が必要です。

本製品は、必ずAC電源に接続してください。

本製品には電圧の安定した電源を使用してください。

他の電気機器と同じ電源コンセントに接続しないでください。電圧の変動を引き起こしたり、本製品の性能に問題が生じる可能性があります。

印字について

印字結果は、ご使用環境（温度、湿度）、サプライ条件、本製品の設定（印字速度、印字濃度など）により異なります。

お客様の実際のご利用環境にて十分にテストをしていただき、最適な組合せでの運用を推奨いたします。

ご不明な点やご相談は、弊社営業担当または販売店までお問い合わせください。

電波に関する注意事項

本製品は、電波法に基づく技術基準の適合承認を受けています。したがって、本製品を使用するときに無線局の免許は必要ありません。また、本製品は日本国内でのみ使用できます。

以下の事項をおこなうと法律で罰せられることがあります。

- 本製品を分解/ 改造すること
- 本製品に貼ってある証明ラベル（シリアルシール）をはがすこと

以下の場所で使用した場合、著しく通信距離が短くなったり、通信できないことがあります。

- 電子レンジの近辺、静電気や電波障害が発生する所、無線LAN機器の近辺。

本製品の使用周波数帯では、産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）ならびにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア無線局が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか、または電波の発射を停止した上、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにご連絡いただき、混信回避のための処理など（例えばパーティションの設置など）についてご相談ください。
3. その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局あるいは、アマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生したなど何かお困りのことが起きたときは、最寄りの販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



“Bluetooth” は、米国Bluetooth SIGの商標です。
弊社は同団体とのライセンス契約に基づき使用しています。

2.4 FH 1

使用周波数帯域

2.4GHz

変調方式

FH-SS方式

想定干渉距離

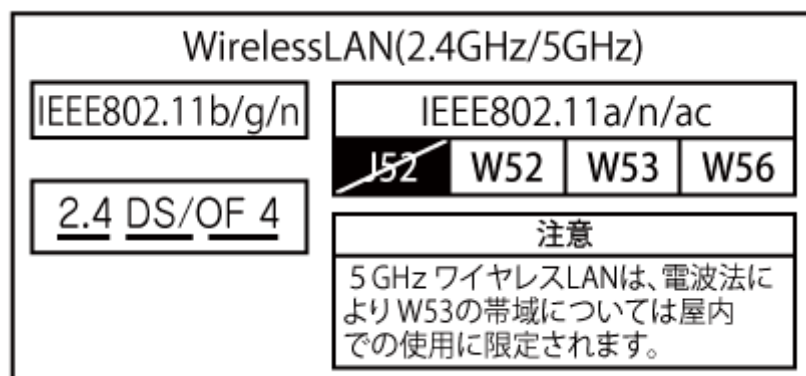
10m以下

周波数変更の可否

全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可

無線LANについて（オプション）

無線LANインターフェースをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関するすべての設定をマニュアルに従っておこなってください。



医療機器への影響について（RFIDモデルのみ）

本製品は、電波を使用したRFID機器搭載プリンタです。

そのため使用する用途・場所によって、医療機器に影響を与えるおそれがあります。

この影響を少なくするために、運用に際して以下のことを厳守してください。

植込み型医療機器装置者は、装置部位を本製品のRFID機器のアンテナ部より22cm以内に近づけないこと。

心臓ペースメーカーなどをご使用の方が本製品操作中に万が一気分が悪くなるようなことがありましたら、直ちに操作を中止して電源を切ってください。

この機器は電波法に基づく技術基準に適合した無線設備ですが、近くで電子機器を使用する場合は、事前に動作の確認をおこなってください。

無線モジュールの改造や、指定以外の部品に交換しますと、電波法により罰せられることがありますので、注意してください。

電波干渉について（RFIDモデルのみ）

本製品の近くにUHF帯のRFIDリーダー／ライターやプリンタが複数台設置されている場合、電波干渉が発生して正常に通信ができない場合があります。

事前に動作をご確認の上、ご使用をお願いいたします。

電波障害自主規制について

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

環境負荷物質

RoHS指令について

本製品は、電気機器や電子機器における特定有害物質の使用制限に関するRoHS指令2011/65 / EUに準拠しています。

REACH規則順守状況

(1) 化学物質登録状況

意図的に放出する物質はなく、欧州化学品庁に登録する化学物質は、ありません。

(2) 製品に含有する高懸念物質（SVHC：Substances of Very High Concern）情報

現時点で、製品中に0.1wt%を超えるSVHCの情報伝達は、ございません。今後、製品中に0.1wt%を超えるSVHCを把握した場合は、速やかに情報伝達いたします。

著作権

本書の内容の一部または全部を無断転載することは禁止されています。

© 2023 SATO Corporation. All rights reserved.

商標

- 以下は、サトーホールディングス(株)の日本、米国、およびその他の国における登録商標です。
 - SATO
 - SCeaTa (ロゴ)
 - 直結くん
 - Multi LABELIST
 - 接続くん
 - SmaPri
 - ノンセパ
 - SOS (SATO Online Services) (ロゴ)
 - SATO App Storage (ロゴ)
 - koDakara
- QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。
- Wi-Fi[®]は、Wi-Fi Allianceの登録商標です。
- 以下は、Wi-Fi Allianceの商標です。
 - Wi-Fi Direct[™]
 - Wi-Fi Protected Setup[™]
 - WPA[™]
 - WPA2[™]
- Microsoft Edgeは米国マイクロソフト社の登録商標です。
- Bluetoothは、米国Bluetooth SIG, Inc.の商標です。
- ICODE、I-CODE、およびSLIは、NXP B.V.の登録商標です。
- MIFARE[®]は、NXP B.V.の登録商標です。
- Tag-it[™]は、Texas Instrumentsの登録商標です。
- my-d[™]は、Infineon Technologies AGの登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社の登録商標です。
- FeliCaは、ソニー株式会社が開発した非接触ICカードの技術方式です。
- Android、YouTube、YouTubeロゴ、Google Chromeは、Google LLC.の商標または登録商標です。
- 以下は、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
 - iPad
 - iPhone
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- Atherosは、Qualcomm Atheros, Inc.の登録商標です。

- Ethernetおよびイーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
- その他すべての商標は、それぞれの所有者に帰属します。

本製品でできること

製品の特長

CT4-LXは、コンパクトボディに多彩な機能を搭載したラベルプリンタです。主な特長は以下のとおりです。

- 4.3インチのカラータッチパネルで使いやすさ抜群
- さまざまな通信インタフェースをサポート
- 運用に合わせた多彩なオプションを準備
- メディアスタートアップで必要な印字設定を一括設定
- 用紙ごとの印字設定をメディアプロファイルとして登録し、簡単に呼出し可能
- 設定情報をUSBメモリに手動コピーまたは自動バックアップ可能（クローン機能、オートクローン機能）
- 31言語での表示、47言語でのスケーラブルフォントの出力をサポート
- ムダの出ない環境にやさしいノンセパ[®]ラベルに対応
- 用紙やリボンのセットから消耗部品の交換まで、ヘルプ動画を見ながら簡単操作
- SOS（SATO Online Services）を搭載。予防保守でトラブルを回避
- データ保管・配信のサービス「SATO App Storage」

SATO App Storageは、お客様が使用する本製品用のデータファイルやプリンタ設定を保管・配信するクラウドサービスです。管理部署がアップロードしたラベルデータを各拠点の製品にダウンロードしたり、バックアップファイルをクラウドに保管したりすることで製品の入れ替えがスムーズにおこなえます。



SATO App Storage

本サービスをご利用いただくためには別途契約が必要になります。弊社営業担当にお問い合わせください。

本サービスの詳細は、サトーホームページをご覧ください。



<https://www.sato.co.jp/products/printer/sato-app-storage/>

色々な発行方法の紹介

汎用ソフトウェアを使用して発行する

弊社のソフトウェアを使用すれば、簡単にラベルを発行できます。

- 「Multi LABELIST（ML、マルチラベリスト）」シリーズ
多機能でありながら分かりやすい操作性で、汎用性に富んだレイアウトを作成してラベルを発行できます。
- 「SmaPri（スマプリ）」
タブレット端末やスマートフォンからラベルを発行できます。



- 製品の詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。
-

ホストから発行する

弊社の「直結くん」シリーズや「接続くん」などのラベル発行ツールを使用すれば、簡単にラベルを発行できます。

- 「直結くん」シリーズ

「直結くん」シリーズをホスト端末と本製品の間に接続するだけで、IBM、富士通、日立、NECのホストコンピュータからラベルを発行できます。

- 「接続くん」

ホストコンピュータの使い慣れたプログラム言語と手順で、ラベルフォーマットの作成や本製品の制御ができます。



- 製品の詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。
-

専用コマンドを使用して発行・制御する

本製品にSBPL（SATO Barcode Printer Language）コマンドを送信することにより、単純なラベルフォーマットから複雑なラベルフォーマットまで、変化に富んだラベル・タグを印字できます。

また、複数のSBPLコマンドを組み合わせることで、さまざまなスタイルで文字、バーコード、およびグラフィックを印字できます。その印字表現も、フォント拡大、印字方向指定、罫線、白黒反転印字など、多くの修飾機能を指定できます。

プログラミングリファレンスについては、お客さまヘルプデスクまたは弊社営業担当へお問い合わせください。

お客さまヘルプデスク

0120-090310

受付時間：24時間365日

スタンドアロン（AEP）アプリケーションを使用して発行する

本製品内のスタンドアロン（AEP）アプリケーションでラベルを印字できます。



- スタンドアロンアプリケーションの詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。
-

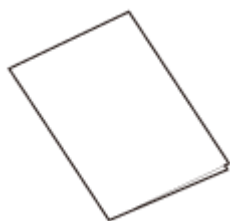
基本情報

同梱品

箱を開けたら以下の同梱品が揃っているか確認してください。もし、足りないものがありましたら、購入された販売店またはディーラーまでお問い合わせください。

- 印刷物（かんたんガイド、保証書、安全上のご注意、SOSご利用ガイド）

<https://www.sato.co.jp/support/> から本製品を選択し、PDF版の『かんたんガイド』をダウンロードできます。



- 電源コード



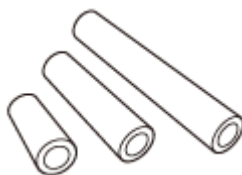
- ACアダプタ



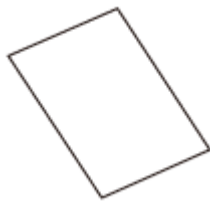
- リボンアダプタ（感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ）



- リボン支管（感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ）



- プリンタ清掃シート



- 本製品の設置後も梱包箱と緩衝材は保管してください。修理をご依頼のときは、この箱に本製品を梱包して送っていただくことがあります。
-

オプション製品

本製品のオプション製品は以下のとおりです。

オプション製品はカスタマーエンジニアによる設置が必要です。販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

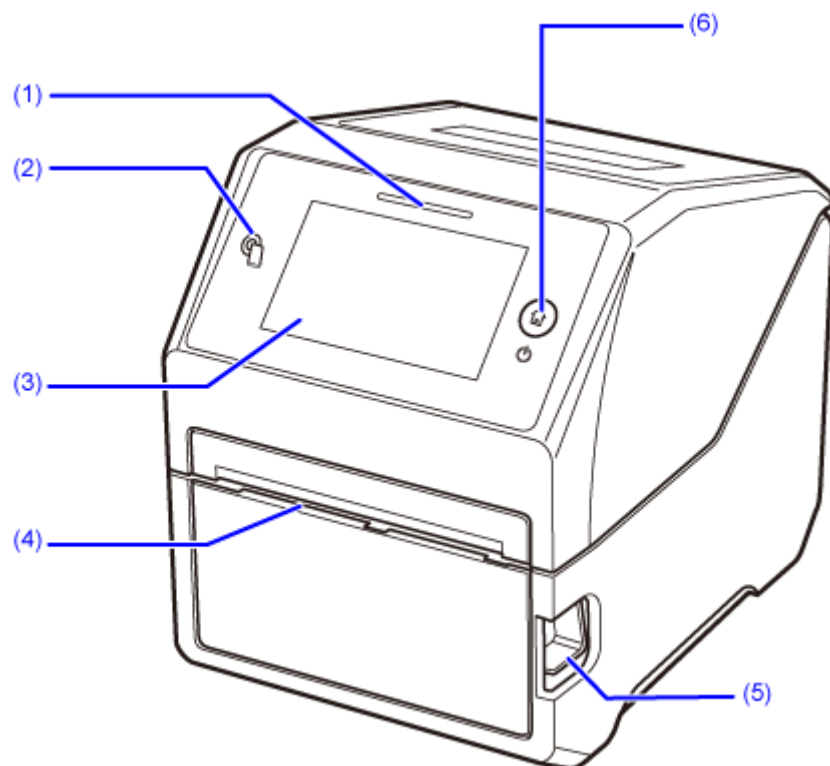
オプション製品名	説明
カッタキット（パーシャルカット兼用）	用紙を自動で指定枚数ごとにカットできます。
ハクリキット	台紙からラベルをはがします。
ノンセパカッタキット（感熱方式専用モデルのみ）	台紙の無い環境にやさしいノンセパ [®] ラベルを使用できます。 用紙を自動で指定枚数ごとにカットできます。
RS-232Cキット	RS-232Cインタフェースを利用することができます。
無線LAN/Bluetoothキット	無線LANインタフェース、Bluetoothインタフェースを利用することができます。
RTC（カレンダー）キット	発行するラベルに日時を印字するためのカレンダーシステムです。



- オプションの詳細については、弊社営業担当にお問い合わせください。

各部の名称

正面



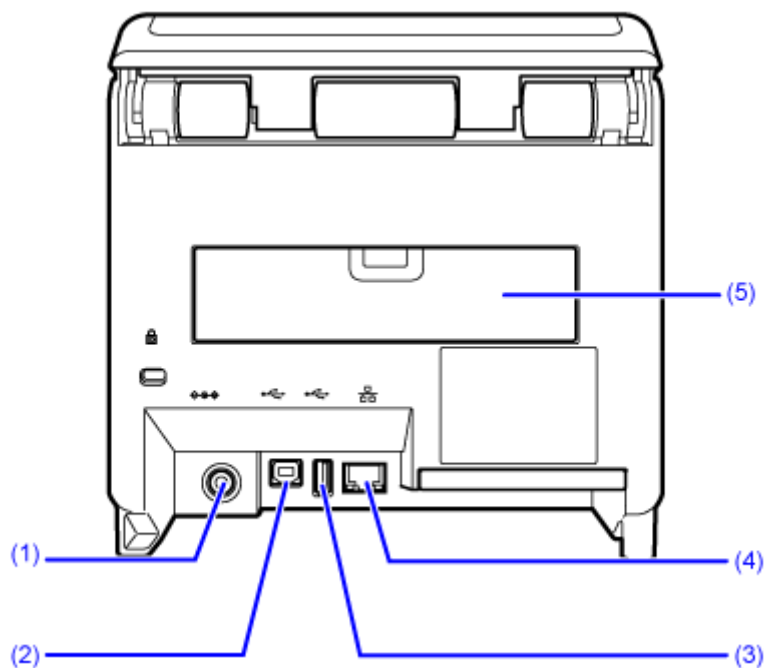
- (1) LEDインジケータ
- (2) NFCアンテナ内蔵位置
- (3) LCD/タッチパネル
- (4) 用紙排出口
- (5) オープンレバー
- (6)  (電源/ホーム) ボタン

本製品の電源を入れるには、 (電源/ホーム) ボタンをLEDが青色に点灯するまで押します。

本製品の電源が入っているときに、 (電源/ホーム) ボタンを押すと、ホーム画面に切替わります。(印字ジョブが本製品に残っていると、ホーム画面は表示されません)。

本製品の電源を切るには、 (電源/ホーム) ボタンを2秒以上押し、画面の指示に従います。

背面



(1) DC入力コネクタ

(2) USBコネクタ (Type B)

USBインタフェースで本製品をコンピュータに接続するときに使用します。

(3) USBコネクタ (Type A)

USBメモリを使用して、本製品のログデータや設定情報の取得、証明書のインストールなどができます。

また、スキャナやキーボードなどのUSB機器も接続できます。



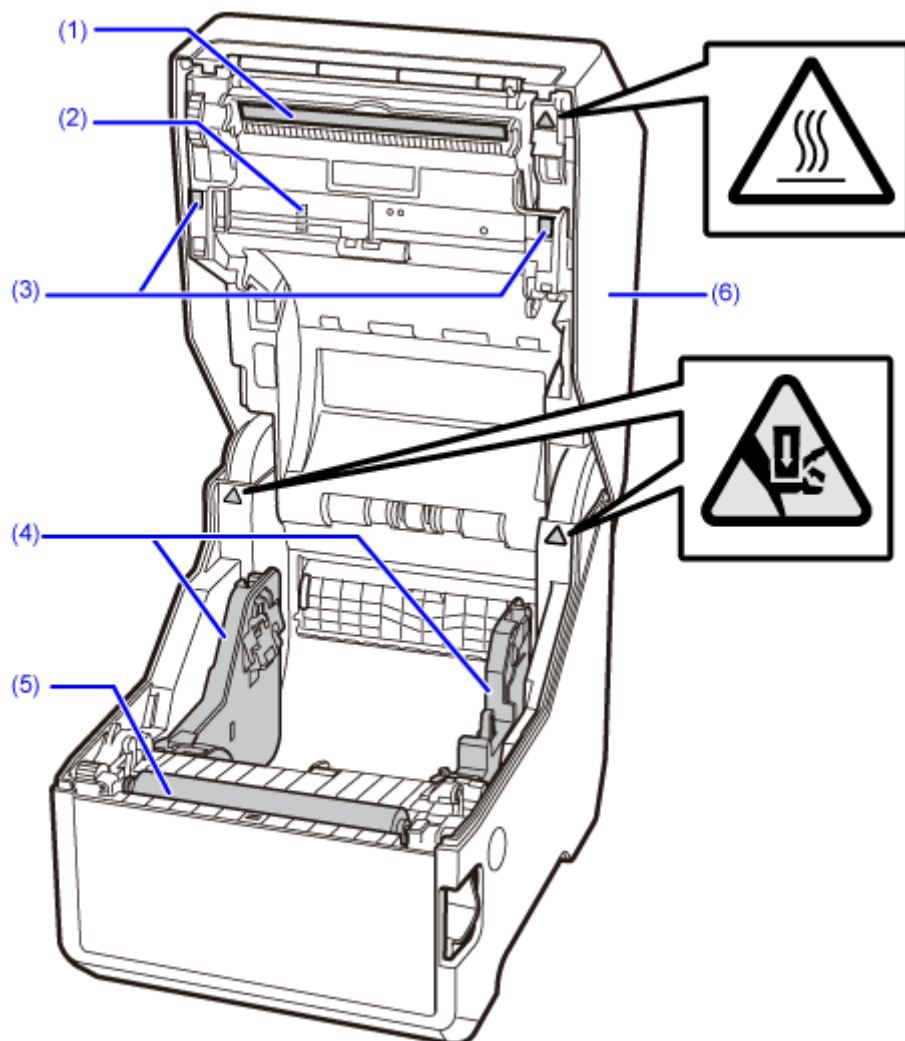
- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。

(4) LANコネクタ

LANインタフェースで本製品をネットワークに接続するときに使用します。

(5) 用紙供給口 (ファンフォールド紙使用時)

内部



(1) サーマルヘッド（消耗品）

用紙に印字する部品です。定期的にお手入れしてください。

(2) USBコネクタ（Type A）

USBメモリを使用して、オートクローン機能による設定情報の自動バックアップなどができます。

コネクタはトップカバーの裏側にあります。トップカバー内部の  の刻印がある部分（3）を手前に引き、ネジ止めされているカバーを取り外してUSBメモリを装着します。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。



- 本製品内部に取り付けられるUSBメモリのサイズは以下です。
 - 長さ：68mm以下（コネクタの金属部分を除く）
 - 幅：27.6mm以下
 - 厚さ：8.6mm以下
-

(3) の刻印

感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合は▼（リボンカバー引き出し）マークで示されています。

(4) 用紙ガイド

(5) プラテンローラー（消耗品）

(6) トップカバー

操作パネルの使い方

LEDインジケータ

LEDインジケータは点灯して本製品の現在の状態を示します。LEDインジケータが示す本製品の状態は以下のとおりです。

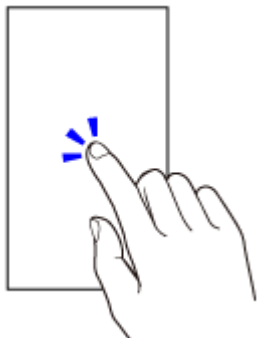
LEDインジケータ	色 /状態	説明
	青 / 点灯	オンライン状態
	青 / 点滅	電源投入時
	消灯	電源オフ、オフライン状態
	赤 / 点灯	本製品のエラー、電源オフ処理中

タッチパネルの操作方法

タッチパネルの基本的な操作を説明します。

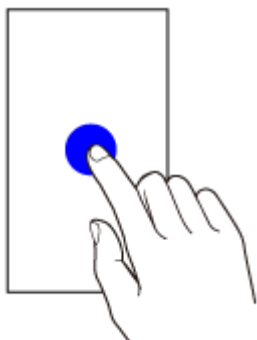
タップ

画面に指を軽く触れて、すぐに離します。



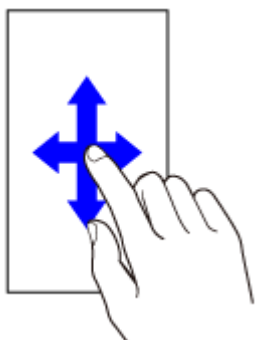
ロングタッチ

画面に指を1秒以上触れてから離します。



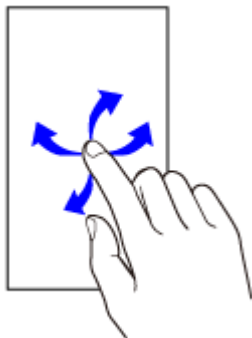
スワイプ/スライド

画面に指を軽く触れたまま、目的の方向へ動かします。



フリック

画面に触れた指をすばやく上下左右に払います。

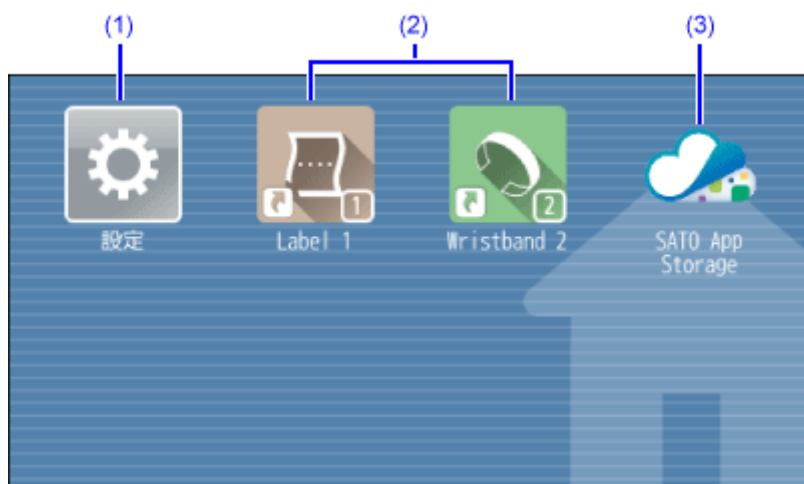


ホーム画面の操作

本製品の電源が入っている状態で （電源/ホーム）ボタンを押すと、ホーム画面に切替えられます。

本製品に印字ジョブがあるときはホーム画面は表示されません。

ホーム画面でできる操作は以下のとおりです。



(1) 設定モードに切替えます。本製品の各種設定をおこないます。

(2) 登録済みのメディアプロファイル（用紙種類と印字設定の組み合わせ）を呼び出し、本製品に適用します。

設定モードの [ツール] > [メディアプロファイル編集] メニューで登録したメディアプロファイルごとに、ホーム画面にアイコンが追加されます。

(3) SATO App Storage を有効にします。

SATO App Storage をご利用の場合は、ここからクラウドにログインしてサービスを有効にしてください。

オンライン状態/オフライン状態の操作

オンライン状態

オンラインは、印字を実行できる状態です。

初期設定では、本製品の電源を入れるとオンライン状態で起動します。

ホーム画面が表示されている場合は、（電源/ホーム）ボタンを押すとオンライン状態に切替えます。



(1) オフライン状態に切替えます。



- 本製品の電源を入れたときのオンライン状態/オフライン状態は、設定モードの「印字」＞「詳細設定」＞「オンライン起動」メニューで設定できます。

オフライン状態

オフラインは、印字を停止している状態です。

印字設定の調整、印字のキャンセル、または用紙送りができます。

印字完了後またはキャンセル後、設定モードを表示できます。



(1) 印字をキャンセルします。

印字ジョブがないときは無効です。

- (2) 印字ジョブの一時停止中は、調整モードを表示します。
印字ジョブがないときは、設定モードを表示します。
- (3) 用紙を送ります。
- (4) オンライン状態に切替えます。

オンライン状態/オフライン状態共通の表示

画面左上に以下の情報が表示されます。

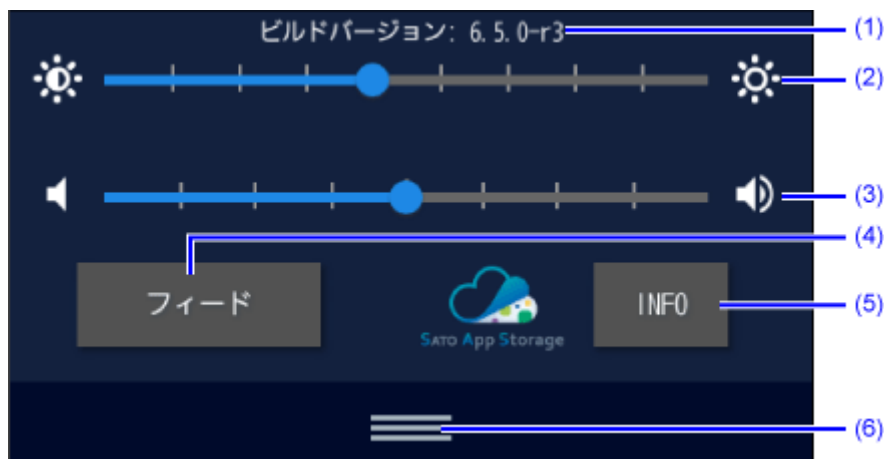


- (1) 本製品の解像度
- (2) 現在のプリンタ言語
プリンタ言語は、設定モードの [アプリケーション] > [プロトコル] メニューで設定できます。
- (3) 用紙無駄なし機能が有効
- (4) 適用中のメディアプロファイル名
- (5) 処理中の印字ジョブの発行枚数
設定モードの [システム] > [総発行枚数表示] メニューが有効の場合は、カッコ書きで電源投入後からの総発行枚数也表示されます。

画面をスワイプして表示されるパネルの操作

画面をスワイプして表示されるパネルでは、音量と画面の明るさの調整をしたり、用紙を送ったり、実行中のSATO App Storageのログイン情報を確認したりできます。

画面上部から下方向にスワイプし、パネルを開きます。



(1) 本製品のビルドバージョンを表示します。

(2) バーをスライドして画面の明るさを調整します。

設定モードの [システム] > [LCD表示濃度] と同様の設定がおこなえます。

(3) バーをスライドして音量を調整します。

設定モードの [システム] > [ブザー音] > [音量] と同様の設定がおこなえます。



- ヘッドセットなどのBluetooth機器を接続中は、[システム] > [ブザー音] > [Bluetooth音量] と同様の設定がおこなえます。

(4) 用紙を送ります。

(5) [INFO] をタップすると、ログイン情報とSATO App Storageへのアクセス時間が表示されます。

SATO App Storageを介したアプリケーション自動更新を有効にしたアプリケーションの実行中に、SATO App Storageアイコンと [INFO] がパネルに表示されます。

(6) パネルを閉じます。

ステータスアイコン

ディスプレイのステータスバーのアイコンは、本製品の状態を示します。



(1) ステータスバー

通信インターフェースのステータス

アイコン	内容
	Bluetoothが有効ですが、接続されていません。
	Bluetoothが有効で、接続されています。
	Bluetoothの起動に失敗しました。
	LANが有効ですが、接続されていません。
	LANが有効で、接続されています。

アイコン	内容
	NFCインタフェースが無効です。
	NFCが有効で、接続されています。
	NTPタイムサーバーに接続されていません。
	Wi-Fiが認証されていますが、接続されていません。
	Wi-Fiの起動に失敗しました。
	Wi-Fiが接続されています。 信号レベル1
	Wi-Fiが接続されています。 信号レベル2
	Wi-Fiが接続されています。 信号レベル3
	Wi-Fiが接続されています。 信号レベル4

アイコン	内容
	Wi-Fi Directが接続されている、または本製品がアクセスポイントに設定されています。
	USBホストに接続しています。
	RFIDモードが有効です。
	RFIDモードが有効ですが、システムに異常があります。
	プロトコルコード設定が無効です。
	SOS（SATO Online Services）のオンデマンドモードが有効です。
	SOSのリアルタイムモードまたはかんたん接続モードが有効です。SOSクラウドに接続されています。
	SOSのリアルタイムモードまたはかんたん接続モードが有効ですが、SOSクラウドに接続されていません。 LANまたはWi-Fiアイコンがグレイアウトされている場合は、ネットワークに接続されていません。 LANまたはWi-Fiアイコンが有効の状態になっている場合は、SOSクラウドへのインターネット接続に問題があります。
	SOSクラウドに接続されていません。

アイコン	内容
	SOSのオンデマンドモードで定期通知に設定した時期になりました。QRコードをスキャンしてSOSクラウドに情報を送信してください。
	LANまたはWi-Fi接続中ですが、本製品にIPアドレスが割り当てられていません。または、通信エラーが発生しました。

USBメモリのステータス

アイコン	内容
	USBメモリが接続されています。

印字のステータス

アイコン	内容
	ハクリ待ちの状態です。用紙を取ってください。
	リボンニアエンドが検出されました。リボンの残量が少なくなっています。新しいリボンを準備してください。
	コマンドエラーが検出されました。印字データを確認してください。
	受信バッファニアフルが検出されました。前に送信した印字データの印字が開始されたあと、次の印字データを送信してください。

アイコン	内容
	サーマルヘッドの故障が検出されました。サーマルヘッドを交換してください。
	サーマルヘッドを正常に認識することができませんでした。サーマルヘッドを交換してください。

お手入れに関するステータス

〔お知らせ機能〕を有効にした場合、設定した期間ごとに清掃や交換をアイコンで通知します。

アイコン	内容
	サーマルヘッドまたはプラテンローラーを清掃してください。
	サーマルヘッドを交換してください。
	プラテンローラーを交換してください。
	カッターユニットを交換してください。

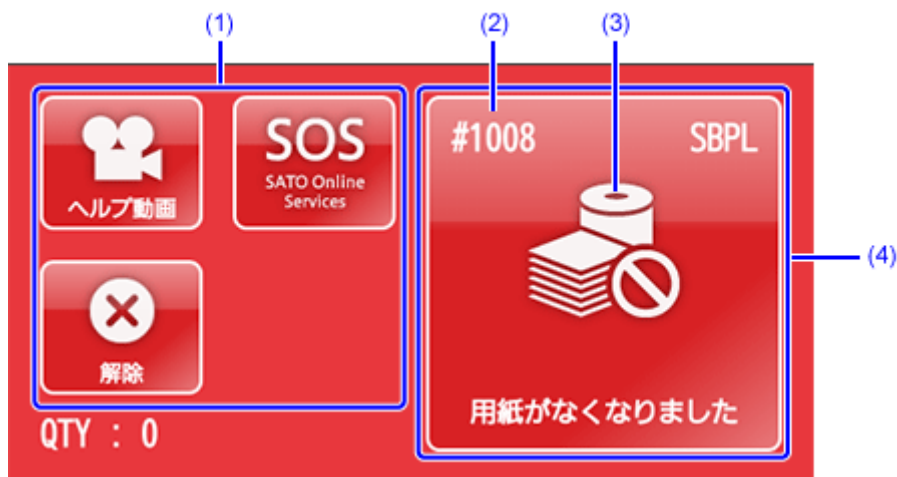
エラー発生時の操作

本製品でエラーが発生した場合、エラーの内容を表すアイコンとメッセージがディスプレイに表示されます。エラーが発生したときには、以下の操作がおこなえます。

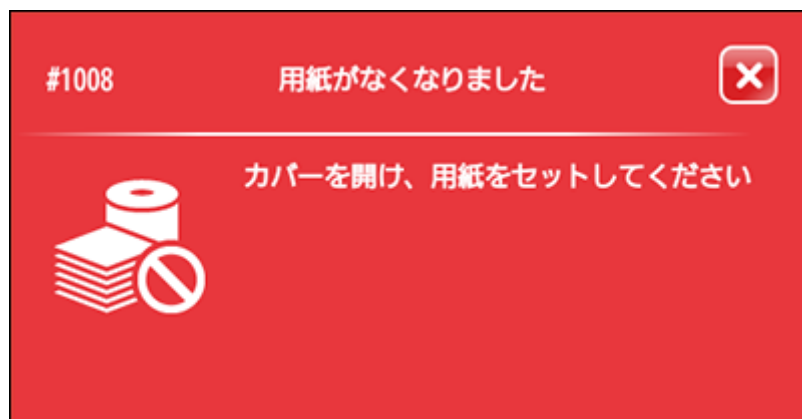
- エラーを解除する
- 関連する設定項目を表示する
- ヘルプ動画を再生する
- 処理の続行、中止、または再試行を選択する
- SOS（SATO Online Services）有効時、QRコードや本製品のNFCマークをスキャンまたは電話で連絡



- 状況によって、実行できる操作は異なります。



- (1) 表示されたエラーで実行できる操作のボタンが表示されます。
ヘルプ動画の再生、設定項目の表示、エラー解除などができます。
SOS有効時、QRコードや電話番号を表示できます。
- (2) エラー番号
- (3) エラーアイコン
- (4) タップすると、詳細画面が表示されます。



印字中に印字設定を調整する方法

印字中に印字位置、印字濃度、印字速度、用紙頭出しセンサの位置を調整したい場合は、以下の手順でおこないます。

1. 「オフライン」をタップするか 電源/ホーム （電源/ホーム）ボタンを押します。



印字が停止して本製品がオフライン状態に切替わります。

2. 「設定」をタップします。



3. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。

調整モードが表示されます。

4. 項目を選択し、設定を調整します。



5. をタップするか（電源/ホーム）ボタンを押します。

オフライン画面に戻ります。

6. 「オンライン」をタップするか（電源/ホーム）ボタンを押します。

本製品がオンライン状態に切り替わり、調整した設定で印字を再開します。

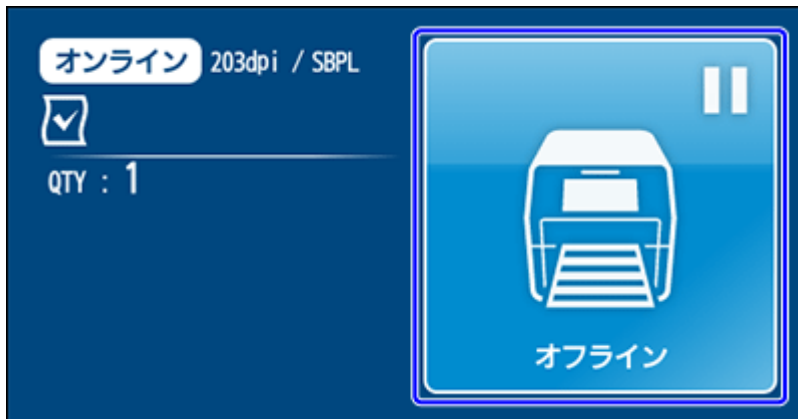


- 「印字」 > 「詳細設定」 > 「優先設定」メニューが「コマンド」に設定されているときに印字設定がコマンドで指定された場合、調整モードでの変更はその時点で解析済みのデータに対してのみ有効です。残りのデータはコマンドで指定された設定で印字されます。

印字をキャンセルする方法

印字は、以下の手順でキャンセルできます。印字をキャンセルすると、本製品の受信バッファにたまったデータも削除されます。

1. 「オフライン」をタップするか $\text{電源}/\text{ホーム}$ （電源/ホーム）ボタンを押します。



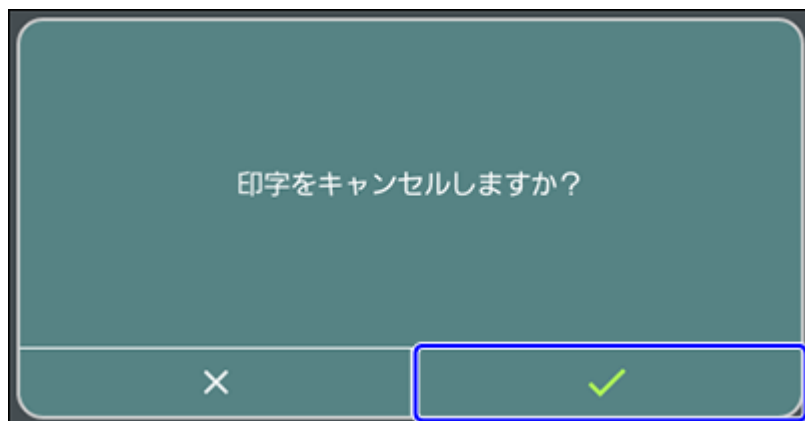
本製品がオフライン状態に切替わります。

2. 「キャンセル」をタップします。



印字のキャンセルを確認するメッセージが表示されます。

3.  をタップします。



印字がキャンセルされます。

ヘルプ動画

本製品では、ディスプレイにヘルプ動画を表示して、視覚的に操作を確認できます。

ヘルプ動画の一覧

本製品では、ディスプレイにヘルプ動画を表示して、視覚的に操作を確認できます。

搭載されているヘルプ動画は以下のとおりです。

ヘルプ動画	動画の起動		
	エラーメッセージから	スタートアップガイドから	【インフォメーション】メニューから
ロール紙のセット（標準機）	-	○	○
ロール紙のセット（カッタ機）	-	○	○
ロール紙のセット（ハクリ機）	-	○	○
ファンフォールド紙のセット（標準機）	-	○	○
ファンフォールド紙のセット（カッタ機）	-	○	○
用紙無駄なし有効時の用紙セット（熱転写方式、標準機）	○	-	○
用紙無駄なし有効時の用紙セット（熱転写方式、カッタ機）	○	-	○
用紙無駄なし有効時の用紙セット（感熱方式、標準機）	○	-	○
用紙無駄なし有効時の用紙セット（感熱方式、カッタ機）	○	-	○
リボンのセット	-	○	○
ロール紙の交換（標準機）	○	-	○
ロール紙の交換（カッタ機）	○	-	○
ロール紙の交換（ハクリ機）	○	-	○
ファンフォールド紙の交換（標準機）	○	-	○
ファンフォールド紙の交換（カッタ機）	○	-	○
リボンの交換	○	-	○

ヘルプ動画	動画の起動		
	エラーメッセージから	スタートアップガイドから	[インフォメーション] メニューから
サーマルヘッドの交換	○	-	○
プラテンローラーの交換（標準機）	-	-	○
プラテンローラーの交換（ノンセパ機）	-	-	○
本製品の清掃（標準機）	-	-	○
本製品の清掃（ノンセパ機）	-	-	○

エラー画面からヘルプ動画を再生する方法

エラー画面からヘルプ動画を再生し、動画の手順に従ってエラーを解決できます。

1. エラー画面で「ヘルプ動画」をタップします。



ヘルプ動画が再生されます。



- ペーパーエンドエラーの場合は、用紙種類を選択する画面が表示されます。セットしたい用紙種類をタップすると、ヘルプ動画が再生されます。
(オプションのハクリユニットを取り付けている場合には表示されません。)



2. ヘルプ動画に従って手順を実行して、エラーを解決します。

オンライン状態からヘルプ動画を再生する方法

オンライン状態の場合は、以下の手順でヘルプ動画を再生できます。

1. オンライン状態で「オフライン」をタップします。



本製品がオフライン状態に切替わります。

2. 「設定」をタップします。



3. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。

本製品が設定モードに切替わります。

4. 「インフォメーション」をタップします。

◀/▶をタップするか画面を左右にスライドすると画面を切替えることができます。



5. 「ヘルプ動画」をタップします。

ヘルプ動画の一覧が表示されます。

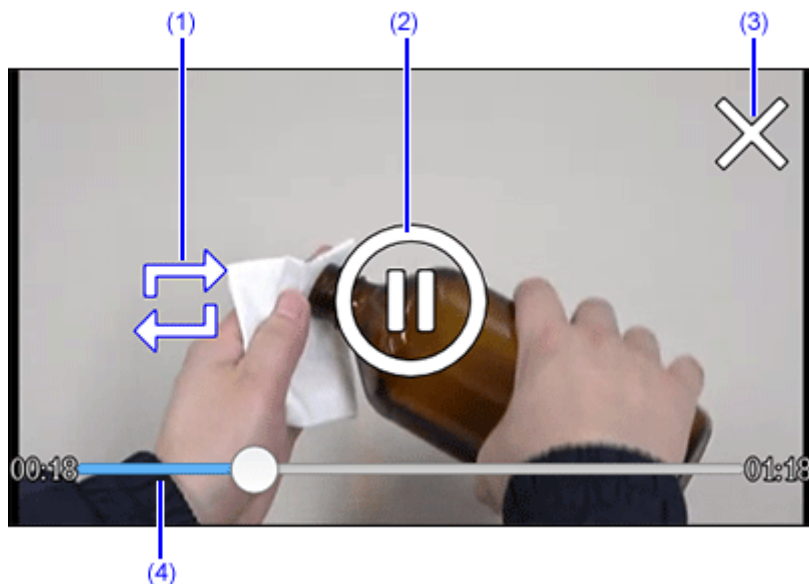
6. 再生する動画をタップします。



ヘルプ動画が再生されます。

ヘルプ動画の操作方法

動画の再生画面をタップすると動画の操作アイコンが表示されます。



(1) タップすると連続再生します。

この機能が有効になると、アイコンが青色に変わります。

(2) 動画を再生または一時停止します。

(3) 動画を終了します。

（電源/ホーム）ボタンを押して、終了することもできます。

(4) バーをスライドまたはタップして、動画を早戻しまたは早送りします。バーの左端をタップすると最初から動画が再生されます。

設定モード

設定モードで、本製品の各種設定をおこないます。ここでは、設定モードの操作方法を説明します。

設定モードのメニュー

設定モードには以下のメインメニューがあり、各メニューの下には複数のサブメニューが存在します。



メニュー	説明
印字メニュー	印字に関する設定をおこないます。
通信設定メニュー	インタフェースに関する設定をおこないます。
アプリケーションメニュー	プリンタコマンドに関する設定をおこないます。
スタンドアロンメニュー	AEP（アプリケーション活用印字）モードに関する設定をおこないます。
システムメニュー	表示言語、ブザーの音量、互換モードなどの設定をおこないます。
ツールメニュー	メディアスタートアップ、メディアプロファイル編集、テスト印字、初期化などの設定をおこないます。
インフォメーションメニュー	本製品の情報やヘルプ動画を表示します。
表示言語メニュー	表示言語を設定します。 [システム] > [地域] > [表示言語アイコン] メニューを有効にしている場合に表示されます。
Bluetoothメニュー	Bluetoothに関する設定をおこないます。 オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。
Wi-Fiメニュー	無線LANに関する設定をおこないます。 オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

設定モードに切替える

設定モードは、本製品に印字ジョブがないときに表示されます。
設定モードには、以下の手順で切替えることができます。

1. オンライン状態で「オフライン」をタップします。



本製品がオフライン状態に切替わります。

2. 「設定」をタップします。



3. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。

本製品が設定モードに切替わります。

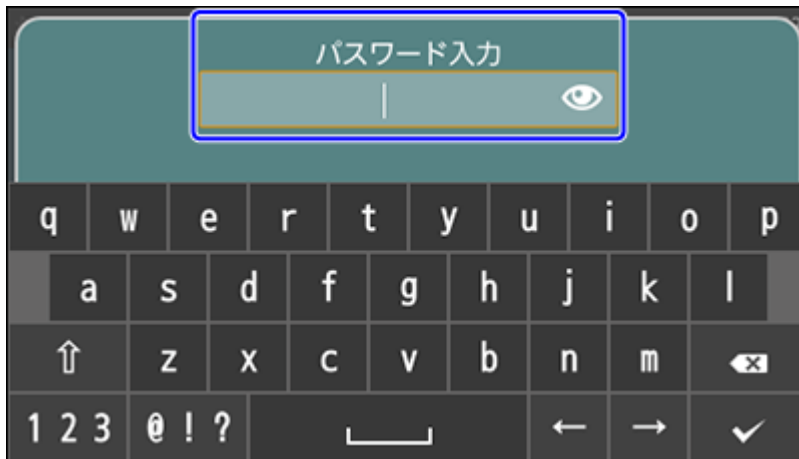


- ホーム画面からも設定モードに切替えることができます。オンラインまたはオフライン状態で （電源/ホーム）ボタンを押して、ホーム画面を表示します。
- 設定モードを終了するには、（電源/ホーム）ボタンを押してホーム画面を表示するか、 をタップして前の画面に戻ります。

設定モードにログイン/設定モードからログアウトする

パスワードが有効のとき、設定モードは以下の手順でログイン/ログアウトします。

- パスワードが有効のときは、設定モードに入るときにパスワードを入力します。



ログインすると、ディスプレイの左下に「ログアウト」が表示されます。

- ログアウトするときは「ログアウト」をタップします。



もう一度設定モードに切替えるときはパスワードの入力が必要です。



- パスワードが有効のとき、パスワードを入力してログインしてから一定の時間は、パスワードを入力せずにもう一度設定モードに切替えられます。初期設定は10分です。この時間は、[システム] > [パスワード] > [パスワード解除時間] で設定できます。0を設定すると、設定モードに切替えたり設定メニュー項目を選択するたびにパスワードの入力が必要になります。
- ログイン状態は設定モードおよびホーム画面表示中に維持されます。オンライン/オフライン画面に切替えると、[パスワード解除時間] の設定に関わらずログアウトされます。

設定モードの操作

設定モード内の各メニューは、以下のように複数のサブメニューの階層で構成されています。



以下の設定項目の種類によって操作方法が異なります。

表示イメージ	内容
	チェックボックスをタップしてオン/オフを切替え、機能を有効/無効にします。
	項目をタップして、次のサブメニューの階層を表示します。
	鉛筆アイコンがついている項目は、設定値を変更できます。設定項目をタップすると、詳細な選択肢が表示されます。 鉛筆アイコンがグレーの場合は、設定値を変更できません。
	一覧から項目をタップして選択します。 選択されている項目が、リスト内で強調表示されます。
	設定値を調整する方法は2通りあります。 • / をタップする。 • スライダーを直接タップまたはスライドする。 をタップすると、設定が確定します。

表示イメージ	内容
	ソフトウェアキーボードから値を入力します。  をタップすると、設定が確定します。
	 をタップして、項目を実行します。
	 をタップして、テスト印字や設定一覧を印字します。
	 をタップして、項目を削除します。
	鉛筆アイコンがついていない項目は、読取り専用の項目です。

設定値の入力

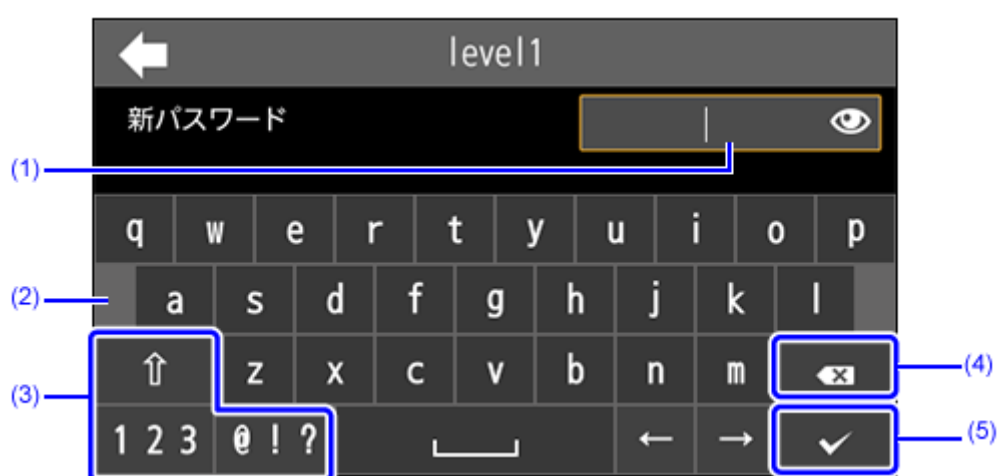
この項では、設定画面での文字や数字の入力方法について説明します。



- 本製品にUSBキーボードを接続して文字や数字を入力することもできます。

- [文字の入力](#)
- [数字の入力](#)
- [IPアドレスの入力](#)

• 文字の入力



(1) テキストボックスに入力した文字が表示されます。

パスワードなどの機密情報は、をタップすると入力内容が表示されます。

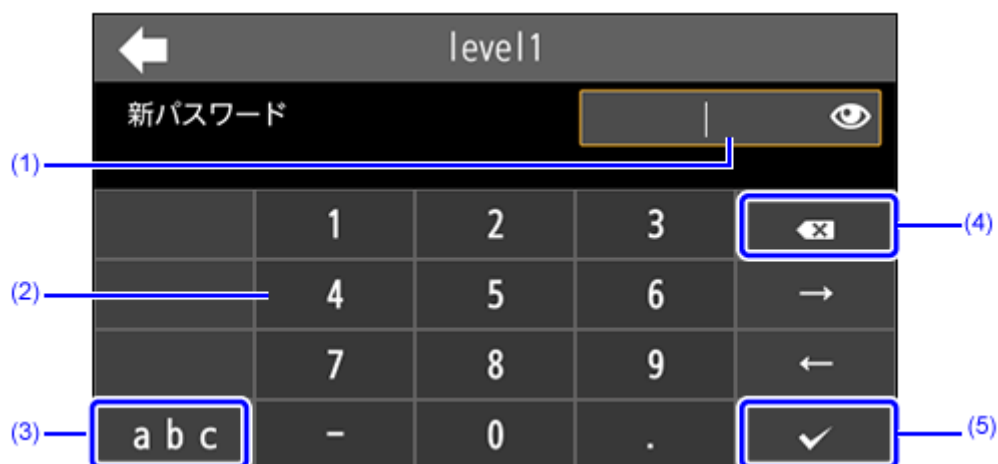
(2) ソフトウェアキーボードをタップして文字を入力します。キーを長押しすると特殊文字が表示されます。

(3) 入力モードを切替えます。

(4) テキストボックスに表示されているカーソルの左側の文字を削除します。

(5) 入力した情報を確定します。

- 数字の入力



(1) テキストボックスに入力した数字が表示されます。

パスワードなどの機密情報は、をタップすると入力内容が表示されます。

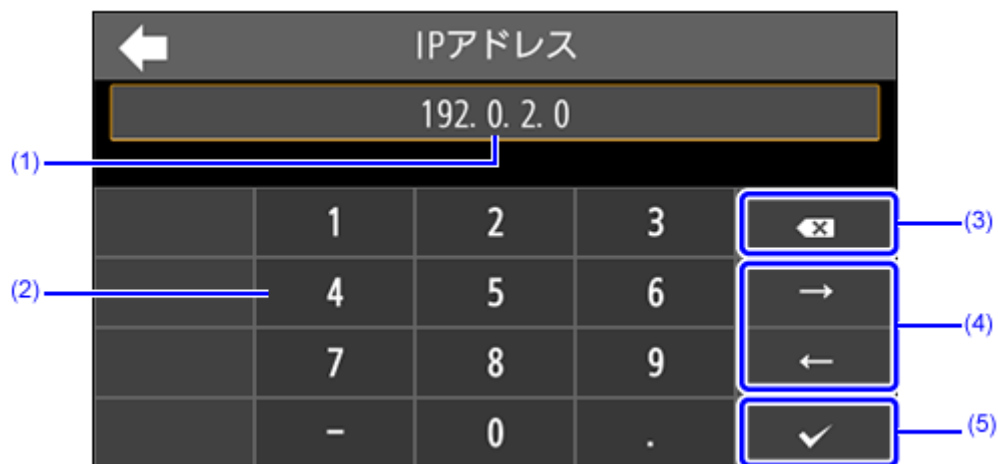
(2) ソフトウェアキーボードをタップして数字を入力します。

(3) 入力モードを切替えます。

(4) テキストボックスに表示されているカーソルの左側の文字を削除します。

(5) 入力した情報を確定します。

- IPアドレスの入力



(1) テキストボックスに入力した値が表示されます。

(2) ソフトウェアキーボードをタップして数字を入力します。各オクテットは「.」を入力して区切ります。

(3) テキストボックスに表示されているカーソルの左側の文字を削除します。

(4) カーソルを左または右に移動します。

(5) 入力した情報を確定します。

本製品のメモリについて

本体メモリとUSBメモリ

本製品のユーザー登録領域は、最大1GBです。

ただし、この領域はログデータやHEXダンプ機能などでも使用するため、領域すべてをユーザー登録領域として使用できるものではありません。

また、本製品にはUSBメモリの取り付けが可能です。USBメモリの容量に制限はありません。

USBメモリは、本製品背面および内部にあるUSBコネクタ（Type A）に接続できます。また、オプションの無線LAN/BluetoothキットのUSBコネクタ（Type A）にも接続できます。

各USBコネクタ（Type A）にUSBメモリを接続してできることは、以下のとおりです。

本製品背面のUSBコネクタ（Type A）

以下の用途に使用できます。

- HEXダンプのデータ取得
- 無線LAN認証とHTTPSで使用する証明書のインストール
- クローン作成（本製品の設定情報のコピー）
- フォントや外字、グラフィックなどのユーザーデータの登録
- クローンやオートクローンで保存した設定情報の適用

本製品内部のUSBコネクタ（Type A）

以下のどちらかの用途に使用できます。

- オートクローン（本製品の設定情報の自動バックアップ）
USBメモリをフォーマットしてオートクローン機能専用にする必要があります。
- フォントや外字、グラフィックなどのユーザーデータの登録
使用カードスロット指定<CC>コマンドでこのコネクタを指定した場合に使用できます。

オプションの無線LAN/BluetoothキットのUSBコネクタ（Type A）

以下の用途に使用できます。

- フォントや外字、グラフィックなどのユーザーデータの登録



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。



- 指紋認証などのセキュリティ機能が付いたUSBメモリには対応していません。
 - USB HUBを経由した接続には対応していません。
 - USBメモリはFAT32でフォーマットしたものをご使用ください。
-

本製品内部にUSBメモリを取り付ける

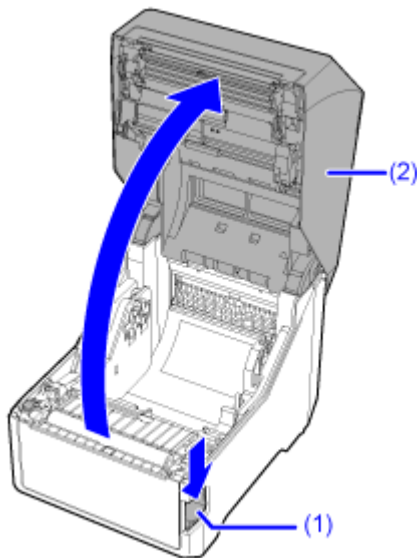
本製品内部のUSBコネクタ（Type A）には、オートクローン機能用のUSBメモリを取り付けて、本製品の設定情報を自動バックアップできます。

または、フォントや外字、グラフィックなどのユーザーデータの入ったUSBメモリを取り付けて、本製品に登録できます。（使用カードスロット指定<CC>コマンドでこのコネクタを指定する必要があります。）



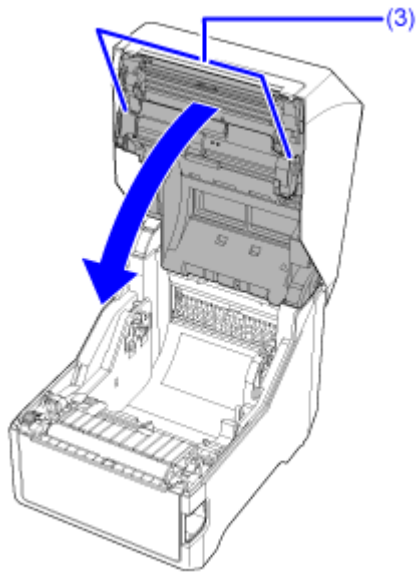
- 本製品内部に取り付けられるUSBメモリのサイズは以下です。
 - 長さ：68mm以下（コネクタの金属部分を除く）
 - 幅：27.6mm以下
 - 厚さ：8.6mm以下
-

1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。

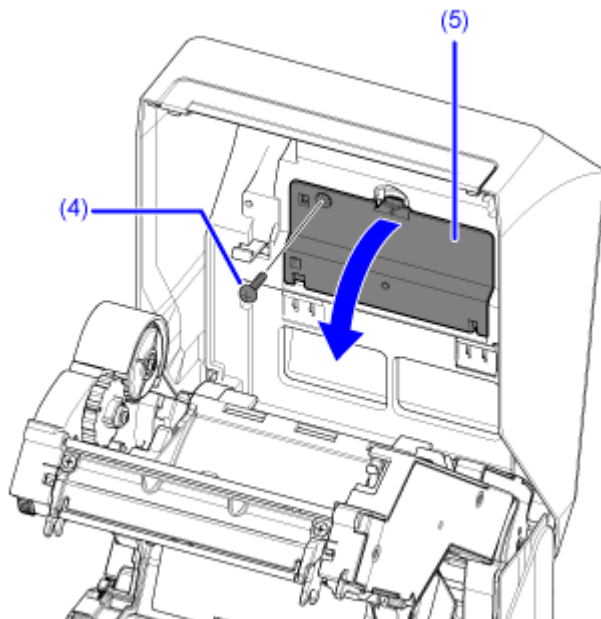


2. 〽〽 の刻印がある部分（3）を手前に引きます。

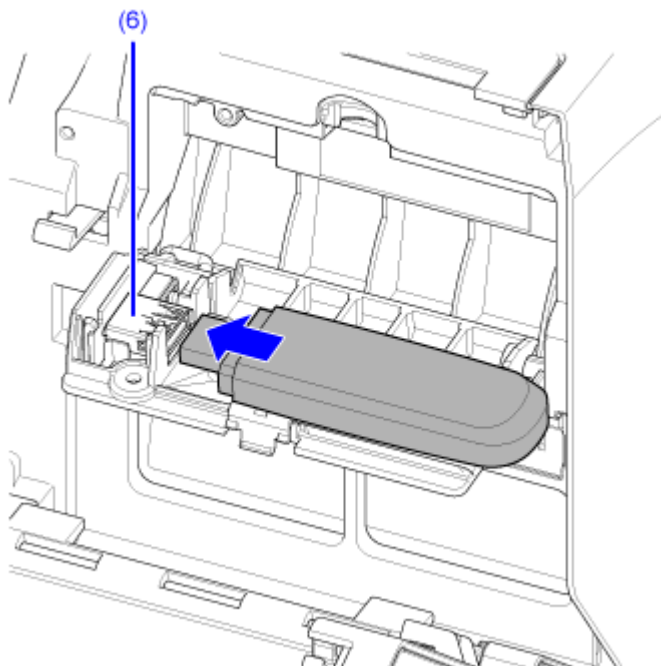
感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合、(3)の部分が▼（リボンカバー引き出し）マークで示されています。



3. トップカバー裏側にあるネジ(4)を取り外し、USBメモリカバー(5)を開きます。

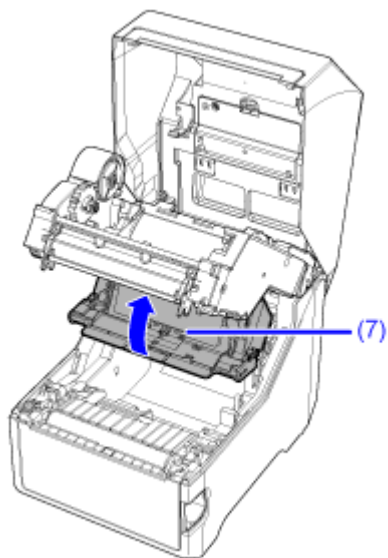


4. USBメモリをUSBコネクタ（6）に取り付けます。



5. USBメモリカバーを閉じ、ネジで固定します。

6. カバー（7）を閉じます。

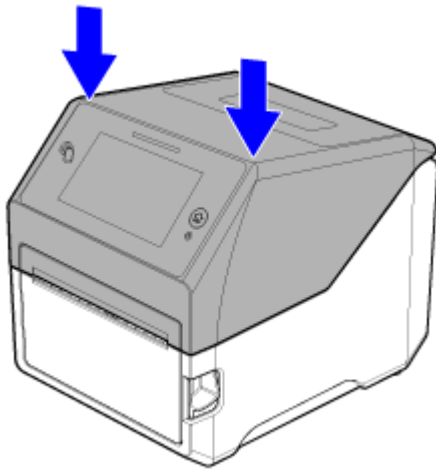


7. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。
-



- アイコンがステータスバーに表示されます。
-

はじめて使うとき

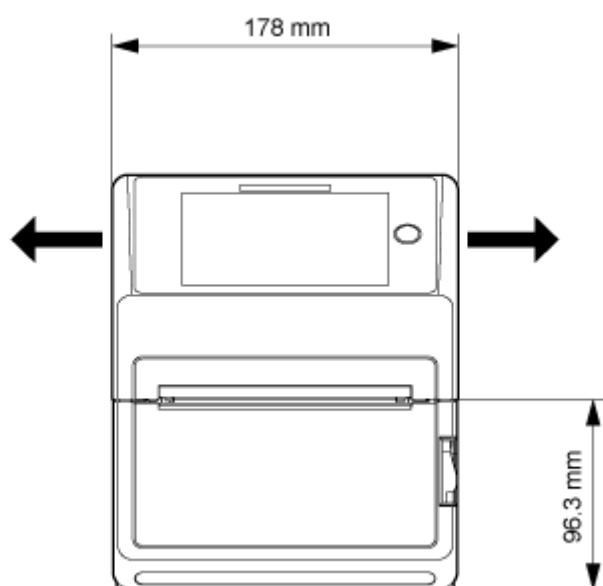
設置スペースについて

正面

本製品の周辺に十分なスペースを確保してください。

本製品の正面の寸法は以下のとおりです。

下図は標準モデルです。



← : 150mm以上空ける。

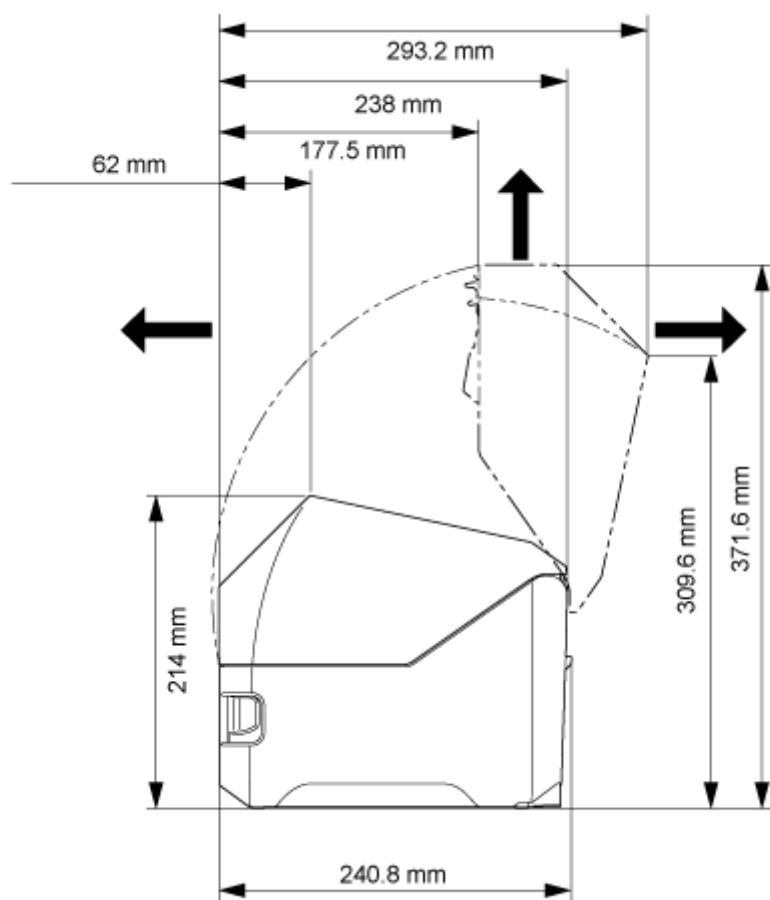
側面

本製品の操作や消耗品の交換、お手入れなどをするとときに、トップカバーが完全に開くスペースを確保してください。

本製品の背面は、接続している電源コードやケーブルにストレスがかからないスペースを確保してください。

本製品の側面の寸法は以下のとおりです。

下図は標準モデルです。

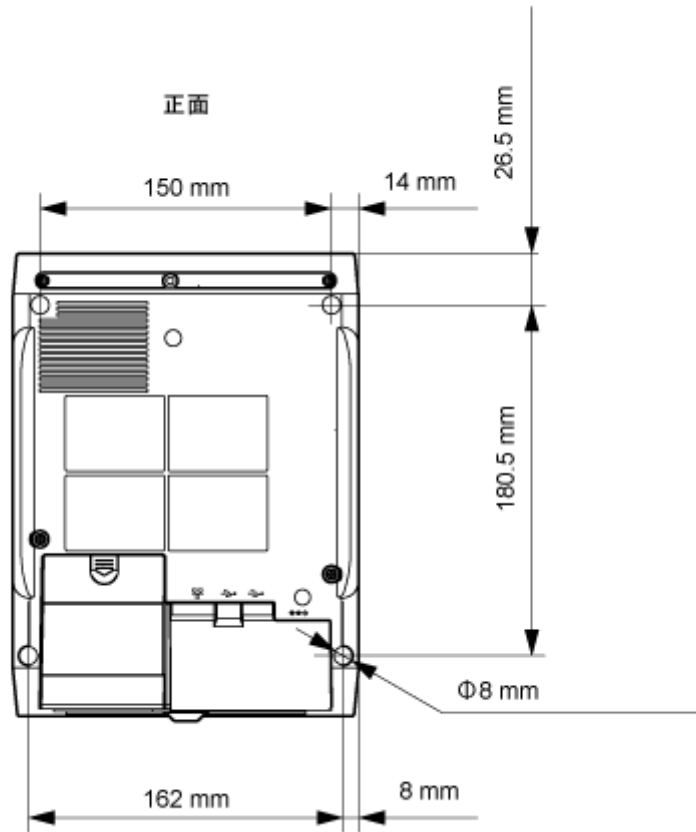


← : 150mm以上空ける。

底面

本製品の底面の寸法は以下のとおりです。

下図は標準モデルです。



電源のオン/オフ

ACアダプタと電源コードを接続する



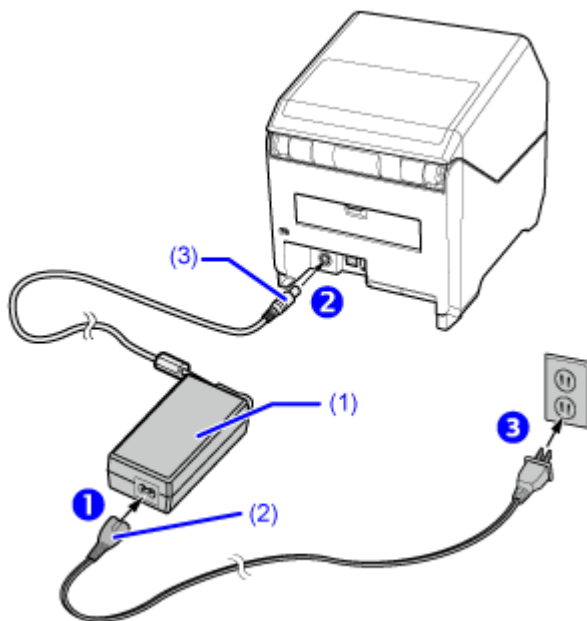
- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



- 付属の電源コード、ACアダプタは、本製品専用です。他の電気製品には使用できません。

1. ACアダプタと電源コードを本製品に接続します。

- ACアダプタ (1) と電源コード (2) を接続します **①**。
- ACアダプタのプラグ (3) を本製品背面にあるDC入力コネクタに差し込みます **②**。
- 電源プラグを電源コンセントに接続します **③**。

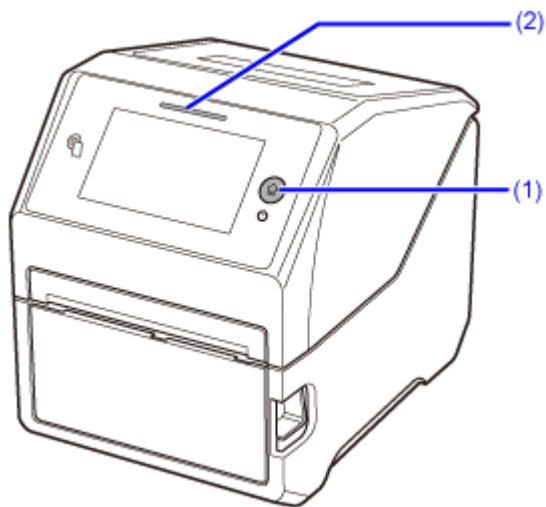


本製品の電源を入れる



- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。

1. 操作パネルの（電源/ホーム）ボタン（1）を押して、LEDインジケータ（2）が青く点灯したら離します。



オンライン画面が表示されます。





- 本製品を購入後はじめて電源を入れたときや、設定リセット後に再起動したときは、スタートアップガイドが表示されます。画面の指示に従って、簡単に本製品の基本設定をおこなうことができます。
 - 本製品の電源を入れたあとに表示される画面は設定によって変わります。
 - [印字] メニューの [オンライン起動] が無効の場合、オフライン画面が表示されます。
 - [スタンダアロン] メニューの [AEP] が有効の場合、[起動時の初期画面] の設定によってアプリ画面またはホーム画面が表示されます。
 - [システム] メニューの [AC電源起動機能] を有効にすると、本製品の電源を取っている主電源から本製品のオン/オフをおこなうことができます。
-

本製品の電源を切る



- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。



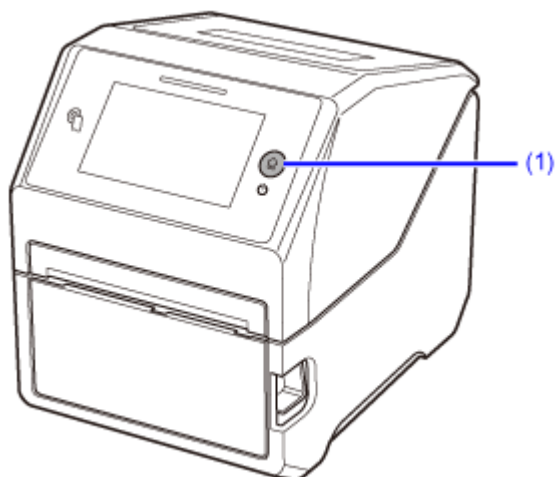
- 本製品の動作中（印字中、アップデート中）に電源を切らないでください。本製品が故障するおそれがあります。
- 本製品の電源オフ処理が完了するまでは、本製品を操作したり、電源コードを抜いたりしないでください。
- 誤った電源オン/オフの操作をおこなうと、本製品の設定が壊れるおそれがあります。本製品の設定が壊れた場合、初期値に戻ります。本製品の電源を正しく切り、設定メニューの変更を適切に保存するために、電源ボタンを使用することを推奨します。

1. 本製品の電源を切る前に、本製品がオフライン状態であることを確認します。

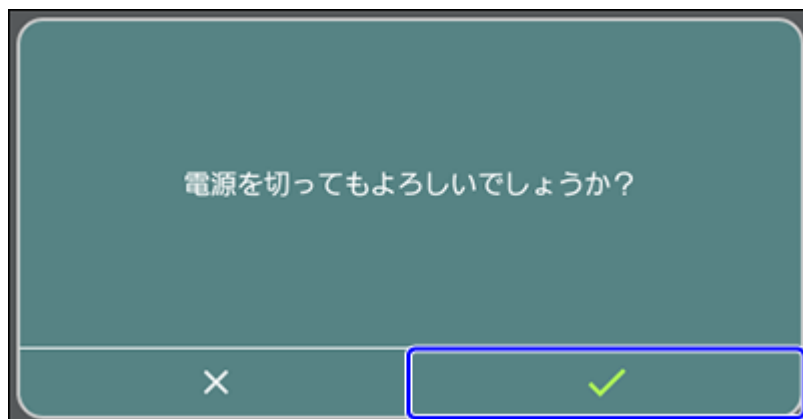


ディスプレイに「オンライン」と表示されている場合、［オフライン］をタップして、オフライン状態に切替えます。

2. （電源/ホーム）ボタン（1）を2秒以上押します。



3.  をタップします。



- [システム] メニューの [AC電源起動機能] を有効にすると、本製品の電源を取っている主電源から本製品のオン/オフをおこなうことができます。

初期設定（スタートアップガイド）

本製品を購入後の初回の起動時に表示される、スタートアップガイドの操作方法を説明します。

スタートアップガイドの流れ

スタートアップガイドは、本製品の初期設定（言語選択、日時設定、用紙のセットなど）をサポートする機能です。

スタートアップガイドをキャンセルして、メニュー画面であとから設定することもできます。



- NTP機能を有効にしているかオプションのRTC（Real Time Clock）キットを取り付けている場合、タイムゾーンの設定画面が表示されます。
- NTP機能が無効でオプションのRTCキットを取り付けている場合、日付および時刻の設定画面が表示されます。
- 選択肢をタップすると次の画面が表示されます。前後の画面に手動で移動するには、  をタップするか画面を左右にスライドしてください。

1. 操作パネルの（電源/ホーム）ボタンをLEDが青色に点灯するまで押して、本製品の電源を入れます。

スタートアップガイドの画面が表示されます。

2. ディスプレイに表示する言語をタップします。



3. タイムゾーンに設定する地域をタップします。

（NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けている場合に表示されます。）



4. タイムゾーンに設定する都市をタップします。

(NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けている場合に表示されます。)



地域を選択し直すには、をタップします。

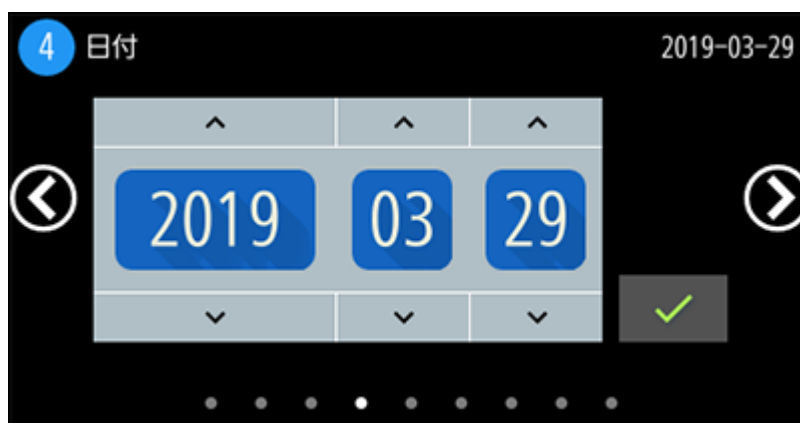
5. 使用する単位をタップします。

選択肢は以下のとおりです。

- dot
- ″ (インチ)
- mm

6. /をタップして現在の年、月、日をそれぞれ設定し、をタップします。

(NTP機能が無効でオプションのRTCキットを取り付けている場合に表示されます。)



確認画面が表示されたら、をタップして確定します。

7. /をタップして現在の時刻を設定し、をタップします。

(NTP機能が無効でオプションのRTCキットを取り付けている場合に表示されます。)



- 時刻は24時間表示で設定します。

確認画面が表示されたら、をタップして確定します。

8. 使用する印字方式をタップします。

(感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ表示されます。)



【熱転写方式】

リボンを使用して印字します。

【感熱方式】

感熱紙を使用して印字します。

9. 用紙を検出するセンサタイプをタップします。



【無効】

用紙センサを無効にします。

【透過】

ギャップタイプの用紙を使用する場合に選びます。透過センサを使用します。

【反射】

アイマークタイプの用紙を使用する場合に選びます。反射センサを使用します。



- 本製品に設定されている【動作モード】によって、表示される選択肢が異なります。【動作モード】の初期値は、本製品に取り付けられているオプションによって変わります。
 - 【動作モード】が【ハクリ】の場合は、【透過】および【反射】のみが有効になります。
 - 【動作モード】が【ノンセパクタ】または【ノンセパティアオフ】の場合は、【無効】および【反射】のみが有効になります。

10. 動画を確認しながら、用紙やリボンをセットします。

アイコンをタップすると動画の再生が始まります。





- [ファンフォールド紙] は、オプションのハクリユニットを取り付けている場合には表示されません。
- [リボンセット] は、感熱方式/熱転写方式兼用モデルで [印字方式] に [熱転写方式] を選択した場合のみ表示されます。

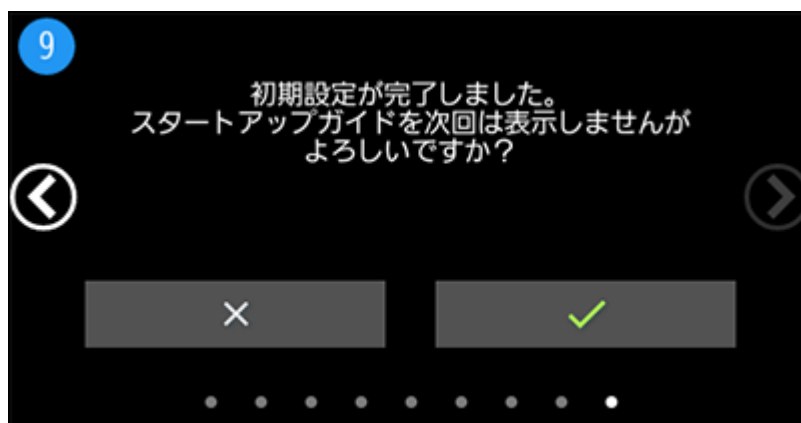
11.用紙やリボンのセットが完了したら、動画の再生画面上の❌をタップして動画を停止します。

動画選択画面に戻ります。

12.🔍をタップするか画面を左にスライドします。

確認画面が表示されます。

13.スタートアップガイドを次回の本製品起動時に表示する場合は、❌をタップします。表示しない場合は、✅をタップします。



ホーム画面が表示されます。



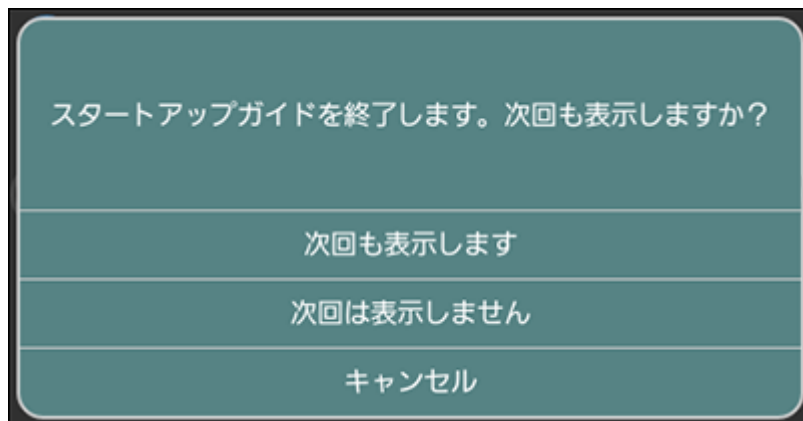
- [ツール] メニューの [スタートアップガイド] で、次回起動時にスタートアップガイドを表示するかを設定できます。

スタートアップガイドのキャンセル

スタートアップガイドは、設定の途中でキャンセルできます。

1. スタートアップガイドの設定中に $\text{電源}/\text{ホーム}$ （電源/ホーム）ボタンを押します。

スタートアップガイドを次回も表示するかどうかの確認画面が表示されます。



2. 次回の本製品起動時にスタートアップガイドを表示するかどうかを選びます。

スタートアップガイドをキャンセルしない場合は、[キャンセル] をタップします。



- [ツール] メニューの [スタートアップガイド] で、次回起動時にスタートアップガイドを表示するかを設定できます。
- キャンセルするまでに設定した内容は、キャンセルを実行しても本製品の設定に反映されません。

動作モードを手動で設定する

本製品は、製品仕様や使用方法に応じて、印字の動作モードを切替えることができます。

〔自動モード〕が有効の場合は、取り付けしているオプションによって動作モードが自動で設定されます。

〔自動モード〕を無効にすると手動で動作モードを設定できます。取り付けしているオプションによって、選択可能な動作モードが変わります。

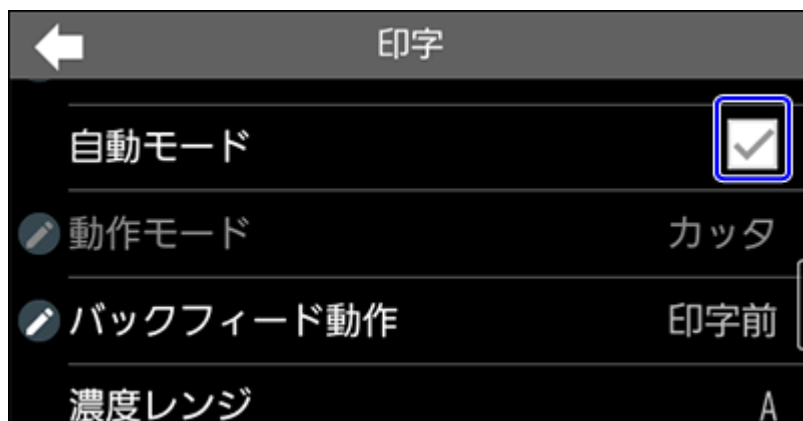
取り付けオプション	動作モード
なし	連続発行/ティアオフ
ハクリユニット	連続発行/ハクリ
カッタユニット	連続発行/ティアオフ/カッタ/印字中カット/ パーシャルカッタ
ノンセパカッタユニット	ノンセパカッタ/ノンセパティアオフ

動作モードは、以下の手順で切替えます。

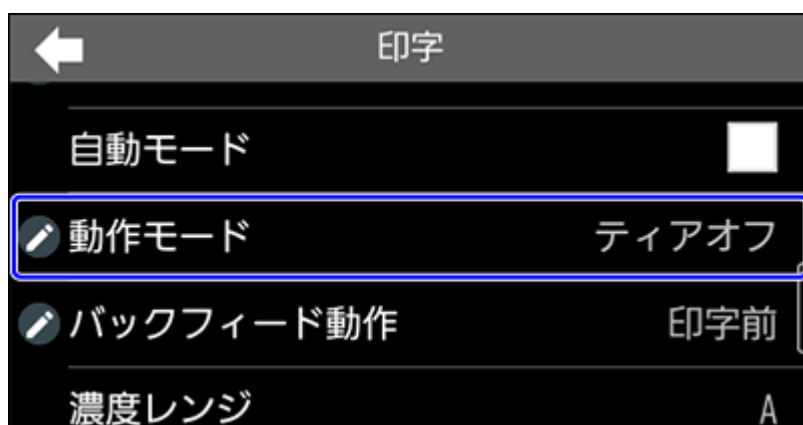
1. ホーム画面またはオフライン画面で〔設定〕をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 〔印字〕をタップします。



4. [自動モード] を無効にします。



5. [動作モード] をタップします。



6. 動作モードを選びます。



- 動作モードを変更すると、[センサタイプ] および [バックフィード動作] が連動して変更される場合があります。設定変更後、使用する用紙に合った設定になっているか確認してください。
- RFIDモデルでRFIDタグを使用する場合は、カットモードのバックフィードなし、パーシャルカットモード、ノンセパカットモード、およびノンセパティアオフモードは選択しないでください。これらの動作モードではRFIDタグを使用できません。

コンピュータとの接続

本製品とコンピュータの接続方法、およびプリンタドライバやAll-In-One Toolのインストール方法を説明します。

コンピュータとの接続の流れ

本製品は複数のインタフェースに対応しており、お使いの環境に最適な方法でコンピュータに接続できます。接続するコンピュータにプリンタドライバをインストールすると、コンピュータで作成したデータ（文書や絵）を簡単な操作でラベルに印字できます。

または、本製品にコマンドを直接送信しても印字できます。

以下の流れで、本製品をコンピュータに接続します。

1. [インタフェースを接続する](#)



2. [インタフェース設定](#)

本製品のディスプレイまたはWeb設定ページからアクセスできる設定メニューからインタフェース設定をおこないます。

コンピュータにインストールして使用するAll-In-One Toolからも設定できます。

- LAN/無線LANインタフェースで接続する場合は、本製品のIPアドレスなどの通信条件を設定します。
- その他のインタフェースで接続する場合は、必要に応じて接続するコンピュータに合わせた通信条件を設定します。
- プリンタドライバを使用するには、通信プロトコルをSTATUS4に設定する必要があります。（本製品の各インタフェースの通信プロトコル初期値はSTATUS4です。）



3. [プリンタドライバをインストールする](#)（コマンドを使用する場合は不要）



- バーコードはバーコードフォントを使用して作成してください。バーコードをイメージ（BMPなど）で作成するツールにて作成し、本製品にて印字出力した場合、スキャナなどで読取りできない場合があります。これらのツールはあくまでもバーコードをイメージとして作成するため、正しいデータにはならない場合があるためです。このため、スキャナなどでバーコード読取りできない場合は、本製品およびプリンタドライバのバーコード不具合ではありません。これらのツールを使用された場合の読取りについては保証いたしませんのでご注意ください。

この内容はイメージでバーコードを印刷したときのトラブルを防ぐため、ホームページのサポート・ダウンロードの注意書きとして掲載しています。

<https://www.sato.co.jp/support/prINTER/notes.html>

- ヘッドチェックはヘッド断線の目安で、バーコード読取り結果を保証する機能ではありません。定期的に読取りチェックをお願いします。
- 各種ソフトウェアをご利用いただくうえで、はじめに「ソフトウェア使用許諾契約書」<https://www.sato.co.jp/support/agreement.html> をご覧ください。

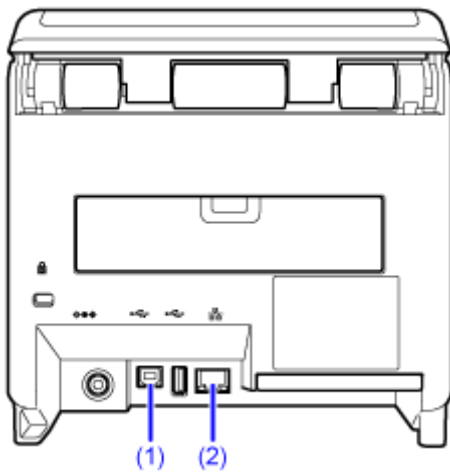
インタフェースを接続する

使用できるインタフェース

本製品は以下のインタフェースに対応しています。

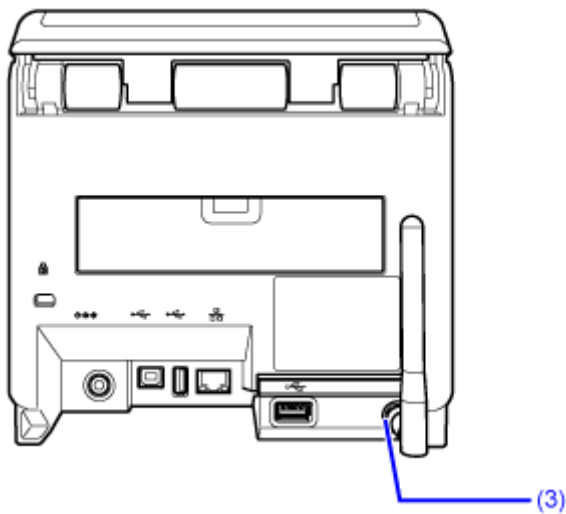


- 複数のインタフェースケーブルが接続された状態でも、データを受信して動作できます。ただし、複数のインタフェースから同時にデータを受信することはできません。基本的には複数のインタフェースを同時に使用しないでください。
- データは受信した順に印字されます。あとから受信したデータは受信バッファにたまり、順次印刷されます。

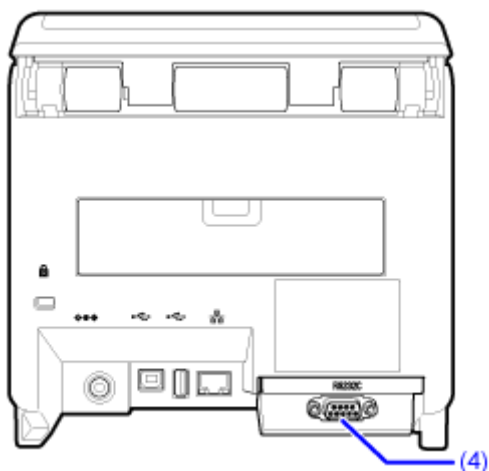


(1) USB

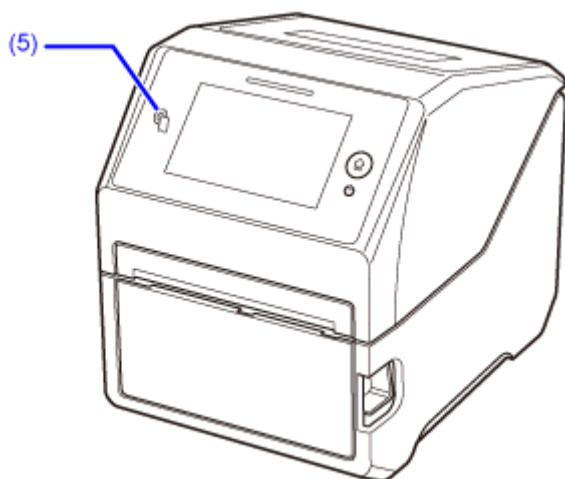
(2) LAN



(3) 無線LAN/Bluetooth (オプション)



(4) RS-232C (オプション)



(5) NFC

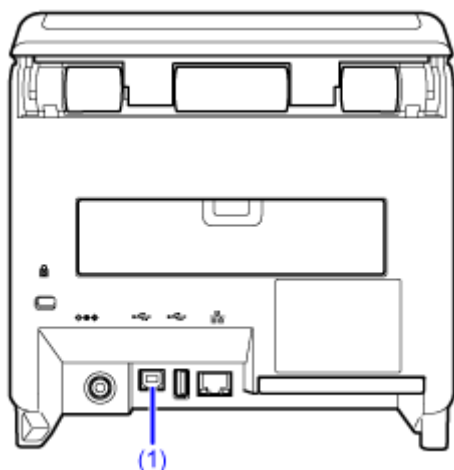


- NFCインタフェースは、Android端末とのBluetooth/Wi-Fi接続手続きを簡略化するハンドオーバー機能に対応しています。また、本製品の電源がオフで電源コードが接続されていないときに、NFCインタフェースを使用してAndroid端末から本製品の設定を変更できます。

USBインタフェース接続 (標準)

本製品の電源が切れているときに、インタフェースケーブルを接続してください。

本製品のUSBコネクタ (Type B) (1) にUSBケーブルを接続してください。



USBケーブルをコンピュータと本製品に接続し、コンピュータの電源が入った状態で本製品の電源を入れるとUSBインタフェースが選ばれます。



- USBケーブルは、5メートル以内のケーブルを推奨しています。

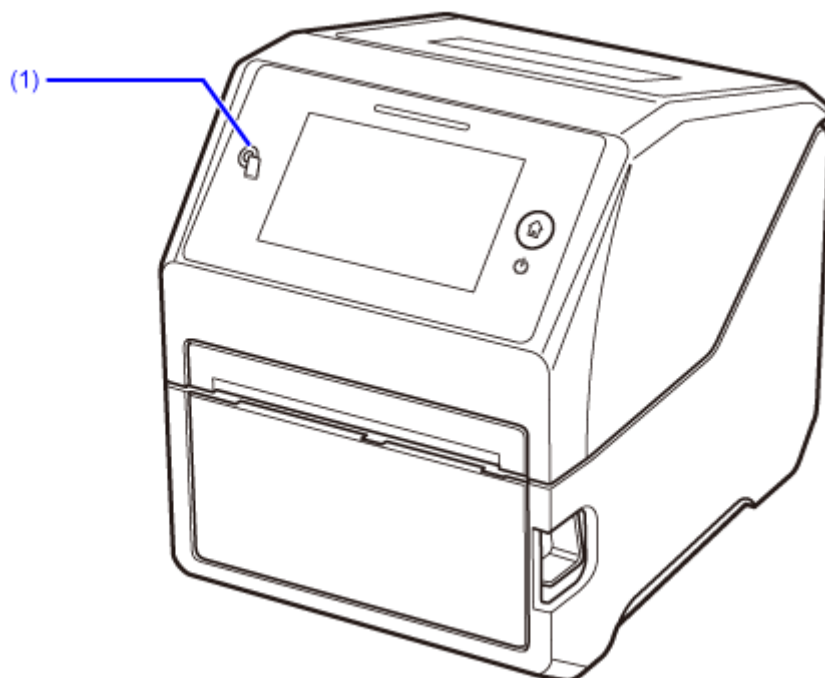
NFCインタフェース接続（標準）

本製品のNFCインタフェースは、Android端末とのBluetooth/Wi-Fi接続手続きを簡略化するハンドオーバー機能に対応しています。

ハンドオーバー機能とは、NFC対応機器間で通信する際に、ペアリングや認証などの接続手続きだけをNFCでおこない、実際の通信はより高度なBluetoothやWi-Fiに引き継ぐことです。

通常、ペアリングや認証には認証情報の入力などの手順が必要ですが、NFCなら本製品にAndroid端末をかざすだけで接続を完了できます。

本製品のNFCアンテナ部（1）にAndroid端末のNFCマークをかざします。



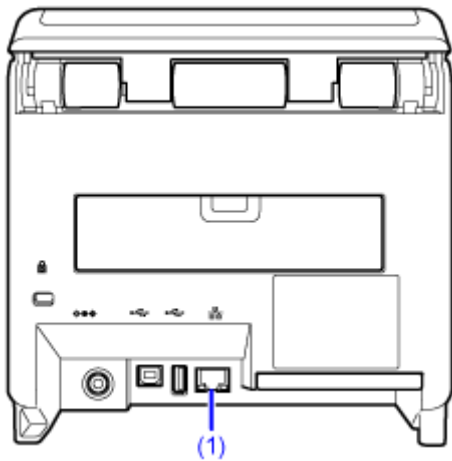


- うまく通信できない場合は、Android端末の位置を前後左右にずらしてもう一度かざしてください。
 - Android端末のNFC操作方法については、Android端末の説明書をご覧ください。
-

LANインタフェース接続（標準）

本製品の電源が切れているときに、インタフェースケーブルを接続してください。

本製品のLANコネクタ（1）にLANケーブルを接続してください。



お客様のネットワーク環境にあわせた通信条件設定が必要です。本製品のIPアドレスを設定してください。

本製品のIPアドレスは、本製品の［通信設定］メニューまたはAll-In-One Toolから設定できます。



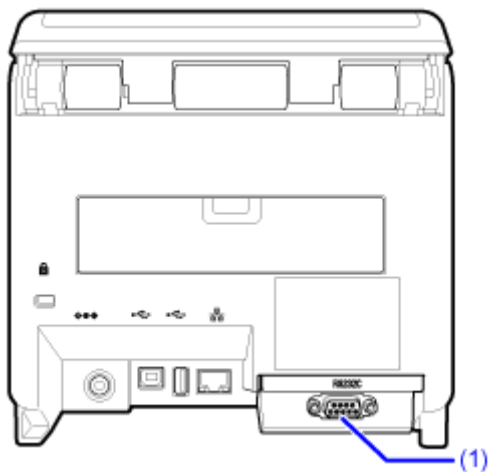
- 本製品は電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダなど）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどを経由し接続してください。
 - プリンタドライバを使用するには、通信プロトコルをSTATUS4に設定する必要があります。（本製品のLANインタフェースの通信プロトコル初期値はSTATUS4 ENQです。）
-

RS-232Cインタフェース接続（オプション）

本製品にRS-232Cキットが装着されているか確認してください。

本製品の電源が切れているときに、インタフェースケーブルを接続してください。

RS-232Cコネクタ（1）にRS-232Cケーブルを接続してください。



コンピュータの通信設定にあわせて、本製品の通信設定をおこなってください。

RS-232Cインタフェースの通信条件は、本製品の「通信設定」メニューまたはAll-In-One Toolから設定できます。

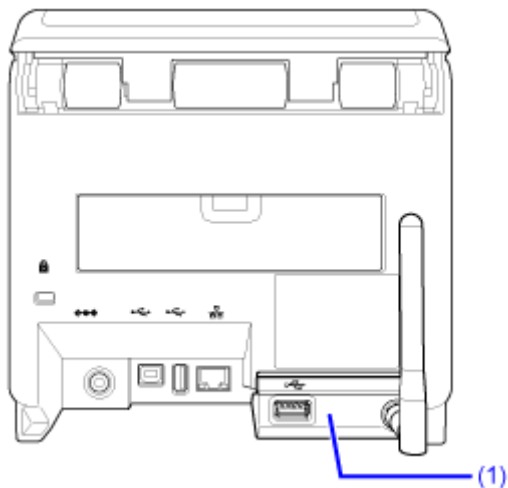


- RS-232Cケーブルを使用しないときは、RS-232Cコネクタに付属のコネクタカバーを取り付けてください。
- コンピュータの通信設定は、デバイスマネージャの「ポート（COMとLPT）」＞「通信ポート（COM1）」を右クリックして「プロパティ」を選択し、表示されるプロパティ画面の「ポートの設定」タブで確認できます。
- RS-232Cケーブルは、設定された通信プロトコルによりケーブル結線が異なりますのでご注意ください。ケーブルを間違えると、正常に動作しません。
- コンピュータとの通信設定があっていないと正常に動作しません。通信エラーになります。
- プリンタドライバを使用するには、通信プロトコルをSTATUS4に設定する必要があります。（本製品のRS-232Cインタフェースの通信プロトコル初期値はSTATUS4です。）
- 必ず推奨品のRS-232Cケーブルをお使いください。
- USBシリアル変換ケーブルを使用した場合は印字については保証していません。また、接続方法についてのサポートも提供していません。

本製品 DB-9P		ホスト DB-9P	
1	CD	1	CD
2	RD	3	SD
3	SD	2	RD
4	ER	6	DR
5	SG	5	SG
6	DR	4	ER
7	RS	8	CS
8	CS	7	RS

無線LANインタフェース接続（オプション）

本製品に無線LAN/Bluetoothキット（1）が装着されているか確認してください。



お客様のネットワーク環境に合わせた通信条件設定が必要です。本製品のIPアドレスを設定してください。

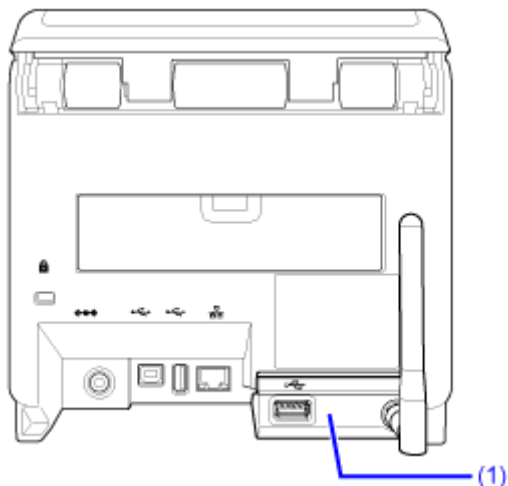
本製品のIPアドレスは、本製品の [Wi-Fi] メニューまたはAll-In-One Toolから設定できます。



- 本製品は電気通信事業者（移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダなど）の通信回線（公衆無線LANを含む）に直接接続することができません。本製品をインターネットに接続する場合は、必ずルーターなどを経由し接続してください。
- プリンタドライバを使用するには、通信プロトコルをSTATUS4に設定する必要があります。（本製品の無線LANインタフェースの通信プロトコル初期値はSTATUS4 ENQです。）
- Atheros、SuperG、XR機能には対応していません。

Bluetoothインタフェース接続（オプション）

本製品に無線LAN/Bluetoothキット（1）が装着されているか確認してください。



本製品の周囲約10m以内にあるBluetooth対応コンピュータと、無線通信をおこなうことができます。

本製品とコンピュータのBluetooth機能が有効になっていることを確認し、コンピュータ側でBluetoothデバイスの追加をおこなってください。

本製品のBluetooth機能の初期値は有効になっており、[Bluetooth] メニューまたはAll-In-One Toolから設定できます。



- Bluetooth接続では、Bluetoothのモジュール仕様やバージョンにより通信動作が安定しない場合があります。Bluetooth接続を利用する場合は、実際の運用条件（コンピュータ、印字データ、発行量、発行頻度など）で、事前に動作確認をお願いします。



- プリンタドライバを使用するには、通信プロトコルをSTATUS4に設定する必要があります。（本製品のBluetoothインタフェースの通信プロトコル初期値はSTATUS4です。）
-

インターフェース設定

インターフェース設定の方法

接続するネットワークやコンピュータの通信条件に合わせて、本製品のインターフェース設定をおこないます。

本製品のインターフェース設定は、以下のいずれかの方法でおこなえます。

- 本製品の設定モードで設定する
- コンピュータからAll-In-One Toolを使用して設定する

本製品の設定モードからインターフェース設定をおこなう

本製品の設定モードの [通信設定] メニュー、 [Bluetooth] メニュー、 [Wi-Fi] メニューから、インターフェースに関する設定がおこなえます。

1. ホーム画面またはオフライン画面の [設定] をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. [通信設定]、[Bluetooth]、または [Wi-Fi] をタップします。◀/▶をタップするか画面を左右にスライドすると画面が切替わります。

LAN/USB/NFC/RS-232C接続またはCR/LF、CAN/DLEコードに関する設定をおこなう場合は [通信設定] をタップします。

Bluetoothに関する設定をおこなう場合は [Bluetooth] をタップします。

無線LANに関する設定をおこなう場合は [Wi-Fi] をタップします。





選択したインターフェースの設定項目が表示されます。

接続するネットワークやコンピュータの通信条件に合わせて設定を変更します。

All-In-One Toolを使用してインターフェース設定をおこなう

All-In-One Toolをインストールする

All-In-One Toolを使うと、本製品の設定および管理を簡単におこなうことができます。

<https://www.sato.co.jp/support/> から本製品を選択し、「All-In-One Tool」および『All-In-One Tool説明書』をダウンロードし、コンピュータにインストールしてください。対応OSについては、同ダウンロードページの「All-In-One Tool」の欄をご覧ください。

プリンタドライバをインストールする

プリンタドライバは、コンピュータで作成したデータ（文書や絵）を本製品に送り出し、ラベルに印刷できるソフトです。

<https://www.sato.co.jp/support/> から本製品を選択し、プリンタドライバをダウンロードして使用してください。

プリンタドライバのインストール方法や機能の詳細は、同ページから『プリンタドライバ説明書』をダウンロードしてご覧ください。

All-In-One Toolでできること

All-In-One Toolに本製品を追加すると、本製品の設定や管理を簡単におこなえます。



- All-In-One Toolの詳細は、<https://www.sato.co.jp/support/> から本製品を選択し、『All-In-One Tool説明書』をダウンロードしてご覧ください。
-

用紙とリボンのセット

用紙とリボン、印字方式について

本製品は、感熱方式専用モデルと感熱方式/熱転写方式兼用モデルがあります。

印字方式により、使用する用紙またはリボンが異なります。

熱転写方式（感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ）

リボンを使用して印字します。

感熱方式

感熱紙を使用して印字します。



- 感熱紙を使用する場合は、リボンをセットしないでください。
-

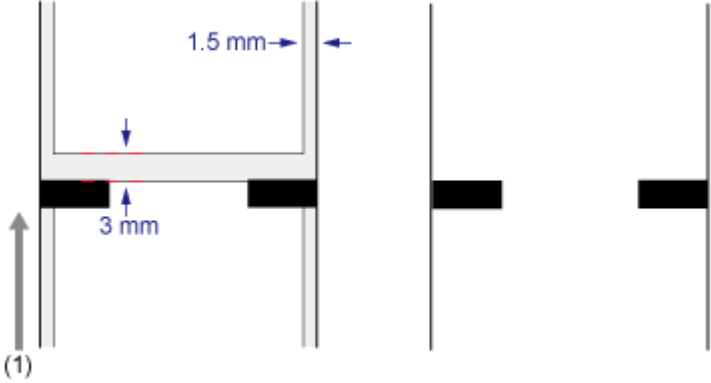
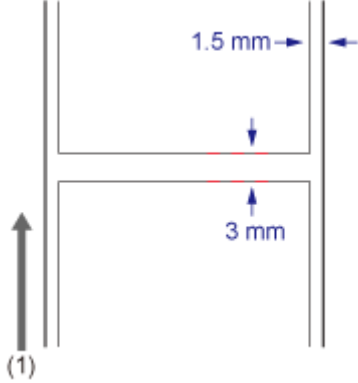
用紙のセット

使用できる用紙について

本製品は、以下の種類の用紙に印刷できます。

- ロール紙
- ファンフォールド紙
- リストバンド

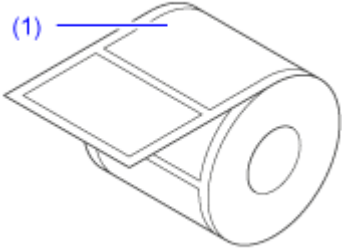
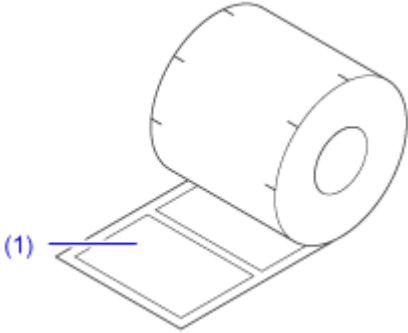
印字位置を正確に合わせるため、本製品では用紙センサを使用して、用紙のアイマークやギャップを検出します。

アイマーク	ギャップ
	

(1) 紙送り方向

用紙の巻き方向について

用紙には表巻きと裏巻きがあります。印字面を上にしてセットしてください。

表巻き	裏巻き
印字面が用紙外側に面している 	印字面が用紙内側に面している 

(1) 印字面

用紙をセットするときの注意

最適な印字品質を得るために、本製品には、弊社指定のサプライ製品のご使用をお願いします。



- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。



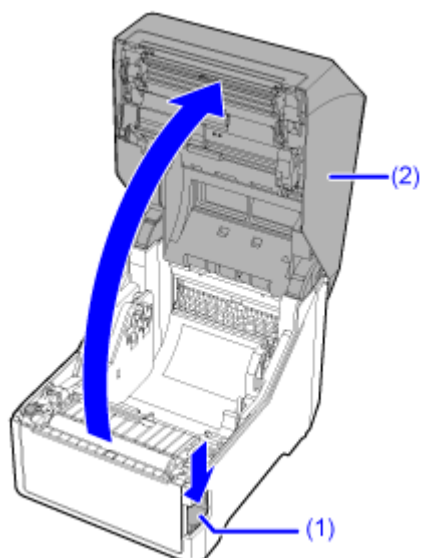
- 対応できるラベルサイズや印字品質は、発行速度、用紙、リボンとの組み合わせ、本製品の設定や使用環境などにより異なります。ご使用環境にて事前に動作確認を推奨します。
-

ロール紙をセットする

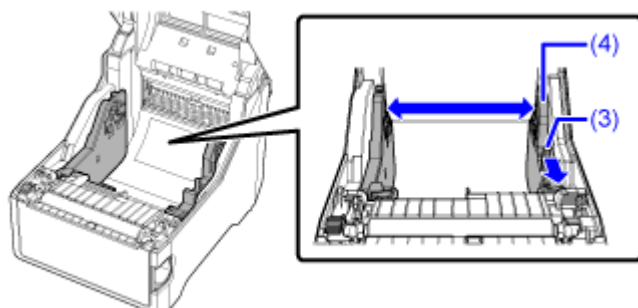


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。

1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



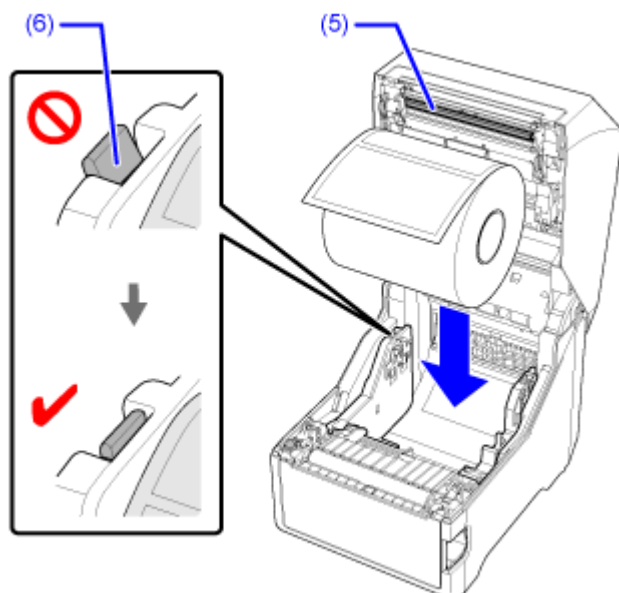
2. スライドレバー（3）を引きながら右側の用紙ガイド（4）を動かし、用紙ガイドの幅を用紙の幅に合わせます。



3. ロール紙をセットします。

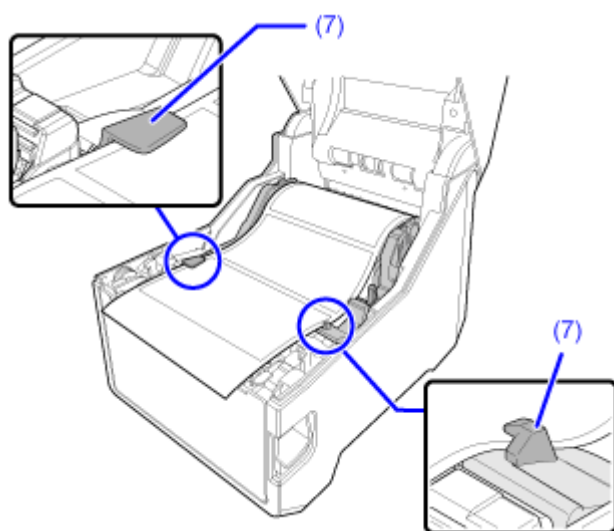
ロール紙の印字面をサーマルヘッド（5）と接する向きにし、上からセットします。

ロール紙が正しくセットされるとフラップ（6）が垂直になります。



- 用紙には、表巻きと裏巻きの2種類があります。図の用紙は表巻きです。

4. 左右のツメ（7）の下に用紙を通して引き出します。

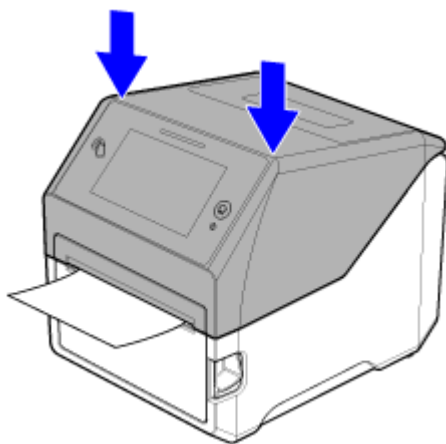


5. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。



- 用紙無駄なし機能を有効にしている場合は、用紙の先端が用紙排出口から出すぎているとエラーになります。用紙の先端を用紙排出口に揃えてください。

6. 用紙を印字開始位置に合わせ、オンライン状態に切替えます。

画面に  アイコンが表示されている場合は、用紙無駄なし機能が有効です。[オンライン] をタップすると、オンライン状態に切替わるときに用紙の位置が自動で調整されます。

画面に  アイコンが表示されていない場合は、用紙無駄なし機能が無効です。[フィード] をタップして用紙を送ってから、[オンライン] をタップします。



ロール紙をセットする（オプションのハクリユニット取り付け時）

ここでは、オプションのハクリユニット取り付け時に、動作モードで「ハクリ」を選んだ場合の用紙セット方法を説明します。動作モードで「連続発行」を選んだ場合は、標準のセット方法と同じです。

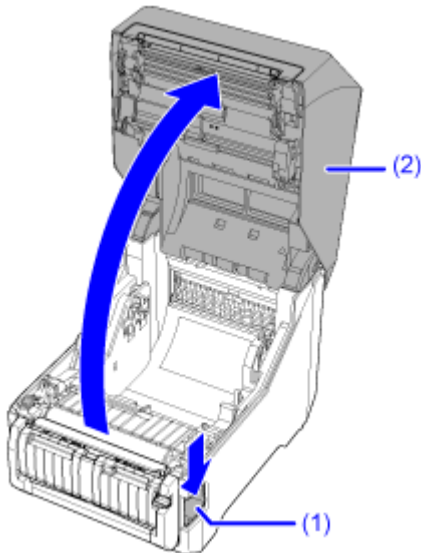


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。

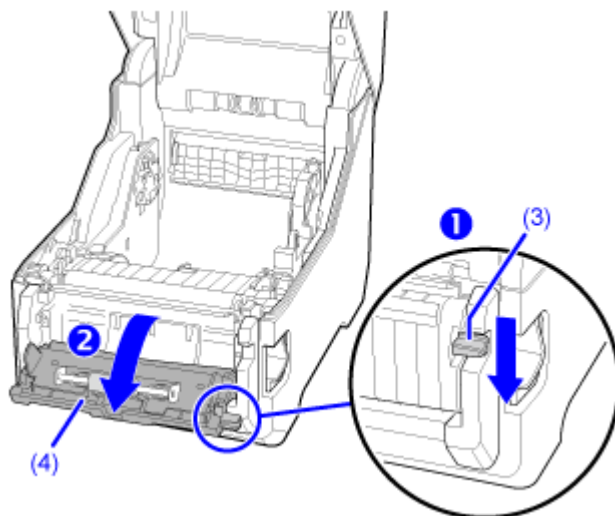


- ミシン目によりハクリ機能に影響があるため、ミシン目のあるラベルはハクリモードでは使用できません。

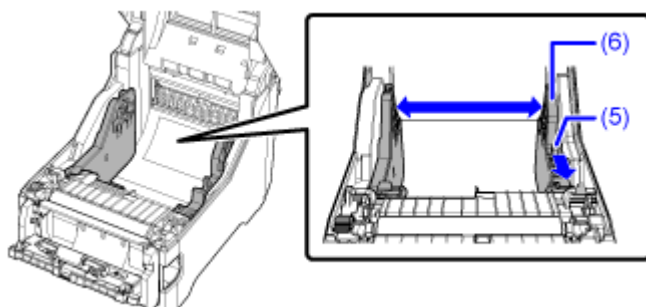
1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



2. ハクリカバーのレバー (3) を押して①、ハクリカバー (4) を開きます②。



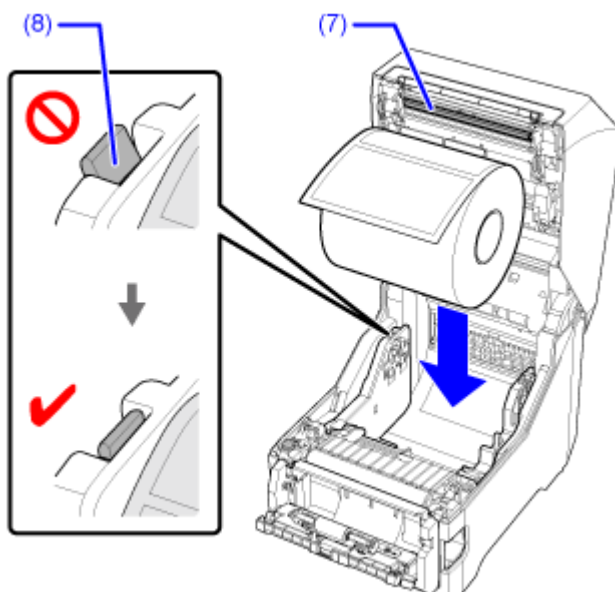
3. スライドレバー (5) を引きながら右側の用紙ガイド (6) を動かし、用紙ガイドの幅を用紙の幅に合わせます。



4. ロール紙をセットします。

ロール紙の印字面をサーマルヘッド (7) と接する向きにし、上からセットします。

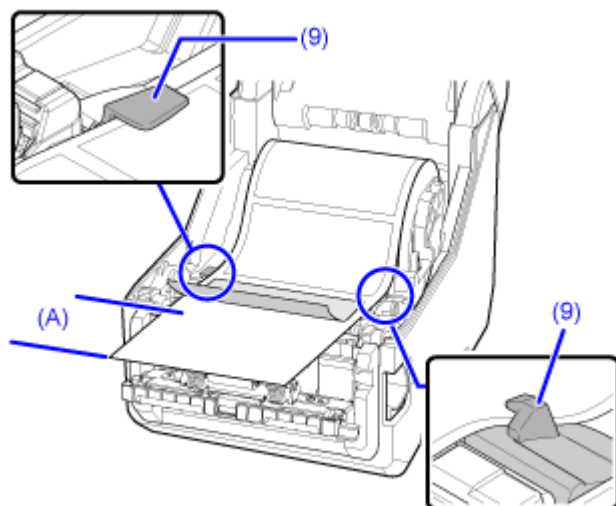
ロール紙が正しくセットされるとフラップ (8) が垂直になります。





- 用紙には、表巻きと裏巻きの2種類があります。図の用紙は表巻きです。

5. ラベルを20cm程度（A）はがし、左右のツメ（9）の下に台紙を通して引き出します。

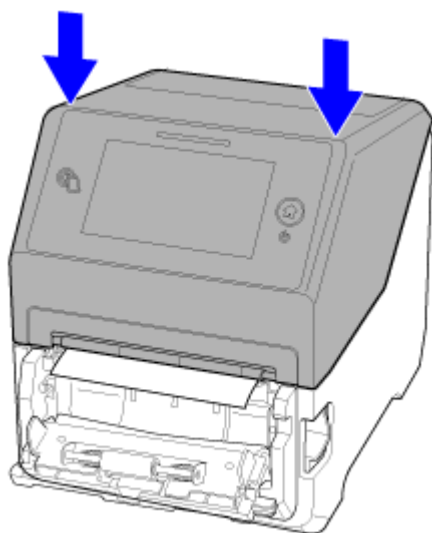


6. トップカバーを閉じます。

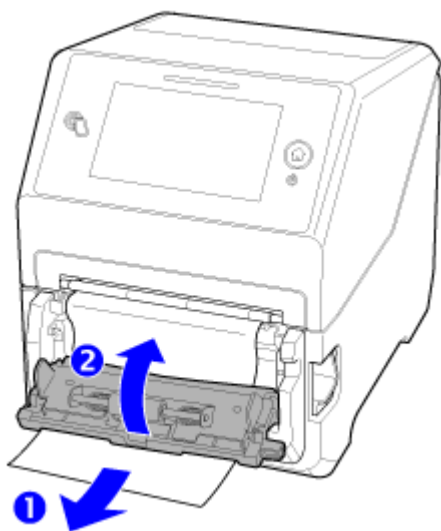
トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



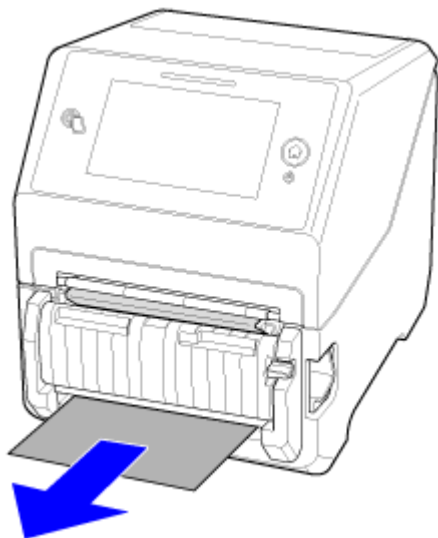
- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。



7. 台紙をハクリカバーと本製品の隙間（開口部）から外側に通し①、ハクリカバーを閉じます②。



8. 台紙を軽く引き、用紙のたるみをなくします。



9. 「フィード」をタップして用紙を印字開始位置まで送ります。



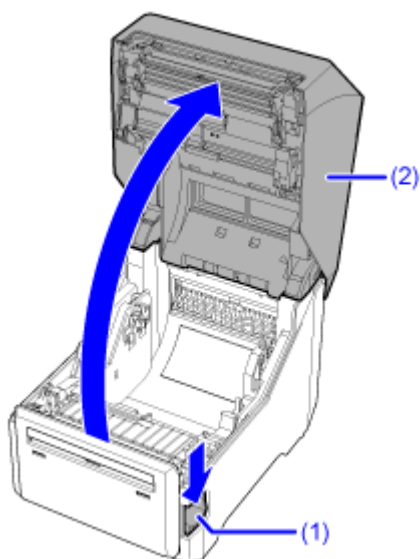
10. [オンライン] をタップしてオンライン状態に切替えます。

ロール紙をセットする（オプションのカッターユニット取り付け時）

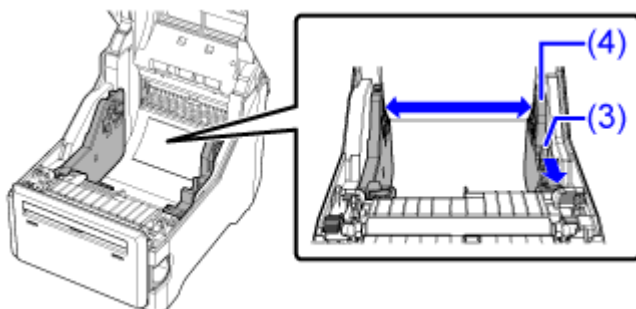


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。
- カッターの刃に触れないように注意してください。
- ラベルをカットすることのないように、カット位置を調整してください。

1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



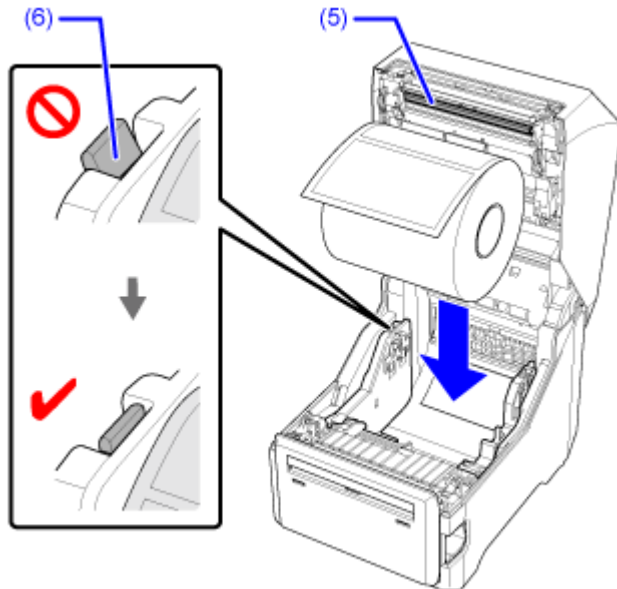
2. スライドレバー（3）を引きながら右側の用紙ガイド（4）を動かし、用紙ガイドの幅を用紙の幅に合わせます。



3. ロール紙をセットします。

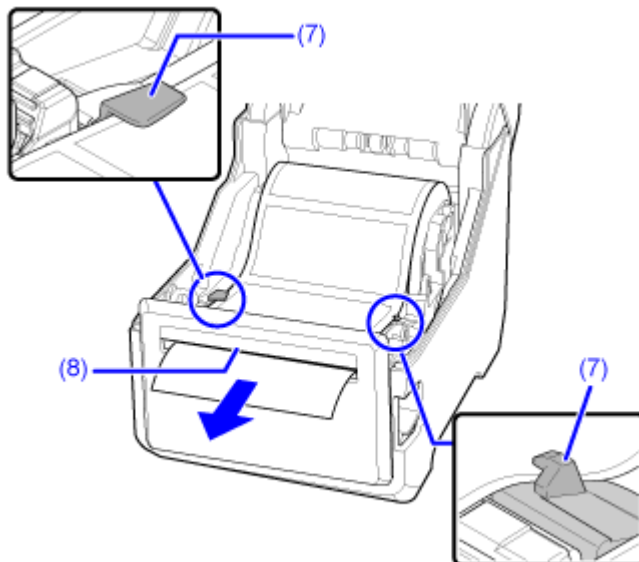
ロール紙の印字面をサーマルヘッド（5）と接する向きにし、上からセットします。

ロール紙が正しくセットされるとフラップ（6）が垂直になります。



- 用紙には、表巻きと裏巻きの2種類があります。図の用紙は表巻きです。

4. 左右のツメ（7）の下に用紙を通して引き出し、本製品の内側から用紙排出口（8）に挿入します。

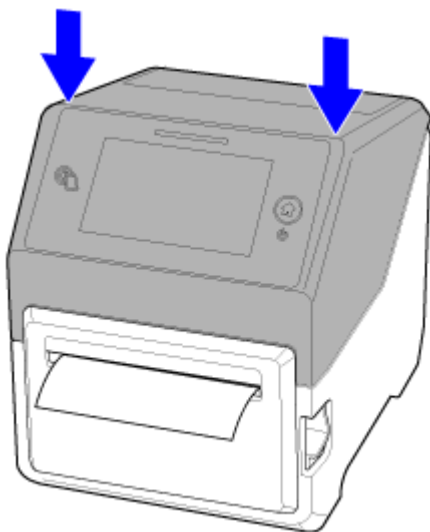


5. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。



- 用紙無駄なし機能を有効にしている場合は、用紙の先端が用紙排出口から出すぎているとエラーになります。用紙の先端を用紙排出口に揃えてください。

用紙長が20mm以下の用紙を使用する場合は、用紙の先端を用紙排出口から本製品の
内側へ10mm程度引いた位置にセットしてください。

6. 用紙を印字開始位置に合わせ、オンライン状態に切替えます。

画面に  アイコンが表示されている場合は、用紙無駄なし機能が有効です。[オンライン] をタップすると、オンライン状態に切替わるときに用紙の位置が自動で調整されます。

画面に  アイコンが表示されていない場合は、用紙無駄なし機能が無効です。[フィード] をタップして用紙を送ってから、[オンライン] をタップします。

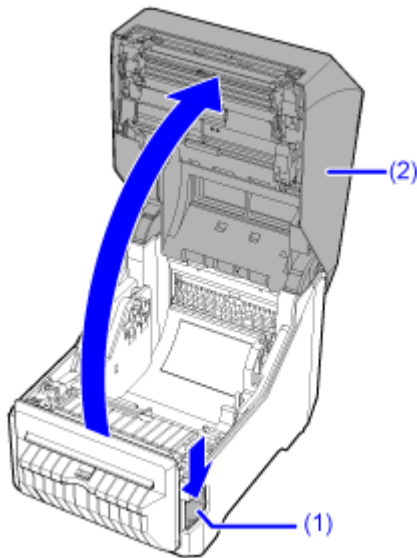


ロール紙をセットする（オプションのノンセパクタユニット取り付け時）

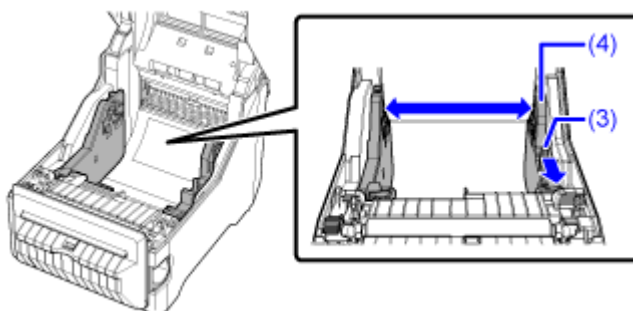


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。
- カッタの刃に触れないように注意してください。

1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



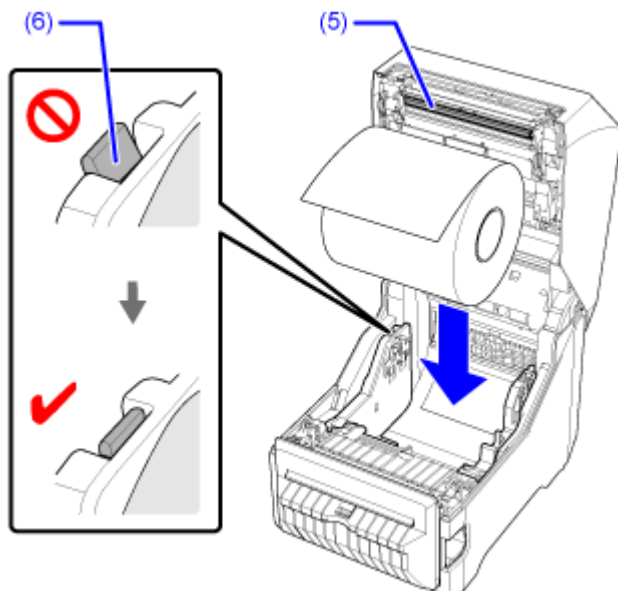
2. スライドレバー（3）を引きながら右側の用紙ガイド（4）を動かし、用紙ガイドの幅を用紙の幅に合わせます。



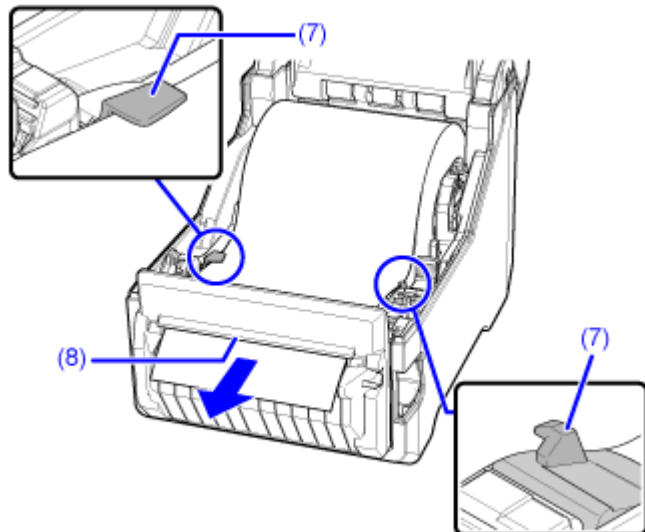
3. ロール紙をセットします。

ロール紙の印字面をサーマルヘッド (5) と接する向きにし、上からセットします。

ロール紙が正しくセットされるとフラップ (6) が垂直になります。



4. 左右のツメ (7) の下に用紙を通して引き出し、本製品の内側から用紙排出口 (8) に挿入します。

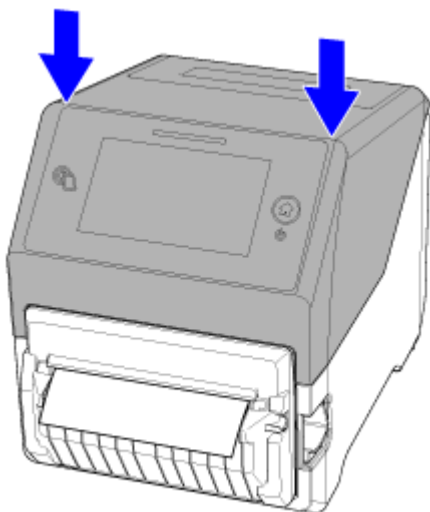


5. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。



6. 「フィード」をタップして用紙を印字開始位置まで送ります。



7. 「オンライン」をタップしてオンライン状態に切替えます。

ファンフォールド紙をセットする

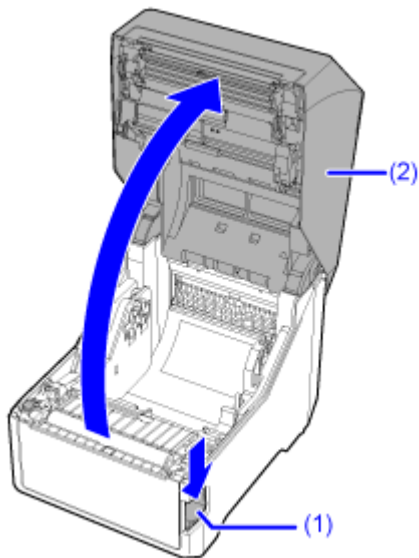


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。

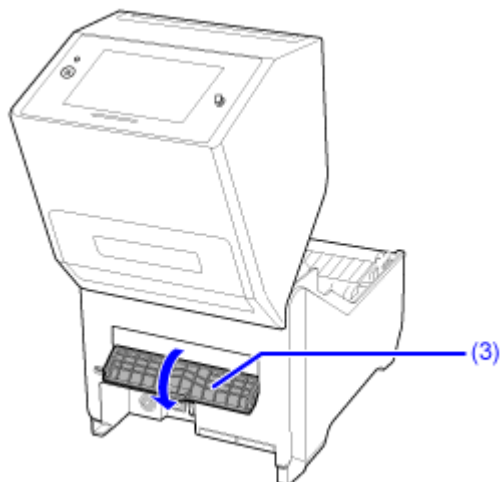


- ミシン目によりハクリ機能に影響があるため、ファンフォールド紙はハクリモードでは使用できません。

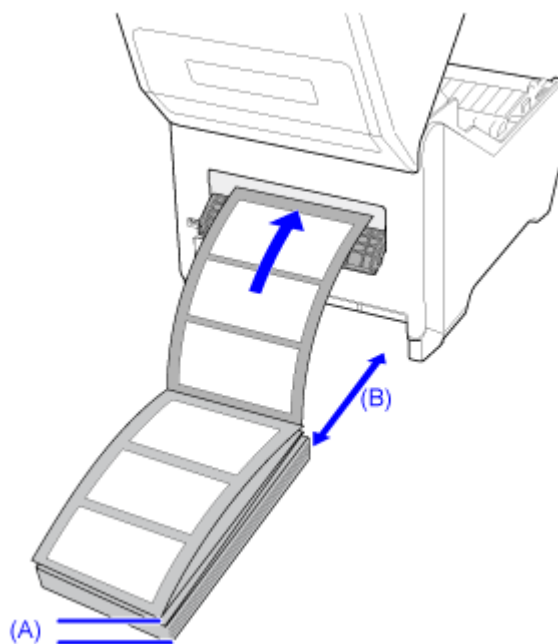
1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



2. 背面の用紙供給口（3）を開きます。



3. ファンフォールド紙を用紙供給口から挿入します。



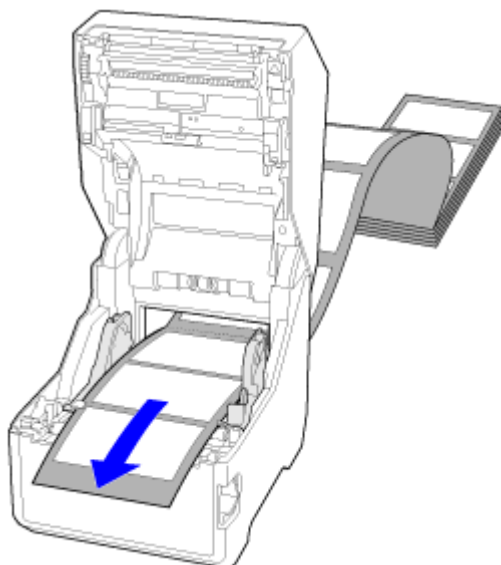
(A) 用紙の高さ（机上より）：100mm以内

(B) 本製品背面と用紙の距離：用紙1枚分以上 / RFIDタグは用紙2枚分以上

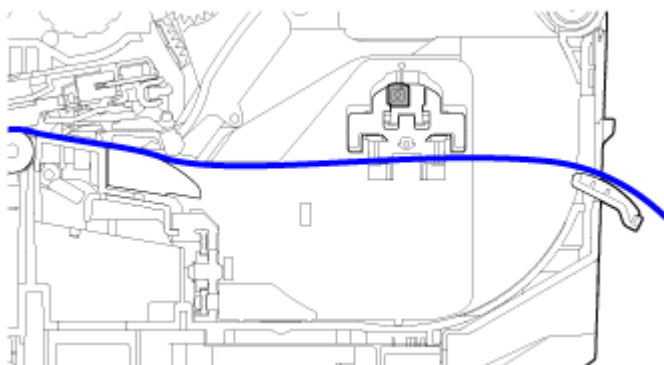


- 用紙をセットするときに、ラベル面が上になっていることを確認してください。
- 用紙設置場所により高さが制限される場合があります。
- 用紙を背面の同机上ではなく机下などから引き込んで使用する場合は、印字動作の障害にならないように設置してください。

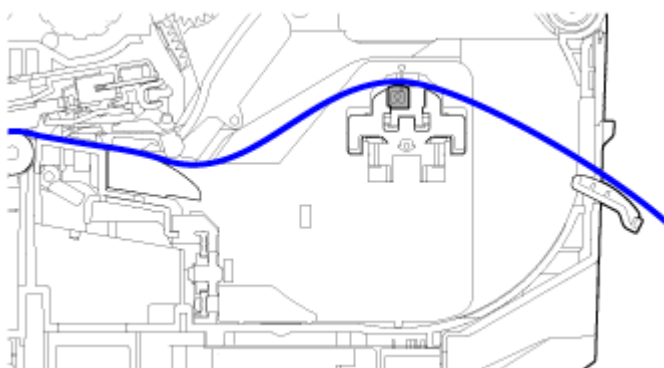
4. 背面から挿入したファンフォールド紙を引き出します。



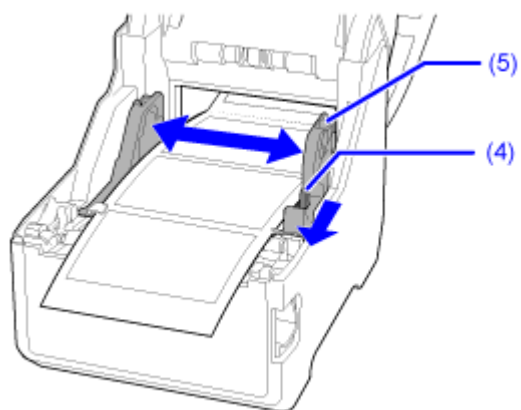
通常用紙の場合は、用紙を用紙ガイド内側の突起の下に通してください。



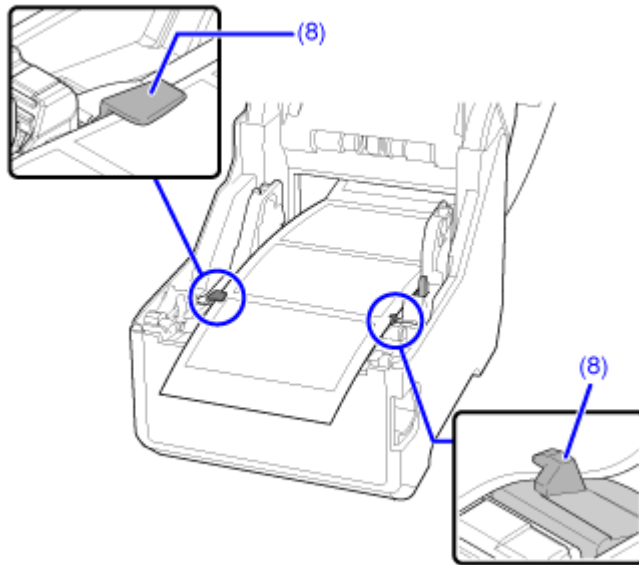
RFIDタグの場合は、用紙を用紙ガイド内側の突起の上に通してください。



5. スライドレバー (4) を引きながら右側の用紙ガイド (5) を動かし、用紙ガイドの幅を用紙の幅に合わせます。



6. 左右のツメ（8）の下に用紙を通して引き出します。



7. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。



- 用紙無駄なし機能を有効にしている場合は、用紙の先端が用紙排出口から出すぎているとエラーになります。用紙の先端を用紙排出口に揃えてください。

8. 用紙を印字開始位置に合わせ、オンライン状態に切替えます。

画面に ☒ アイコンが表示されている場合は、用紙無駄なし機能が有効です。[オンライン] をタップすると、オンライン状態に切替わる時に用紙の位置が自動で調整されます。

画面に ☒ アイコンが表示されていない場合は、用紙無駄なし機能が無効です。[フィード] をタップして用紙を送ってから、[オンライン] をタップします。



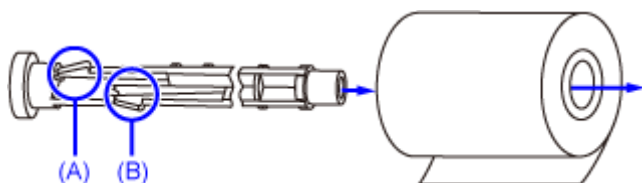
リボンのセット（熱転写方式のみ）

熱転写方式で印字する場合は、リボンをセットする必要があります。ここでは、リボンのセット方法および交換方法を説明します。

リボンアダプタをセットする

リボンを本製品にセットする前に、リボンアダプタをカーボンリボンとリボン支管それぞれにセットします。

リボンアダプタはカーボンリボンの幅に合わせてツメの位置を変更する必要があります。



カーボンリボンの幅	使用するリボン支管	リボンアダプタのツメの位置	
		(A)	(B)
92mm/110mm/111mm	111mm		
59mm/76mm	76mm		
45mm	45mm		

1. カーボンリボンの幅に合わせてリボンアダプタのツメの位置を変更します。
2. カーボンリボンにリボンアダプタをセットします。
3. リボン支管にリボンアダプタをセットします。

リボンをセットする

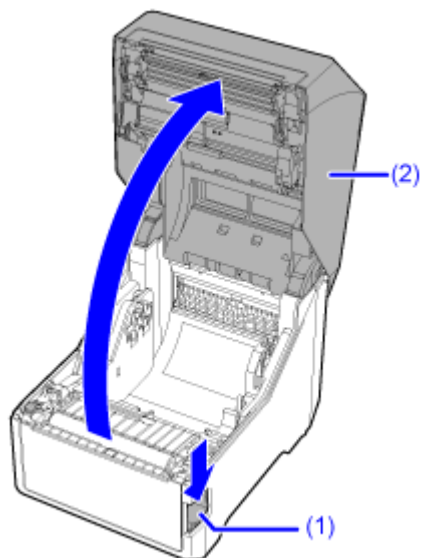


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。火傷をしないように注意してください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。

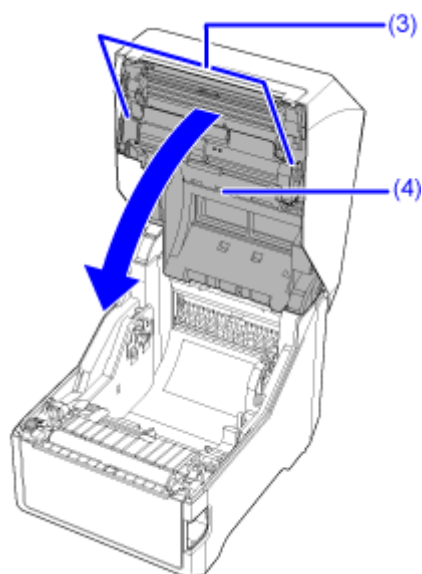


- 最適な印字品質を得るために、本製品には、弊社指定のサプライ製品のご使用をお願いします。
- リボンを本製品にセットする前に、リボンアダプタをカーボンリボンとリボン支管それぞれにセットしてください。

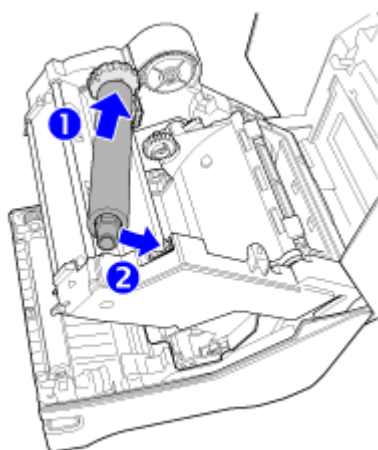
1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



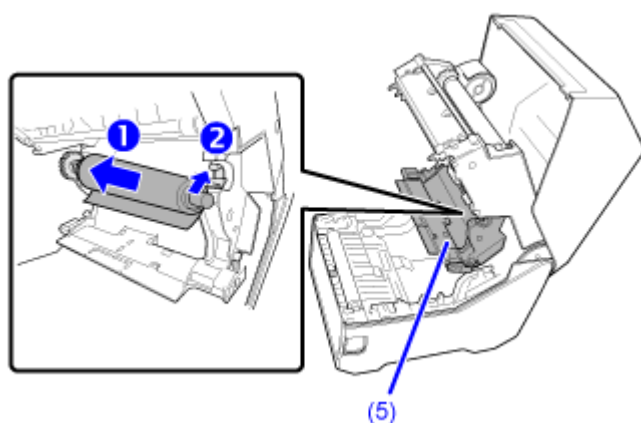
2. ▼（リボンカバー引き出し）マーク（3）を手前に引き、リボンユニット（4）を手前に開きます。



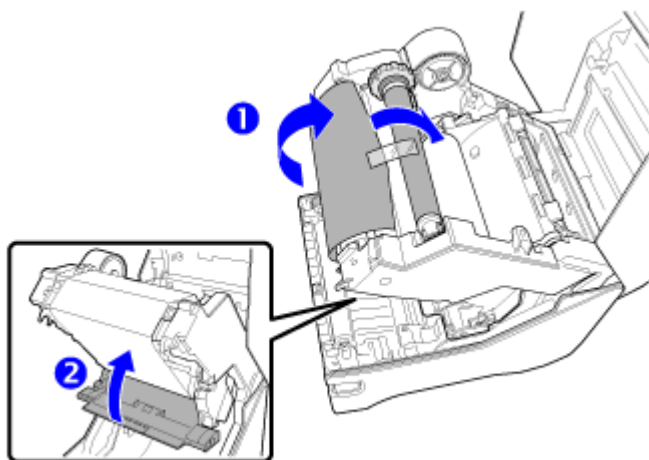
3. リボンユニットにリボン支管を①②の順にセットします。



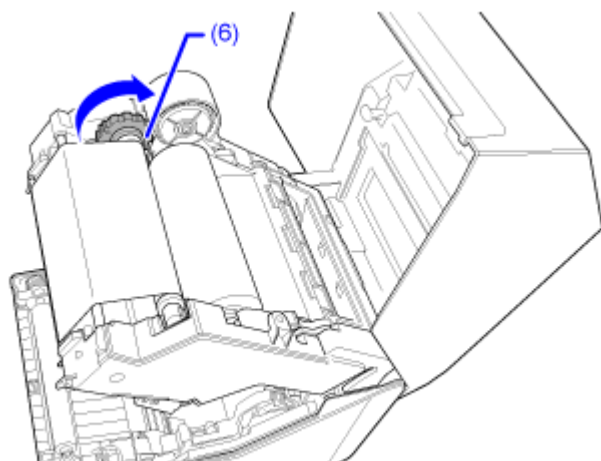
4. リボンカバー（5）にカーボンリボンを①②の順にセットします。



5. カーボンリボンを引き出してリボン支管にテープなどで貼り付け①、リボンカバーを閉じます②。



6. ダイヤル (6) を回してカーボンリボンを数回巻き取ります。

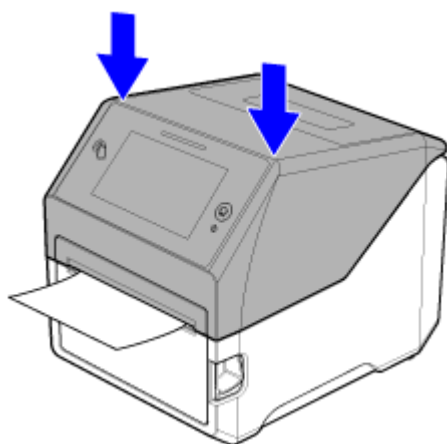


7. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。

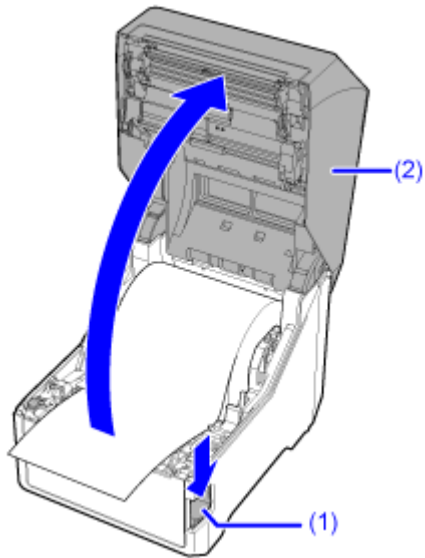


- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。
-

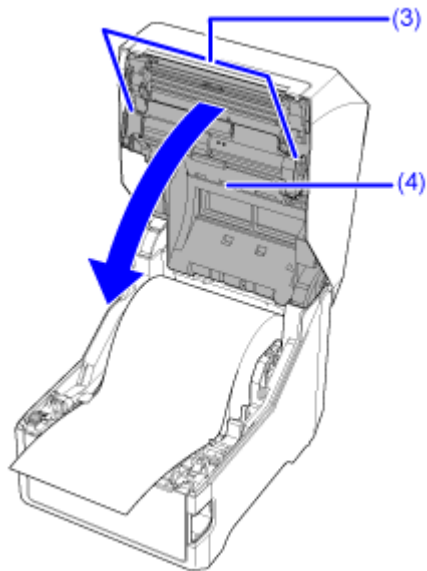


リボンを交換する

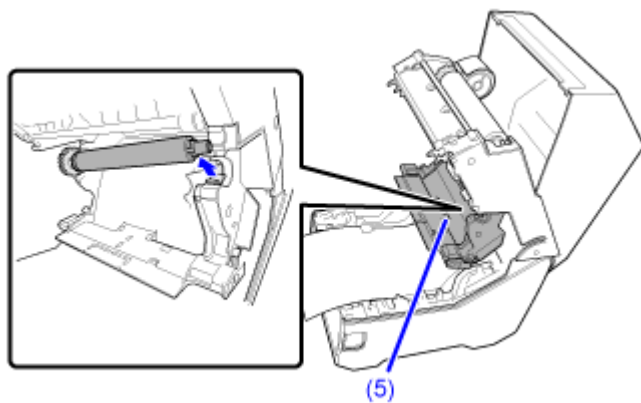
1. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



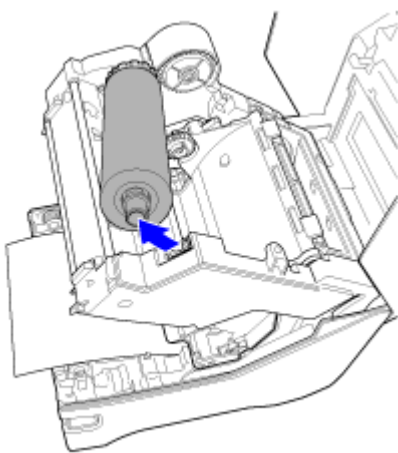
2. ▼（リボンカバー引き出し）マーク（3）を手前に引き、リボンユニット（4）を手前に開きます。



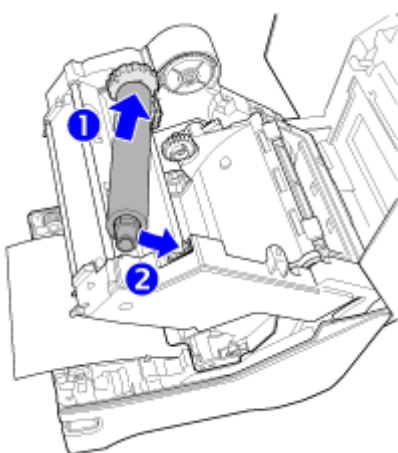
3. リボンカバー（5）から使用済みのリボン支管を取り外します。



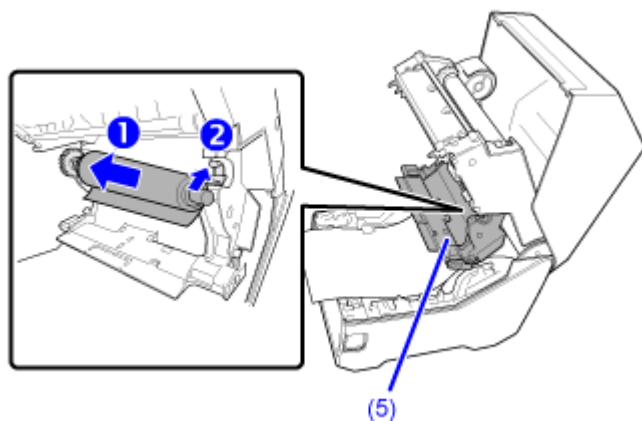
4. リボンユニットから使用済みのリボンを取り外します。



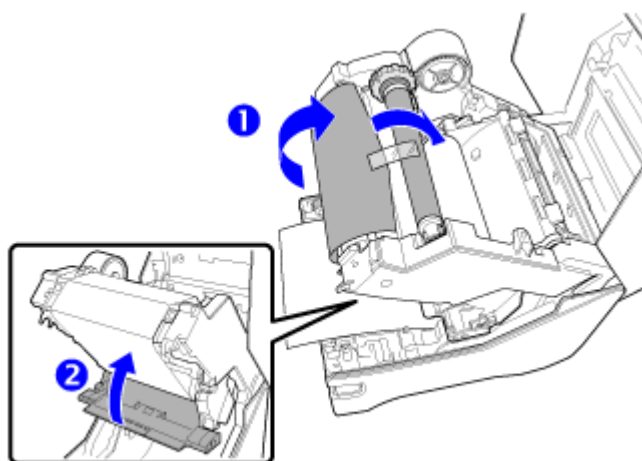
5. リボンユニットに、手順3で取り外したリボン支管を①②の順にセットします。



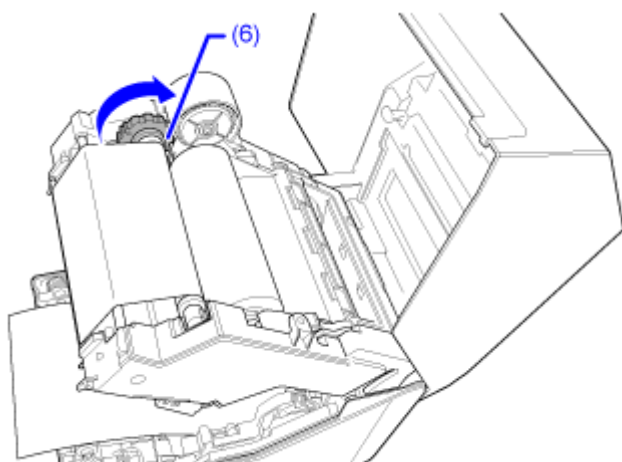
6. リボンカバー（5）にカーボンリボンを①②の順にセットします。



7. カーボンリボンを引き出してリボン支管にテープなどで貼り付け①、リボンカバーを閉じます②。



8. ダイヤル（6）を回してカーボンリボンを数回巻き取ります。

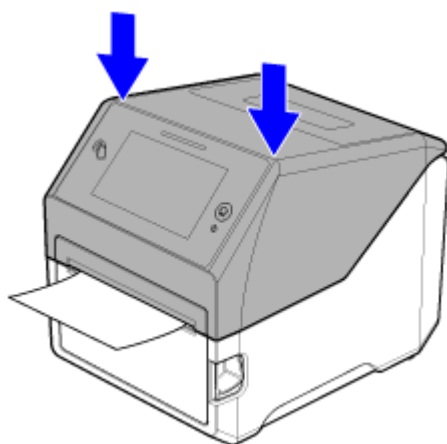


9. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。



- 用紙無駄なし機能を有効にしている場合は、用紙の先端が用紙排出口から出すぎているとエラーになります。用紙の先端を用紙排出口に揃えてください。

10.用紙を印字開始位置に合わせ、オンライン状態に切替えます。

画面に ☒ アイコンが表示されている場合は、用紙無駄なし機能が有効です。[オンライン] をタップすると、オンライン状態に切替わる時に用紙の位置が自動で調整されます。

画面に ☐ アイコンが表示されていない場合は、用紙無駄なし機能が無効です。[フィード] をタップして用紙を送ってから、[オンライン] をタップします。



用紙に応じた設定

用紙無駄なし機能について

用紙無駄なし機能は、セットした用紙の1枚目から印字開始位置に合わせ、印字できるようにします。用紙を白紙のまま数枚送って位置合わせをすることによる、用紙の無駄使いを防ぎます。

用紙無駄なし機能が有効の場合、オンライン/オフライン画面に  アイコンが表示されます。



この機能は以下のタイミングで実行されます。

- 電源を入れたあと、はじめてオンライン状態にしたとき
- トップカバー開閉後にオンライン状態にしたとき

設定方法

〔設定〕メニューの〔ツール〕＞〔メディアスタートアップ〕または〔メディアプロファイル登録〕を利用して、用紙無駄なし機能に関する設定を一括で設定してください。

1種類の用紙のみを使用する場合は、〔メディアスタートアップ〕を利用して設定してください。

複数種類の用紙を使用する場合は、まず〔メディアプロファイル登録〕を利用して用紙ごとにプロファイルを登録してください。その後、使用する用紙のプロファイルを本製品に適用してください。

用紙頭出しセンサの調整

用紙無駄なし機能では、用紙排出口にある用紙頭出しセンサで用紙の先端を検出し、用紙を印字開始位置に合わせます。

印字開始位置がずれる場合には、用紙頭出しセンサの位置や感度の調整を試してください。

センサ位置の調整

〔印字〕＞〔詳細設定〕＞〔調整モード〕＞〔用紙頭出しセンサ〕

センサ感度の調整

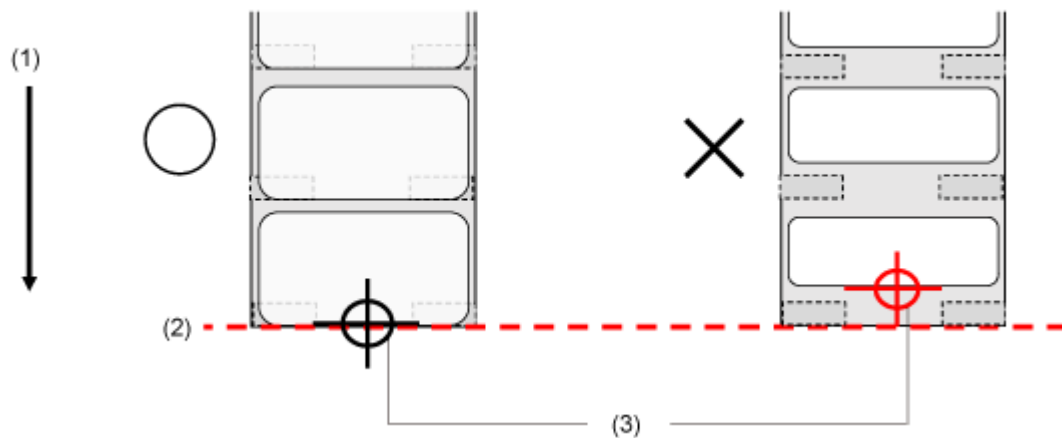
〔印字〕＞〔詳細設定〕＞〔センサ調整〕＞〔センサ自動調整〕＞〔用紙無駄なし〕

用紙無駄なし機能を使用するときの注意

用紙無駄なし機能の制限事項

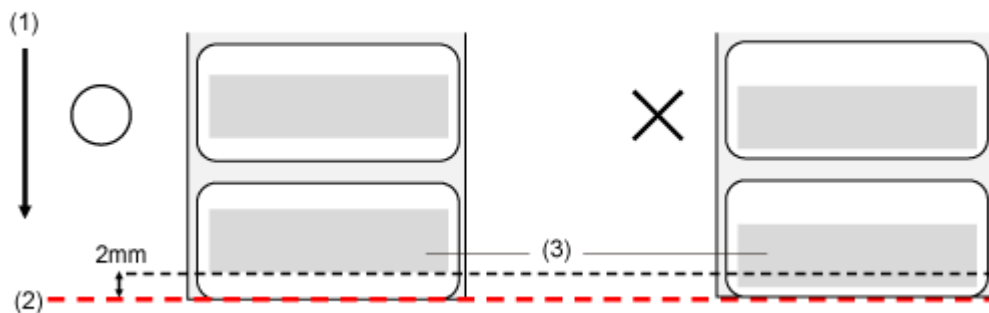
以下の場合には用紙無駄なし機能を使用できません。

- オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合
- ノンセパラベル、ジャーナル紙を使用している場合
- アイマークがラベルの先端でないなど、ラベルが用紙の先端でない用紙を使用している場合（ただし、リストバンドやkoDakaraは使用できます。）



- (1) 紙送り方向
(2) 用紙の先端
(3) 頭出しセンサ検出位置（頭出し位置）

- インレイの位置が用紙の先端から2mm未満のRFIDタグを使用している場合



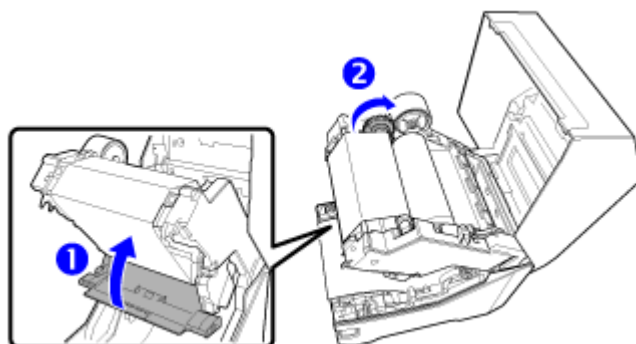
- (1) 紙送り方向
(2) 用紙の先端
(3) インレイ

-

-

- 137

3. リボンカバーを閉じ①、ダイヤルを回してカーボンリボンを数回巻き取ります②。



4. トップカバーを閉じます。

- ・ [オプションフィード量] は初期値のままご利用ください。[オプションフィード量] を変更した場合の用紙無駄なし機能の動作は保証していません。
- ・ [ラベル自動測長] を無効にしてください。[ラベル自動測長] を有効にした場合の用紙無駄なし機能の動作は保証していません。
- ・ ギャップが3mmを超える用紙を使用していて、[用紙飛びチェック] を有効にする場合、用紙無駄なし機能は使用できません。
- ・ RFIDタグを使用時、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューの [オフセット調整]、[印字位置調整]、[用紙頭出しセンサ] の調整値や<P0>コマンドによる調整値が大きすぎると、インレイへのデータ書込みに失敗することがあります。

用紙無駄なし機能時のフィードについて

用紙無駄なし機能有効時は、印字前にオフライン状態で[フィード]をタップする必要はありません。[フィード]をタップすると、用紙無駄なし機能有効時も用紙を送っての印字開始位置合わせがおこなわれます。

[フィード]をタップした場合の動作は以下のとおりです。

設定			頭出し後、[フィード]をタップしたときの動作	
【用紙無駄なし】	【登録用紙長】	使用する用紙	動作	無駄になるラベル
無効	-	用紙（小） ¹	用紙センサで先端を検出したラベルまでフィード	2枚以上
		用紙（標準） ²	2枚目で止まる	1枚
有効	ラベル長（0以外）	用紙（小） ³	2枚目で止まる	1枚
		用紙（標準） ⁴	2枚目で止まる	1枚
	自動設定（0）	用紙（小） ³	用紙センサで先端を検出したラベルまでフィード	2枚以上

設定			頭出し後、[フィード] をタップしたときの動作	
[用紙無駄なし]	[登録用紙長]	使用する用紙	動作	無駄になるラベル
		用紙（標準） ⁴	2枚目で止まる	1枚

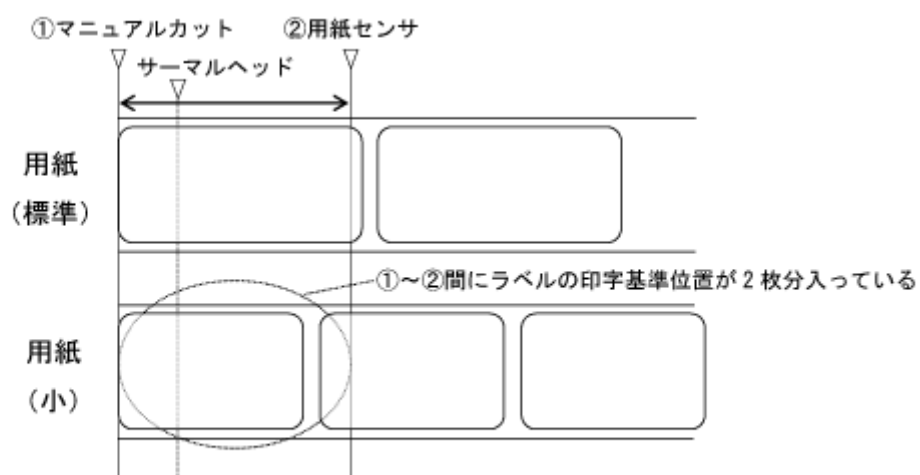
¹用紙をセットしたときに、用紙先端位置～用紙センサ間距離よりラベルの長さが短い場合

²用紙をセットしたときに、用紙先端位置～用紙センサ間距離よりラベルの長さが長い場合

³印字待機位置～用紙センサ間距離よりラベルの長さが短い用紙

⁴印字待機位置～用紙センサ間距離よりラベルの長さが長い用紙

印字待機位置は動作モードによって異なります。以下はティアオフモードの場合の用紙（標準）と用紙（小）を示した図です。



印字設定をメディアスタートアップで一括設定する（1種類の用紙のみを使用する場合）

使用する用紙種類に合った印字設定を画面の表示に従って一括で設定し、本製品に適用できます。1種類の用紙のみを使用する場合は、本機能を使ってください。



- 複数種類の用紙を使用する場合は、まず [ツール] > [メディアプロファイル編集] > [メディアプロファイル登録] を利用して用紙ごとにプロファイルを登録してください。その後、使用する用紙のプロファイルを本製品に適用してください。

設定できる項目は以下のとおりです。メディアスタートアップの実行結果は、各設定項目に反映されます。

- [印字] > [メディア種]
- [印字] > [印字方式]
- [印字] > [印字速度]
- [印字] > [センサタイプ]
- [印字] > [印字濃度]
- [印字] > [詳細設定] > [センサ調整] 以下の設定項目
- [印字] > [詳細設定] > [用紙無駄なし] 以下の設定項目
- [通信設定] > [RFID] > [RFIDタグ型式] > [読出し]（RFIDモデルのみ）

1. ホーム画面またはオフライン画面で [設定] をタップします。

2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。

3. [ツール] をタップします。

  をタップするか画面を左右にスライドすると画面を切替えることができます。



4. [メディアスタートアップ] をタップします。



5. 使用するメディア種をタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



6. 感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合、使用する印字方式をタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



7. 使用するセンサタイプをタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



- メディア種に [リストバンド] を選択した場合は、[透過] または [反射] のみ選択できます。
- メディア種に [koDakara] を選択した場合は、[反射] のみ選択できます。
- RFIDモデルでRFIDタグを使用する場合は、[無効] 以外を選択してください。[無効] に設定すると、RFIDタグを使用できません。

8. [開始] をタップし、画面の指示に従ってセンサ自動調整を実行します。



用紙のラベルを剥がして、アイマークが反射センサの上にならないように台紙をセットしてください。



リストバンドやジャーナル紙などの台紙がない用紙の場合は、用紙をそのままセットしてください。

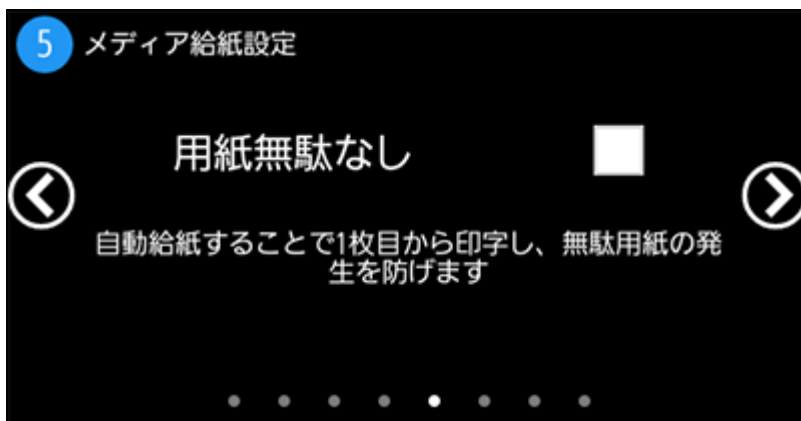
センサの調整が完了すると、[センサ調整] の値が[完了] になります。



- センサタイプに「透過」または「反射」を選択した場合にのみ表示されます。
- センサ自動調整の実行結果は、「印字」＞「詳細設定」＞「センサ調整」下の設定項目に即時反映されます。

9. をタップするか画面を左にスライドします。

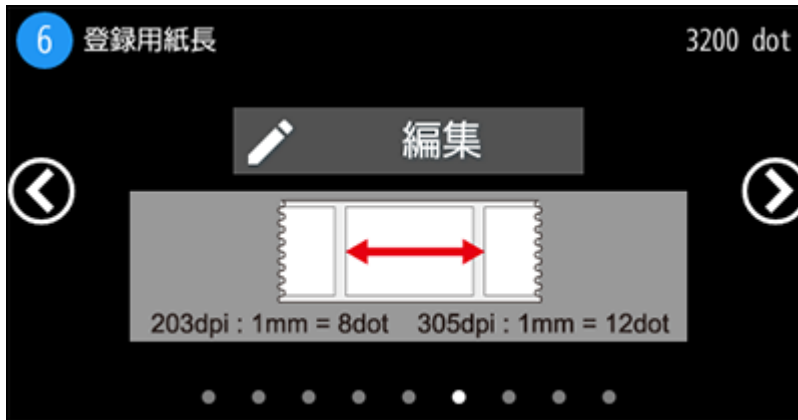
10. 用紙無駄なし機能の有効/無効を選択し、をタップするか画面を左にスライドします。



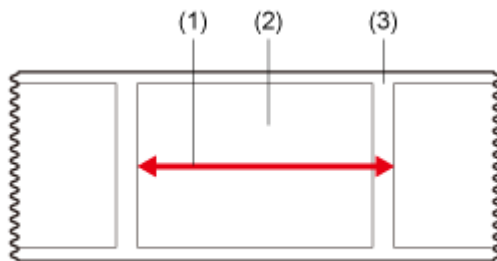
- オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合は表示されません。
- 以下の場合には用紙無駄なし機能を使用できません。
 - ノンセパラベル、ジャーナル紙を使用している場合
 - アイマークがラベルの先端でないなど、ラベルが用紙の先端でない用紙を使用している場合（ただし、リストバンドやkoDakaraは使用できます。）
 - インレイの位置が用紙の先端から2mm未満のRFIDタグを使用している場合
 - 用紙先端から2mm未満かつ、ラベル横方向中央位置（頭出しセンサ通過位置）に裏面プレ印刷がある用紙を使用している場合（ただし印刷がアイマークであれば使用できます。）

11. 「編集」をタップします。

用紙無駄なし機能を正確に実行するために、用紙長を登録します。



以下の用紙長（台紙含む）の範囲を登録してください。



(1) 用紙長（台紙含む）

(2) ラベル

(3) 台紙

dotで入力する場合は、下記の数式から数値を算出してください。

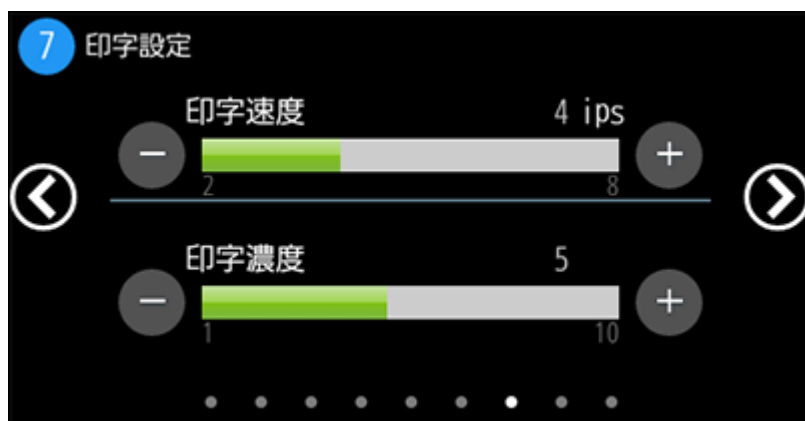
- 203dpi：用紙長（mm）× 8
- 305dpi：用紙長（mm）× 12



- 0（自動）に設定した場合、1枚目の印字中に自動で用紙長を測長して動作します。
- オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合は表示されません。
- メディア種に［ラベル］を選択し、センサタイプに［透過］または［反射］を選択し、用紙無駄なし機能を有効にした場合に表示されます。
- ［システム］＞［地域］＞［単位］メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

12.  をタップするか画面を左にスライドします。

13. 印字速度および印字濃度を調整し、をタップするか画面を左にスライドします。

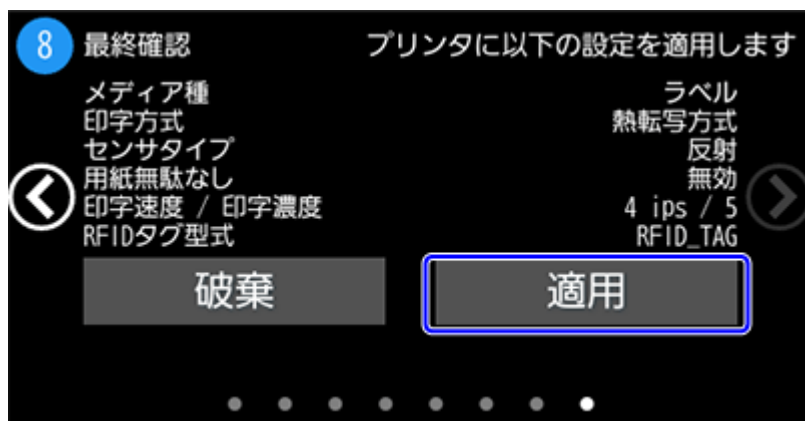


14. RFIDモデルの場合、使用するRFIDタグ型式をタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



- RFIDタグ型式が登録されていない場合は、[指定なし]のみが表示されます。RFIDタグ型式は[通信設定] > [RFID] > [RFIDタグ型式] > [編集]メニューから登録できます。

15. 設定内容を確認し、[適用]をタップします。



16. をタップして完了します。

本製品に設定が適用されます。



- 設定を途中でキャンセルするには、（電源/ホーム）ボタンを押します。設定を破棄するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。
-

印字設定をメディアプロファイルとして登録する（複数種類の用紙を使用する場合）

複数種類の用紙を使用する場合は、用紙種類ごとの印字設定をメディアプロファイルとして登録してください。登録したメディアプロファイルはホーム画面から呼び出して本製品に適用できます。用紙を付け替えるごとに、簡単に設定を切替えることができます。最大5件のメディアプロファイルを登録できます。

メディアプロファイルに登録できる設定項目は以下のとおりです。

- [印字] > [メディア種]
- [印字] > [印字方式]
- [印字] > [印字速度]
- [印字] > [センサタイプ]
- [印字] > [印字濃度]
- [印字] > [詳細設定] > [センサ調整] 以下の設定項目
- [印字] > [詳細設定] > [用紙無駄なし] 以下の設定項目
- [通信設定] > [RFID] > [RFIDタグ型式] > [読出し]（RFIDモデルのみ）

1. ホーム画面またはオフライン画面で[設定]をタップします。

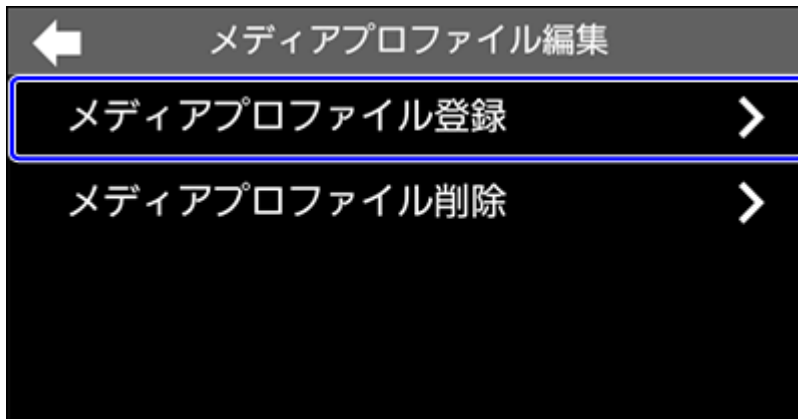
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。

3. [ツール]をタップします。

◀▶をタップするか画面を左右にスライドすると画面を切替えることができます。



4. [メディアプロファイル編集] > [メディアプロファイル登録] をタップします。



5. [未登録] と表示されている項目をタップします。



6. 使用するメディア種をタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



7. 感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合、使用する印字方式をタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



8. 使用するセンサタイプをタップし、をタップするか画面を左にスライドします。

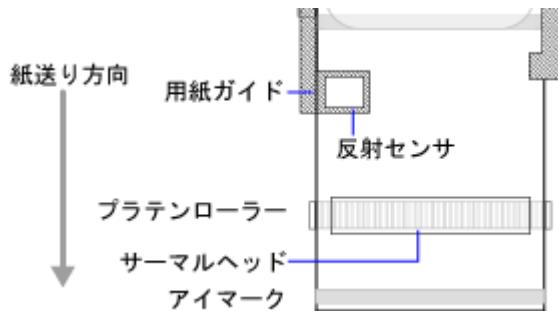


- メディア種に「リストバンド」を選択した場合は、「透過」または「反射」のみ選択できます。
- メディア種に「koDakara」を選択した場合は、「反射」のみ選択できます。
- RFIDモデルでRFIDタグを使用する場合は、「無効」以外を選択してください。「無効」に設定すると、RFIDタグを使用できません。

9. 「開始」をタップし、画面の指示に従ってセンサ自動調整を実行します。



用紙のラベルを剥がして、アイマークが反射センサの上にならないように台紙をセットしてください。



リストバンドやジャーナル紙などの台紙がない用紙の場合は、用紙をそのままセットしてください。

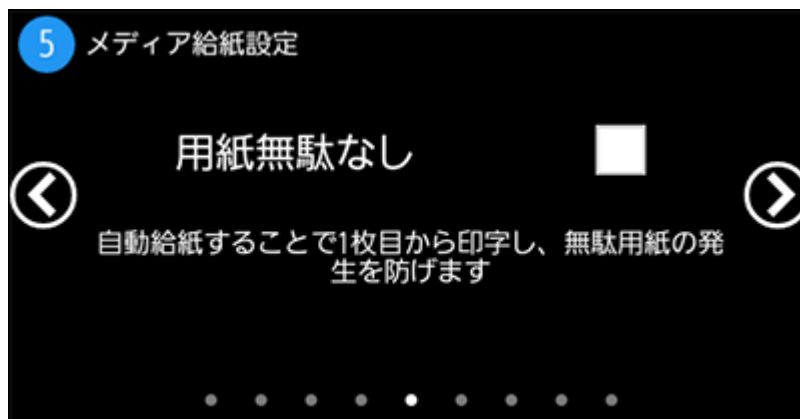
センサの調整が完了すると、[センサ調整] の値が [完了] に変わります。



- センサタイプに [透過] または [反射] を選択した場合にのみ表示されます。
- センサ自動調整の実行結果は、[印字] > [詳細設定] > [センサ調整] 下の設定項目に即時反映されます。
- センサ自動調整を実施しない場合は、本製品の現在の設定値が登録されます。

10.  をタップするか画面を左にスライドします。

11. 用紙無駄なし機能の有効/無効を選択し、 をタップするか画面を左にスライドします。

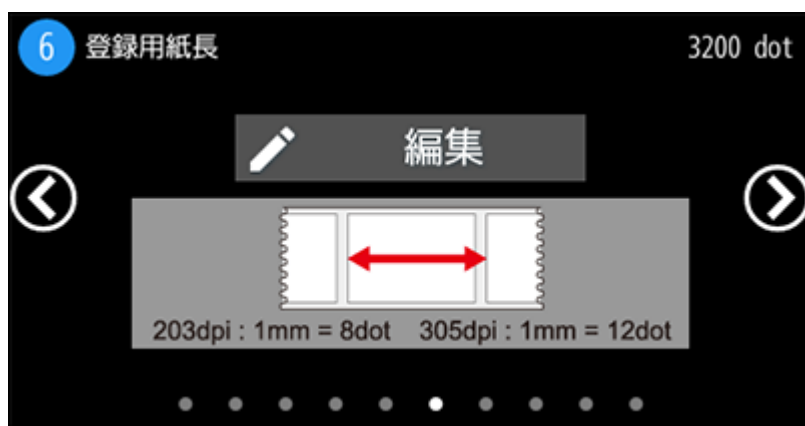




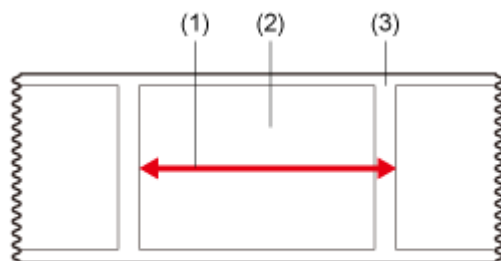
- オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合は表示されません。
- 以下の場合は用紙無駄なし機能を使用できません。
 - ノンセパラベル、ジャーナル紙を使用している場合
 - アイマークがラベルの先端でないなど、ラベルが用紙の先端でない用紙を使用している場合（ただし、リストバンドやkoDakaraは使用できます。）
 - インレイの位置が用紙の先端から2mm未満のRFIDタグを使用している場合
 - 用紙先端から2mm未満かつ、ラベル横方向中央位置（頭出しセンサ通過位置）に裏面プレ印刷がある用紙を使用している場合（ただし印刷がアイマークであれば使用できます。）

12. [編集] をタップします。

用紙無駄なし機能を正確に実行するために、用紙長を登録します。



以下の用紙長（台紙含む）の範囲を登録してください。



- (1) 用紙長（台紙含む）
- (2) ラベル
- (3) 台紙

dotで入力する場合は、下記の数式から数値を算出してください。

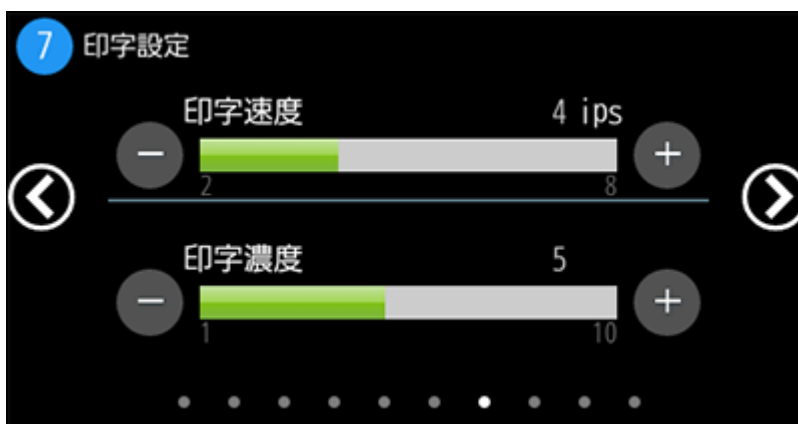
- 203dpi：用紙長（mm）× 8
- 305dpi：用紙長（mm）× 12



- 0（自動）に設定した場合、1枚目の印字中に自動で用紙長を測長して動作します。
- オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合は表示されません。
- メディア種に「ラベル」を選択し、センサタイプに「透過」または「反射」を選択し、用紙無駄なし機能を有効にした場合に表示されます。
- 「システム」＞「地域」＞「単位」メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

13. をタップするか画面を左にスライドします。

14. 印字速度および印字濃度を調整し、をタップするか画面を左にスライドします。



15. RFIDモデルの場合、使用するRFIDタグ型式をタップし、をタップするか画面を左にスライドします。



- RFIDタグ型式が登録されていない場合は、「指定なし」のみが表示されます。RFIDタグ型式は「通信設定」＞「RFID」＞「RFIDタグ型式」＞「編集」メニューから登録できます。

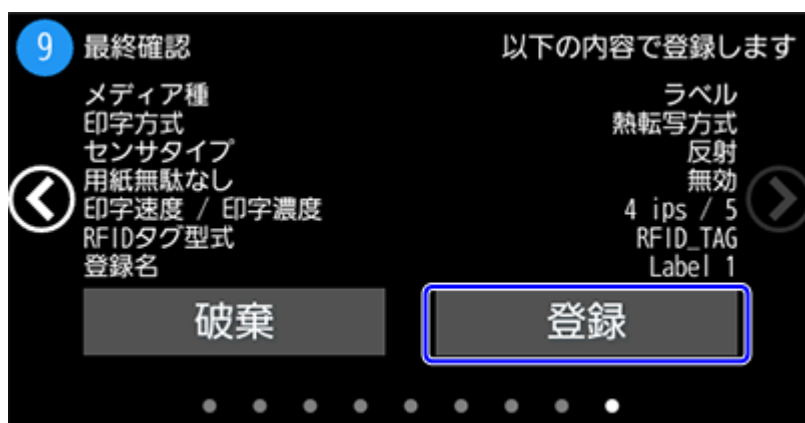
16. 「編集」をタップし、登録するメディアプロファイル名を編集します。

1～16文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）、数字、および記号を使用できます。編集しない場合は、「用紙種類 メディアプロファイル番号」（例：Label 1）で登録されます。



17.  をタップするか画面を左にスライドします。

18. 設定内容を確認し、[登録] をタップします。



19.  をタップして完了します。

メディアプロファイルが登録されます。



- 設定を途中でキャンセルするには、（電源/ホーム）ボタンを押します。設定を破棄するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。

登録したメディアプロファイルのアイコンがホーム画面に追加されます。

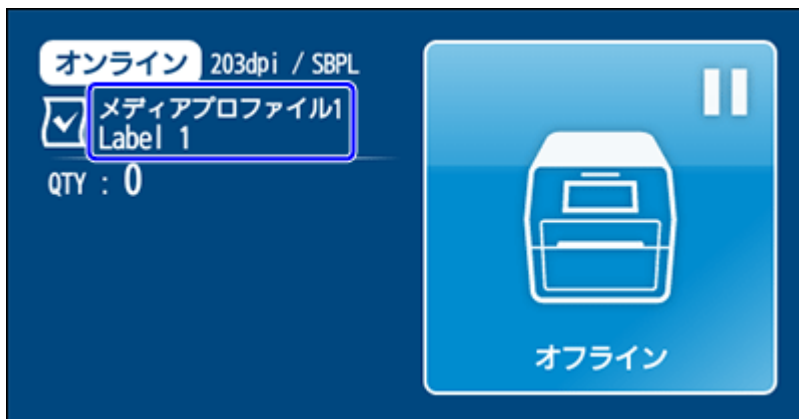


アイコンをタップし、確認メッセージでをタップすると、本製品に設定が適用されます。



- 適用しようとしているメディアプロファイルに、その時点の本製品の設定では適用できない値が含まれる場合は、それらの値は反映されません。

メディアプロファイルが本製品に適用されると、オンライン/オフライン画面にそのメディアプロファイル名が表示されます。



- 以下の設定項目を1つでも変更すると、オンライン/オフライン画面からメディアプロファイル名の表示が消えます。
 - [メディアプロファイル登録] に表示される設定項目
 - [印字] > [自動モード]
 - [印字] > [動作モード]
- 登録済みのメディアプロファイルを編集するには、[メディアプロファイル登録] 画面でそのプロファイル名が表示されている項目をタップし、画面の表示に従って設定します。
- 適用中のメディアプロファイルを編集した場合は、オンライン/オフライン画面からメディアプロファイル名の表示が消えます。編集後の設定を本製品に適用するには、ホーム画面で再度アイコンをタップして設定を呼び出します。

印字方式（感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ）

感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合、2種類の印字方式から選択できます。

熱転写方式

リボンを使用して印字します。

感熱方式

感熱紙を使用して印字します。



- 感熱紙を使用する場合、リボンのセットは不要です。
-

印字方式は、スタートアップガイド、メディアスタートアップ、およびメディアプロファイル登録を通して設定できます。または、以下の手順で個別に設定できます。

1. ホーム画面またはオフライン画面で「設定」をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 「印字」をタップします。



4. 「印字方式」をタップします。



5. 印字方式を選びます。



【熱転写方式】

リボンを使用して印字します。

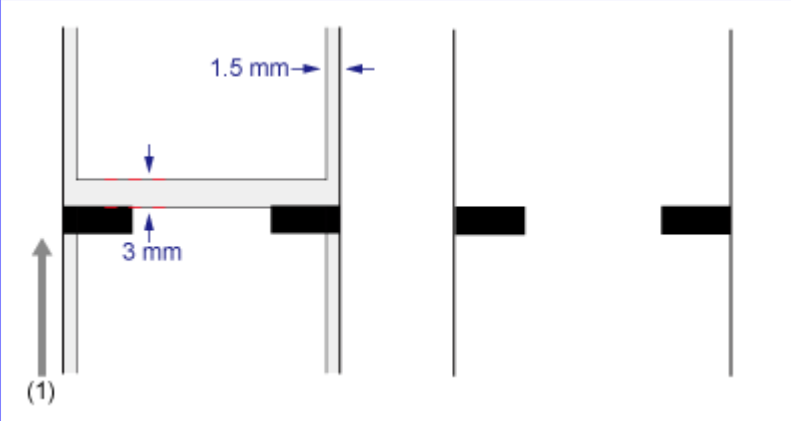
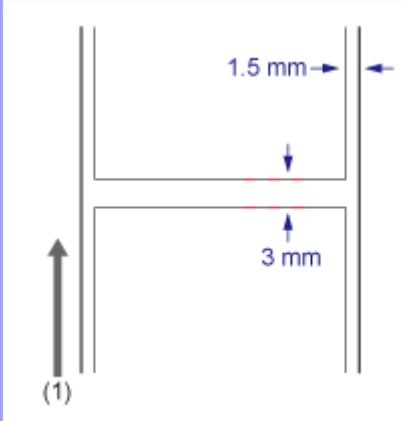
【感熱方式】

感熱紙を使用して印字します。

用紙センサタイプ

本製品では用紙センサを使用して用紙（ラベル）のアイマークやギャップを検出し、印字位置を正確に合わせます。

用紙ごとのアイマークおよびギャップは、以下のとおりです。

アイマーク	ギャップ
	

(1) 紙送り方向

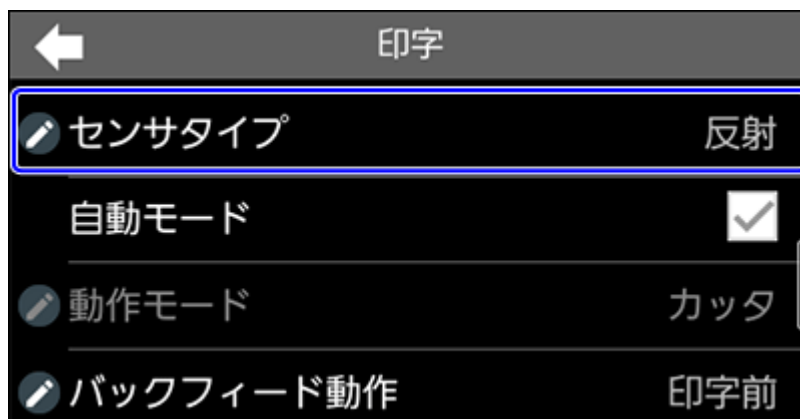
使用する用紙に合わせて、印字位置を検出するためのセンサタイプを設定します。

センサタイプは、スタートアップガイド、メディアスタートアップ、およびメディアプロフィール登録を通して設定できます。または、以下の手順で個別に設定できます。

1. ホーム画面またはオフライン画面で「設定」をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 「印字」をタップします。



4. [センサタイプ] をタップします。



5. 印字位置を検出するセンサタイプを選びます。

**【無効】**

用紙センサを無効にします。

【透過】

ギャップタイプの用紙を使用する場合に選びます。透過センサを使用します。

【反射】

アイマークタイプの用紙を使用する場合に選びます。反射センサを使用します。



- 「動作モード」メニューで「ハクリ」を選択している場合は、「透過」および「反射」のみが有効になります。
- 「動作モード」メニューで「ノンセパカッタ」または「ノンセパティアオフ」を選択している場合は、「無効」および「反射」のみが有効になります。
- RFIDモデルでRFIDタグを使用する場合は、「無効」以外を選択してください。「無効」に設定すると、RFIDタグを使用できません。

用紙やリボンの交換時期

用紙やリボンの残量を確認する

用紙やリボンの残量は、以下の方法で確認できます。

- **本製品上部の窓から確認する**

本製品上部の窓（1）から、本製品内部の用紙の残量を目視で確認できます。



- **本製品の通知で確認する**

本製品は、リボンのニアエンドおよびエンド検出機能を搭載しています。

本製品のディスプレイに表示されるアイコンやエラーメッセージで、リボンの交換時期が近付いていること、またはリボンの残量がなくなったことを知ることができます。

ペーパーエンドの発生条件

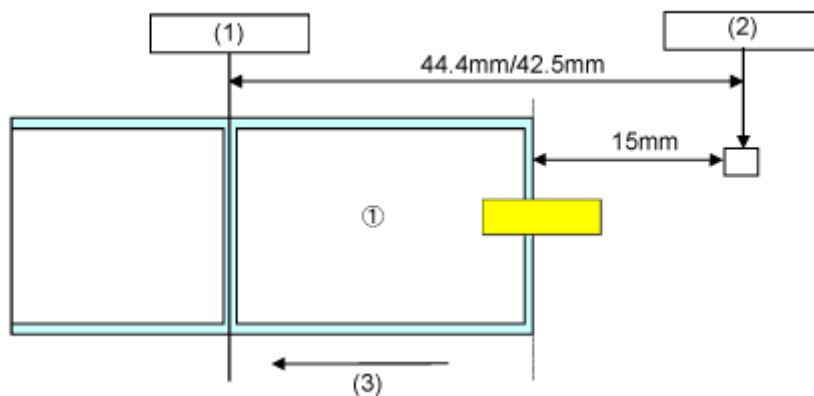
ペーパーエンドの発生条件は、用紙仕様と本製品の動作によって異なります。

用紙仕様は、設定モードの〔システム〕＞〔互換〕＞〔SBPL〕＞〔用紙仕様〕メニューで選択するか、コマンドで指定します。

〔のりつきラベル〕（ロール紙）の場合

フィード動作時のペーパーエンド発生条件

フィード中にペーパーエンドセンサが用紙なし状態を検知した時点から、15mm搬送を継続しても用紙なし状態が継続していると、その時点でペーパーエンドエラーが発生します。



(1) サーマルヘッド位置

(2) ペーパーエンドセンサ：アイマークセンサ/ギャップセンサ

〔印字〕メニューの〔詳細設定〕＞〔ペーパーエンドセンサ〕で選択するか、コマンドで指定します。

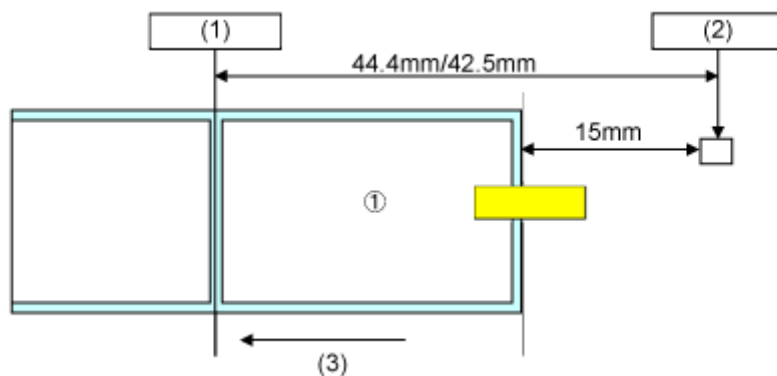
(3) 紙送り方向

印字動作時のペーパーエンド発生条件

1. ペーパーエンドセンサが用紙なし状態を15mm搬送した位置で検知します。

2. 印字残量がサーマルヘッド位置～ペーパーエンドセンサ間距離－20mmより少ない場合、①の発行完了後、ペーパーエンドエラーが発生します。

印字残量がサーマルヘッド位置～ペーパーエンドセンサ間距離－20mmより大きい場合、ペーパーエンド検知直後にペーパーエンドエラーが発生し、ペーパーエンドエラー解除後、再発行となります。



(1) サーマルヘッド位置

(2) ペーパーエンドセンサ：アイマークセンサ/ギャップセンサ

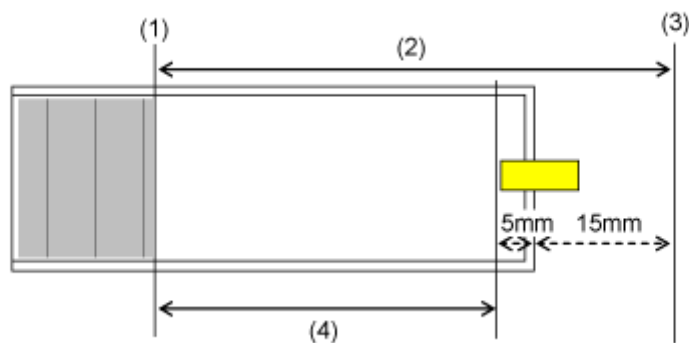
〔印字〕メニューの〔詳細設定〕＞〔ペーパーエンドセンサ〕で選択するか、コマンドで指定します。

(3) 紙送り方向

印字発行中にペーパーエンドエラーを検出した場合は、エラーを検出したときの印字残量と用紙残量の状態により動作が異なります。

用紙残量は以下の考え方で算出することができます。用紙終端5mm手前まで印字を試みます。

用紙残量＝サーマルヘッド位置～ペーパーエンドセンサ間距離－（5mm+15mm）



(1) サーマルヘッド位置

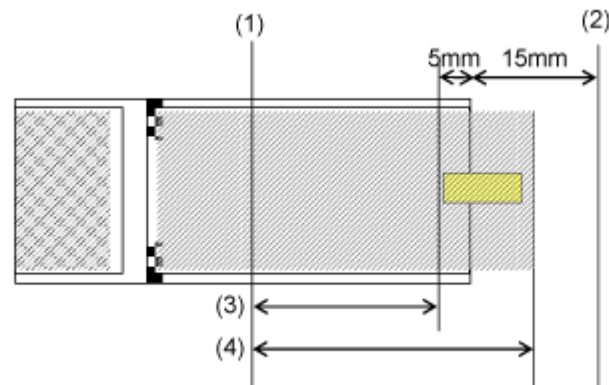
(2) サーマルヘッド位置～ペーパーエンドセンサ間距離

(3) ペーパーエンドセンサ

(4) 用紙残量

- **印字残量が用紙残量より大きいとき**

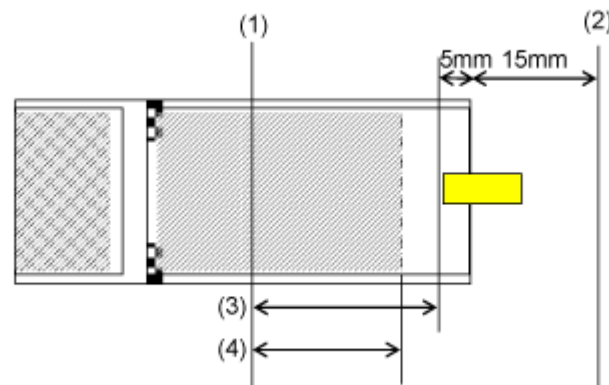
ペーパーエンドエラーを検出したときに印字残量が用紙残量よりも大きい場合は、最後まで印字できないため、印字が直ちに停止され、ペーパーエンドエラーが発生します。



- (1) サーマルヘッド位置
- (2) ペーパーエンドセンサ
- (3) 用紙残量
- (4) 印字残量

- **印字残量が用紙残量より少ないとき（最後の1枚を印字中の場合）**

ペーパーエンドエラーを検出したときに、最後の1枚を印字中で、印字残量が用紙残量よりも少ない場合は、最後まで印字してからペーパーエンドエラーが発生します。



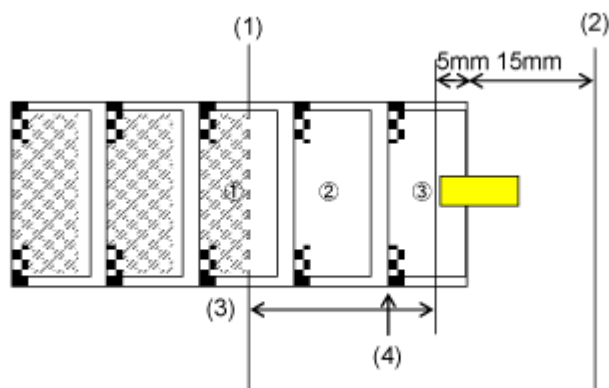
- (1) サーマルヘッド位置
- (2) ペーパーエンドセンサ
- (3) 用紙残量
- (4) 印字残量

- **印字残量が用紙残量より少ないとき（未印字のラベルがある場合）**

ペーパーエンドエラーを検出した時点で未印字のラベルがある場合は、用紙残量分印字したあと（③の途中）にペーパーエンドエラーが発生します。

または、用紙残量分印字途中に、最後に検出したラベルの先端位置（③の先頭）がサーマルヘッド位置に到達したあとにペーパーエンドエラーが発生します。

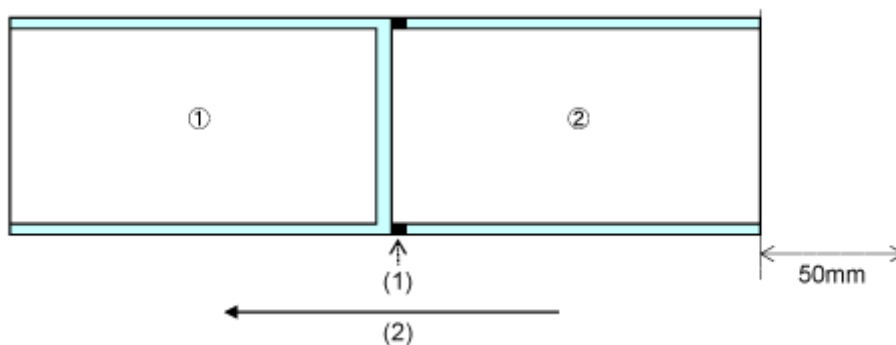
動作モードとラベルの長さにより、印字途中でペーパーエンドエラーが発生することがあります。（下図のようにラベル終端から5mmの位置で停止するとは限りません。）その場合は、エラー解除後に再発行をおこないます。



- (1) サーマルヘッド位置
- (2) ペーパーエンドセンサ
- (3) 用紙残量
- (4) 最後に検出したラベルの先端位置を保存

【のりなしタグ】（ファンフォールド紙）の場合

- ②の発行後50mm搬送してペーパーエンドエラーが発生します。
- 印字の途中でエラーが発生した場合、エラー解除後②の再発行をおこないます。エラー発生時に印字が完了していた場合、②の再発行はおこないません。（50mm 搬送中に印字が完了した場合も再発行はおこないません。）
- カッタモードの場合、ペーパーエンドエラー発生時にカット動作はおこないません。
- ハクリモードおよびノンセパモードでは使用できません。



- (1) アイマーク
- (2) 紙送り方向

リボンエンドの発生条件（熱転写方式のみ）

リボンエンドエラーは、リボン供給部のリボンセンサで検出しています。用紙を搬送してリボン供給部のリボンが40mm以上動作（回転）していない状態を検出したときに、リボンエンドエラーが発生します。

リボンニアエンドの発生条件（熱転写方式のみ）

リボンニアエンドは、リボン供給部のリボンセンサで検出しています。リボン残量が約5～7m（リボン外径：約18mm）以下になったときに、リボンニアエンドが発生します。



- リボン残量（5～7m）は目安であり、リボンセンサの読取り状態やリボンの厚さによってリボンニアエンドの発生するタイミングにばらつきがあります。
-

本製品の各種設定

本製品の「設定」メニュー

本製品の「設定」メニューには、以下のカテゴリーのメニューがあります。アイコンをクリックすると、それぞれのメニュー項目の説明にジャンプします。



- 「表示言語」メニューは、「システム」 > 「地域」 > 「表示言語アイコン」メニューを有効にしている場合に表示されます。
 - 「Bluetooth」メニューと「Wi-Fi」メニューは、オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。
-



【印字】メニュー

← 印字	
✎ メディア種	ラベル
✎ 用紙長	3200 dot
✎ 用紙幅	832 dot
ラベル自動測長	☐

【印字】メニューには、以下の設定項目があります。

【メディア種】

用紙種類を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [ラベル]
- [リストバンド]
- [koDakara]



- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。

【用紙長】

用紙の長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

ラベルの長さの設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	1～20000dot
305dpi (1dot=0.083mm)	1～18000dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 用紙サイズには、台紙を含む値を設定してください。

【用紙幅】

用紙の幅を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

ラベルの幅の設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	1～832dot
305dpi (1dot=0.083mm)	1～1248dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 用紙サイズには、台紙を含む値を設定してください。

【ラベル自動測長】

ラベルの長さが自動的に計測されます。

計測された用紙の長さが自動的に [用紙長] に保存されます。

[メディア種] メニューで [ラベル] を選択している場合に表示されます。

[センサタイプ] メニューで [透過] または [反射] を選択している場合に実行できます。

ラベル自動測長機能を使用したラベル長の設定手順は以下のとおりです。

1. 用紙をセットします。
2. [ラベル自動測長] を有効にします。
3. （電源/ホーム）ボタンを押して、ホーム画面を表示させます。
4. （電源/ホーム）ボタンを再度押して、オンライン画面を表示させます。

ラベルが送られ、ラベルの長さが計測されます。
計測されたラベルの長さが [用紙長] に保存されます。



- [ラベル自動測長] を有効にすると、以下の場合にこの機能が実行されます。
 - 電源を入れたあと、はじめてオンライン状態にしたとき
 - トップカバー開閉後にオンライン状態にしたとき
 - [センサタイプ] メニューの設定変更後にオンライン状態にしたとき

- [アプリケーション] メニューの [プロトコル] を [SZPL] に変更すると、[ラベル自動測長] が有効になり、自動的に実行されます。
- [詳細設定] > [用紙無駄なし] を有効にしている場合は、[ラベル自動測長] を無効にしてください。[ラベル自動測長] を有効にした場合の用紙無駄なし機能の動作は保証していません。

【印字方式】

リボンを使用して印字するか、感熱紙を使用して印字するかを選びます。

感熱方式/熱転写方式兼用モデルのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

熱転写方式

リボンを使用して印字します。

感熱方式

感熱紙を使用して印字します。



- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。

【リボンニアエンド】

[リボンニアエンド] を有効にすると、リボンが終了に近づいたときに警告アイコンを表示します。警告アイコンが表示されても、印字動作は停止しません。

感熱方式/熱転写方式兼用モデルで、[印字方式] メニューで [熱転写方式] を選択している場合に表示されます。



- 警告アイコンは、画面上部のステータスバーに表示されます。

【印字速度】

印字速度を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

印字速度の設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (8dot/mm)	2～8ips (インチ/秒) (50.8～203.2mm/秒)
305dpi (12dot/mm)	2～6ips (インチ/秒) (50.8～152.4mm/秒)



- オプションのノンセパクタユニットを取り付けている場合は、設定範囲は2～4ips (50.8～101.6mm/秒) です。
- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。

- 印字速度が速すぎると、印字品質に影響するおそれがあります。

[センサタイプ]

用紙を検出するセンサタイプを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

無効

用紙センサを無効にします。

透過

ギャップタイプの用紙を使用する場合に選びます。透過センサを使用します。

反射

アイマークタイプの用紙を使用する場合に選びます。反射センサを使用します。



- [動作モード] メニューで [ハクリ] を選択している場合は、[透過] および [反射] のみが有効になります。
- [動作モード] メニューで [ノンセパカッタ] または [ノンセパティアオフ] を選択している場合は、[無効] および [反射] のみが有効になります。
- RFIDモデルでRFIDタグを使用する場合は、[無効] 以外を選択してください。[無効] に設定すると、RFIDタグを使用できません。
- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。

[自動モード]

[自動モード] を有効にすると、取り付けているオプションに応じて動作モードが自動で切替わります。

取り付けオプション	自動モードで設定される動作モード
なし	ティアオフ
ハクリユニット	ハクリ
カッタユニット	カッタ
ノンセパカッタユニット	ノンセパカッタ

[動作モード]

動作モードを手動で設定します。

[自動モード] が無効の場合に設定できます。

選択肢は以下のとおりです。

【連続発行】

指定された枚数の用紙を連続して印字します。用紙は、常時印刷に対応できる位置にとどまります。

【ティアオフ】

指定された枚数の用紙を連続して印字したあと、用紙を切り取る位置まで用紙を送り出します。印字後、用紙を手動で切り離します。また、次の印字をおこなうときには、用紙の先端がサーマルヘッド位置まで戻り、印字を開始します。

【ハクリ】

ラベルを送りながら、印字されたラベルから台紙をはがします。印字したラベルが本製品から取り除かれると、次のラベルが印字位置まで戻ります。

【カッタ】

指定された枚数の用紙を印字しながら、用紙を1枚ずつカットします。

【印字中カット】

次のデータを印字しながら、前のデータを印字した用紙の最後の位置でカットします。〔排出カット〕で指定した時間内に次のデータを受信しなかったときは、用紙をカット位置まで送り、印字した用紙の最後の位置でカットします。

【パーシャルカッタ】

指定された枚数の用紙を印字しながら、用紙を1枚ずつ一部を残してカットします。

【ノンセパカッタ】

1枚ずつ用紙を印字してカットします。カットされた用紙が取り除かれると、次の用紙が印字位置まで戻ります。

【ノンセパティアオフ】

指定された枚数の用紙を印字しながら、用紙を1枚ずつ切り取る位置まで送り出します。印字後、用紙を手動で切り離します。また、次の印字をおこなうときには、用紙の先端がサーマルヘッド位置まで戻り、印字を開始します。



- 動作モードを変更すると、〔センサタイプ〕および〔バックフィード動作〕が連動して変更される場合があります。設定変更後、使用する用紙に合った設定になっているか確認してください。
- RFIDモデルでRFIDタグを使用する場合は、カッタモードのバックフィードなし、パーシャルカッタモード、ノンセパカッタモード、およびノンセパティアオフモードは選択しないでください。これらの動作モードではRFIDタグを使用できません。



- 取り付けているオプションによって選択可能な動作モードが変わります。

取り付けオプション	動作モード
なし	連続発行/ティアオフ
ハクリユニット	連続発行/ハクリ
カッタユニット	連続発行/ティアオフ/カッタ/印字中カット/パーシャルカッタ
ノンセパカッタユニット	ノンセパカッタ/ノンセパティアオフ

[バックフィード動作]

〔バックフィード動作〕は、動作モードが連続発行モード以外の場合に適用されます。

選択肢は以下のとおりです。

なし

バックフィードされません。

印字後

カット後、次の用紙の先端がサーマルヘッドの位置までバックフィードされます。

ハクリモードでは、ラベルのハクリ後、次のラベルの先端までバックフィードします。

印字前

印字前に、次の用紙の先端をサーマルヘッドの位置までバックフィードします。



- 動作モードによって選択可能な動作が変わります。

動作モード	バックフィード動作		
	なし	印字前	印字後
連続発行	○	-	-
ティアオフ	-	○	-
ハクリ	○	○	○
カッタ	○	○	○
印字中カット	-	-	○
パーシャルカッタ	○	○	-
ノンセパカッタ	-	○	-
ノンセパティアオフ	-	○	-

[排出カット]

印字中カットモード、またはパーシャルカッタモードの印字前バックフィード動作の場合に、排出カットをおこなうか、および排出カットする場合の待機時間を設定します。

排出カットとは、次のデータを印字せず、最後に印字した用紙をカットして印字動作を完了することです。

〔動作モード〕メニューで〔印字中カット〕を選択している場合、または〔パーシャルカッタ〕を選択しており〔バックフィード動作〕で〔印字前〕を選択している場合に表示されます。

設定範囲は、0～5（秒）です。0に設定した場合は排出カットをおこないません。

[濃度レンジ]

印字の濃度レンジを表示します。

印字濃度レンジは、印字濃度に影響します。A～Fまであり、本製品はAに設定されています。

[印字濃度]

印字の濃度を10段階で指定します。

設定範囲は、1～10です。1が最も薄く、10が最も濃くなります。



- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。
- 印字濃度をさらに微調整するには、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] > [印字濃度調整] で設定します。

[基点補正]

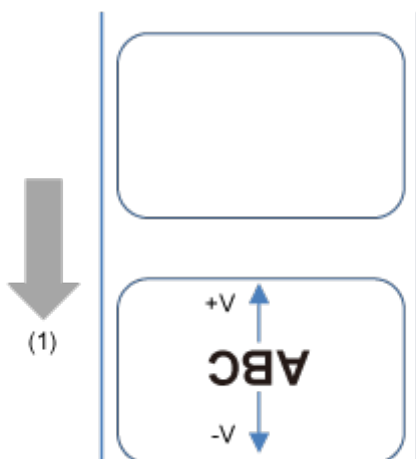
縦方向および横方向の印字基準位置を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

縦位置補正

縦方向の印字位置を設定します。

紙送り方向を“+”、紙送り方向を“-”として、印字基準位置からの補正値を設定します。



(1) 紙送り方向

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

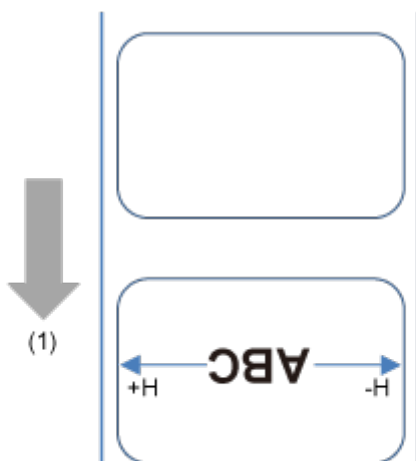
解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-19999～+19999dot

解像度	設定範囲
305dpi (1dot=0.083mm)	-17999～+17999dot

横位置補正

横方向の印字位置を設定します。

本製品正面に向かって左方向を“+”、右方向を“-”として、印字基準位置からの補正値を設定します。



(1) 紙送り方向

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

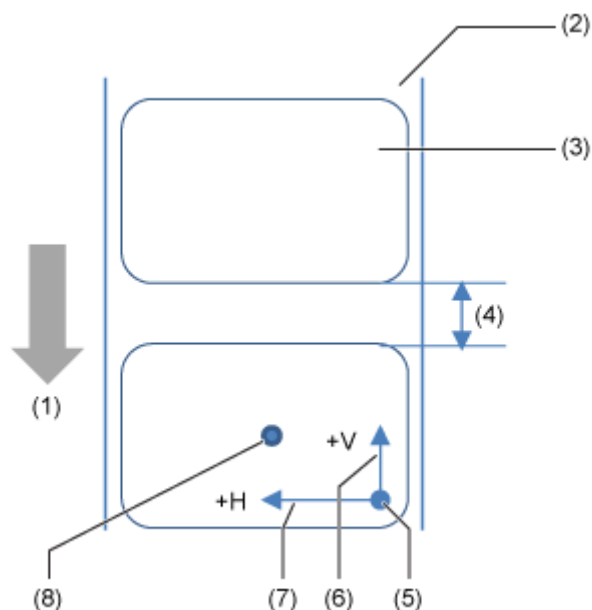
設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-831～+831dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-1247～+1247dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、“”（インチ）、mmの間で切替えることができます。

印字基準位置と基点の補正方向



- (1) 紙送り方向
- (2) 台紙
- (3) ラベル
- (4) ラベル間ギャップ
- (5) 印字基準位置（補正前）
- (6) 縦方向基点の補正
- (7) 横方向基点の補正
- (8) 補正後の基点

【詳細設定】

センサや印字の動作を詳細に設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【センサ調整】

用紙センサレベルを調整します。

用紙の検出に不具合がある場合に、用紙センサレベルを調整します。

設定項目は以下のとおりです。

【センサ自動調整】

選んだ用紙センサを自動調整します。

選択肢は以下のとおりです。

透過+反射

ギャップセンサとアイマークセンサの両方を調整します。

透過

ギャップセンサを調整します。

反射

アイマークセンサを調整します。

用紙無駄なし

用紙頭出しセンサを調整します。

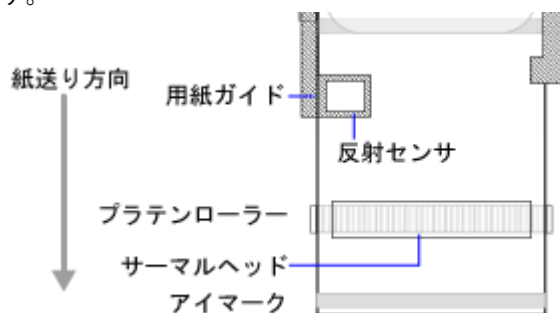


- オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合は、[用紙無駄なし] は表示されません。
- リストバンドやkoDakaraなどの台紙がない用紙では、[用紙無駄なし] の調整はできません。

用紙センサを自動調整する手順は以下のとおりです。

1. トップカバーを開きます。
2. 用紙をセットします。
 - **【透過+反射】 / 【透過】 / 【反射】 を調整する場合**

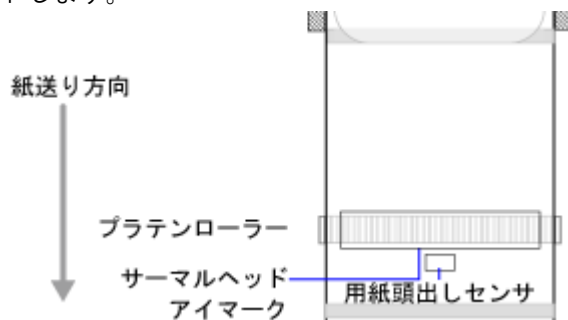
用紙のラベルを剥がして、アイマークが反射センサの上にならないように台紙をセットします。



リストバンドやジャーナル紙などの台紙がない用紙の場合は、用紙をそのままセットしてください。

- **【用紙無駄なし】 を調整する場合**

用紙のラベルを剥がして、アイマークが用紙頭出しセンサの上にならないように台紙をセットします。



3. トップカバーを閉じます。
4. 調整するセンサタイプを選びます。

5. 確認画面が表示されたらをタップします。

調整失敗のメッセージが表示された場合は、用紙を正しくセットしてやり直してください。

6. をタップします。

7. 用紙をセットし直します。

8. 用紙センサの調整結果を確認します。

- **【透過+反射】 / 【透過】 / 【反射】 を調整した場合**

オフライン画面を表示し、**【フィード】** をタップして、用紙が正常に送られることを確認します。

- **【用紙無駄なし】 を調整した場合**

オンライン画面を表示します。用紙無駄なし機能により用紙が正しく印字開始位置に調整されることを確認します。



- **【センサ自動調整】** を実行しても用紙が正常に送られない場合は、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにお問い合わせください。
-

【透過センサ】

弊社カスタマーエンジニアが使用する項目です。通常はお客様が使用する必要はありません。

【透過スライスレベル】

弊社カスタマーエンジニアが使用する項目です。通常はお客様が使用する必要はありません。

【反射センサ】

弊社カスタマーエンジニアが使用する項目です。通常はお客様が使用する必要はありません。

【反射スライスレベル】

弊社カスタマーエンジニアが使用する項目です。通常はお客様が使用する必要はありません。

【ヘッドチェック】

サーマルヘッドの断線がないか自動で確認します。

選択肢は以下のとおりです。

オフ

ヘッドチェックを無効にします。

すべて

印字領域すべてを確認します。

バーコード

バーコード印字領域のみを確認します。バーコードをグラフィックデータとして印字した場合には、ヘッドチェックの対象になりません。



- ヘッドチェックは、サーマルヘッドの断線を確認する機能です。この機能はバーコード読取り性能を保証するものではありません。定期的に読取りチェックをお願いします。印字の白抜けとヘッドチェック機能によるヘッドエラー検出のタイミングには多少ずれが生じることがあります。

ヘッドエラー発生後に発行したラベルについては、印字したバーコードのスキナ読取りをおこなって確認してください。

[ヘッドチェック方法]

ヘッドチェックの方法を設定します。

[ヘッドチェック] メニューで [すべて] または [バーコード] を選択している場合に表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

すべて

1枚印字するごとにヘッドチェックをおこないます。

開始終了指定

印字開始前と印字停止時にヘッドチェックを実行します。バックフィードを使用している場合は、バックフィード時と印字開始前、または印字停止時にヘッドチェックをおこないます。

枚数指定

指定した枚数ごとにヘッドチェックをおこないます。

[枚数指定]

指定した枚数ごとにヘッドチェックをおこないます。

[ヘッドチェック方法] メニューで [枚数指定] を選択している場合に表示されます。

設定範囲は、1～999999です。

[用紙飛びチェック]

用紙のサイズチェックを有効または無効にします。

[センサタイプ] メニューで [透過] または [反射] を選択している場合に表示されます。

本機能を有効にすると、以下のいずれかの条件に該当するときに「印字飛びエラー」を表示します。

- 用紙サイズ指定<A1>コマンドで指定した用紙の長さより、3mm以上用紙が長かったとき
- 機能を有効にしたあとの初回の用紙搬送量と、現在の用紙搬送量を比較して、3mm以上用紙が長かったとき



- ギャップが3mmを超える用紙を使用して本機能を有効にする場合は、用紙無駄なし機能を使用できません。

[調整モード]

オフセット位置、印字位置、印字濃度、および用紙頭出しセンサの位置を補正します。

設定項目は以下のとおりです。

[オフセット調整]

オフセット位置を補正します。

オフセット調整により、ティアオフ/カット/ハクリ動作時のバックフィード量と用紙停止位置を調整します。

紙送り方向を“+”、紙送り方向を“-”として、オフセット値を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

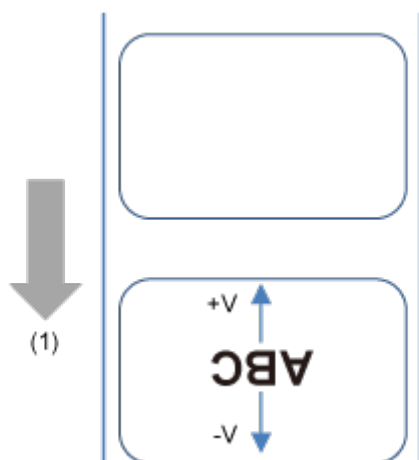


- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、“”（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 本設定は [ツール] > [テスト印字] メニューの各テスト印字の設定と連動して変更されます。

[印字位置調整]

印字位置調整では、印字開始位置を設定することで縦方向の印字位置を調整します。

紙送り方向を“+”、紙送り方向を“-”として、印字位置を設定します。



(1) 紙送り方向

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、“”（インチ）、mmの間で切替えることができます。

- 本設定は [ツール] > [テスト印字] メニューの各テスト印字の設定と連動して変更されます。

[印字濃度調整]

印字濃度を微調整します。

設定範囲は、0～99です。

0が最も薄く、99が最も濃くなります。



- 本設定は [ツール] > [テスト印字] メニューの各テスト印字の設定と連動して変更されます。

[用紙頭出しセンサ]

用紙頭出しセンサの位置を調整します。

オプションのハクリユニットまたはノンセパクタユニットを取り付けている場合は表示されません。

紙送りと逆方向を“+”、紙送り方向を“-”として、用紙頭出しセンサの位置を補正します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、“”（インチ）、mmの間で切替えることができます。

[オンライン起動]

本製品起動時にオンライン状態で起動するかを設定します。



- この設定は [スタンドアロン] メニューの [起動時の初期画面] と連動しています。 [オンライン起動] を有効にすると、 [起動時の初期画面] で [アプリケーション] が有効になります。 [オンライン起動] を無効にすると、 [起動時の初期画面] で [ホームスクリーン] が有効になります。

[エラー後 紙送り]

エラーから復帰してオンライン状態に切替わるときに、自動で紙送りをおこなうかを設定します。

[用紙無駄なし] が無効の場合に設定できます。



エラーから復帰してオンライン状態に切替わるときに、紙送りをおこないます。



エラーから復帰してオンライン状態に切替わるときに、紙送りはおこなわれません。

ただし、〔起動時 紙送り〕が有効の場合、本製品の電源を入れてオンライン状態に切替わるときに、紙送りをおこないます。

また、〔ラベル自動測長〕が有効の場合、本製品の電源を入れてはじめてオンライン状態に切替わるときに、紙送りをおこないます。

〔起動時 紙送り〕

本製品起動時に自動で紙送りをおこなうかを設定します。

〔用紙無駄なし〕が無効の場合に設定できます。



本製品の電源を入れてはじめてオンライン状態に切替わるときに、紙送りをおこないます。



本製品起動時に紙送りはおこなわれません。

ただし、〔ラベル自動測長〕が有効の場合、本製品の電源を入れてはじめてオンライン状態に切替わるときに、紙送りをおこないます。

〔用紙無駄なし〕

用紙無駄なし機能を設定します。

オプションのハクリユニットまたはノンセパカッタユニットを取り付けている場合は表示されません。

設定項目は以下のとおりです。

〔有効〕

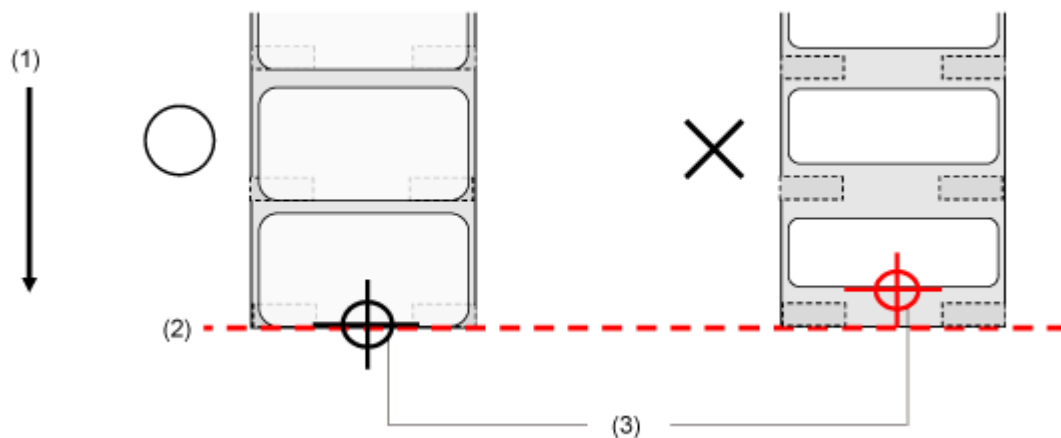
用紙無駄なし機能を有効または無効にします。

〔エラー後 紙送り〕および〔起動時 紙送り〕が無効の場合に設定できます。



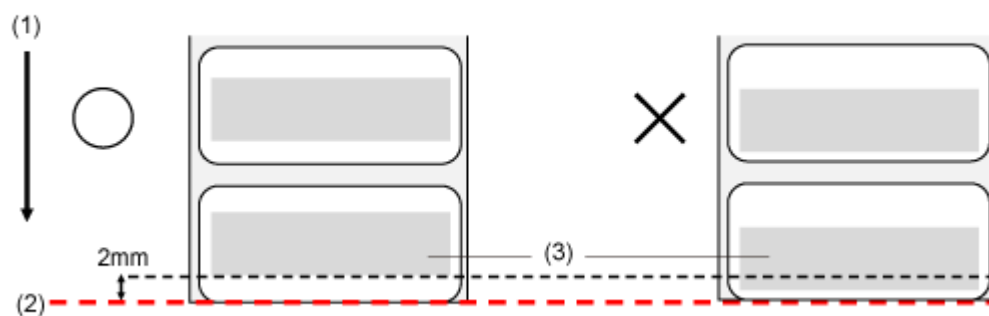
- 有効にする場合は、〔設定〕メニューの〔ツール〕＞〔メディアスタートアップ〕または〔メディアプロファイル登録〕を利用して、用紙無駄なし機能に関する設定を一括で設定してください。
- 本設定は〔ツール〕＞〔メディアスタートアップ〕メニューの設定と連動して変更されます。
- ノンセパラブル、ジャーナル紙を使用している場合は用紙無駄なし機能を使用できません。

- アイマークがラベルの先端でないなど、ラベルが用紙の先端でない用紙を使用している場合は用紙無駄なし機能を使用できません。ただし、リストバンドやkoDakaraは使用できます。



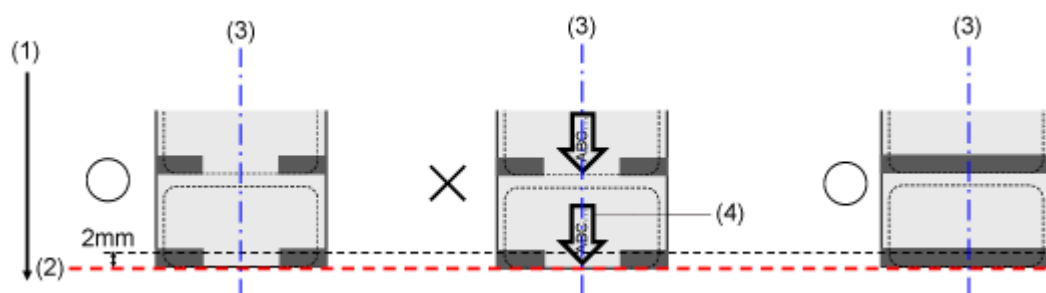
- (1) 紙送り方向
 (2) 用紙の先端
 (3) 頭出しセンサ検出位置（頭出し位置）

- 「ラベル自動測長」を無効にしてください。「ラベル自動測長」を有効にした場合の用紙無駄なし機能の動作は保証していません。
- インレイの位置が用紙の先端から2mm未満のRFIDタグを使用している場合は用紙無駄なし機能を使用できません。



- (1) 紙送り方向
 (2) 用紙の先端
 (3) インレイ

- 用紙先端から2mm未満かつ、ラベル横方向中央位置（頭出しセンサ通過位置）に裏面プレ印刷がある用紙を使用している場合は用紙無駄なし機能を使用できません。ただし印刷がアイマークであれば使用できます。



- (1) 紙送り方向
(2) 用紙の先端
(3) 頭出しセンサ通過位置
(4) 裏面プレ印刷例

[登録用紙長]

用紙無駄なし機能を正確に実行するために、使用するラベルの用紙長を登録します。用紙長を登録しないと、2枚目以降のラベルが白紙で送られる可能性があります。

0（自動）に設定した場合、1枚目の印字中に自動で用紙長を測長して動作します。

以下の条件を満たす場合に表示されます。

- 〔用紙無駄なし〕 > 〔有効〕 が有効
- 〔印字〕 > 〔メディア種〕 メニューで 〔ラベル〕 を選択
- 〔印字〕 > 〔センサタイプ〕 メニューで 〔透過〕 または 〔反射〕 を選択

用紙長は、台紙を含む値を設定してください。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	0～20000dot
305dpi (1dot=0.083mm)	0～18000dot



- 以下の場合は、0（自動）に設定せず、使用するラベルの用紙長を登録してください。
 - アイマークがラベルの先端にあり、アイマークと裏面プレ印刷がラベル横方向中央部にある用紙を使用する場合
 - ラベル横方向中央部にミシン目がある用紙を使用する場合
 - ラベル横方向中央部に穴が空いている用紙を使用する場合
 - 2枚以上のラベルにまたがって印字する場合

- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 用紙長が異なるラベルに変更する場合は、[登録用紙長] に用紙長を設定し直すか、0（自動）に設定してください。[登録用紙長] が実際の用紙長と異なると、印字がずれる可能性があります。
- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。

[オプションフィード量]

ティアオフ、カット、ハクリ停止時の紙送り量を設定します。

サーマルヘッドの位置を0として、紙送り量を設定します。

実際の紙送り量は、[オフセット調整] の値と [オプションフィード量] の値の合計です。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	0~2040dot
305dpi (1dot=0.083mm)	0~3060dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

[ペーパーエンドセンサ]

ペーパーエンド（用紙切れ）を検知するセンサタイプを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

反射

アイマークセンサ（反射センサ）を使用して、ペーパーエンドを検知します。

透過

ギャップセンサ（透過センサ）を使用して、ペーパーエンドを検知します。

[優先設定]

本製品の設定内容を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[再発行設定]

再発行機能を有効または無効にします。

[再発行設定] が有効の場合、オンライン画面で [再印字] をタップすると直前のデータを再度印字できます。



- 本製品の電源を切ると直前のデータは失われます。
-

[印字停止位置]

[センサタイプ] が [無効] に設定されている場合に用紙停止位置またはカット位置を調整します。用紙停止位置からの空白の量も設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	0~20000dot
305dpi (1dot=0.083mm)	0~18000dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、" (インチ)、mmの間で切替えることができます。
-



[通信設定] メニュー



[通信設定] メニューには、以下の設定項目があります。



- [RS-232C] メニューは、オプションのRS-232Cキットを取り付けている場合にのみ表示されます。
- [RFID] メニューは、RFIDモデルのみ表示されます。

[ネットワーク]

コンピュータと本製品間のインタフェースとしてLANを使用するためのメニューです。

設定項目は以下のとおりです。

[設定]

LANを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[LAN]

LANのIPv4、IPv6、TCP/IPポート番号、およびプロキシを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[IPv4]

LANのIPv4を設定します。



- 設定が終わったら  をタップします。設定内容を保存するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。
- 変更を破棄する場合は  をタップします。変更を破棄するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。



- [モード] が [DHCP] のときは、[IPアドレス]、[サブネットマスク]、[ゲートウェイ]、[DNS] を変更できません。

設定項目は以下のとおりです。

【モード】

IPアドレスの割り当て方法を選びます。

選択肢は以下のとおりです。

DHCP

DHCPサーバーから自動でIPアドレス、サブネットマスクアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを取得します。

固定アドレス

IPアドレス、サブネットマスクアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを手動で設定します。

【DHCP】

リース期間を更新し、DHCPサーバーからIPアドレスを再度取得します。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合にのみ表示されます。

【IPアドレス】

IPアドレスを設定および確認します。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したIPアドレスが表示されます。

[モード] メニューで [固定アドレス] を選択している場合、IP アドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

000.000.000.000～255.255.255.255

【サブネットマスク】

サブネットマスクアドレスを設定および確認します。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したサブネットマスクアドレスが表示されます。

[モード] メニューで [固定アドレス] を選択している場合、サブネットマスクアドレスを設定します。

アドレスの各グループは0、128、192、224、240、248、252、254、255の間で設定できます。

設定範囲は以下のとおりです。

128.000.000.000～255.255.255.254

[ゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔DHCP〕を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したゲートウェイアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、デフォルトゲートウェイアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

000.000.000.000～255.255.255.255



- ここで設定したゲートウェイアドレスは、〔Wi-Fi〕 > 〔Wi-Fi設定〕 > 〔IPv4〕の設定と共有されます。

[DNS]

DNSサーバーのアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔DHCP〕を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したDNSサーバーのアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、DNSサーバーのアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

000.000.000.000～255.255.255.255



- DNSサーバーには、最大で3つのIPアドレスを設定できます。IPアドレスはカンマで区切って設定してください。
- ここで設定したDNSサーバーアドレスは、〔Wi-Fi〕 > 〔Wi-Fi設定〕 > 〔IPv4〕の設定と共有されます。

[IPv6]

LANのIPv6を設定します。



- 設定が終わったら  をタップします。設定内容を保存するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。
- 変更を破棄する場合は  をタップします。変更を破棄するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。



- 〔モード〕が〔固定アドレス〕以外のときは、〔IPアドレス〕、〔プレフィックス長〕、〔ゲートウェイ〕、〔DNS〕を変更できません。

設定項目は以下のとおりです。

[モード]

IPアドレスの割り当て方法を選択するか、IPv6を無効にします。

選択肢は以下のとおりです。

無効

IPv6を無効にします。

自動設定

IPアドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを自動で生成します（ステートレスモード）。

DHCP

IPアドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスをDHCPサーバーから自動で取得します（ステートフルモード）。

固定アドレス

IPアドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを手動で設定します。

[DHCP]

リース期間を更新し、DHCPサーバーからIPアドレスを再度取得します。

〔モード〕メニューで〔DHCP〕を選択している場合にのみ表示されます。

[IPアドレス]

IPアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔自動設定〕または〔DHCP〕を選択している場合、画面に取得したIPアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、IP アドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

0:0:0:0:0:0:0:1～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff

[プレフィックス長]

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、プレフィックスを設定します。

設定範囲は、1～128 です。

[ゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔自動設定〕または〔DHCP〕を選択している場合、画面に取得したゲートウェイアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、デフォルトゲートウェイアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

0:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff



- ここで設定したゲートウェイアドレスは、〔Wi-Fi〕 > 〔Wi-Fi設定〕 > 〔IPv6〕 の設定と共有されます。
-

[DNS]

DNSサーバーのプライマリアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔自動設定〕または〔DHCP〕を選択している場合、画面に取得したDNSサーバーのアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、DNSサーバーのアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

0:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff



- IPv6のDNSサーバーには、1つだけIPアドレスを設定できます。
- ここで設定したDNSサーバーアドレスは、〔Wi-Fi〕＞〔Wi-Fi設定〕＞〔IPv6〕の設定と共有されます。

[ポート]

TCP/IPポート番号を設定します。

AEPモードが有効の場合、使用可能なポート数はLANと無線LAN接続合わせて2ポートのみです。

AEPモードが有効で無線LANインターフェースを使用している場合、本メニューでポート設定をおこないます。このとき、〔Wi-Fi〕＞〔Wi-Fi設定〕＞〔ポート〕メニューは選択できません。

ポート1～ポート3の役割

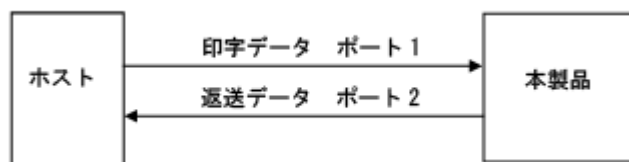
TCP/IPのSocketサーバー機能では、以下の2つの接続方法のどちらかを使用できます。

接続方法と通信プロトコルによって、使用するポートとその役割が異なります。

2ポート接続

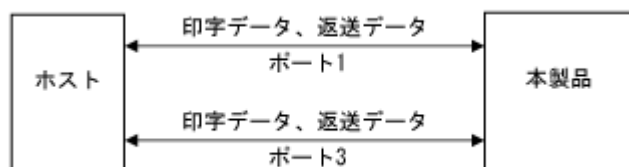
- AEPモード無効時（初期値）

印字データの受信にはポート1を使用し、ステータス返送にはポート2を使用します。
2ポート接続は、通信プロトコルがSTATUS4のときに使用できます。



- AEPモード有効時

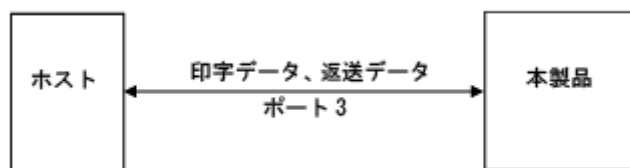
ポート1とポート3は印字データの受信とステータス返送の両方に使用できます。ポート2は使用できません。



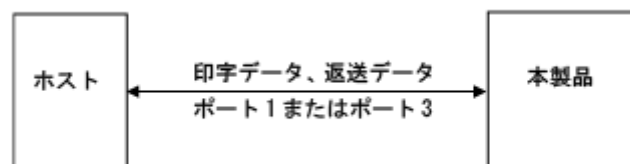
1ポート接続

印字データの受信とステータス返送に1つのポートを使用します。

通信プロトコルがSTATUS4の場合は、ポート3を使用します。



通信プロトコルがSTATUS3またはSTATUS5の場合は、ポート1またはポート3を使用します。



- AEPはSTATUS3、STATUS4、STATUS5プロトコルに対応していません。

設定項目は以下のとおりです。

[ポート番号1]

ポート1のポート番号を設定します。

AEPモードが無効でSTATUS4の2ポート接続時には、印字データの受信に使用します。STATUS3/STATUS5の1ポート接続時には印字データの受信とステータス返送に使用します。

AEPモードの2ポート接続時には、印字データの受信とステータス返送の両方に使用できます。

設定範囲は、1～65535です。



- 各ポート（1、2、3）は異なる設定値にしてください。
- 他で使用されるポート番号と重複すると正しく通信できなくなるため、20、21、22、53、80、123、443、465、515、546、547、587、8080、8883以外の設定値にしてください。



- AEPはSTATUS3、STATUS4、STATUS5プロトコルに対応していません。

[ポート番号2]

ポート2のポート番号を設定します。

STATUS4の2ポート接続時に、ステータス返送に使用します。

設定範囲は、1～65535です。



- 各ポート（1、2、3）は異なる設定値にしてください。
- 他で使用されるポート番号と重複すると正しく通信できなくなるため、20、21、22、53、80、123、443、465、515、546、547、587、8080、8883以外の設定値にしてください。



- [AEP] が有効な場合、この設定は無効になります。

[ポート番号3]

ポート3のポート番号を設定します。

AEPモードが無効でSTATUS3/STATUS4/STATUS5の1ポート接続時には、印字データの受信とステータス返送に使用します。

AEPモードの2ポート接続時には、印字データの受信とステータス返送の両方に使用できます。

設定範囲は、1～65535です。



- 各ポート（1、2、3）は異なる設定値にしてください。
- 他で使用されるポート番号と重複すると正しく通信できなくなるため、20、21、22、53、80、123、443、465、515、546、547、587、8080、8883以外の設定値にしてください。



- [Legacy Status設定] を有効にすると、ポート番号3の返送ステータスフォーマットを互換モードに変更できます。
- AEPはSTATUS3、STATUS4、STATUS5プロトコルに対応していません。

[通信プロトコル]

通信プロトコルを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [STATUS4 周期]
- [STATUS4 ENQ]
- [STATUS3]
- [STATUS5]
- [NONE]

[TCP接続待ち]

複数のホストやアプリケーションからの接続要求時に、接続待ちをおこなうか設定します。



1つのホストやアプリケーションとの接続中に他のホストやアプリケーションからの接続要求を受け入れることができます。あとから受信したホストやアプリケーションとの接続は保留状態となり、前の接続が終わり次第順番に処理されます。



1つのホストやアプリケーションとの接続が終わるまで、他のホストやアプリケーションからの接続要求を受け入れません。



- 有効にした場合、STATUS3/STATUS4/STATUS5の1ポート接続で接続してください。STATUS4の2ポート接続で接続した場合の動作は保証していません。



- 通常は初期値のままご使用ください。

[Legacy Status設定]

ポート番号3の返送ステータスフォーマットを互換モードにするかを設定します。

[通信プロトコル] メニューで [NONE] を選択している場合は表示されません。



- 通常は初期値のままご使用ください。

互換モードでは、ポート番号3の返送ステータスフォーマットが以下のように変わります。

STATUS3

☒ (互換モード)

ACK/NAK返送

ACK/NAK 1バイト

ステータス返送

00 00 00 0b	STX	Status3	ETX
-------------	-----	---------	-----

 15バイト

☐ (標準モード)

ACK/NAK返送

ACK/NAK 1バイト

ステータス返送

STX	Status3	ETX
-----	---------	-----

 11バイト

STATUS4

☒ (互換モード)

ACK/NAK返送

ACK/NAK 1バイト

ステータス返送

00 00 00 20	00 00 00 1C	ENQ	STX	Status4	ETX
-------------	-------------	-----	-----	---------	-----

 36バイト

☐ (標準モード)

ACK/NAK返送

00 00 00 01 ACK/NAK 5バイト

ステータス返送

00 00 00 1C	ENQ	STX	Status4	ETX
-------------	-----	-----	---------	-----

 32バイト

STATUS5

☒ (互換モード)

ACK/NAK返送

返送なし

ステータス返送

00 00 00 16	STX	Status5	ETX	26バイト
-------------	-----	---------	-----	-------

☐ (標準モード)

ACK/NAK返送

返送なし

ステータス返送

STX	Status5	ETX	22バイト
-----	---------	-----	-------

[\[BCC\]](#)

BCCチェック機能を有効または無効にします。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS5] を選択している場合にのみ表示されます。

[\[ENQ応答遅延時間\]](#)

ステータス要求コマンドENQに対するステータス返送の応答を遅らせる時間を設定します。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS4 周期] 以外を選択している場合に設定できます。

設定範囲は、0～9999msです。



- 通常は初期値のままご使用ください。

[\[Status4周期応答間隔\]](#)

ステータス返送の周期の応答間隔を設定します。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS4 周期] を選択している場合に設定できます。

設定範囲は、100～999msです。

[\[プロキシ\]](#)

プロキシを設定します。



- ここで設定したプロキシ設定は、[Wi-Fi] > [Wi-Fi設定] > [プロキシ] の設定と共有されます。
- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

設定項目は以下のとおりです。

[\[有効\]](#)

プロキシの使用を有効または無効にします。



- プロキシを有効にするには、[サーバー] および [プロキシを使用しない] を設定する必要があります。
-

[サーバー]

プロキシサーバーの名前またはIPアドレスを設定します。

例：http://192.168.1.11



- IPアドレスは、必ずhttpから始まる形式で指定してください。httpsから始まるIPアドレスは使用できません。
-



- 有効な名前またはIPアドレスの設定が必要です。
 - コロン (:) を入力するには、「.」を長押ししてください。
-

[ポート番号]

プロキシサーバーとの通信を許可するポート番号を設定します。

設定範囲は、1～65535です。



- 他のサービスで使用していないポート番号を設定してください。正しく通信ができません。
-

[ユーザー名]

プロキシサーバーとの接続にユーザー名が必要な場合、ユーザー名を設定します。

1～8文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）および数字を使用できます。

[パスワード]

プロキシサーバーとの接続にパスワードが必要な場合、パスワードを設定します。

1～16文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）、数字、および記号を使用できます。



- 一部の記号は使用できません。使用できない記号を入力すると、画面に「無効な値」と表示されます。
-

[プロキシを使用しない]

プロキシの例外となる名前、IPアドレスまたはドメインを設定します。



- この設定には「127.0.0.1」と「localhost」が含まれている必要があるため、設定画面はこの2つが入力された状態で表示されます。カンマで区切って値を追加できます。
-

[DHCPオプション]

LANのDHCPオプションを設定します。

[IPv4] > [モード] メニューまたは [IPv6] > [モード] メニューで [DHCP] を選択している場合のみ、[DHCPオプション] を設定できます。

設定項目は以下のとおりです。

【DNS更新(オプション81)】

DHCPサーバーオプション81の使用を有効または無効にします。

選択肢は以下のとおりです。



DHCPサーバーオプション81の使用を有効にします。



DHCPサーバーオプション81の使用を無効にします。

【ホスト名】

ホスト名を設定します。

0～255文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）、数字、および記号を使用できます。



- 一部の記号は使用できません。使用できない記号を入力すると、画面に「無効な値」と表示されます。



- ピリオドは区切り文字としてのみ入力可能です。
- 空白にした場合、設定が無効になります。

【サービス】

NTP、LPD、FTP、SNMP、SOS（SATO Online Services）を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【NTP】

NTP機能を設定します。

NTP機能では、ネットワーク経由でNTPサーバーから時間情報を取得して、本製品の時間を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【有効】

NTP機能を有効または無効にします。

【通信エラー通知】

エラーを検知したときにNTPエラーメッセージを表示するかどうかを設定します。

【NTPサーバーのIPアドレス】

IPv4アドレス、IPv6アドレス、またはNTPサーバーのDNS名を設定します。

この項目は通常0.0.0.0（初期値）に設定されています。これは、グローバルNTPサーバーが自動的に割り当てられている状態です。特定のサーバーに時刻の同期を要求するときは固有のアドレスまたは名前を設定します。

[LPD]

LPD機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[有効]

LPD機能を有効または無効にします。

[DNS Lookup]

DNS Lookup機能を有効または無効にします。

[FTP]

FTP機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[有効]

FTP機能を有効または無効にします。

[FTP タイムアウト]

本製品のFTPサーバーとクライアント間の接続タイムアウトの時間を設定します。

本製品のFTPサーバーが、制御コネクションまたはデータコネクションにおいて、データを何も受信せずにクライアントとの接続を維持する最大秒数を指定します。

設定範囲は、10～3600秒です。

[SNMP]

SNMP機能を設定します。

SNMP機能では、UDP/IPベースのネットワークを監視および管理できます。

設定項目は以下のとおりです。

[問い合わせ先]

連絡先の情報を設定します。

0～255文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[機器名称]

名前を設定します。

0～255文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[設置場所]

位置情報を設定します。

0～255文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[prtMarkerCounterUnit]

サブユニットのカウンタ値を報告するときに使用する単位を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

impressions

印字されたラベルの枚数を報告します。

meters

印字されたラベルの長さをメートルで報告します。

[エージェント]

エージェント機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[SNMP機能]

エージェント機能を有効または無効にします。

[読取り専用]

読取り専用機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[バージョン]

SNMPのバージョンを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [1|2c|3]
- [1|2c]
- [3]
- [無効]

[コミュニティ]

読取り専用のコミュニティ名を設定します。

[バージョン] メニューで [1|2c|3] または [1|2c] を選択している場合にのみ表示されます。

1～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「public」です。

[ユーザー]

読取り専用のユーザー名を設定します。

[バージョン] メニューで [1|2c|3] または [3] を選択している場合にのみ表示されます。

1～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「rouser」です。

[セキュリティ]

読取り専用のセキュリティレベルを設定します。

[バージョン] メニューで [1|2c|3] または [3] を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [セキュリティ無し]
- [認証]

- [プライバシー]

【認証プロトコル】

認証プロトコルを設定します。

【セキュリティ】メニューで【認証】または【プライバシー】を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [MD5]
- [SHA]

【認証パスフレーズ】

認証パスフレーズを設定します。

【セキュリティ】メニューで【認証】または【プライバシー】を選択している場合にのみ表示されます。

8～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「mypassword」です。

【プライバシープロトコル】

プライバシープロトコルを設定します。

【セキュリティ】メニューで【プライバシー】を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [DES]
- [AES]

【プライバシーパスフレーズ】

プライバシーパスフレーズを設定します。

【セキュリティ】メニューで【プライバシー】を選択している場合にのみ表示されます。

8～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「mypassword」です。

【書込み許可】

読取り/書込み機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【バージョン】

SNMPのバージョンを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [1|2c|3]
- [1|2c]
- [3]
- [無効]

[コミュニティ]

読取り/書込みのコミュニティ名を設定します。

［バージョン］メニューで［1|2c|3］または［1|2c］を選択している場合にのみ表示されます。

1～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「private」です。

[ユーザー]

読取り/書込みのユーザー名を設定します。

［バージョン］メニューで［1|2c|3］または［3］を選択している場合にのみ表示されます。

1～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「rwuser」です。

[セキュリティ]

読取り/書込みのセキュリティレベルを設定します。

［バージョン］メニューで［1|2c|3］または［3］を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [セキュリティ無し]
- [認証]
- [プライバシー]

[認証プロトコル]

認証プロトコルを設定します。

［セキュリティ］メニューで［認証］または［プライバシー］を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [MD5]
- [SHA]

[認証パスフレーズ]

認証パスフレーズを設定します。

［セキュリティ］メニューで［認証］または［プライバシー］を選択している場合にのみ表示されます。

8～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「mypassword」です。

[プライバシープロトコル]

プライバシープロトコルを設定します。

［セキュリティ］メニューで［プライバシー］を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [DES]
- [AES]

【プライバシーパスフレーズ】

プライバシーパスフレーズを設定します。

【セキュリティ】メニューで【プライバシー】を選択している場合にのみ表示されます。

8～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「mypassword」です。

【トラップ】

トラップ機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【有効】

トラップ機能を有効または無効にします。

【バージョン】

SNMPのバージョンを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [1]
- [2c]
- [3]

【IPバージョン】

トラップ送信先に入力するIPアドレスのバージョンを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

4

IPv4形式に設定します。

6

IPv6形式に設定します。

【送信先選択】

トラップ送信先の数を設定します。

設定範囲は、1～3 です。

【送信先1】

トラップ送信先のアドレス1を設定します。

表示されるIPアドレスの形式は、【IPバージョン】の設定によって異なります。

【送信先2】

トラップ送信先のアドレス2を設定します。

表示されるIPアドレスの形式は、【IPバージョン】の設定によって異なります。

【送信先選択】メニューで【2】または【3】を選択している場合にのみ表示されます。

【送信先3】

トラップ送信先のアドレス3を設定します。

表示されるIPアドレスの形式は、[IPバージョン] の設定によって異なります。

[送信先選択] メニューで [3] を選択している場合にのみ表示されます。

【コミュニティ】

トラップのコミュニティ名を設定します。

[バージョン] メニューで [1] または [2c] を選択している場合にのみ表示されます。

1～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「trapcom」です。

【ユーザー】

トラップのユーザー名を設定します。

[バージョン] メニューで [3] を選択している場合にのみ表示されます。

1～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「trapuser」です。

【セキュリティエンジンID】

エンジンIDを設定します。

[バージョン] メニューで [3] を選択している場合にのみ表示されます。

初期設定では、エンジンIDはMACアドレスから生成されます。

入力する場合は10～64文字の16進数で入力します。（偶数個の文字のみ許可。）

【セキュリティ】

セキュリティレベルを設定します。

[バージョン] メニューで [3] を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [セキュリティ無し]
- [認証]
- [プライバシー]

【認証プロトコル】

認証プロトコルを設定します。

[セキュリティ] メニューで [認証] または [プライバシー] を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [MD5]
- [SHA]

【認証パスフレーズ】

認証パスフレーズを設定します。

「セキュリティ」メニューで「認証」または「プライバシー」を選択している場合にのみ表示されます。

8～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「mypassword」です。

【プライバシープロトコル】

プライバシープロトコルを設定します。

「セキュリティ」メニューで「プライバシー」を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- 「DES」
- 「AES」

【プライバシーパスフレーズ】

プライバシーパスフレーズを設定します。

「セキュリティ」メニューで「プライバシー」を選択している場合にのみ表示されます。

8～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

初期設定は「mypassword」です。

【オンラインサービス】

SOS (SATO Online Services) 機能を設定します。

SOSのご利用には、事前にSOSアカウントの作成と本製品の追加が必要です。

SOSに関する詳細情報は、SOS特設WEBサイトをご覧ください。

<https://www.sato-sos.com/>

設定項目は以下のとおりです。

【SOSモード】

SOS (SATO Online Services) のモードを選択するか、SOSを無効にします。

選択肢は以下のとおりです。

無効

SOSを無効にします。

オンデマンド

本製品の情報をQRコードでディスプレイに表示します。表示されたQRコードをタブレット端末やスマートフォンでスキャンし、情報をSOSクラウドに送ります。NFC接続を使用して本製品の情報を取得し、SOSクラウドに送ることもできます。この接続で、SOS Webから本製品の稼働情報の確認がおこなえます。QRコードのスキャンやSOSクラウドへの情報送信にはSOS専用アプリが必要です。

リアルタイム

LAN/無線LAN接続を使用して、本製品の情報をリアルタイムでSOSクラウドに送ります。この接続で、SOS Webから本製品の稼働情報および設定の確認・変更などがおこなえます。利用規約を確認のうえ、同意していただくとリアルタイムモードが有効になります。

かんたん接続

LAN/無線LAN接続を使用して、本製品の情報をリアルタイムでSOSクラウドに送ります。この接続で、SOS Webから本製品の稼働情報の確認がおこなえます。

[リモートコントロール]

SOS (SATO Online Services) からの本製品の設定（リモートコントロール）を許可するかどうかを設定します。

〔SOSモード〕メニューで〔リアルタイム〕を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

禁止

SOSからのリモートコントロールを許可しません。

再起動まで

本製品を再起動するまで、SOSからのリモートコントロールを許可します。

許可

SOSからのリモートコントロールを常時許可します。

[MQTT通信方式]

MQTTの通信方式を設定します。

〔SOSモード〕メニューで〔リアルタイム〕を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

MQTT

ポート番号443、8883を使用してMQTT通信をおこなう場合に設定します。

MQTT over WebSocket

ポート番号443のみを使用してMQTT通信をおこなう場合に設定します。プロキシサーバーは使用できません。

[MQTTプロキシ有効]

MQTTプロキシを有効または無効にします。

〔SOSモード〕メニューで〔リアルタイム〕を選択している場合にのみ表示されます。

〔通信設定〕＞〔ネットワーク〕＞〔設定〕＞〔LAN〕＞〔プロキシ〕＞〔有効〕を有効にしてお
り、かつ〔MQTT通信方式〕で〔MQTT over WebSocket〕を選択している場合にのみ設定できます。

[プリンタ認証登録]

SOS (SATO Online Services) に本製品を追加する際に必要となる、シリアルナンバーとアソシエーションコードを表示します。

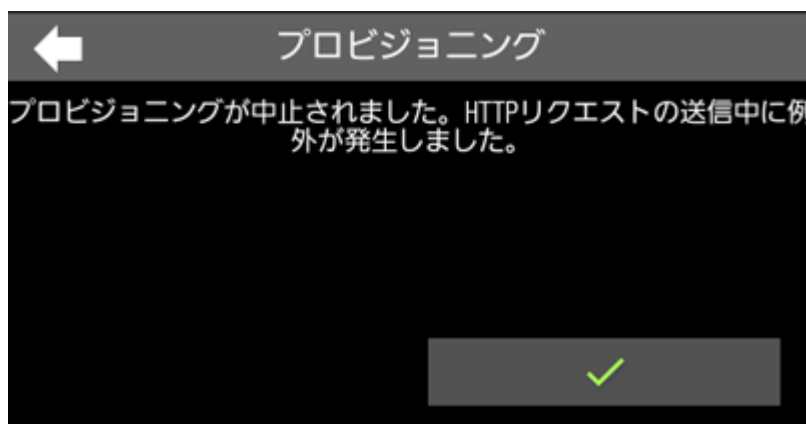
〔SOSモード〕メニューで〔無効〕以外を選択している場合にのみ表示されます。



- SOSへの本製品の追加手順については、プリンタ準備マニュアルをご覧ください。

https://www.sato-sos.com/support/#print_preparation_manual

- サーバー認証に失敗すると、以下のような画面が表示されます。表示されるメッセージは原因により異なります。画面の表示に従ってメッセージを閉じ、設定内容をネットワーク管理者に相談してください。



【連絡先】

エラー発生時に表示するSOS（SATO Online Services）の連絡先を表示します。

〔SOSモード〕メニューで〔無効〕以外を選択している場合にのみ表示されます。

項目は以下のとおりです。

電話番号

エラー画面に表示する電話番号を表示します。

お客さまヘルプデスクのSOS専用ダイヤルに設定されています。

【定期通知】

SOS（SATO Online Services）の定期通知機能を設定します。

〔SOSモード〕メニューで〔オンデマンド〕を選択している場合にのみ表示されます。

本機能は、本製品の情報をQRコードで定期的にディスプレイに表示します。表示されたQRコードをタブレット端末やスマートフォンでスキャンし、情報をSOSクラウドに送ります。

QRコードのスキャンにはSOS専用アプリが必要です。

設定項目は以下のとおりです。

【通知設定】

定期通知時期の基準を選択するか、定期通知機能を無効にします。

選択した項目によって、〔定期通知〕メニューに詳細設定項目が表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

無効

定期通知機能を無効にします。

毎日

毎日、指定した回数、指定した時刻に通知画面を表示します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

毎週

毎週、指定した曜日の指定した時刻に通知画面を表示します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

毎月

毎月、指定した日付の指定した時刻に通知画面を表示します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

カウンター

消耗品のカウンターが指定した値に達したときに通知画面を表示します。

オフライン

本製品がオフライン状態に切替わったときに通知画面を表示します。

[カウンター]

定期通知時期の基準にサーマルヘッド、カッタのどちらか、または両方を選択できます。

[通知設定] メニューで [カウンター] を選択している場合にのみ表示されます。

選択した項目の詳細設定項目が [定期通知] メニューに表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [サーマルヘッド]
- [カッタ]
- [サーマルヘッド+カッタ]



- [カッタ] と [サーマルヘッド+カッタ] はオプションのカッタユニットまたはノンセパカッタユニット取り付け時にのみ表示されます。
-

[ヘッド]

定期通知時期の基準とするサーマルヘッドの走行距離を設定・表示します。

[通知設定] メニューで [カウンター] を [サーマルヘッド] または [サーマルヘッド+カッタ] に選択している場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

走行距離

定期通知時期の基準とするサーマルヘッドの走行距離を、メートル単位で指定します。指定した走行距離ごとに通知がおこなわれます。

設定範囲は、1～100,000 です。

前回の更新

前回定期通知がおこなわれたときの、サーマルヘッドの走行距離を表示します。

次の更新

次回定期通知がおこなわれるときの、サーマルヘッドの走行距離を表示します。

現在

現在のサーマルヘッドの走行距離を表示します。

【カット】

定期通知時期の基準とするカットのカット回数を設定・表示します。

〔通知設定〕メニューで〔カウンター〕を〔カット〕または〔サーマルヘッド+カット〕に選択している場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

カット回数

定期通知時期の基準とするカットのカット回数を指定します。指定したカット回数ごとに通知がおこなわれます。

設定範囲は、1～1,000,000 です。

前回の更新

前回定期通知がおこなわれたときの、カットのカット回数を表示します。

次の更新

次回定期通知がおこなわれるときの、カットのカット回数を表示します。

現在

現在のカットのカット回数を表示します。

【通知回数】

1日に定期通知をおこなう回数を指定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、〔通知設定〕メニューで〔毎日〕を選択している場合にのみ表示されます。

設定範囲は、1～3 です。

【時間設定1】

1回目の定期通知をおこなう時刻を指定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、〔通知設定〕メニューで〔毎日〕を選択している場合にのみ表示されます。

【時間設定2】

2回目の定期通知をおこなう時刻を指定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、〔通知設定〕メニューで〔毎日〕を、〔通知回数〕を2回以上に設定している場合にのみ表示されます。

【時間設定3】

3回目の定期通知をおこなう時刻を指定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、〔通知設定〕メニューで〔毎日〕を、〔通知回数〕を3回に設定している場合にのみ表示されます。

【曜日】

定期通知をおこなう曜日を指定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、〔通知設定〕メニューで〔毎週〕を選択している場合にのみ表示されます。

設定範囲は、日曜日～土曜日です。

【日】

定期通知をおこなう日付を設定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、[通知設定]メニューで[毎月]を選択している場合にのみ表示されます。

設定範囲は、1～28 です。

【時間設定】

指定した曜日または日付の何時に定期通知をおこなうかを指定します。

NTP機能を有効にしているかオプションのRTCキットを取り付けており、[通知設定]メニューで[毎週] または [毎月] を選択している場合にのみ表示されます。

【通知画面】

SOS (SATO Online Services) の定期通知やDaily Checkupで表示するQRコードの印字する・しないを設定します。

[SOSモード] メニューで [オンデマンド] を選択している場合にのみ表示されます。

QRコードのスキャンにはSOS専用アプリが必要です。

選択肢は以下のとおりです。

通常

通常のQRコードのスキャン画面を表示します。

印字

QRコードのスキャン画面で印字を実行できます。[印字] をタップしてQRコードを印字します。

QRコードを印字するには、長さ40mm以上、幅40mm以上（台紙含まず）の用紙を用意してください。

【QRコードオフセット】

SOS (SATO Online Services) の通知画面で表示するQRコードを印字する際の、印字位置を補正します。

[SOSモード] メニューで [オンデマンド] を選択している場合にのみ表示されます。

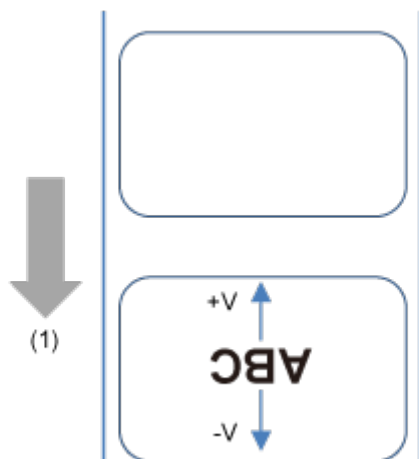
[通知画面] メニューで [印字] を選択している場合に設定できます。

設定項目は以下のとおりです。

縦位置補正

QRコード印字の縦位置を補正します。

紙送り方向と逆方向を“+”、紙送り方向を“-”として、印字基準位置からの補正値を設定します。



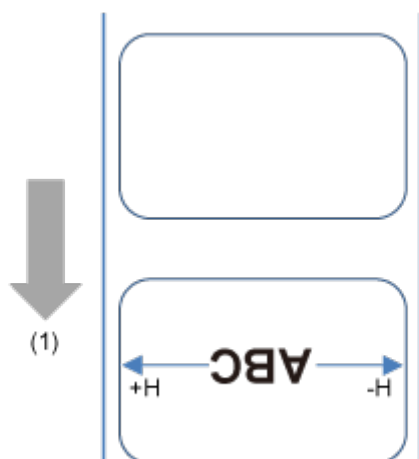
(1) 紙送り方向

設定範囲は、-792～+792dotです。

横位置補正

QRコード印字の横位置を補正します。

本製品正面に向かって左方向を“+”、右方向を“-”として、印字基準位置からの補正値を設定します。



(1) 紙送り方向

設定範囲は、-792～+792dotです。



- 本製品の解像度によって、1dotの長さが異なります。
 - 203dpi : 1dot=0.125mm
 - 305dpi : 1dot=0.083mm
- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

[Daily Checkup]

現在の本製品の情報をQRコードで表示します。タブレット端末やスマートフォンでQRコードをスキャンし、SOSクラウドに送ります。

NFC接続を使って製品情報を取得し、SOSクラウドに送ることもできます。

[SOSモード] メニューで [オンデマンド] を選択している場合にのみ表示されます。

QRコードのスキャンやSOSクラウドへの情報送信にはSOS専用アプリが必要です。

[通知画面] で [印字] を選択している場合は、[印字] をタップしてQRコードを印字できます。

QRコードを印字するには、長さ40mm以上、幅40mm以上（台紙含まず）の用紙を用意してください。

[ポート診断]

SOS接続時に、リアルタイムモードおよびかんたん接続モードを使用できるかどうか、ネットワーク環境の判定をおこないます。

[ポート診断] をタップすると、[ポート診断を開始しますか?] と表示され、 をタップするとポート診断が開始されます。

ポート診断が完了すると、対応している接続方法が画面に表示されます。



- 以下の場合はポート診断を実行できません。
 - デフォルトゲートウェイアドレスが設定されていない場合
 - DNSアドレスが設定されていない場合

ポート診断実行前に [ポート診断を開始できません。] と表示された場合は、[通信設定] > [ネットワーク] > [設定] または [Wi-Fi] の各メニューで設定をおこない、再度ポート診断を実行してください。

- ポート診断中に [中止] をタップすると、ポート診断は中止されます。
- ポート診断中の各テストに失敗した場合は、ポート診断は中止されます。画面に表示されたメッセージに従って通信設定を確認し、設定内容をネットワーク管理者に相談してください。

[詳細設定]

インタフェースの拡張機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[ARP通知]

ARP通知の機能を設定します。

ARP通知は送信者のIPアドレスまたはMACアドレスが変更したときに、他のホストの機器アドレスを解析した情報を更新するのに便利です。

設定項目は以下のとおりです。

[通知拡張]

追加のARP通知を設定します。



追加のARP通知を有効にします。ARPは接続またはDHCP割り当て後に1、2、4、8、16秒ごとに送信されます。



追加のARP通知を無効にします。ARPは接続またはDHCP割り当て後の1秒後にだけ送信されます。

[通知周期]

0～600秒の範囲でARP通知の間隔を設定します。

初期設定は300秒です。



- 0に設定した場合、この機能は無効になります。

[RS-232C]

RS-232C接続を設定します。

オプションのRS-232Cキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[ボーレート]

ボーレート（bps）を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [2400]
- [4800]
- [9600]
- [19200]
- [38400]
- [57600]
- [115200]

[パラメータ]

データパラメータを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

パラメータの構成については下の表をご覧ください。

- [8-N-1]
- [8-O-1]
- [8-E-1]
- [8-N-2]
- [8-O-2]
- [8-E-2]
- [7-N-1]
- [7-O-1]
- [7-E-1]
- [7-N-2]
- [7-O-2]
- [7-E-2]

パラメータの構成一覧

パラメータ	データ長 (ビット)	パリティ	ストップビット (ビット)
8-N-1	8	なし	1
8-O-1	8	奇数	1
8-E-1	8	偶数	1
8-N-2	8	なし	2
8-O-2	8	奇数	2
8-E-2	8	偶数	2
7-N-1	7	なし	1
7-O-1	7	奇数	1
7-E-1	7	偶数	1
7-N-2	7	なし	2
7-O-2	7	奇数	2
7-E-2	7	偶数	2

[通信プロトコル]

通信プロトコルを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [READY/BUSY Multi]

- [XON/XOFF Multi]
- [STATUS3]
- [STATUS4]
- [STATUS5]
- [NONE]

[BCC]

BCCチェック機能を有効または無効にします。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS5] を選択している場合にのみ表示されます。

[USB]

USB接続を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[通信プロトコル]

通信プロトコルを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [STATUS4]
- [STATUS5]
- [NONE]

[BCC]

BCCチェック機能を有効または無効にします。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS5] を選択している場合にのみ表示されます。

[USBシリアル変更]

返送するUSBシリアルNoの種別を設定します。



USBシリアルNo (00000000) を返送します。

新たにプリンタドライバを追加せずに本製品を入れ替えたい場合に適しています。

本製品の設置前に本設定を有効にする必要があります。



工場設定のUSBシリアルNo (各製品固有) を返送します。

製品ごとにプリンタドライバを設定する場合に適しています。



- 同一のUSBシリアルNoが設定された2台の製品が同じコンピュータに接続されている場合、コンピュータでブルースクリーンエラーが発生することがあります。



- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

[NFC]

NFC接続を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

I/F有効

NFCインタフェースを有効または無効にします。

[CR/LFカット]

受信データ内のCR/LFコード（0x0D / 0x0A）を無視するかを設定します。

[CAN/DLEカット]

受信データ内のCAN/DLEコード（0x18 / 0x10）を無視するかを設定します。



- 無効から有効に変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

[RFID]

RFIDを設定します。

RFIDモデルでのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[アンテナ位置] UHF HF

使用するRFIDアンテナを選択します。この値を設定する場合は、弊社営業担当または販売店にご相談ください。

UHFモジュールの場合

選択肢は以下のとおりです。

通常

標準アンテナ（可動式）を使用します。

前方

小ピッチアンテナ（位置固定）を使用します。

HFモジュールの場合

標準アンテナを使用します。標準アンテナの縦方向の位置を指定できます。

選択肢は以下のとおりです。

- [前方]

- [中央]
- [後方]

[書込み電波出力]

インレイにデータを書き込むための電波出力を設定します。この値を設定する場合は、弊社営業担当または販売店にご相談ください。

モジュールがUHFの場合にのみ表示されます。

設定範囲は、0～24dBmです。

[読出し電波出力]

インレイからデータを読み取るための電波出力を設定します。この値を設定する場合は、弊社営業担当または販売店にご相談ください。

モジュールがUHFの場合にのみ表示されます。

設定範囲は、0～24dBmです。

[タグオフセット]

インレイにデータを書き込むときのオフセット値および書込み動作を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[タグオフセット]

インレイへのデータ書込みを開始する位置を設定します。各タグで、印字開始位置からこの設定で指定した長さの位置が本製品のRFIDアンテナと重なったときに、インレイへの書込みをおこないます。

この値を設定する場合は、弊社営業担当または販売店にご相談ください。

設定範囲は [エンコード搬送動作] の設定によって異なります。

[エンコード搬送動作] の設定	設定範囲
[印字中一時停止]	-25～+240mm
[印字前フィード]	-25～+25mm



- 以下の場合、[エンコード搬送動作] の設定に関わらず、設定範囲の最小値が0となります。
 - [印字] > [詳細設定] > [用紙無駄なし] > [有効] が有効の場合
 - [印字] > [動作モード] が [連続発行] 以外の場合

[エンコード搬送動作]

[タグオフセット] で指定した位置でインレイにデータを書き込むときの、本製品の動作を設定します。

[タグオフセット] が0mm以外に設定されている場合に表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

印字中一時停止

〔タグオフセット〕で指定した位置で印字を一時停止し、インレイにデータを書き込みます。

停止位置に白スジが発生する可能性があるため、印字レイアウトに注意してください。

印字前フィード

〔タグオフセット〕で指定した位置までフィードしてインレイにデータを書き込み、フィード前の位置に戻って印字をおこないます。

〔タグオフセット〕が26mm以上に設定されている場合は選択できません。

〔ラベル測長開始〕

RFIDタグの長さを自動で測長し設定します。

〔ピッチサイズ〕

RFIDタグの長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

RFIDタグの長さの設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	8～1920dot
305dpi (1dot=0.083mm)	12～2880dot



- 〔システム〕＞〔地域〕＞〔単位〕メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 台紙を含む値を設定してください。

〔リーダー形式〕

RFIDモジュールの型式を表示します。

〔リーダーバージョン〕

RFIDモジュールのファームウェアバージョンを表示します。

〔データビュー〕

インレイの選択したメモリ領域のデータを読み出して表示します。

設定項目は以下のとおりです。

〔メモリ領域指定〕

読み出すインレイのメモリ領域を設定します。

読出し可能なメモリ領域は以下のとおりです。

UHFモジュールの場合

- 〔EPC〕

- [TID]
- [USER]
- [PC]
- [RSSI]

HFモジュールの場合

- [USER]
- [UID]

[データ表示]

[データ表示] をタップすると、インレイから読み出したデータが192文字まで表示されます。

[フィード] をタップすると、用紙が送られ、次のタグのインレイから読み出したデータが表示されます。



- EPC書き込みを64桁以上おこなうと、TID、USER、PCおよびRSSIの読出しができなくなります。

[フィルタ機能]

RSSI (Received Signal Strength Indication、受信信号強度) によるフィルタ機能を設定します。RFIDタグ発行時に読み取ったRSSI値が指定した閾値を下回る場合、RFIDタグエラーが発生します。エラーが発生したインレイ・RFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

モジュールがUHFの場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[RSSIフィルタ]

RSSIフィルタ機能を有効または無効にします。

[閾値]

RSSIフィルタの閾値を設定します。

[RSSIフィルタ] を有効にしている場合にのみ表示されます。

設定範囲は、-99~-1dBmです。

[RFID再試行モード]

RFIDエラー発生時のモードを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

再試行

RFIDエラーが発生すると、[RFID再印字回数] の回数に従って書込みを再試行します。RFIDエラーが連続して[RFID再印字回数] の回数プラス1回発生した場合は、印字が停止し、RFIDエラー画面が表示されます。



[再試行] をタップすると、再度[RFID再印字回数] の回数に従って書込みを再試行します。

[中止] をタップすると、現行の1アイテムを削除します。

リリース

RFIDエラーが発生すると、同じデータの書込みを再試行せずに、次のデータの書込みに移行します。RFIDエラーが連続して[RFID再印字回数] の回数発生した場合は、印字が停止し、RFIDエラー画面が表示されます。

[再試行] をタップすると、現行の印字データ1部を削除して次の印字をおこないます。

例：

- 10アイテムを1部ずつ発行した場合、現行のアイテムを削除して残りのアイテムを印字します。
- 1アイテムを10部発行した場合、現行の印字データを削除して残りの部数を印字します。

[中止] をタップすると、現行の1アイテムを削除して次の印字をおこないます。

例：

- 10アイテムを1部ずつ発行した場合、現行のアイテムを削除して残りのアイテムを印字します。
- 1アイテムを10部発行した場合、現行のアイテムを削除して終了します。



- 印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、[キャンセル] をタップしてください。

[RFID再印字回数] UHF HF

RFIDエラー発生時、RFIDエラー画面を表示して印字を停止するまでに、[RFID再試行モード] で設定した再試行/リリース動作を何度繰り返すかを設定します。

設定範囲は、0～9です。

[不良タグに印をつける]

RFIDタグエラー発生時のエラー印字を有効または無効にします。

[RFID未検出警告]

RFIDタグの無駄使いを防ぐために、印字ジョブにRFIDコマンドがない場合にRFID未検出警告エラーを表示して印字を停止するかを設定します。

本機能で検出対象となるRFIDコマンドは、EPCコードライト指定<IP0>およびUID/EPC/IDm印字指定<TU>です。

選択肢は以下のとおりです。

警告なし

RFID未検出警告エラーを表示しません。印字は続行されます。

RFIDタグ

RFIDタグがセットされているにも関わらず印字ジョブにRFIDコマンドがない場合に、RFID未検出警告エラーを表示し、印字を停止します。

用紙を通常ラベルに交換すると、エラーは表示されなくなります。

RFIDコマンド

印字ジョブにRFIDコマンドがない場合に、RFID未検出警告エラーを表示し、印字を停止します。



- 印字ジョブに検出対象となるRFIDコマンドを使用しているにもかかわらず、コマンドエラーとなる記述になっている場合は、RFID未検出警告エラーを表示します。
-

[RFIDログ]

書き込んだRFIDデータの情報を記録するログ機能を有効または無効にします。

ログデータには、100個のインレイの情報を記録できます。最大容量に達すると、古いログデータから新しいログデータに上書きされます。

本製品の電源を切ると、すべてのログデータは失われます。



- モジュールがHFの場合はUIDデータが記録されます。
-

[RFIDデータ記録]

[RFIDログ] を有効にした場合に、ログを記録するデータを設定します。

モジュールがUHFの場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

EPCとTID

EPCデータとTIDデータを保存します。

EPC

EPCデータを保存します。

TID

TIDデータを保存します。

[カウンタ]

RFIDカウンタを表示します。

以下のコマンドによるRFID書込み動作がカウントされます。

- RFID書込み：EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>
- タグデータ印字：UID/EPC/IDm印字指定<TU>

ただし、印字や用紙搬送を伴わない書込みはカウントされません。

設定項目は以下のとおりです。

[ライフカウンタ]

RFID書込みの成功回数、失敗回数、および総試行回数を表示します。

項目は以下のとおりです。

正常総発行枚数

成功したRFIDタグへの書込みの総数を表示します。

異常総発行枚数

RFID書込みエラーの総数を表示します。

印字総発行枚数

印字されたRFIDタグの総数を表示します。

これは、[正常総発行枚数]と[異常総発行枚数]の合計数です。

[ユーザカウンタ]

RFIDカウンタをクリアしたあとの、RFID書込みの成功回数、失敗回数、および総試行回数を表示します。

項目は以下のとおりです。

正常発行枚数

RFIDカウンタをクリアしたあとに成功したRFIDタグへの書込みの総数を表示します。

異常発行枚数

RFIDカウンタをクリアしたあとに発生したRFID書込みエラーの総数を表示します。

印字発行枚数

RFIDカウンタをクリアしたあとに印字されたRFIDタグの総数を表示します。

これは、[正常発行枚数]と[異常発行枚数]の合計数です。



- カウンタが1以上の場合は [カウンタクリア] をタップしてカウンタをリセットできます。

[用紙]

RFIDタグの縦方向の印字基準位置を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[基準位置]

RFIDタグの縦方向の印字基準位置を設定します。

紙送り方向を“+”、紙送りと逆方向を“-”として、印字基準位置を設定します。

設定範囲は、-200～+200dot です。



- 本製品の解像度によって、1dotの長さが異なります。
 - 203dpi：1dot=0.125mm
 - 305dpi：1dot=0.083mm
- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、“”（インチ）、mmの間で切替えることができます。

[RFIDタグ型式]

RFIDタグ型式の登録、編集、読出し、および削除をします。RFIDタグ型式は、RFIDタグの種類ごとに最適なアンテナ位置、書込み/読出し電波出力、およびタグオフセットの値の組み合わせを登録したものです。

最大10件のRFIDタグ型式を登録できます。



- 登録したRFIDタグ型式は、[ツール] メニューの [メディアスタートアップ] メニューや [メディアプロファイル登録] メニューから選択できるようになります。

設定項目は以下のとおりです。

[読出し]

登録済みのRFIDタグ型式を読み出し、本製品に設定を適用します。

RFIDタグ型式が1つ以上登録されている場合に利用できます。

読み出すRFIDタグ型式をタップし、確認メッセージの  をタップします。

読み出したRFIDタグ型式の名前が [読出し] メニューの右側に表示されます。



- 本設定は [ツール] > [メディアスタートアップ] メニューの設定と連動して変更されます。

[編集]

新規にRFIDタグ型式を登録するか、登録済みのRFIDタグ型式を編集します。

登録済みのRFIDタグ型式を編集するには、事前に [読出し] メニューで対象のRFIDタグ型式を読み出してください。

設定に必要な情報は、弊社営業担当または販売店にお問い合わせください。

設定項目は以下のとおりです。

アンテナ位置

アンテナX方向位置 (UHFのみ)

RFID標準アンテナの位置を横方向に調整します。

設定範囲は 0 ～ 28mm です。

アンテナY方向位置 (UHFのみ)

RFID標準アンテナの位置を縦方向に調整します。

設定範囲は 0 ～ 24mm です。

書込み電波出力 (UHFのみ)

読出し電波出力 (UHFのみ)

タグオフセット

ピッチサイズ

RFIDタグの長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

RFIDタグの長さの設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	8～1920dot
305dpi (1dot=0.083mm)	12～2880dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、" (インチ)、mmの間で切替えることができます。
- 台紙を含む値を設定してください。

設定が完了したら、[名前を付けて保存] をタップして名前を入力します。

最大32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。先頭文字にピリオドは入力できません。

ソフトウェアキーボードの  をタップして確定します。

登録済みのRFIDタグ型式と同じ名前を指定した場合は、確認メッセージが表示されます。設定を上書きする場合は  をタップしてください。

[削除]

登録済みのRFIDタグ型式を削除します。

RFIDタグ型式が1つ以上登録されている場合に利用できます。

削除するRFIDタグ型式をタップし、確認メッセージの  をタップします。



[アプリケーション] メニュー



[アプリケーション] メニューには、以下の設定項目があります。

[プロトコル]

プリンタ言語を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

AUTO

受信した印字データを自動的に分析し、プリンタ言語を設定します。[AUTO] モードでは、起動後に別の言語データを受信すると言語を変更できます。

SBPL

SBPL プリンタ言語を使用するときに設定します。

SZPL

SZPL プリンタ言語を使用するときに設定します。

SIPL

SIPL プリンタ言語を使用するときに設定します。

SDPL

SDPL プリンタ言語を使用するときに設定します。

STCL

STCL プリンタ言語を使用するときに設定します。

SEPL

SEPL プリンタ言語を使用するときに設定します。



([プロトコル] メニューで [AUTO] を選択している場合)

- [AUTO] を選択すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。
- 一度プリンタ言語が設定されると、オンライン/ オフライン画面にプリンタ言語の名前が表示されます。



- プリンタ言語は印字データを受信したときに確定します。
- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [プロトコルコード設定] を無効にすると、[プロトコル] の設定は [SBPL] に変更されます。

[Auto Switch Group]

自動切替の対象にするプリンタ言語を設定します。

[プロトコル] メニューで [AUTO] を選択している場合のみに表示されます。



- [プロトコル] メニューで [AUTO] を選択した直後は [SBPL] がグレイアウトされます。その後は [AUTO] モードで設定されたプリンタ言語がグレイアウトされます。

設定項目は以下のとおりです。

SBPL

SBPL プリンタ言語を有効または無効にします。

SZPL

SZPLプリンタ言語を有効または無効にします。

SIPL

SIPLプリンタ言語を有効または無効にします。

STCL

STCLプリンタ言語を有効または無効にします。

SDPL

SDPLプリンタ言語を有効または無効にします。

SEPL

SEPLプリンタ言語を有効または無効にします。

[SBPL]

SBPL（SATO Barcode Printer Language）とは、（株）サトーのバーコードラベルプリンタを制御する共通コマンドのことです。

プリンタコマンドとしてSBPLを使用するには、次の項目を設定します。

[コマンドエラー表示]

印字データ中に不正なコマンドまたはパラメータを検出したときのコマンドエラー表示を、有効または無効にします。



印字データ中に不正なコマンドまたはパラメータを検出したときに、コマンドエラーが表示され、印字動作が停止します。



不正なコマンドまたはパラメータを無視して、印字動作を継続します。コマンドエラーのステータスアイコンを表示します。

[プロトコルコード設定]

プロトコルコードを設定します。



プロトコルコード設定を使用します。



プロトコルコード設定以外を使用します。



- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。無効が選択されているときに「[プロトコル]」メニューで「[AUTO]」を選択すると、有効に変更されます。

【印刷の向き】

ラベル印字のレイアウトを選択します。

縦

縦向きのレイアウトを使用します。（回転なし）

横

横向きのレイアウトを使用します。（90° 回転）

縦180°

縦向きのレイアウトの天地を逆にします。（180° 回転）

横180°

横向きのレイアウトの天地を逆にします。（270° 回転）

【フォント設定】

フォントを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【ゼロスラッシュ】

ゼロ（0）をスラッシュ（/）付き、スラッシュなしのどちらで印字するのかを設定します。

この設定は以下のビットマップフォントが対象となります。

X20、X21、X22、X23、X24、U、S、M、WB、WL、XU、XS、XM、XL



スラッシュ付きでゼロを印字します。



スラッシュなしでゼロを印字します。

【漢字設定】

使用する漢字コードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【漢字モード】

使用する漢字コードを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [JP-COMPATIBLE]
- [JP-JISX0208]
- [JP-JISX0213]
- [GB18030]
- [BIG5]
- [KSC5601]

【文字コード】

使用する文字コードを設定します。

選択肢は、[漢字モード] で設定した漢字コードによって異なります。

- **【JP-COMPATIBLE】 または 【JP-JISX0208】 を設定した場合**
 - [JIS]
 - [SJIS]
 - [UTF-16]
 - [UTF-8]

- **【JP-JISX0213】 を設定した場合**
 - [SJIS]
 - [UTF-16]
 - [UTF-8]

- **【GB18030】 を設定した場合**
 - [GB18030]
 - [UTF-8]

- **【BIG5】 を設定した場合**
 - [BIG5]
 - [UTF-8]

- **【KSC5601】 を設定した場合**
 - [KSC5601]
 - [UTF-8]

【漢字書体】

使用するフォントを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [明朝]
- [ゴシック]

【プロポーションアルピッチ】

文字ごとに異なる文字幅（プロポーションアルピッチ）で印字するのか、または同一幅（固定ピッチ）で印字するのかを設定します。



文字ごとに異なる文字幅（プロポーションアルピッチ）で印字します。



すべての文字を同一幅（固定ピッチ）で印字します。

[コードページ]

使用するコードページを一覧から選びます。

[ユーロコード]

ユーロ通貨記号を任意のASCIIコードに設定します。

設定範囲は、0～FF（16進数）です。

[SZPL]

プリンタコマンドとしてSZPLを使用するには、次の項目を設定します。

[ラベル]

印字位置を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[基点移動]

ラベルのシフトオフセット位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi（1dot=0.125mm）	-832～+832dot
305dpi（1dot=0.083mm）	-1248～+1248dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

[基点補正]

ラベルのトップオフセット位置を設定します。

設定範囲は、-120～+120dotです。



- 本製品の解像度によって、1dotの長さが異なります。
 - 203dpi：1dot=0.125mm
 - 305dpi：1dot=0.083mm
- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

【ラベル回転】

ラベルの印字レイアウトを設定します。

本製品で設定した用紙サイズを回転の基準とします。

選択肢は以下のとおりです。

0° 回転

ラベルを縦向きのレイアウトで印字します。

180° 回転

ラベルを縦向きのレイアウトの天地を逆にして印字します。

【キャレット文字】

キャレット文字（^）のコードを設定します。

設定範囲は、0～255です。



- 各コード（キャレット文字、区切り文字、チルダ文字）は異なる値に設定する必要があります。

【区切り文字】

区切り記号（.）のコードを設定します。

設定範囲は、0～255です。



- 各コード（キャレット文字、区切り文字、チルダ文字）は異なる値に設定する必要があります。

【チルダ文字】

チルダ文字（~）のコードを設定します。

設定範囲は、0～255です。



- 各コード（キャレット文字、区切り文字、チルダ文字）は異なる値に設定する必要があります。

【日時フォーマット】

日時の書式を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [（なし）]
- [MM/DD/YY (24時間表示)] （例： 01/24/17 (13:45)）
- [MM/DD/YY (12時間表示)] （例： 01/24/17 (01:45)）
- [DD/MM/YY (24時間表示)] （例： 24/01/17 (13:45)）
- [DD/MM/YY (12時間表示)] （例： 24/01/17 (01:45)）

[デフォルトフォント]

本製品内蔵の多言語フォントを使用して印字する場合の既定フォントを、一覧から選びます。

[SIPL]

プリンタコマンドとしてSIPLを使用するには、次の項目を設定します。

[フォント設定]

フォントを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[コードページ]

使用するコードページを一覧から選びます。

[新フォント]

新フォントを有効または無効にします。



- 新フォントの詳細については、弊社営業担当にお問い合わせください。
-

[c20プロポーションアルピッチ]

文字ごとに異なる文字幅（プロポーションアルピッチ）で印字するのか、または同一幅（固定ピッチ）で印字するのかを設定します。



文字ごとに異なる文字幅（プロポーションアルピッチ）で印字します。



すべての文字を同一幅（固定ピッチ）で印字します。

[ゼロスラッシュ]

ゼロ（0）をスラッシュ（/）付き、スラッシュなしのどちらで印字するのかを設定します。



スラッシュ付きでゼロを印字します。



スラッシュなしでゼロを印字します。

[フォーマット保存]

印字するときに登録するユーザーフォーマットを本製品に保存するかどうかを設定します。



印字するときに登録するユーザーフォーマットを本製品に保存します。



印字するときに登録するユーザーフォーマットを本製品に保存しません。印字後、本製品の電源を切るまでメモリに保持されますが、本製品の再起動後は再度登録する必要があります。

[STCL]

プリンタコマンドとしてSTCLを使用するには、次の項目を設定します。

[コマンドヘッド]

コマンドヘッドを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[制御コード]

制御コードを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

自動プロトコル検知

プロトコルを自動的に検出します。

ESC|LF|NUL

制御コードをESC|LF|NULに設定します。

7B|7C|7D

制御コードを7B|7C|7Dに設定します。

カスタム

1～3番目のバイトコードを変更します。



- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

[1バイト目のコード]

1番目のバイトコードを設定します。

[制御コード]メニューで[カスタム]を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は0～255です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。

[2バイト目のコード]

2番目のバイトコードを設定します。

[制御コード]メニューで[カスタム]を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は0～255です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。
-

[3バイト目のコード]

3番目のバイトコードを設定します。

[制御コード] メニューで [カスタム] を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は0～255です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。
-

[フォント設定]

フォントを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[ゼロスラッシュ]

ゼロ (0) をスラッシュ (/) 付き、スラッシュなしのどちらで印字するのかを設定します。



スラッシュ付きでゼロを印字します。



スラッシュなしでゼロを印字します。

[ユーロコード]

ユーロ通貨記号を任意のASCIIコードに設定します。

設定範囲は、0～FF (16進数) です。

[コードページ]

使用するコードページを一覧から選びます。

[半角記号]

記号を半角文字で印字するかを設定します。

[回転]

ラベルの印字レイアウトを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

0°

ラベルを縦向きのレイアウトで印字します。

90°

ラベルを横向きのレイアウトで印字します。

【用紙サイズ指定コマンド無効】

用紙サイズ指定コマンドを無視するかを設定します。

【300DPIヘッド互換】

解像度305dpiの製品を使用している場合に、300DPIヘッド互換を有効または無効にします。
有効にすると、ヘッド密度300dpiの印字データを305dpiで印字します。

【SDPL】

プリンタコマンドとしてSDPLを使用するには、次の項目を設定します。



- 【優先設定】メニューより下の項目は、【優先設定】メニューの対応する項目で【設定】を選択している場合にのみ設定できます。
-

【制御コード】

制御コードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【コード種】

制御コードの種類を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- 【標準】
- 【代替コード1】
- 【代替コード2】
- 【カスタム】

【SOH】

SOHコードを設定します。

【コード種】メニューで【カスタム】を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は、0～FF（16進数）です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。
-

【STX】

STXコードを設定します。

【コード種】メニューで【カスタム】を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は、0～FF（16進数）です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。
-

[CR]

CRコードを設定します。

〔コード種〕メニューで〔カスタム〕を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は、0～FF（16進数）です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。
-

[CNTBY]

CNTBYコードを設定します。

〔コード種〕メニューで〔カスタム〕を選択している場合にのみ変更できます。

設定範囲は、0～FF（16進数）です。



- 各コードは異なる設定値でなければなりません。
-

[ラベル回転]

ラベルの印字レイアウトを設定します。

本製品で設定した用紙サイズを回転の基準とします。

選択肢は以下のとおりです。

0° 回転

ラベルを縦向きのレイアウトで印字します。

90° 回転

ラベルを横向きのレイアウトで印字します。

180° 回転

ラベルを縦向きのレイアウトの天地を逆にして印字します。

270° 回転

ラベルを横向きのレイアウトの天地を逆にして印字します。

[SOPエミュレーション]

SOPエミュレーションを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [無効]
- [Prodigy Plus - 110]
- [Allegro - 220]
- [Prodigy - 250]
- [自動]

[互換モード]

SDPLの互換モードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【TTF】

TrueTypeフォントの互換モードを有効または無効にします。



TrueTypeフォントの互換モードを有効にします。ボールド体（太字）のTrueTypeフォントがより狭い文字幅で印字されます。



TrueTypeフォントの互換モードを無効にします。

【グラフィックス】

改行コードが省略されてもグラフィックデータの登録を許可するかどうかを設定します。

【互換圧縮モード】

固有の圧縮方式で作成されたグラフィックデータに対応するかどうかを設定します。

【左右逆方向印字】

左右逆方向印字機能を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

無効

すべての文字を左から右に印字します。

自動

アラビア文字を検出すると、その部分のテキストを右から左に印字します。

【受信タイムアウト】

本製品がバイナリデータ受信モードを継続する時間を設定します。

指定した時間を経過すると、本製品はバイナリ受信モードを終了してSDPLコマンドをスキャンします。

設定範囲は0（オフ）～9999ミリ秒です。

【空白ラベルフィード】

印字イメージを生成しないラベルフォーマット指定コマンドを受信したときに、何も印字されていないラベルを搬送するかを設定します。

【優先設定】

SDPLコマンドの各設定項目で優先させる設定を選択します。本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定できます。

各項目で「設定」を選択すると、本製品の「SDPL」メニューで指定した設定が使用されます。

設定項目は以下のとおりです。

[フォーマット属性]

フォーマット属性の設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[一時停止モード]

一時停止モードの設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[1バイト文字コードページ]

1バイト文字コードページの設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[測定単位]

測定単位の設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[スケーラブルフォントスタイル]

スケーラブルフォントスタイルの設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[センサタイプ]

センサタイプの設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[フィードバックキャラクタ]

フィードバックキャラクタの設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[SOHコマンド]

SOHコマンドの設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

[モジュール選択]

モジュール選択の設定を、本製品の設定とコマンドによる設定のどちらを優先させるかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

コマンド

コマンドの設定を優先します。

設定

本製品の設定を優先します。

その他

次の項目には「印字」＞「詳細設定」＞「優先設定」メニューで選択している設定が適用され、この画面に表示されます。

- 「印字濃度」
- 「工場オフセット調整」
- 「印字速度」

【フォーマット属性】

フォーマット属性を設定します。

「優先設定」＞「フォーマット属性」メニューで「設定」を選択している場合に変更できます。
選択肢は以下のとおりです。

- 「XOR」
- 「透過」
- 「上書」
- 「反転」

【一時停止モード】

一時停止モードを有効または無効にします。

「優先設定」＞「一時停止モード」メニューで「設定」を選択している場合に変更できます。

【1バイト文字コードページ】

1バイト文字に使用するコードページを一覧から選びます。

「優先設定」＞「1バイト文字コードページ」メニューで「設定」を選択している場合に変更できます。

【測定単位】

測定単位を設定します。

「優先設定」＞「測定単位」メニューで「設定」を選択している場合に変更できます。
選択肢は以下のとおりです。

- 「"」（インチ）
- 「mm」

【スケーラブルフォントスタイル】

スケーラブルフォントのスタイルを設定します。

「優先設定」＞「スケーラブルフォントスタイル」メニューで「設定」を選択している場合に変更できます。

設定項目は以下のとおりです。

[ボールド]

スケーラブルフォントをボールド体（太字）にするかを設定します。

[イタリック]

スケーラブルフォントをイタリック体（斜体）にするかを設定します。

[フィードバックキャラクタ]

<STX>aコマンドを有効または無効にします。

〔優先設定〕 > 〔フィードバックキャラクタ〕メニューで〔設定〕を選択している場合に変更できません。

[SOHコマンド]

SOHコマンドを設定します。

〔優先設定〕 > 〔SOHコマンド〕メニューで〔設定〕を選択している場合に変更できます。

設定項目は以下のとおりです。

[全SOHコマンド]

全SOHコマンドを有効または無効にします。または、コマンドごとの設定を可能にします。

選択肢は以下のとおりです。

無効

全SOHコマンドを無効にします。

有効

全SOHコマンドを有効にします。

カスタム

SOHコマンドの種類ごとに有効/無効を設定できます。

[SOH-Bコマンド]

SOH-Bコマンドを有効または無効にします。

〔全SOHコマンド〕メニューで〔カスタム〕を選択している場合に変更できます。

[SOH-Cコマンド]

SOH-Cコマンドを有効または無効にします。

〔全SOHコマンド〕メニューで〔カスタム〕を選択している場合に変更できます。

[その他]

SOH-B、SOH-Cコマンド以外のSOHコマンドを有効または無効にします。

〔全SOHコマンド〕メニューで〔カスタム〕を選択している場合に変更できます。

[モジュール選択]

本製品の設定内容の保存先を選択します。

〔優先設定〕 > 〔モジュール選択〕メニューで〔設定〕を選択している場合に変更できます。

A、B、C (Assigned by <STX> X)、D、F、G、H、I、J、X、Y、Zから選択できます。

[SEPL]

プリンタコマンドとしてSEPLを使用するには、次の項目を設定します。

[ラベル基準位置設定]

横方向および縦方向のオフセット位置を指定して、印字基準位置を調整します。

設定項目は以下のとおりです。

[横方向オフセット]

横方向のオフセット位置を指定します。

設定範囲は、0～400dotです。



- 本製品の解像度によって、1dotの長さが異なります。
 - 203dpi：1dot＝0.125mm
 - 305dpi：1dot＝0.083mm
- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

[縦方向オフセット]

縦方向のオフセット位置を指定します。

設定範囲は、0～400dotです。



- 本製品の解像度によって、1dotの長さが異なります。
 - 203dpi：1dot＝0.125mm
 - 305dpi：1dot＝0.083mm
- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

[ラベル回転]

ラベルの印字レイアウトを設定します。

本製品で設定した用紙サイズを回転の基準とします。

選択肢は以下のとおりです。

0° 回転

ラベルを縦向きのレイアウトで印字します。

180° 回転

ラベルを縦向きのレイアウトの天地を逆にして印字します。

[メモリ保存デバイス選択]

フォーム、グラフィック、フォントのデータを保存する本製品のメモリ領域を選択します。
選択肢は以下のとおりです。

RAM

本製品内蔵のRAMを使用します。本製品の電源を切るとデータは失われます。

ROM

本製品内蔵のROMを使用します。

背面USBメモリ

本製品背面のUSBコネクタを使用します。

内部USBメモリ

本製品内部のUSBコネクタを使用します。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。
-

[305dpiヘッドシミュレーション]

解像度305dpiの製品を使用している場合に、300dpiシミュレーションモードを有効または無効にします。



300dpiシミュレーションモードを有効にします。印字データの線や枠、バーコードなどのオブジェクトを300dpi相当の位置やサイズに自動で調整して印字します。



300dpiシミュレーションモードを無効にします。



[スタンドアロン] メニュー



AEP（アプリケーション活用印字）機能の設定項目です。AEP機能の詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。



【システム】メニュー



【システム】メニューには、以下の設定項目があります。

【地域】

表示言語、タイムゾーン、カレンダー（オプション）、単位を設定します。
設定項目は以下のとおりです。

【表示言語】

ディスプレイの表示言語を設定します。
表示言語を一覧から選びます。

【外部キーボード】

本製品に接続されている外部キーボードの言語を設定します。

西ヨーロッパ言語、東ヨーロッパ言語、日本語、中国語、韓国語の外部キーボードレイアウトを選択します。



- 日本語、中国語、および韓国語は、キーボードのレイアウトの変更のみをサポートしています。IME（Input Method Editor）は互換性がないため、ひらがな、カタカナ、または漢字は入力できません。

【地域言語設定】

AEP（アプリケーション活用印字）機能の設定項目です。AEP機能の詳細は、弊社営業担当にお問い合わせください。

【ソフトウェアキーボード】

ソフトウェアキーボードの言語を設定します。

[単位]

表示の長さの単位を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [dot]
- ["] (インチ)
- [mm]

[時間]

時刻を設定します。

NTP機能が無効でオプションのRTCキットを取り付けている場合にのみ設定できます。

1.  /  をタップして現在の時刻を設定し、 をタップします。
2. 確認メッセージで  をタップするとキャンセル、 をタップすると設定を確定します。

[日付]

日付を設定します。

NTP機能が無効でオプションのRTCキットを取り付けている場合にのみ設定できます。

1.  /  をタップして現在の日付を設定し、 をタップします。
2. 確認メッセージで  をタップするとキャンセル、 をタップすると設定を確定します。

[タイムゾーン]

タイムゾーンを設定します。

最初に、地図から地域を選びます。

次に、一覧から都市を選びます。

[表示言語アイコン]

[設定] メニューに [表示言語] アイコンを表示するかを設定します。

本機能を有効にすると、以下のように「設定」メニュー画面に「表示言語」アイコンが追加されます。表示言語設定画面に直接アクセスできます。



【お知らせ機能】

清掃および部品交換時期を通知する機能を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

【プリンタ清掃】

サーマルヘッドの清掃時期を通知します。

設定項目は以下のとおりです。

【プリントヘッド清掃】

サーマルヘッドの清掃時期の通知機能を有効または無効にします。

【お知らせ間隔】

サーマルヘッドの清掃時期の通知間隔を設定します。

【プリントヘッド清掃】メニューを有効にしている場合にのみ変更できます。

設定値は本製品の印字距離を表します。設定範囲は、10～1000mです。

【現在の走行距離】

現在の印字距離を表示します。

【サーマルヘッド交換】

サーマルヘッドの交換時期を通知します。

設定項目は以下のとおりです。

【サーマルヘッド交換】

サーマルヘッドの交換時期の通知機能を有効または無効にします。

【お知らせ間隔】

サーマルヘッドの交換時期の通知間隔を設定します。

【サーマルヘッド交換】メニューを有効にしている場合にのみ変更できます。

設定値は本製品の印字距離を表します。設定範囲は、10～100 kmです。

[現在の走行距離]

現在の印字距離を表示します。

[カッタユニット交換]

カッタユニットの交換時期を通知します。

設定項目は以下のとおりです。

[カッタユニット交換]

カッタユニットの交換時期の通知機能を有効または無効にします。

[お知らせ間隔]

カッタユニットの交換時期の通知間隔を設定します。

[カッタユニット交換] メニューを有効にしている場合にのみ変更できます。

設定値は、カット回数を表します。設定範囲は、10,000～1,000,000です。

[現在のカット回数]

現在までにカッタでカットした回数を表示します。

[プラテンローラー交換]

プラテンローラーの交換時期を通知します。

設定項目は以下のとおりです。

[プラテンローラー交換]

プラテンローラーの交換時期の通知機能を有効または無効にします。

[お知らせ間隔]

プラテンローラーの交換時期の通知間隔を設定します。

[プラテンローラー交換] メニューを有効にしている場合にのみ変更できます。

設定値は、用紙搬送距離を表します。設定範囲は、10～100 kmです。

[現在の走行距離]

現在までの用紙搬送距離を表示します。

[ブザー音]

本製品のブザー音や操作音を設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[音量]

音量を設定します。

ヘッドセットなどのBluetooth機器を接続中は表示されません。

設定範囲は、0～8です。

0が最も小さく、8が最も大きくなります。

0に設定した場合、消音になります。



- この項目は、画面をスワイプして表示されるパネルからも設定できます。
-

【Bluetooth音量】

音量を設定します。

ヘッドセットなどのBluetooth機器を接続中に表示されます。

設定範囲は、0～15です。

0が最も小さく、15が最も大きくなります。

0に設定した場合、消音になります。



- この項目は、画面をスワイプして表示されるパネルからも設定できます。
-

【操作音】

タッチパネルや （電源/ホーム）ボタンを操作したときの音の種類を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

なし

消音

操作音1

操作音2

操作音3

【低消費電力モード】

設定項目は以下のとおりです。

【自動電源オフ】

一定時間操作がおこなわれない状態が続いたとき、本製品の電源を自動的に切るまでの時間を設定します。

設定範囲は、0～999分です。



- 0に設定した場合、自動電源オフ機能は無効になります。
-

自動電源オフ機能が無効になる条件

- ホーム画面が表示されている、または設定モードの場合
- 本製品内の温度が許容範囲を超えた（エラー1022）状態
- データを受信した場合
- パッケージファイルをアップデート中の場合

[LCD表示濃度]

ディスプレイの明るさを設定します。

設定範囲は、1～10です。

1が最も暗く、10が最も明るくなります。



- 省電力のため、一定時間本製品を操作しなかった場合ディスプレイが暗くなります。
- この項目は、画面をスワイプして表示されるパネルからも設定できます。

[総発行枚数表示]

合計印字枚数の表示を有効または無効にします。

有効にすると、合計印字枚数がオンライン画面とオフライン画面に表示されます。

オンライン画面とオフライン画面上の、[QTY]の右の括弧内の数字が合計印字枚数です。



- 本製品の電源を入れたあとから電源を切るまでの合計印字枚数を表示します。
本製品の電源を切ると、枚数表示は[0]に戻ります。

[パスワード]

設定項目は以下のとおりです。

[パスワード機能]

パスワード設定を有効または無効にします。

パスワード設定を有効にすると、[設定]メニューが表示される前に、[パスワード]メニューで設定したパスワードを入力する必要があります。



- パスワードの初期値は、0310です。パスワードは、[パスワード] > [パスワード更新] > [level1]で変更できます。

[パスワード解除時間]

設定モードログイン後に、再度パスワード入力が必要になるまでの時間を設定します。

0にすると、設定モードに切替えたり設定メニュー項目を選択するたびにパスワードが必要になります。

設定範囲は、0～99分です。



- ログイン状態は設定モードおよびホーム画面表示中に維持されます。オンライン/オフライン画面に切替えると、[パスワード解除時間]の設定に関わらずログアウトされます。

[インストール時のセキュリティ機能]

本製品にpkgファイルをインストールするときにパスワードを入力するかどうかを設定します。

パスワードを有効に設定すると、パッケージファイルをダウンロードする前に、[パスワード]メニューで設定したパスワードを入力する必要があります。

選択肢は以下のとおりです。

無効

pkgファイルをインストールするときにパスワードは必要ありません。

USB

USBメモリからpkgファイルをインストールするときにパスワードが必要です。

すべて

USBメモリから、またはコンピュータでダウンロードしたpkgファイルをインストールするときにパスワードが必要です。



- pkgファイルをインストールするときに使用するパスワードは[システム] > [パスワード]で設定したいいずれかのパスワードです。

pkgファイルについて詳しい情報は、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

[NFCセキュリティ機能]

NFCインタフェースでAndroid端末から設定を書き込むとき、確認メッセージを表示するかパスワード入力を有効にするかを設定します。

NFCセキュリティ機能を使用するには、本製品の電源がオフの状態(Android端末から設定を書き込む必要があります。本製品の電源を入れると、確認メッセージまたはパスワード入力画面が表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

なし

本製品に設定を書き込むとき、確認メッセージは表示されず、パスワード入力も必要ありません。

確認

本製品に設定を書き込むとき、確認メッセージが表示されます。

パスワード

本製品に設定を書き込むとき、[パスワード]メニューで設定したパスワードを入力する必要があります。

[パスワード更新]

パスワードを変更します。

4～32文字で入力します。英数字(大文字および小文字)および記号を使用できます。

設定項目は以下のとおりです。

admin

工場用の設定項目です。

SATO認定のサービス担当者以外は使用できません。

manager

[サービスモード] メニューにアクセスするためのパスワードです。
SATO認定のサービス担当者以外は使用できません。

level1

[設定] メニューにアクセスするためのパスワードです。



- [level1] 以外のパスワードは、工場用および保守担当者用です。
-

[AC電源起動機能]

本製品の電源を取っている主電源のオン/オフにより、本製品の電源をオン/オフするかどうかを設定します。



本製品の電源を取っている主電源のオン/オフにより、本製品の電源をオン/オフします。



本製品の   (電源/ホーム) ボタンを押して、本製品の電源をオン/オフします。



- 本製品の電源のオン/オフを繰り返さないでください。
 - 主電源を切ってまたすぐに入れると、本製品がまだ電源オフ処理中のため起動しないことがあります。このようなときは、  (電源/ホーム) ボタンを押して本製品の電源を入れてください。
 - 本製品動作中（印字中、アップデート中）に電源を切らないでください。本製品が故障するおそれがあります。
 - 本製品の電源オフ処理が完了するまでは、電源コードを抜かないでください。
 - 誤った電源オン/オフの操作をおこなうと、本製品の設定が壊れるおそれがあります。本製品の設定が壊れた場合、初期値に戻ります。本製品の電源を正しく切り、設定メニューの変更を適切に保存するために、電源ボタンを使用することを推奨します。
-

[互換]

互換モードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[SBPL]

SBPLの互換モードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[CODE128(C) ゼロ補填]

CODE128のスタートコードがCの場合に、奇数桁を許容してゼロ補填で印字するかどうかを設定します。



奇数桁を許容してゼロ補填で印字します。



奇数桁を許容しません。コマンドエラーが発生し、バーコードは印字されません。

[漢字コマンド]

受信データに漢字コマンド<K5>、<K6>、<K7>が含まれる場合の動作を設定します。



受信データに含まれる漢字コマンド<K5>、<K6>、<K7>を適切なコマンドに変更して印字します。

- <K5>：16dot x 16dot全半角混在指定
- <K6>：24dot x 24dot 全半角混在指定
- <K7>：22dot x 22dot 全角指定



受信データに含まれる漢字コマンド<K5>、<K6>、<K7>を変更しません。各コマンドを受信したときの本製品の動作は以下のとおりです。

- <K5>：40dot x 40dot 全角指定で印字します。
- <K6>：コマンドエラーが発生し、バーコードは印字されません。
- <K7>：コマンドエラーが発生し、バーコードは印字されません。

[Font/Logo呼び出し]

フォント・ロゴ呼出し印字指定<RF>コマンドで指定する文字コードの処理を設定します。



リトルエンディアンで処理します。



ビッグエンディアンで処理します。

[OCR文字]

旧字体のOCR-Bフォントで印字するかを設定します。



旧字体のOCR-Bフォントで印字します。



新字体のOCR-Bフォントで印字します。

[旧ジャーナル文字]

ジャーナル印字にX21フォントを使用するかを設定します。



X21フォントを使用します。



Sフォントを使用します。

[文字間ピッチ]

文字間ピッチ指定<P>コマンドで指定したパラメータを、次の指定をするまで有効にするかを設定します。



指定したパラメータを次の指定をするまで有効にします。



指定したパラメータをフィールド内で有効にします。

[パラメータ揮発化]

以下のコマンドで指定した設定値を、本製品の電源オフで現在の設定値に戻すかを設定します。

- 動作モード指定<PM>
- 印字速度指定<CS>
- 印字濃度指定<#E>
- 基点補正指定<A3>（符号指定なし）
- センサ種指定<IG>
- 印字方式指定<PH>
- 用紙仕様指定<YE>



本製品の電源を切ると設定値は現在の設定値に戻ります。



本製品の電源を切ってもコマンドで指定した設定値は保持されます。

[中国漢字コマンド]

中国語印字指定コマンドを使用できるようにするかを設定します。

中国語印字指定コマンドは以下のとおりです。

- 24dot x 24dot 横書き中国語印字指定<C2>
- 24dot x 24dot 縦書き中国語印字指定<c2>
- 24dot x 24dot 全半角混在横書き中国語印字指定<C9>
- 24dot x 24dot 全半角混在縦書き中国語印字指定<c9>



- 中国語印字指定コマンドを使用するには、あらかじめ漢字モードおよび文字コードを設定しておく必要があります。[アプリケーション] > [SBPL] > [フォント設定] > [漢字設定] メニューの[漢字モード] および[文字コード] で設定するか、印字データに漢字コード指定<KC>コマンドおよび漢字セット指定<KS>コマンドを含めてください。

[解説文字重ね印字]

バーコードの解説文字をグラフィックと重ねて印字する場合に、解説文字の背景を白無地にせず、そのまま重ねて印字するかを設定します。



解説文字をグラフィックにそのまま重ねて印字します。



解説文字の各文字の背景を白無地にして印字します。

[非対応コマンド応答]

本製品が対応していないコマンドを受信した場合に、コマンドエラーとせずに処理を終了するかを設定します。



何もせずにコマンド処理を終了します。



コマンドエラーを発生させます。

[用紙仕様]

用紙仕様を設定します。

用紙仕様によって、ペーパーエンド検出後に本製品が動作を停止するタイミングが変わります。

選択肢は以下のとおりです。

のりつきラベル

最後の用紙がプラテンローラー上に残った状態で停止します。

のりなしタグ

最後の用紙を排出しきってから停止します。

[オプション動作待機時間指定]

オプション動作待機時間指定<TW>コマンドで指定したパラメータを、印字中カットモードおよびパーシャルカットモードでの排出カット時間にも適用するかを設定します。



- [印字] > [排出カット] メニューでも排出カット時間を設定できます。
- 動作待機時間指定<TW>コマンドのパラメータの指定範囲は000、005～200（100ms単位）ですが、排出カット時間の設定範囲は1～5秒（1秒単位）となるため、パラメータは以下のように変換されます。
 - 000：排出カットなし
 - 005～014：1秒
 - 015～024：2秒
 - 025～034：3秒
 - 035～044：4秒
 - 045～200：5秒

[BT コマンド Matrix2of5]

バーコード比率登録指定<BT>コマンドでマトリックス2of5を指定したときに登録するバーコード種を設定します。



Matrix2of5を登録します。



Coop2of5/NEC2of5を登録します。

[X20フォント 互換]

X20フォントでプロポーショナルピッチを選択可能にするかを設定します。この設定により、XUフォントでプロポーショナルピッチを選択したときの旧機種との互換も切替わります。



X20フォントで固定ピッチとプロポーショナルピッチが選択可能になります。また、XUフォントでプロポーショナルピッチを選択したときに、旧機種と同じ文字幅になります。



X20フォントは固定ピッチになります。また、XUフォントでプロポーショナルピッチを選択したときに、旧機種の文字幅と差異が発生します。

[部分コピー指定]

ラベル内コピー（部分コピー）指定<WD>コマンドのコピー領域に連番指定<F>コマンドを含めた場合に、コピー先に連番を反映して印字するかを設定します。



コピー先に連番を反映して印字します。



コピー元とコピー先で同じ印字結果となります。

[印字有効領域]

印字有効領域に関する互換モードを有効または無効にします。



互換モードを有効にします。

- 。 用紙サイズ指定<A1>コマンドで指定した横ラベルサイズに補正値を加えた値を印字領域とします。
- 。 印字領域を超えるデータを印字するとき、縦・横の印字最大領域まで印字します。



互換モードを無効にします。

- 。 用紙サイズ指定<A1>コマンドで指定した横ラベルサイズ通りの値を印字領域とします。
- 。 印字領域を超えるデータを印字するとき、縦・横の印字最大領域まで印字しないことがあります。



- 用紙サイズ指定<A1>コマンドは1アイテム中に1回のみ指定してください。1アイテム中に複数回指定すると、正しい印字結果を得られない可能性があります。

[ネットワーク]

LANの互換モードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[ソケットキャンセル機能]

本製品がすでにソケット接続済みのときに、他からの接続要求をキャンセルするかを設定します。

[Wi-Fi]

無線LANの互換モードを設定します。

オプションのWLAN/Bluetoothキット取り付け時のみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[Wi-Fi ソケットキャンセル機能]

本製品がすでにソケット接続済みのときに、他からの接続要求をキャンセルするかを設定します。

[USB]

USBの互換モードを設定します。

設定項目は以下のとおりです。

[デバイスID]

旧製品のデバイス IDを返送するかを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [無効]

- [L'espritV/CT4i ID]
- [ETER400/CT4i ID]



- 本設定はデバイスIDの互換にのみ対応しています。旧製品のプリンタドライバが送信するコマンドとの互換には対応していません。
- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

[RFID]

RFIDの互換モードを有効または無効にします。

RFIDモデルで、[アプリケーション] > [プロトコル] メニューが[SBPL]に設定されている場合のみ表示されます。

[RS-232C]

RS-232Cの互換モードを設定します。

オプションのRS-232Cキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[ENQ応答]

受信バッファフルエラー発生時の、STATUS3の返送ステータスを設定します。



「バッファオーバー(a)」を返送します。



「その他のエラー(k)」を返送します。

[テーマ]

表示テーマを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [ソフトグレー]
- [ダーク]



【ツール】メニュー



【ツール】メニューには、以下の設定項目があります。

【メディアスタートアップ】

使用する用紙種類に合った印字設定を一括で設定できます。

【メディアスタートアップ】をタップし、画面の表示に従って設定をおこないます。最終画面で【適用】をタップすると本製品に設定が適用されます。

設定できる項目は以下のとおりです。メディアスタートアップの実行結果は、各設定項目に反映されます。

- 【印字】 > 【メディア種】
- 【印字】 > 【印字方式】
- 【印字】 > 【印字速度】
- 【印字】 > 【センサタイプ】
- 【印字】 > 【印字濃度】
- 【印字】 > 【詳細設定】 > 【センサ調整】 以下の設定項目
- 【印字】 > 【詳細設定】 > 【用紙無駄なし】 以下の設定項目
- 【通信設定】 > 【RFID】 > 【RFIDタグ型式】 > 【読出し】（RFIDモデルのみ）



- 設定をキャンセルするには、設定の途中で （電源/ホーム）ボタンを押すか最終画面で【破棄】をタップします。

【メディアプロフィール編集】

用紙種類ごとの印字設定をメディアプロフィールとして登録し、ホーム画面から簡単に呼び出せるようにします。

設定項目は以下のとおりです。

[メディアプロファイル登録]

用紙種類ごとの印字設定をメディアプロファイルとして登録します。最大5件のメディアプロファイルを登録できます。

メディアプロファイルに登録できる設定項目は以下のとおりです。

- [印字] > [メディア種]
- [印字] > [印字方式]
- [印字] > [印字速度]
- [印字] > [センサタイプ]
- [印字] > [印字濃度]
- [印字] > [詳細設定] > [センサ調整] 以下の設定項目
- [印字] > [詳細設定] > [用紙無駄なし] 以下の設定項目
- [通信設定] > [RFID] > [RFIDタグ型式] > [読出し] (RFIDモデルのみ)

新規登録するには、[未登録]と表示されている項目をタップします。登録済みのメディアプロファイルを編集するには、そのプロファイル名が表示されている項目をタップします。画面の表示に従って設定をおこないます。最終確認画面で[登録]をタップすると、メディアプロファイルが登録されます。

登録したメディアプロファイルのアイコンがホーム画面に追加されます。アイコンをタップすると本製品に設定を適用できます。



- 設定をキャンセルするには、設定の途中で (電源/ホーム) ボタンを押すか最終画面で[破棄]をタップします。
- 適用しようとしているメディアプロファイルに、その時点の本製品の設定では適用できない値が含まれる場合は、それらの値は反映されません。

[メディアプロファイル削除]

登録済みのメディアプロファイルを削除します。

削除するメディアプロファイルをタップし、確認メッセージでをタップします。

メディアプロファイルを削除すると、ホーム画面に表示されていたメディアプロファイルアイコンも削除されます。

[テスト印字]

テスト印字を実行します。

設定項目は以下のとおりです。

[工場設定]

工場で使用するテスト印字です。

[設定一覧]

本製品の設定情報を印字します。

1. 「設定一覧」メニューに一覧表示されている項目を確認および設定します。
2.  をタップすると、テスト印字が開始されます。 をタップすると、印字を一時停止します。

テスト印字を終了するには印字を一時停止してから をタップします。

設定項目は以下のとおりです。

カテゴリ

設定一覧を印刷するカテゴリを選びます。

選択肢は以下のとおりです。

- [すべて]
- [インフォメーション]
- [印字]
- [通信設定]
- [アプリケーション]
- [システム]

用紙幅

テスト印字に必要な用紙幅を表示します。

必要な用紙幅は、[小] で50.8mmです。

用紙長

テスト印字に使用する用紙の1枚分の長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	400～1600dot
305dpi (1dot=0.083mm)	600～2400dot

印字位置調整

縦方向の印字位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、印字位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、印字位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

オフセット調整

ティアオフ、カットおよびハクリの用紙停止位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、停止位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、停止位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

印字濃度調整

テスト印字の印字濃度を微調整します。

設定範囲は、0～99です。

0が最も薄く、99が最も濃くなります。



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 本メニューの設定は、[テスト印字] メニュー下の各テスト印字の設定と連動して変更されます。
- [印字位置調整]、[オフセット調整]、および[印字濃度調整]の設定は、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューの各設定と連動して変更されます。

【設定一覧（QRコード）】

本製品の設定情報をQRコードで印字します。

1. [設定一覧（QRコード）] メニューに一覧表示されている項目を確認および設定します。
2.  をタップすると、テスト印字が開始されます。 をタップすると、印字を一時停止します。

テスト印字を終了するには印字を一時停止してから をタップします。

設定項目は以下のとおりです。

カテゴリ

設定一覧を印刷するカテゴリを選びます。

選択肢は以下のとおりです。

- [すべて]
- [インフォメーション]
- [印字]
- [通信設定]

- [アプリケーション]
- [システム]

用紙幅

テスト印字に必要な用紙幅を表示します。

必要な用紙幅は、[小] で50.8mmです。

用紙長

テスト印字に使用する用紙の1枚分の長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	400～1600dot
305dpi (1dot=0.083mm)	600～2400dot

印字位置調整

縦方向の印字位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、印字位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、印字位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

オフセット調整

ティアオフ、カットおよびハクリの用紙停止位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、停止位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、停止位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

印字濃度調整

テスト印字の印字濃度を微調整します。

設定範囲は、0～99です。

0が最も薄く、99が最も濃くなります。



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 本メニューの設定は、[テスト印字] メニュー下の各テスト印字の設定と連動して変更されます。
- [印字位置調整]、[オフセット調整]、および[印字濃度調整]の設定は、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューの各設定と連動して変更されます。

[用紙センサ]

用紙センサレベルの検出結果を印字します。

1. [用紙センサ] メニューに一覧表示されている項目を確認および設定します。
2.  をタップすると、テスト印字が開始されます。 をタップすると、印字を一時停止します。

テスト印字を終了するには印字を一時停止してから をタップします。

設定項目は以下のとおりです。

用紙幅

テスト印字に必要な用紙幅を表示します。

必要な用紙幅は、[小] で50.8mmです。

用紙長

テスト印字に使用する用紙の1枚分の長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	400～1600dot
305dpi (1dot=0.083mm)	600～2400dot

印字位置調整

縦方向の印字位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot

解像度	設定範囲
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、印字位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、印字位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

オフセット調整

ティアオフ、カットおよびハクリの用紙停止位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、停止位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、停止位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

印字濃度調整

テスト印字の印字濃度を微調整します。

設定範囲は、0～99です。

0が最も薄く、99が最も濃くなります。



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 本メニューの設定は、[テスト印字] メニュー下の各テスト印字の設定と連動して変更されます。
- [印字位置調整]、[オフセット調整]、および[印字濃度調整]の設定は、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューの各設定と連動して変更されます。

[BDアドレス]

BDアドレスを印字します。

1. [BDアドレス] メニューに一覧表示されている項目を確認および設定します。
2.  をタップすると、テスト印字が開始されます。 をタップすると、印字を一時停止します。

テスト印字を終了するには印字を一時停止してから をタップします。

設定項目は以下のとおりです。

用紙幅

テスト印字に必要な用紙幅を表示します。

必要な用紙幅は、[大]で101.6mmです。

印字位置調整

縦方向の印字位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、印字位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、印字位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

オフセット調整

ティアオフ、カットおよびハクリの用紙停止位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot

設定値を小さくすると、停止位置が紙送り方向に移動します。

設定値を大きくすると、停止位置が紙送り方向と逆方向に移動します。

印字濃度調整

テスト印字の印字濃度を微調整します。

設定範囲は、0～99です。

0が最も薄く、99が最も濃くなります。



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 本メニューの設定は、[テスト印字] メニュー下の各テスト印字の設定と連動して変更されます。
- [印字位置調整]、[オフセット調整]、および[印字濃度調整]の設定は、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューの各設定と連動して変更されます。

[ヘッドチェック]

ヘッドチェック印字をします。

1. [ヘッドチェック]メニューに一覧表示されている項目を確認および設定します。
2. をタップすると、ヘッドチェック印字が開始されます。をタップすると、印字を一時停止します。

ヘッドチェック印字を終了するには印字を一時停止してからをタップします。

設定項目は以下のとおりです。

用紙幅

ヘッドチェック印字に使用する用紙の用紙幅を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	320～832dot
305dpi (1dot=0.083mm)	480～1248dot

用紙長

ヘッドチェック印字に使用する用紙の1枚分の長さを設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	40～280dot
305dpi (1dot=0.083mm)	60～420dot

印字位置調整

縦方向の印字位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～30dot
305dpi	-45～45dot

解像度	設定範囲
(1dot=0.083mm)	

設定値を小さくすると、印字位置が紙送り方向（用紙の先端方向）に移動します。

設定値を大きくすると、印字位置が紙送り方向と逆方向（用紙の後端方向）に移動します。

オフセット調整

用紙停止位置を設定します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～45dot

設定値を小さくすると、停止位置が紙送り方向（用紙の先端方向）に移動します。

設定値を大きくすると、停止位置が紙送り方向と逆方向（用紙の後端方向）に移動します。

印字濃度調整

ヘッドチェック印字の印字濃度を微調整します。

設定範囲は、0～99です。

0 が最も薄く、99 が最も濃くなります。



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
- 本メニューの設定は、[テスト印字] メニュー下の各テスト印字の設定と連動して変更されます。
- [印字位置調整]、[オフセット調整]、および[印字濃度調整]の設定は、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューの各設定と連動して変更されます。

[HEXダンプ]

HEXダンプ印字や受信バッファのダンプデータをUSBメモリに保存します。

設定項目は以下のとおりです。

[HEXダンプモード]

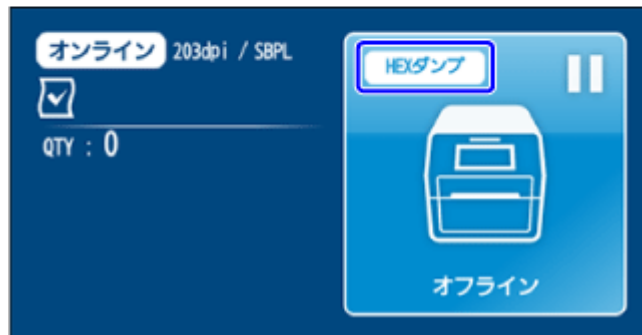
HEXダンプモードを有効または無効にします。

[HEXダンプモード] を有効にすると、受信データが印字されると同時にhexdump/内に受信データのファイルが作成されます。

設定を無効に戻すと、作成されたファイルをディスプレイ上で確認できます。



- [HEXダンプモード] を有効にすると、オンライン画面/オフライン画面に [HEXダンプ] と表示されます。



- 受信データのファイルは、インターフェースの種類ごとに最大10ファイルまで保存できません。ファイルサイズによっては、10ファイルまで保存できない場合があります。
- 本製品のhexdump/内に作成されるファイルの詳細は以下のとおりです。

BT00xx.bin

Bluetooth経由の受信データ。

LAN00xx.bin

LAN経由の受信データ。

NFC00xx.bin

NFC経由の受信データ。

PIPE00xx.bin

パイプ経由の受信データ。

SCI00xx.bin

RS-232C経由の受信データ。

USB00xx.bin

USB経由の受信データ。

WIFI00xx.bin

無線LAN経由の受信データ。

- [HEXダンプモード] を有効にしても、本製品を再起動すると無効になります。

[バッファダンプ]

受信バッファのデータを本製品に保存します。

[HEXダンプモード] メニューを無効にしている場合に使用できます。

本製品にデータを保存するには、開始画面の[開始]をタップします。

受信バッファのデータは、本製品のbuff/に保存されます。



- インタフェースの種類ごとに、受信バッファのデータファイルが作成されます。
- 本製品のbuff/内に作成されるファイルの詳細は以下のとおりです。

BT0001.bin

Bluetooth受信バッファの内容。

LAN0001.bin

LAN受信バッファの内容。

NFC0001.bin

NFC受信バッファの内容。

PIPE0001.bin

パイプ受信バッファの内容。

SCI0001.bin

RS-232C受信バッファの内容。

USB0001.bin

USB受信バッファの内容。

WIFI0001.bin

無線LAN受信バッファの内容。

- [バッファダンプ] を再度実行すると、既存ファイルは上書きされます。
-

[ログファイル]

設定項目は以下のとおりです。

[コピー]

本製品のログファイルをUSBメモリにコピーします。

本製品背面のUSBコネクタ (Type A) にUSBメモリを取り付けている場合にのみ有効になります。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。
-

ログファイルをコピーする手順は以下のとおりです。

1. 一覧からコピーするファイルの種類をタップします。
 - buff/

〔バッファダンプ〕の実行で保存した、受信バッファのデータ

- **hexdump/**

〔HEXダンプモード〕で作成した受信データ

2. コピーするファイルをタップします。選択されているファイル名が強調表示されます。
3.  をタップすると、選んだファイルがUSBメモリにコピーされます。



- 〔HEXダンプモード〕が有効の場合、ファイルが表示されるまでに時間がかかることがあります。
-

〔削除〕

本製品のログファイルを削除します。

ログファイルを削除する手順は以下のとおりです。

1. 一覧から削除するファイルの種類をタップします。
 - **buff/**
〔バッファダンプ〕の実行で保存した、受信バッファのデータ
 - **hexdump/**
〔HEXダンプモード〕で作成した受信データ
2. 削除するファイルをタップします。選択されているファイル名が強調表示されます。
3.  をタップすると、選択したファイルが削除されます。



- 〔HEXダンプモード〕が有効の場合、ファイルが表示されるまでに時間がかかることがあります。
-

〔印字〕

本製品のログファイルの内容をダンプ印字します。

ログファイルを印字する手順は以下のとおりです。

1. 一覧から印字するファイルの種類をタップします。
 - **buff/**
〔バッファダンプ〕の実行で保存した、受信バッファのデータ
 - **hexdump/**
〔HEXダンプモード〕で作成した受信データ
2. 印字するファイルをタップします。オフライン画面が表示されます。
3. 〔オンライン〕をタップすると、印字が開始されます。



- ファイルの内容を印字するには、複数の用紙を使用することがあります。
-



- [HEXダンプモード] が有効の場合、ファイルが表示されるまでに時間がかかることがあります。

[リセット]

本製品に保存されているデータや設定値を初期化します。

設定項目は以下のとおりです。

[データ]

本製品に保存されているデータを初期化します。

初期化されるデータは、本製品に登録されているフォントやグラフィックです。

[データ] を選ぶと、初期化の確認画面が表示されます。



をタップすると初期化が実行されます。初期化したあと、本製品は再起動します。



- 通常は初期化を実行する必要はありません。印字条件が変更される可能性があります。

[データ&設定]

本製品のデータおよび設定値を初期化します。

初期化されるデータは、本製品に登録されているフォントやグラフィックです。

初期化する設定項目を選びます。

選択肢は以下のとおりです。

ユーザーリセット

データおよび設定値を初期化します。

ユーザーリセット(-I/F)

通信設定以外のデータおよび設定値を初期化します。

工場リセット

工場出荷時の状態に初期化します。

工場リセット(-I/F)

通信設定以外の項目を工場出荷時の状態に初期化します。

通信設定

通信設定のデータと設定値を初期化します。

印字

[印字] メニューのデータと設定値を初期化します。

初期化する項目を選ぶと、初期化の確認画面が表示されます。



をタップすると初期化が実行されます。

初期化したあと、本製品は再起動します。

【設定】

初期化する設定項目を選びます。

選択肢は以下のとおりです。

ユーザーリセット

設定値を初期化します。

ユーザーリセット(-I/F)

通信設定以外の設定値を初期化します。

工場リセット

工場出荷時の状態に初期化します。

工場リセット(-I/F)

通信設定以外の項目を工場出荷時の状態に初期化します。

通信設定

通信設定の設定値を初期化します。

印字

〔印字〕メニューの設定値を初期化します。

初期化する項目を選ぶと、初期化の確認画面が表示されます。

 をタップすると初期化が実行されます。

初期化したあと、本製品を再起動してください。

【プロフィール】

カスタムした本製品の設定のプロファイルを管理します。

〔ロード〕と〔保存〕メニューに現在のプロファイル名が表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

【削除】

登録されているプロファイルを削除します。

プロファイルが登録されていないと利用できません。

手順は以下のとおりです。

1. 削除するプロファイルをタップします。
2. メッセージの  をタップします。
一覧からプロファイル名が削除されます。

【ロード】

登録されているプロファイルを読み込みます。

プロファイルが登録されていないと利用できません。

手順は以下のとおりです。

1. 読み込むプロフィールをタップします。
2. メッセージのをタップします。

【保存】

現在の本製品の設定内容を、登録されているプロフィールに上書き保存します。

プロフィールが登録されていないと利用できません。

本製品に登録されているプロフィールの一覧が表示されます。

手順は以下のとおりです。

1. 上書きするプロフィールをタップします。
2. メッセージのをタップします。

【名前を付けて保存】

現在の本製品の設定をプロフィールとして新規登録します。

新規登録するプロフィールの名前を入力してください。

最大32文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）、数字、および記号を使用できます。

ソフトウェアキーボードのをタップして確定します。

新しいプロフィールの名前が「保存」、「ロード」、「開始」のリストに表示されます。

【開始】

本製品起動時に読み込むプロフィールを選択します。

プロフィールが登録されていないと利用できません。

手順は以下のとおりです。

1. 本製品起動時に読み込むプロフィールをタップします。
2. メッセージのをタップします。

【サービスモード】

サービス用の設定項目です。

SATO認定のサービス担当者以外は使用できません。

【工場モード】

工場用の設定項目です。

SATO認定のサービス担当者以外は使用できません。

[Wi-Fiサイトサーベイ]

アクセスポイントごとの電波強度を調査し、表示または印字をします。

オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

サイトサーベイ表示

アクセスポイントごとの電波強度を表示します。

サイトサーベイ印字

アクセスポイントごとの電波強度を印字します。

[証明書登録]

無線LAN認証とHTTPSで使用する証明書をインストールします。

本製品背面のUSBコネクタ（Type A）にUSBメモリを取り付けている場合にのみ有効になります。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。
-

設定項目は以下のとおりです。

HTTPS

HTTPSの証明書をUSBメモリからインストールします。

Wi-Fiルート証明書

Wi-FiルートCA証明書をUSBメモリからインストールします。

Wi-Fiクライアント証明書

Wi-Fiクライアント証明書をUSBメモリからインストールします。

Wi-Fi秘密鍵

Wi-FiプライベートキーをUSBメモリからインストールします。

EAP-FAST PACファイル

EAP-FAST PACファイルをUSBメモリからインストールします。

証明書およびPACファイルをインストールする手順は以下のとおりです。

1. 証明書ファイルをUSBメモリのルートフォルダに保存します。

以下のファイル拡張子を使用できます。

- .pem、.crt、.cer、.der（PEM またはDER フォーマットでのRoot CAおよびクライアント証明書用）
- .pfx、.p12（PKCS #12 フォーマットでのクライアント証明書用）
- .prv、.key（PEM/PKCS #8 フォーマットでのプライベートキー用）

- .pac (PACファイル用)

2. USBメモリを本製品背面のUSBコネクタ (Type A) に挿入します。
3. [設定] > [ツール] > [証明書登録] メニューに移動します。
4. インストールする証明書をタップします。上記の項目説明をご覧ください。
5. 一覧から証明書ファイルをタップします。

【証明書削除】

無線LAN認証とHTTPSで使用する証明書を削除します。

HTTPS

インストールされているHTTPSの証明書を削除します。

Wi-Fiルート証明書

インストールされているWi-FiルートCA証明書を削除します。

Wi-Fiクライアント証明書

インストールされているWi-Fiクライアント証明書を削除します。

Wi-Fi秘密鍵

インストールされているWi-Fiプライベートキーを削除します。

EAP-FAST PACファイル

インストールされているEAP-FAST PACファイルを削除します。

証明書およびPACファイルを削除する手順は以下のとおりです。

1. [設定] > [ツール] > [証明書削除] メニューに移動します。
2. 削除する証明書をタップします。上記の項目説明をご覧ください。
3. メッセージの  をタップします。

【Clone作成】

現在の本製品の設定およびインストールされているデータをUSBメモリにコピーします。

本製品背面のUSBコネクタ (Type A) にUSBメモリを取り付けている場合にのみ有効になります。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。

この機能は、交換する本製品の設定を新しい本製品に引き継ぐときや、複数の本製品を同じ設定でセットアップするときなどに使用します。

選択肢は以下のとおりです。

ネットワーク/BT情報なし

ネットワーク情報、Bluetoothのデバイス名以外の本製品の設定とデータをUSBメモリにコピーします。ネットワーク接続済みの複数の本製品を同じ設定でセットアップするときに選択します。

ネットワーク/BT情報あり (IPなし)

ネットワーク情報 (IPアドレス以外)、Bluetoothのデバイス名を含む本製品の設定とデータをUSBメモリにコピーします。同じネットワークに接続する複数の本製品を、同じ設定でセットアップするときに選択します。

ネットワーク/BT情報あり (IPあり)

ネットワーク情報 (IPアドレスを含む)、Bluetoothのデバイス名を含む本製品の設定とデータをUSBメモリにコピーします。交換する本製品の設定を新しい本製品に引き継ぐときに選択します。



- 設定はpkgファイル形式で保存されます。テキストエディタで開いて内容を確認したり編集することはできません。
- 設定を本製品に適用するには、pkgファイルをUSBメモリのルートフォルダに保存して、本製品に挿入します。

[AutoClone設定]

オートクローン機能は、本製品の設定が変更されたときに、その時点の設定およびインストールされているデータをUSBメモリに自動的に保存します。保存した設定とデータを復元するには、このUSBメモリを対象の本製品に挿入します。

本機能の実行 (設定とデータの保存) には、本製品内部のUSBコネクタ (Type A) を使用します。保存した設定とデータの復元には、本製品背面のUSBコネクタ (Type A) を使用します。



- USBメモリの容量は4GB以上を推奨します。
- 本機能で作成されたpkgファイルをほかのUSBメモリにコピーして使うことはできません。

設定項目は以下のとおりです。

[有効]

オートクローン機能を有効または無効にします。

本製品内部のUSBコネクタ (Type A) に、[USBフォーマット] メニューでフォーマットしたUSBメモリを取り付けている場合にのみ設定できます。

[USBフォーマット]

本製品内部のUSBコネクタ (Type A) に取り付けたUSBメモリをフォーマットし、オートクローン機能に使用できるようにします。

[AutoClone設定] > [有効] が有効の場合は利用できません。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。
- USBフォーマットを実行すると、USBメモリ内のデータがすべて削除されます。必要なデータは事前に別の場所に保存してください。

[ログ採取]

ログデータの保存ができます。

設定項目は以下のとおりです。

[有効]

ログ採取機能を有効または無効にします。

選択肢は以下のとおりです。



ログ採取機能を有効にします。有効にすると、電源を切る際にログデータが保存されます。



ログ採取機能を無効にします。



- 有効にすると、電源を切る際にログデータが保存されるため、電源オフにかかる時間が長くなる場合があります。電源がオフになるまでお待ちください。
- ログデータ保存中はディスプレイに「ログ保存中」のメッセージが表示されます。
- 電源オフ5回分のログデータが保存されます。
- 保存されるログデータは以下です。
 - キーイベント
 - 解析状況
 - システムログ・設定
 - 共有メモリ（受信バッファ含む）

[追加ログ]

追加で保存するログを設定します。

オプションの無線LAN/Bluetoothキットが取り付けられていて、[Wi-Fi] > [有効] メニューが有効の場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

Wi-Fiログ有効

Wi-Fi関連のログを有効または無効にします。



- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。
-

【保存】

ログデータをUSBメモリに保存します。

本製品内にログデータがあり、USBメモリを取り付けている場合にのみ有効になります。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。
-



をタップしてログデータをUSBメモリにコピーします。



- 保存したログデータはSATO認定のサービス担当者以外は使用できません。
-

【削除】

ログデータを削除します。



をタップしてログデータを削除します。

【スタートアップガイド】

スタートアップガイドを有効または無効にします。

有効にすると、スタートアップガイドは次回本製品の電源を入れたときに表示されます。



[インフォメーション] メニュー



[インフォメーション] メニューには、以下の設定項目があります。

[ヘルプ動画]

ヘルプ動画を表示します。

用紙およびリボンのセット、清掃方法、および消耗品の交換方法の動画を閲覧できます。

項目は以下のとおりです。

[用紙セット]

用紙のセット手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

[ロール紙]

ロール紙のセット手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

ロール紙をセットする手順を動画で表示します（標準仕様）。

カッタ機

ロール紙をセットする手順を動画で表示します（カッタ仕様）。

ハクリ機

ロール紙をセットする手順を動画で表示します（ハクリ仕様）。

[ファンフォールド紙]

ファンフォールド紙のセット手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

ファンフォールド紙をセットする手順を動画で表示します（標準仕様）。

カッタ機

ファンフォールド紙をセットする手順を動画で表示します（カッタ仕様）。

【用紙無駄なし】

用紙無駄なし機能有効時の用紙のセット手順を動画で示します。

項目は以下のとおりです。

【熱転写方式】

熱転写方式で用紙無駄なし機能を有効にしたときの、用紙のセット手順を動画で示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

用紙無駄なし機能有効時の用紙のセット手順を動画で表示します（標準仕様）。

カッタ機

用紙無駄なし機能有効時の用紙のセット手順を動画で表示します（カッタ仕様）。

【感熱方式】

感熱方式で用紙無駄なし機能を有効にしたときの、用紙のセット手順を動画で示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

用紙無駄なし機能有効時の用紙のセット手順を動画で表示します（標準仕様）。

カッタ機

用紙無駄なし機能有効時の用紙のセット手順を動画で表示します（カッタ仕様）。

【リボンセット】

リボンのセット手順を動画で表示します。

【用紙交換】

用紙の交換手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

【ロール紙】

ロール紙の交換手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

ロール紙を交換する手順を動画で表示します（標準仕様）。

カッタ機

ロール紙を交換する手順を動画で表示します（カッタ仕様）。

ハクリ機

ロール紙を交換する手順を動画で表示します（ハクリ仕様）。

[ファンフォールド紙]

ファンフォールド紙の交換手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

ファンフォールド紙を交換する手順を動画で表示します（標準仕様）。

カッタ機

ファンフォールド紙を交換する手順を動画で表示します（カッタ仕様）。

[リボン交換]

リボンの交換手順を動画で表示します。

[サーマルヘッド交換]

サーマルヘッドの交換手順を動画で表示します。

[プラテンローラー交換]

プラテンローラーの交換手順を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

プラテンローラーを交換する手順を動画で示します（標準仕様）。

ノンセパ機

プラテンローラーを交換する手順を動画で示します（ノンセパ仕様）。

[プリンタ清掃]

清掃方法を動画で表示します。

項目は以下のとおりです。

標準機

清掃手順を動画で示します（標準仕様）。

ノンセパ機

清掃手順を動画で示します（ノンセパ仕様）。

[ビルドバージョン]

本製品の情報とバージョンを表示します。

バージョン名

ビルドバージョンの名称を表示します。

日付

ビルドした日付を表示します。

チェックサム

ビルドバージョンのチェックサムを表示します。

カーネルバージョン

カーネルバージョンを表示します。

ブートバージョン

ブートバージョンを表示します。

[アプリケーション]

プリンタ言語など、本製品にインストールされているアプリケーションのバージョンを表示します。

[インストールログ]

本製品のインストールログデータを表示またはクリアします。

設定項目は以下のとおりです。

選択したログデータをクリアするには [クリア] を押します。



- 本製品内にログデータがない場合はこの画面は表示されません。
-

[RPMログ]

RPMログファイルの一覧をインストール、更新、除外の3つのセクションとあわせて表示します。

RPMログファイルはrpmファイルを含んだpkgファイルをインストールしたあとに作成されます。

[システム復旧]

システムリストアログを表示します。

システムリストアログファイルは、本製品のパネル操作ができない状態を引き起こしたpkgファイルのインストール後に作成されます。

[印字モジュール]

本製品の印字モジュールに関する情報を表示します。

項目は以下のとおりです。

メイン

メインファームウェアの情報を表示します。

[センサモジュール]

本製品のセンサモジュールに関する情報を表示します。

項目は以下のとおりです。

ブート

ブートファームウェアの情報を表示します。

メイン

メインファームウェアの情報を表示します。

[FPGAバージョン]

本製品のFPGAバージョンを表示します。

[カウンタ]

本製品のカウンタ情報を表示します。



- SATO認定のサービス担当者以外は、カウンタをクリアすることはできません。
-

設定項目は以下のとおりです。

[サーマルヘッド]

本製品のヘッドカウンタ情報を表示します。

項目は以下のとおりです。

総走行距離

現在の印字距離を表示します。

ヘッド走行距離1

ヘッド走行距離2

ヘッド走行距離3

[ヘッド走行距離1] には、現在の印字距離が表示されます。サーマルヘッドを交換すると、[ヘッド走行距離2] に表示されていた数値が [ヘッド走行距離3] に表示され、[ヘッド走行距離1] に表示されていた数値が [ヘッド走行距離2] に表示されます。[ヘッド走行距離1] は再度0からカウントを開始します。

[カット]

現在までのカット数を表示します。

[LAN]

LANインタフェースのアドレスを表示します。

項目は以下のとおりです。

IPv4アドレス

LANのIPv4アドレスを表示します。

IPv6アドレス

LANのIPv6アドレスを表示します。

LAN MACアドレス

LANのMACアドレスを表示します。

[Wi-Fi]

無線LANインタフェースのアドレスを表示します。

オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

項目は以下のとおりです。

Wi-Fi IPv4アドレス

無線LANのIPv4アドレスを表示します。

Wi-Fi IPv6アドレス

無線LANのIPv6アドレスを表示します。

Wi-Fi Directが有効な場合は表示されません。

Wi-Fi MACアドレス

無線LANのMACアドレスを表示します。

Wi-Fiリージョン

無線LANのリージョン情報を表示します。

Wi-Fiステータス

無線LANのステータスを表示します。

[Wi-Fi Direct]

Wi-Fi Directの接続情報を表示します。

オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けており、Wi-Fi Directが接続状態の場合にのみ表示されます。

[Wi-Fiバージョン]

無線LANのバージョンを表示します。

オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

[Bluetooth]

Bluetoothの接続情報を表示します。

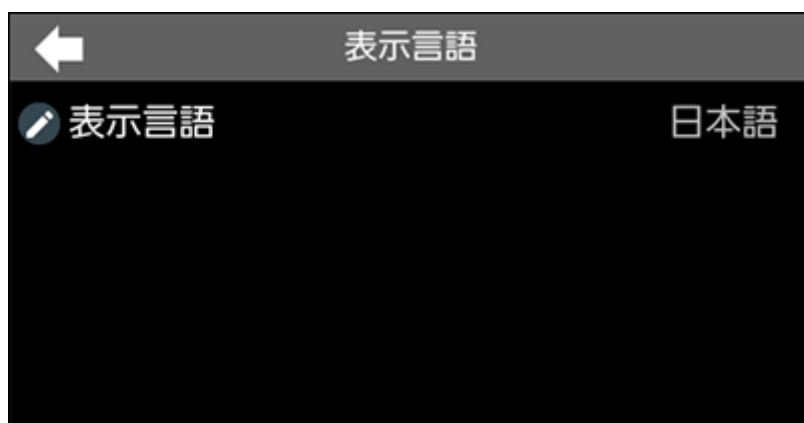
オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

[認証]

本製品の認証情報を表示します。



〔表示言語〕メニュー



〔システム〕＞〔地域〕＞〔表示言語アイコン〕メニューを有効にしている場合に表示されます。
〔表示言語〕メニューへのショートカットが表示されます。



[Bluetooth] メニュー



オプションの無線LAN/Bluetoothキットが取り付けられている場合にのみ表示されます。



- [有効] メニューを無効にすると、[ペアリング] メニューの [ペアリングされたデバイス] だけが表示されます。

[Bluetooth] メニューには、以下の設定項目があります。

[有効]

Bluetooth機能を有効または無効にします。

[デバイス名]

本製品のデバイス名を設定します。

1～53文字で入力します。英数字（大文字および小文字）および記号を使用できます。

[PINコード]

PINコードを設定します。

4～16桁のPINコードを入力できます。英数字（大文字および小文字）および記号を使用できます。

[BDアドレス]

本製品のBDアドレスを表示します。（このアドレスは変更できません。）

[BDバージョン]

Bluetoothのファームウェアバージョンを表示します。（この値は変更できません。）

[ホストBDアドレス]

ホストのBDアドレスを確認できます。

[ペアリング]

本製品をBluetoothデバイスとペアリングします。

項目は以下のとおりです。

使用可能なデバイス

本製品がBluetoothデバイスを検索し、デバイス名を表示します。

ペアリングされたデバイス

ペアリングしたことのあるデバイスの一覧を表示します。一覧から削除するデバイスを選びます。



- [使用可能なデバイス] には、プロファイルがHFP、HSPまたはHIDのデバイスのみが表示されます。例えば、ヘッドセットやキーボード、スキャナなどです。
-

[IAP機能]

iOS搭載機器とのBluetooth 接続が可能となるIAP 認証の状態を表示します。

接続可能な場合、☒が表示されます。

[iOS再接続]

iOS再接続機能の無効/手動の設定をおこないます。

選択肢は以下のとおりです。

無効

iOS再接続をおこないません。iOS端末側からの再接続が必要です。

手動

iOS再接続を、電源を入れたとき、オンライン/オフラインに切替えたときにおこないます。

[認証モード]

認証レベルを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

認証なし

認証なし

レベル2-1

PINコード認証、サービスレベル、暗号化なし

レベル2-2

PINコード認証、サービスレベル、暗号化あり

レベル3

PINコード認証、リンクレベル、暗号化なし

レベル4

セキュアシンプルペアリング対応、サービスレベル、暗号化あり（セキュアシンプルペアリング非対応機器との通信可）

[ISI]

ISI通信パラメータを設定します。

設定範囲は、0、または18～4096です。

ISW通信パラメータの設定値以上の値を設定してください。

[ISW]

ISW通信パラメータを設定します。

設定範囲は、0、または18～4096です。

ISI通信パラメータの設定値により、表示される設定範囲が異なります。

ISI通信パラメータの設定値以下の値を設定してください。

[PSI]

PSI通信パラメータを設定します。

設定範囲は、18～4096です。

PSW通信パラメータの設定値以上の値を設定してください。

[PSW]

PSW通信パラメータを設定します。

設定範囲は、18～4096です。

PSI通信パラメータの設定値により、表示される設定範囲が異なります。

PSI通信パラメータの設定値以下の値を設定してください。

[CRCチェック]

CRCチェック機能を有効または無効にします。

[通信プロトコル]

通信プロトコルを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [STATUS3]
- [STATUS4]
- [NONE]



[Wi-Fi] メニュー



オプションの無線LAN/Bluetoothキットが取り付けられている場合にのみ表示されます。



- 設定が終わったら  をタップします。設定内容を保存するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。
- 変更を破棄する場合は  をタップします。変更を破棄するかどうかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。

[Wi-Fi] メニューには、以下の設定項目があります。

[有効]

Wi-Fi接続を有効または無効にします。

[Wi-Fi設定]

無線LANを設定します。

[有効] メニューが有効の場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[IPv4]

Wi-FiのIPv4を設定します。



- 設定が終わったら  (電源/ホーム) ボタンを押します。

設定内容を保存するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。

入力した情報にエラーがあった場合は、変更を破棄するかどうかを確認するメッセージが表示されます。変更を破棄する場合は  をタップします。設定をやり直す場合は  をタップします。

設定項目は以下のとおりです。

[モード]

IPアドレスの割り当て方法を選びます。

[Wi-Fi Direct] が無効の場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

DHCP

DHCPサーバーから自動でIPアドレス、サブネットマスクアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを取得します。

固定アドレス

IPアドレス、サブネットマスクアドレス、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを手動で設定します。

[DHCP]

リース期間を更新し、DHCPサーバーからIPアドレスを再度取得します。

[Wi-Fi Direct] が無効で、[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合にのみ表示されます。

[IPアドレス]

IPアドレスを設定および確認します。

[Wi-Fi Direct] が有効な場合は変更できません。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したIPアドレスが表示されます。

[モード] メニューで [固定アドレス] を選択している場合、IP アドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

000.000.000.000～255.255.255.255

[サブネットマスク]

サブネットマスクアドレスを設定および確認します。

[Wi-Fi Direct] が有効な場合は変更できません。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したサブネットマスクアドレスが表示されます。

[モード] メニューで [固定アドレス] を選択している場合、サブネットマスクアドレスを設定します。

アドレスの各グループは0、128、192、224、240、248、252、254、255の間で設定できます。

設定範囲は以下のとおりです。

128.000.000.000～255.255.255.254

[ゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイアドレスを設定および確認します。

[Wi-Fi Direct] が有効な場合は変更できません。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したゲートウェイアドレスが表示されます。

[モード] メニューで [固定アドレス] を選択している場合、デフォルトゲートウェイアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

000.000.000.000～255.255.255.255



- ここで設定したゲートウェイアドレスは、[通信設定] > [ネットワーク] > [設定] > [LAN] > [IPv4] の設定と共有されます。

[DNS]

[Wi-Fi Direct] が無効の場合にのみ表示されます。

DNSサーバーのアドレスを設定および確認します。

[モード] メニューで [DHCP] を選択している場合、画面にDHCPサーバーから取得したDNSサーバーのアドレスが表示されます。

[モード] メニューで [固定アドレス] を選択している場合、DNSサーバーのアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

000.000.000.000～255.255.255.255



- DNSサーバーには、最大で3つのIPアドレスを設定できます。IPアドレスはカンマで区切って設定してください。
- ここで設定したDNSサーバーアドレスは、[通信設定] > [ネットワーク] > [設定] > [LAN] > [IPv4] の設定と共有されます。

[IPv6]

Wi-FiのIPv6を設定します。

[Wi-Fi Direct] が無効の場合にのみ表示されます。



- 設定が終わったら  (電源/ホーム) ボタンを押します。

設定内容を保存するかを確認するメッセージが表示されたら  をタップします。

入力した情報にエラーがあった場合は、変更を破棄するかどうかを確認するメッセージが表示されます。変更を破棄する場合は  をタップします。設定をやり直す場合は  をタップします。

設定項目は以下のとおりです。

[モード]

IPアドレスの割り当て方法を選択するか、IPv6を無効にします。

選択肢は以下のとおりです。

無効

IPv6を無効にします。

自動設定

IPアドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを自動で生成します（ステートレスモード）。

DHCP

IPアドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスをDHCPサーバーから自動で取得します（ステートフルモード）。

固定アドレス

IPアドレス、プレフィックス長、デフォルトゲートウェイアドレス、およびDNSサーバーのアドレスを手動で設定します。

[DHCP]

リース期間を更新し、DHCPサーバーからIPアドレスを再度取得します。

〔モード〕メニューで〔DHCP〕を選択している場合にのみ表示されます。

[IPアドレス]

IPアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔自動設定〕または〔DHCP〕を選択している場合、画面に取得したIPアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、IP アドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

0:0:0:0:0:0:0:1～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff

[プレフィックス長]

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、プレフィックスを設定します。

設定範囲は、1～128 です。

[ゲートウェイ]

デフォルトゲートウェイアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔自動設定〕または〔DHCP〕を選択している場合、画面に取得したゲートウェイアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、デフォルトゲートウェイアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

0:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff



- ここで設定したゲートウェイアドレスは、〔通信設定〕＞〔ネットワーク〕＞〔設定〕＞〔LAN〕＞〔IPv6〕の設定と共有されます。
-

[DNS]

DNSサーバーのプライマリアドレスを設定および確認します。

〔モード〕メニューで〔自動設定〕または〔DHCP〕を選択している場合、画面に取得したDNSサーバーのアドレスが表示されます。

〔モード〕メニューで〔固定アドレス〕を選択している場合、DNSサーバーのアドレスを設定します。

設定範囲は以下のとおりです。

0:0:0:0:0:0:0:0～ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff:ffff



- IPv6のDNSサーバーには、1つだけIPアドレスを設定できます。
- ここで設定したDNSサーバーアドレスは、〔通信設定〕＞〔ネットワーク〕＞〔設定〕＞〔LAN〕＞〔IPv6〕の設定と共有されます。

[ポート]

TCP/IPポート番号を設定します。

AEPモードが有効の場合、使用可能なポート数はLANと無線LAN接続合わせて2ポートのみです。

AEPモードが有効で無線LANインタフェースを使用している場合、本メニューは選択できません。

〔通信設定〕＞〔ネットワーク〕＞〔設定〕＞〔LAN〕＞〔ポート〕メニューでポート設定をおこなってください。

ポート1～ポート3の役割

TCP/IPのSocketサーバー機能では、以下の2つの接続方法のどちらかを使用できます。

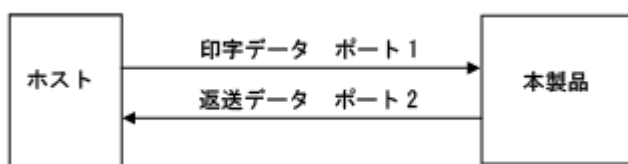
接続方法と通信プロトコルによって、使用するポートとその役割が異なります。

2ポート接続

- AEPモード無効時（初期値）

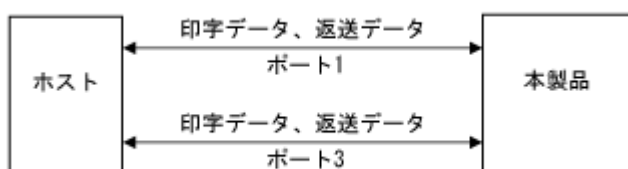
印字データの受信にはポート1を使用し、ステータス返送にはポート2を使用します。

2ポート接続は、通信プロトコルがSTATUS4のときに使用できます。



- AEPモード有効時

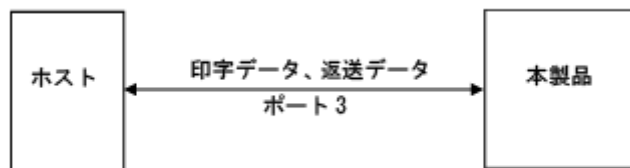
ポート1とポート3は印字データの受信とステータス返送の両方に使用できます。ポート2は使用できません。



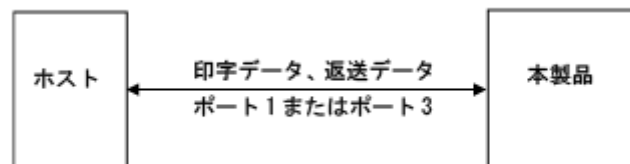
1ポート接続

印字データの受信とステータス返送に1つのポートを使用します。

通信プロトコルがSTATUS4の場合は、ポート3を使用します。



通信プロトコルがSTATUS3またはSTATUS5の場合は、ポート1またはポート3を使用します。



- AEPはSTATUS3、STATUS4、STATUS5プロトコルに対応していません。

設定項目は以下のとおりです。

[ポート番号1]

ポート1のポート番号を設定します。

AEPモードが無効でSTATUS4の2ポート接続時には、印字データの受信に使用します。STATUS3/STATUS5の1ポート接続時には印字データの受信とステータス返送に使用します。

AEPモードの2ポート接続時には、印字データの受信とステータス返送の両方に使用できます。

設定範囲は、1～65535です。



- 各ポート（1、2、3）は異なる設定値にしてください。
- 他で使用されるポート番号と重複すると正しく通信できなくなるため、20、21、22、53、80、123、443、465、515、546、547、587、8080、8883以外の設定値にしてください。



- AEPはSTATUS3、STATUS4、STATUS5プロトコルに対応していません。

[ポート番号2]

ポート2のポート番号を設定します。

STATUS4の2ポート接続時に、ステータス返送に使用します。

設定範囲は、1～65535です。



- 各ポート（1、2、3）は異なる設定値にしてください。
- 他で使用されるポート番号と重複すると正しく通信できなくなるため、20、21、22、53、80、123、443、465、515、546、547、587、8080、8883以外の設定値にしてください。



- [AEP] が有効な場合、この設定は無効になります。

[ポート番号3]

ポート3のポート番号を設定します。

AEPモードが無効でSTATUS3/STATUS4/STATUS5の1ポート接続時には、印字データの受信とステータス返送に使用します。

AEPモードの2ポート接続時には、印字データの受信とステータス返送の両方に使用できます。

設定範囲は、1～65535です。



- 各ポート（1、2、3）は異なる設定値にしてください。
- 他で使用されるポート番号と重複すると正しく通信できなくなるため、20、21、22、53、80、123、443、465、515、546、547、587、8080、8883以外の設定値にしてください。



- [Legacy Status設定] を有効にすると、ポート番号3の返送ステータスフォーマットを互換モードに変更できます。
- AEPはSTATUS3、STATUS4、STATUS5プロトコルに対応していません。

[通信プロトコル]

通信プロトコルを設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [STATUS4 周期]
- [STATUS4 ENQ]
- [STATUS3]
- [STATUS5]
- [NONE]

[TCP接続待ち]

複数のホストやアプリケーションからの接続要求時に、接続待ちをおこなうか設定します。



1つのホストやアプリケーションとの接続中に他のホストやアプリケーションからの接続要求を受け入れることができます。あとから受信したホストやアプリケーションとの接続は保留状態となり、前の接続が終わり次第順番に処理されます。



1つのホストやアプリケーションとの接続が終わるまで、他のホストやアプリケーションからの接続要求を受け入れません。



- 有効にした場合、STATUS3/STATUS4/STATUS5の1ポート接続で接続してください。STATUS4の2ポート接続で接続した場合の動作は保証していません。



- 通常は初期値のままご使用ください。

[Legacy Status設定]

ポート番号3の返送ステータスフォーマットを互換モードにするかを設定します。

[通信プロトコル] メニューで [NONE] を選択している場合は表示されません。



- 通常は初期値のままご使用ください。

互換モードでは、ポート番号3の返送ステータスフォーマットが以下のように変わります。

STATUS3



(互換モード)

ACK/NAK返送

ACK/NAK 1バイト

ステータス返送

00 00 00 0b	STX	Status3	ETX
-------------	-----	---------	-----

 15バイト

(標準モード)

ACK/NAK返送

ACK/NAK 1バイト

ステータス返送

STX	Status3	ETX
-----	---------	-----

 11バイト

STATUS4



(互換モード)

ACK/NAK返送

ACK/NAK 1バイト

ステータス返送

00 00 00 20	00 00 00 1C	ENQ	STX	Status4	ETX
-------------	-------------	-----	-----	---------	-----

 36バイト

(標準モード)

ACK/NAK返送

00 00 00 01 ACK/NAK 5バイト

ステータス返送

00 00 00 1C	ENQ	STX	Status4	ETX
-------------	-----	-----	---------	-----

 32バイト

STATUS5

☒ (互換モード)

ACK/NAK返送

返送なし

ステータス返送

00 00 00 16	STX	Status5	ETX	26バイト
-------------	-----	---------	-----	-------

☐ (標準モード)

ACK/NAK返送

返送なし

ステータス返送

STX	Status5	ETX	22バイト
-----	---------	-----	-------

[BCC]

BCCチェック機能を有効または無効にします。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS5] を選択している場合にのみ表示されます。

[ENQ応答遅延時間]

ステータス要求コマンドENQに対するステータス返送の応答を遅らせる時間を設定します。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS4 周期] 以外を選択している場合に設定できます。

設定範囲は、0～9999msです。



- 通常は初期値のままご使用ください。

[Status4周期応答間隔]

ステータス返送の周期の応答間隔を設定します。

[通信プロトコル] メニューで [STATUS4 周期] を選択している場合に設定できます。

設定範囲は、100～999msです。

[プロキシ]

プロキシを設定します。

設定項目は以下のとおりです。



- ここで設定したプロキシ設定は、[通信設定] > [ネットワーク] > [設定] > [LAN] > [プロキシ] の設定と共有されます。
- 設定を変更すると、ホーム画面に本製品の再起動を促すメッセージが表示されます。このようなときは、設定を有効にするために本製品を再起動してください。

[有効]

プロキシの使用を有効または無効にします。



- プロキシを有効にするには、[サーバー] および [プロキシを使用しない] を設定する必要があります。
-

[サーバー]

プロキシサーバーの名前またはIPアドレスを設定します。

例：http://192.168.1.11



- IPアドレスは、必ずhttpから始まる形式で指定してください。httpsから始まるIPアドレスは使用できません。
-



- 有効な名前またはIPアドレスの設定が必要です。
 - コロン (:) を入力するには、「.」を長押ししてください。
-

[ポート番号]

プロキシサーバーとの通信を許可するポート番号を設定します。

設定範囲は、1～65535です。



- 他のサービスで使用していないポート番号を設定してください。正しく通信ができません。
-

[ユーザー名]

プロキシサーバーとの接続にユーザー名が必要な場合、ユーザー名を設定します。

1～8文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）および数字を使用できます。

[パスワード]

プロキシサーバーとの接続にパスワードが必要な場合、パスワードを設定します。

1～16文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）、数字、および記号を使用できます。



- 一部の記号は使用できません。使用できない記号を入力すると、画面に「無効な値」と表示されます。
-

[プロキシを使用しない]

プロキシの例外となる名前、IPアドレスまたはドメインを設定します。



- この設定には「127.0.0.1」と「localhost」が含まれている必要があるため、設定画面はこの2つが入力された状態で表示されます。カンマで区切って値を追加できます。
-

[DHCPオプション]

Wi-FiのDHCPオプションを設定します。

[IPv4] > [モード] メニューまたは [IPv6] > [モード] メニューで [DHCP] を選択している場合のみ、[DHCPオプション] を設定できます。

設定項目は以下のとおりです。

[DNS更新(オプション81)]

DHCPサーバーオプション81の使用を有効または無効にします。

選択肢は以下のとおりです。



DHCPサーバーオプション81の使用を有効にします。



DHCPサーバーオプション81の使用を無効にします。

[ホスト名]

ホスト名を設定します。

0～255文字で入力します。アルファベット（大文字および小文字）、数字、および記号を使用できます。



- 一部の記号は使用できません。使用できない記号を入力すると、画面に「無効な値」と表示されます。



- ピリオドは区切り文字としてのみ入力可能です。
- 空白にした場合、設定が無効になります。

[Wi-Fi Protected Setup (WPS)]

プッシュキー方式またはPINコード方式で無線LAN接続を設定します。



- 操作についてはアクセスポイント機器の説明書をご覧ください。
- [Wi-Fi Direct] が有効の場合は利用できません。

設定項目は以下のとおりです。

[プッシュボタン方式]

プッシュキー方式で無線LAN接続を設定します。

- [Wi-Fi Protected Setup (WPS)] メニューで [プッシュボタン方式] をタップします。
- 画面に [スキャン中...] と表示されたら、無線LAN機器のアクセスポイントのWPSキーを押します。
- アクセスポイントとの接続が確立されると、画面に [正しく設定できました。] と表示されます。

[PINコード方式]

PINコード方式で無線LAN接続を設定します。

- [Wi-Fi Protected Setup (WPS)] メニューで [PINコード方式] をタップします。

2. 画面に [スキャン中...] と表示されたら、画面に表示されたPINコードを設定して、無線LANまたはコンピュータのアクセスポイントにアクセスします。
3. アクセスポイントとの接続が確立されると、画面に [正しく設定できました。] と表示されます。

[Wi-Fi Direct]

Wi-Fi Direct機能を設定します。

Wi-Fi Direct機能は、[Wi-Fi接続設定] > [Wi-Fiモード] メニューで [Infrastructure] を選択している場合に有効になります。[Wi-Fi接続設定] > [Wi-Fiモード] メニューで [Ad-Hoc] から [Infrastructure] に変更した場合は、本製品を再起動してからWi-Fi Direct機能を設定してください。

設定手順は以下のとおりです。

1. [デバイス名] で本製品のデバイス名を設定します。1～16文字で入力します。英数字（大文字および小文字）および記号を使用できます。
2. [接続] を選んで、接続できるデバイス名を検索し表示するか、本製品がGO（グループオーナー）のときは接続要求を受け入れます。接続するデバイス名をタップします。
3. 新しいグループを作成する場合やリストからグループを選択する場合は、[グループを開始] を選びます。
4. 手順3でグループを解除するときは [グループを削除] を選びます。
5. 本製品や接続する機器の画面表示に従って、接続を完了します。
6. 接続を終了する場合は、[切断] をタップします。



- 最大10台の機器を接続できます。
 - Wi-Fi Directが有効な場合は、[デバイス名] を変更できません。
 - [グループを開始] と [グループを削除] は、本製品がWi-Fi Directネットワークに接続していないときのみ表示されます。
 - [切断] は、本製品がWi-Fi Directネットワークに接続しているときのみ表示されます。
 - グループを作成すると、本製品はGO（グループオーナー）に設定され、他の機器からの接続要求を待ちます。
 - グループ接続中に本製品の電源を切った場合、本製品の電源を入れたあと、自動的にグループ接続します。
-

[Wi-Fi接続設定]

無線LANの設定をします。

設定項目は以下のとおりです。

[SSID]

SSIDを設定します。

本製品で検出されたWi-Fiネットワークが画面に表示されます。

接続するWi-Fiネットワークの名称をタップします。

任意のWi-Fiネットワークを登録する場合は、 をタップしてネットワークの名称を入力します。

最大32文字で入力します。英数字（大文字および小文字）および記号を使用できます。

[ESS-IDステルス機能]

隠しSSID（ステルス機能）を設定します。

[Wi-Fiモード] メニューで [Infrastructure] を選択している場合にのみ表示されます。

[Wi-Fiモード]

無線LANの通信方式を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [Infrastructure]
- [Ad-Hoc]

[周波数帯]

周波数帯を設定します。

[Wi-Fiモード] メニューで [Infrastructure] を選択している場合にのみ表示されます。

選択肢は以下のとおりです。

- [All]
- [2.4 GHz]
- [5 GHz]

[チャンネル]

通信チャンネルを設定します。

[Wi-Fiモード] メニューで [Ad-Hoc] を選択している場合のみ、[チャンネル] を設定できます。

[セキュリティ]

ネットワークのセキュリティ方式を設定します。本製品、ホスト、ネットワーク機器のセキュリティ方式が一致するように設定してください。

選択肢は以下のとおりです。

- [なし]
- [WEP]
- [WPA2+WPA]
- [WPA2]
- [Dynamic WEP]

[Wi-Fiモード] メニューで [Ad-Hoc] を選択している場合は、[なし] および [WEP] のみが有効になります。

[WEP設定]

WEPキーを設定します。

[セキュリティ] メニューで [WEP] を選択している場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[認証]

WEP認証方式を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [オープンシステム認証]
- [共有キー認証]

[キーインデックス]

キーインデックスを設定します。

キーインデックス（WEPキー）は、接続する無線LANのアクセスポイントに合わせて設定します。
設定範囲は、1～4 です。



- 接続する機器によって、キーインデックスの範囲は0～3のものが 있습니다。その場合、本製品を「1」に設定した場合は、接続する機器を「0」に設定します。

[キー1] ～ [キー4]

WEPキー1～4を設定します。

アルファベット（大文字および小文字）および数字を入力できます。

WEPキーの長さによって、設定できる文字数は異なります。

- キーの長さが64ビットの場合
ASCII：5文字
16進数：10文字
- キーの長さが128ビットの場合
ASCII：13文字
16進数：26文字

[WPA設定]

WPA認証を設定します。

[セキュリティ] メニューで [WPA2+WPA] または [WPA2] を選択している場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[WPA認証]

WPA認証方式を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [Personal (PSK)]
- [Enterprise (802.1x)]
- [CCKM]

[事前共有キー]

PSK共有キーを設定します。

[WPA認証] メニューで [Personal (PSK)] を選択している場合にのみ表示されます。

8～63文字のASCII文字、または64桁の16進数で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[EAP設定]

EAP機能を設定します。

[WPA認証] メニューで [Personal (PSK)] 以外の項目を選択している場合、または [Wi-Fi接続設定] > [セキュリティ] メニューで [Dynamic WEP] を選択している場合にのみ表示されます。

設定項目は以下のとおりです。

[EAPモード]

EAPモード（認証モード）を設定します。

選択肢は以下のとおりです。

- [FAST]
- [LEAP]
- [PEAP]
- [TLS]
- [TTLS]

[ECC暗号スイート]

ECC暗号スイートを有効または無効にします。

[EAPモード] で [FAST] を選択している場合にのみ表示されます。

[内部方式]

内部方式を設定します。

[EAPモード] メニューで [FAST] 、 [PEAP] 、または [TTLS] を選択している場合にのみ表示されます。

- [EAPモード] メニューで [FAST] を選択している場合、内部方式は [AUTO] に設定されます。
- [EAPモード] メニューで [PEAP] を選択している場合、内部方式は [MSCHAPv2] に設定されます。
- [EAPモード] メニューで [TTLS] を選択している場合、選択肢は [MSCHAPv2] 、 [MSCHAP] 、 [CHAP] および [PAP] です。

[ユーザー名]

ユーザー名を設定します。

0～63文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[パスワード]

パスワードを設定します。

0～32文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[外部匿名ID]

外部IDを設定します。

[EAPモード] メニューで [FAST] 、 [PEAP] 、または [TTLS] を選択している場合にのみ表示されます。

0～63文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[サーバー証明認証]

サーバー認証を有効または無効にします。

[EAPモード] メニューで [LEAP] 以外を選択している場合に表示されます。

[秘密鍵パスワード]

秘密鍵パスワードを設定します。

[EAPモード] メニューで [TLS] を選択している場合にのみ表示されます。

0～64文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

[PACプロビジョニング]

PACの自動プロビジョニングを有効または無効にします。

[EAPモード] メニューで [FAST] を選択している場合にのみ表示されます。

[PACパスワード]

PACパスワードを設定します。

[EAPモード] メニューで [FAST] を選択しており、かつ [PACプロビジョニング] を無効にしている場合にのみ表示されます。

0～64文字で入力します。アルファベット、数字、および記号を使用できます。

Webブラウザからの本製品の設定

Web設定ページにアクセスする

本製品はブラウザでWeb設定ページを表示して、設定を変更できます。

イーサネットLAN接続またはWLAN接続で本製品にアクセスして、離れた場所から本製品の情報を確認したり、設定したりすることができます。



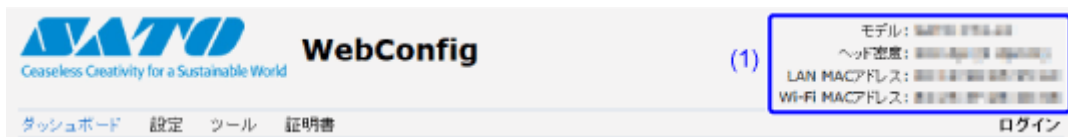
- Web設定ページにアクセスするには、本製品のIPアドレスが必要です。本製品のIPアドレスは、[設定] > [インフォメーション] > [LAN] または [Wi-Fi] メニューで確認できます。

1. ブラウザを開いて、本製品のURLを入力します。

本製品のIPアドレスが「192.168.143.123」の場合は、「https://192.168.143.123」と入力します。

セキュリティ証明書を求められた場合は、認証して続行をクリックする必要があります。

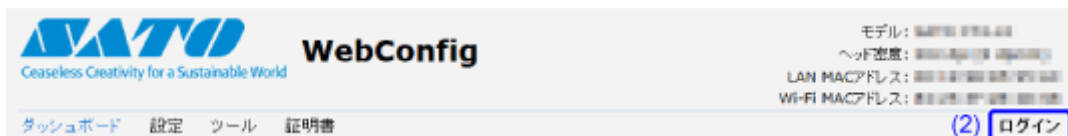
本製品のWeb設定ページが表示されます。各ページの右上(1)に、モデル名、現在の解像度とMACアドレスが表示されます。



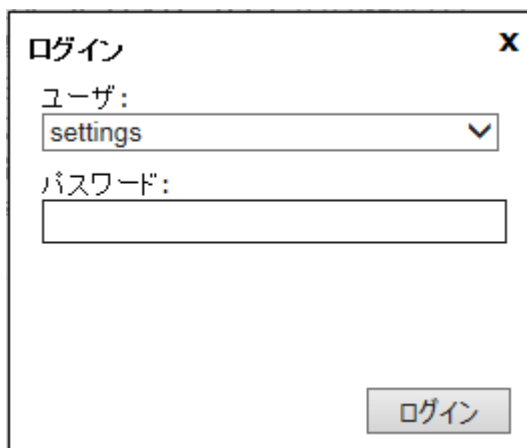
2. [設定] または [ツール] ページを閲覧する場合は、ログインします。

[ダッシュボード] と [証明書] ページは、ログインしなくても閲覧できます。

a. [ログイン] (2) をクリックします。



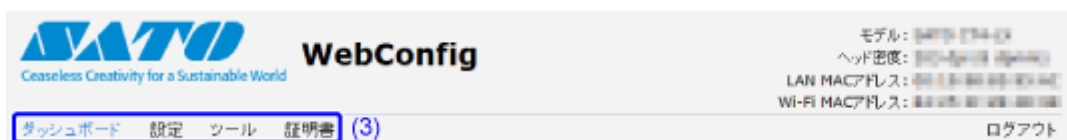
- b. ユーザーに [settings] を選択してパスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。



A login dialog box titled "ログイン" (Login) with a close button (X) in the top right corner. It contains two input fields: "ユーザ:" (User) with a dropdown menu showing "settings" and a checkmark, and "パスワード:" (Password) with an empty text box. At the bottom right is a button labeled "ログイン" (Login).

初期設定では、ユーザーが [settings] 、パスワードは「0310」 に設定されています。

3. 閲覧したいページ (3) をクリックします。

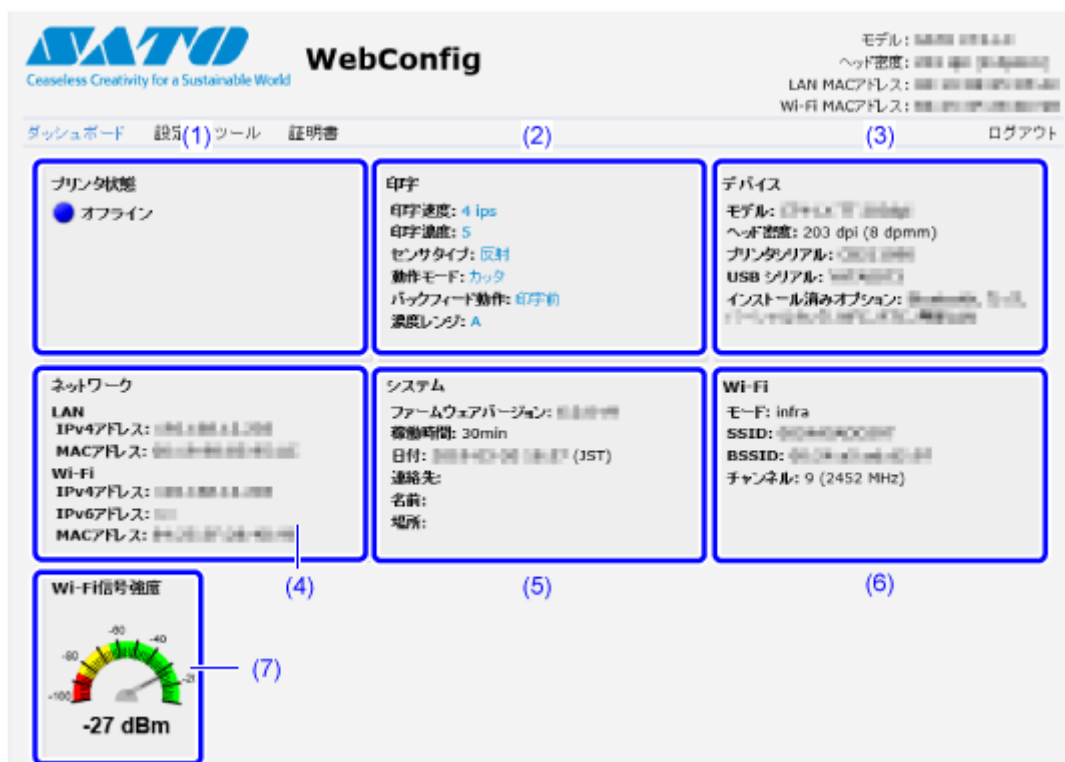


ダッシュボード

〔ダッシュボード〕はWeb設定ページの初期ページです。本製品の詳細情報や現在の状態が、いくつかの項目に分かれて表示されます。



- 〔ダッシュボード〕ページはログインしなくても閲覧できます。



(1) 〔プリンタ状態〕

本製品の現在の状態（オンライン、オフライン、エラー）と現在の状態アイコンが表示されます。

(2) 〔印字〕

印字速度、濃度、センサ、動作モード、バックフィードが表示されます。

(3) 〔デバイス〕

モデル、現在の解像度、取り付けられているオプションが表示されます。

(4) 〔ネットワーク〕

現在有効なインタフェースのIPアドレスとMACアドレスが表示されます。

(5) 〔システム〕

現在のファームウェアバージョン、稼働時間、SNMPの連絡先、名前、位置情報が表示されます。

(6) 〔Wi-Fi〕

現在のWi-Fi設定が表示されます。



- Wi-Fiが利用可能で有効な場合にのみ表示されます。

(7) [Wi-Fi信号強度]

現在のWi-Fiの通信強度が表示されます。



- P2Pグループオーナーの場合は表示されません。
-

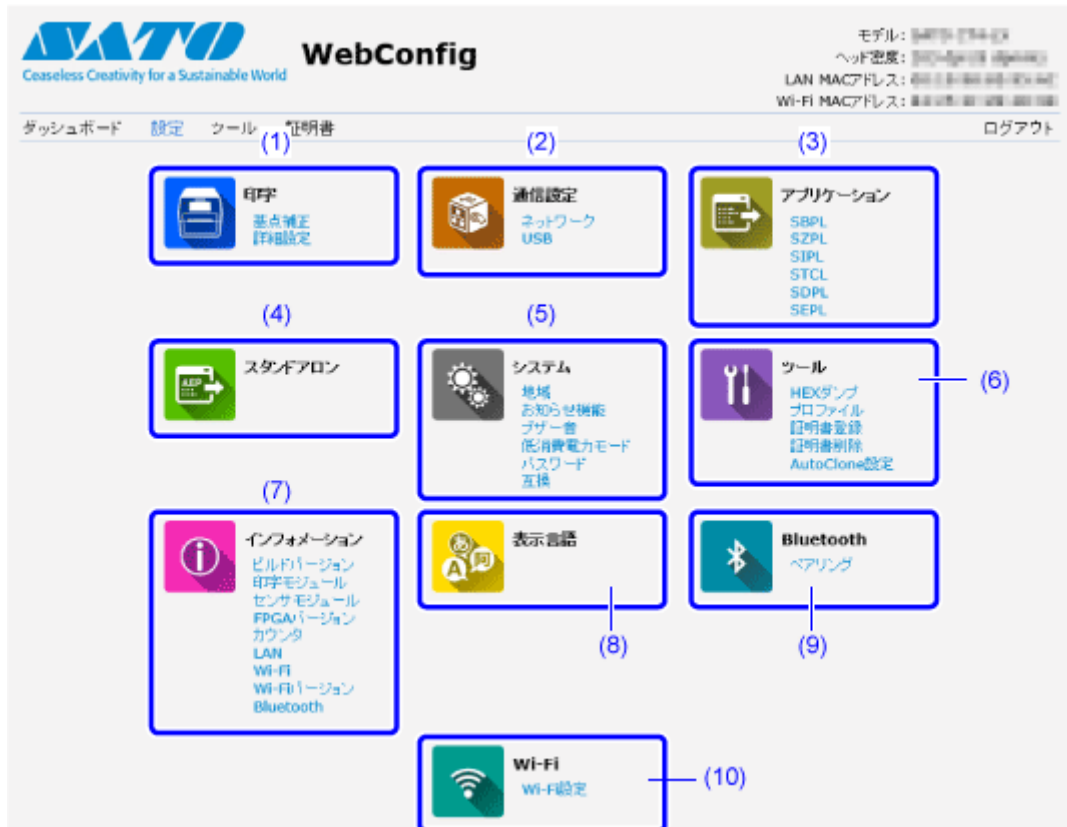
設定

本製品の設定モードと同様の設定を、ブラウザ上でおこなえます。



- 「設定」ページを閲覧するにはログインする必要があります。「設定」ページを開く前に「ログイン」をクリックして、ログインしてください。

初期設定では、ユーザーが「settings」、パスワードは「0310」に設定されています。



(1) 「印字」

設定モードの「印字」メニューと同様の設定がおこなえます。

(2) 「通信設定」

設定モードの「通信設定」メニューと同様の設定がおこなえます。

(3) 「アプリケーション」

設定モードの「アプリケーション」メニューと同様の設定がおこなえます。

(4) 「スタンドアロン」

設定モードの「スタンドアロン」メニューと同様の設定がおこなえます。

(5) 「システム」

設定モードの「システム」メニューと同様の設定がおこなえます。

(6) 「ツール」

設定モードの「ツール」メニューと同様の設定がおこなえます。

(7) [インフォメーション]

設定モードの [インフォメーション] メニューと同様の設定がおこなえます。

(8) [表示言語]

設定モードの [表示言語] メニューと同様の設定がおこなえます。



- [システム] > [地域] > [表示言語アイコン] メニューが有効の場合に表示されます。

(9) [Bluetooth]

設定モードの [Bluetooth] メニューと同様の設定がおこなえます。



- オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

(10) [Wi-Fi]

設定モードの [Wi-Fi] メニューと同様の設定がおこなえます。



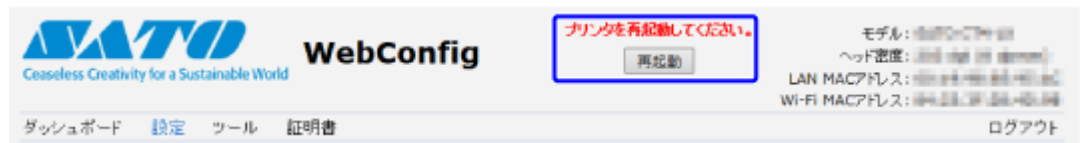
- オプションの無線LAN/Bluetoothキットを取り付けている場合にのみ表示されます。

以下は、[印字] ページを表示した場合の例です。



- Web設定ページの [通信設定] > [RFID] > [アンテナ位置] メニューでRFIDアンテナ位置を変更した場合は、本製品を再起動してください。設定値の変更だけでは、アンテナ位置の移動はおこなわれません。

- ページ上部に再起動を促すメッセージが表示された場合は、設定を有効にするために「再起動」をクリックして本製品を再起動してください。



ツール

認証に使用する証明書のインストール、ログの確認、テスト印字など、さまざまな設定や操作がおこなえます。



- 「ツール」ページを閲覧するにはログインする必要があります。「ツール」ページを開く前に「ログイン」をクリックして、ログインしてください。

初期設定では、ユーザーが「settings」、パスワードは「0310」に設定されています。



(1) [アップロード]

設定モードの「ツール」＞「証明書登録」と同様です。

無線LAN認証とHTTPSで使用する証明書をインストールします。

インストールする認証の「参照」をクリックします。

一覧から認証ファイルを選択して「アップロード」をクリックすると、認証ファイルがインストールされます。

(2) [クローン]

設定モードの「ツール」＞「Clone作成」と同様です。現在の本製品の設定およびインストールされているデータをコピーします。

(3) [パッケージをインストール]

パッケージファイルについて詳しい情報は、販売店、ディーラーまたはお客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

(4) [ログ]

ログディレクトリのすべてのログファイルが表示されます。クリックするとファイルをダウンロードできます。

(5) [リセット]

設定モードの「ツール」＞「リセット」と同様です。本製品に保存されているデータや設定値を初期化します。

(6) [パスワード]

設定モードの「システム」＞「パスワード」＞「パスワード更新」と同様です。本製品の各パスワードを変更します。

(7) [テスト印字]

設定モードの [ツール] > [テスト印字] と同様です。テスト印字を実行します。

(8) [サポート情報]

取り付けられたオプション、シリアル番号、アプリケーションのバージョンと設定などの本製品のさまざまな情報が表示されます。

また、現在の本製品画面のスクリーンショットや最後に印字したラベルのイメージを取得できます。

(9) [再起動]

本製品を再起動します。

証明書

本製品にインストールされたルート証明書機関とクライアント証明書が表示されます。

**WebConfig**

モデル: 無線LAN対応品 無線LAN
ヘッド密度: 無線LAN対応品 無線LAN
LAN MACアドレス: 無線LAN対応品 無線LAN
Wi-Fi MACアドレス: 無線LAN対応品 無線LAN

ダッシュボード 設定 ツール **証明書** ログアウト

インストール済み証明書

HTTPS (プレインストール証明書)

Certificate:
Data:
Version: 3 (0x2)
Serial Number:
a0:0e:9d:f7:05:2e:c6:34
Signature Algorithm: sha256WithRSAEncryption
Issuer: C=SE, ST=Vastergotland, L=Gothenburg, O=SATO Techno Lab Europe AB
Validity
Not Before: Mar 24 08:31:09 2016 GMT
Not After : Mar 24 08:31:09 2026 GMT
Subject: C=SE, ST=Vastergotland, L=Gothenburg, O=SATO Techno Lab Europe AB
Subject Public Key Info:
Public Key Algorithm: rsaEncryption
Public-Key: (2048 bit)
Modulus:
00:a4:00:01:e4:76:e0:b4:3d:2f:47:b9:e0:71:0b:
e1:06:60:14:27:76:dd:7e:97:71:4f:f7:35:fe:1f:



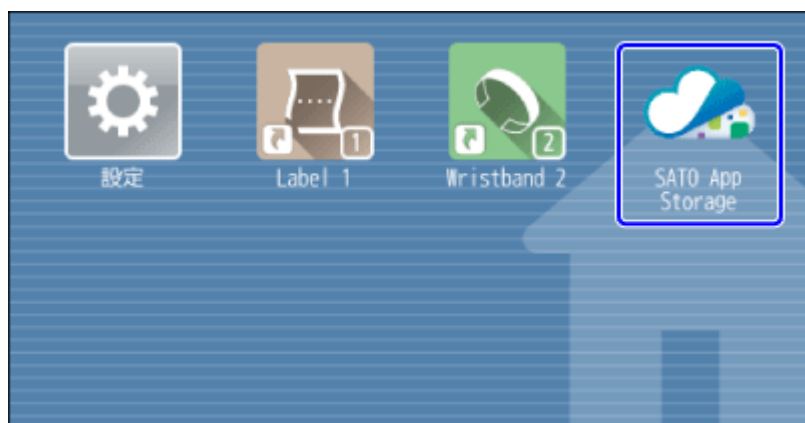
- PFX (PKCS #12)ファイルのクライアント証明書は表示されません。

SATO App Storageを有効にする

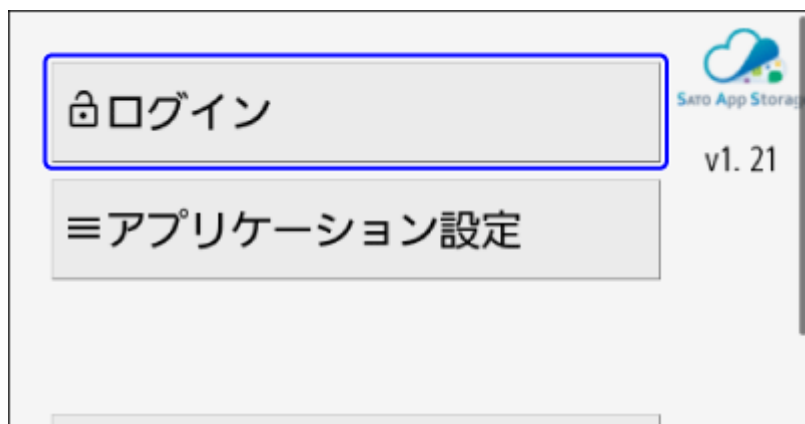
SATO App Storageユーザーの場合は、クラウドにログインして本製品でサービスを有効にします。これにより、クラウドにアップロードした最新のラベル印刷アプリケーションが本製品に自動的にダウンロードされ、インストールされます。

ログイン手順を説明します。

1. ホーム画面で [SATO App Storage] をタップします。



2. [ログイン] をタップします。



3. SATO App Storageのアカウント情報を入力し、[ログイン] をタップします。



クラウドにログインします。



- ログインに失敗した場合は、再度ログイン画面が表示されます。表示されるメッセージは原因により異なります。正しいアカウント情報を確認してから、再試行してください。

会社ID SATO

ログインID SupermarketABC

パスワード

802. DNS設定がされていません。問題が改善されない場合は最寄りのサトー販売店にご連絡ください。

ログイン

戻る

4. アカウントに複数の異なるアプリケーションが含まれている場合は、アプリケーションを選択する画面が表示されます。目的のアプリケーションを選択し、[インストール]をタップします。

選択する

Application1

Application2

Application3

Application4

インストール

戻る

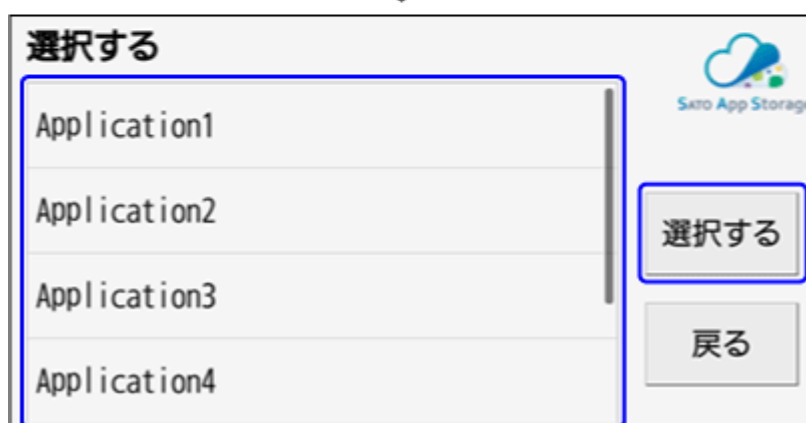
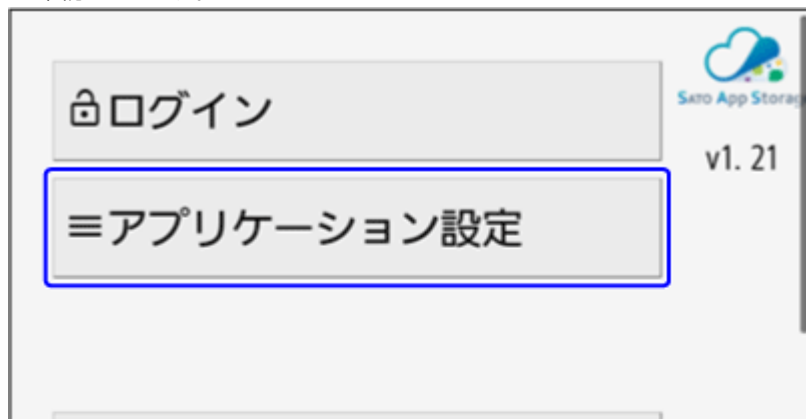
アプリケーションデータのダウンロードとインストールが自動的に開始されます。





- アプリケーションまたは本製品の起動時に、自動的に更新されるように設定されているアプリケーションをダウンロードすると、次に本製品の電源を入れたとき、起動時に自動的にクラウドに接続します。その後、インストールされたアプリケーションを起動するたびに、本製品はクラウドから最新バージョンをダウンロードしてインストールします。この自動更新は、アプリケーションの設定に従って実行されます。

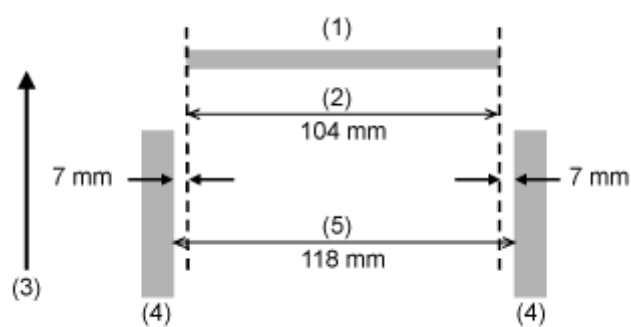
- SATO App Storage経由でアプリケーションをインストールしたあと、手順2の画面で「アプリケーション設定」をタップすると、各アプリケーションの情報を確認できます。リストからアプリケーションを選択し、「選択する」をタップします。アプリケーションの自動更新の設定状況や、本製品がSATO App Storageにアクセスする時刻を確認できます。



本製品の調整

印字有効範囲

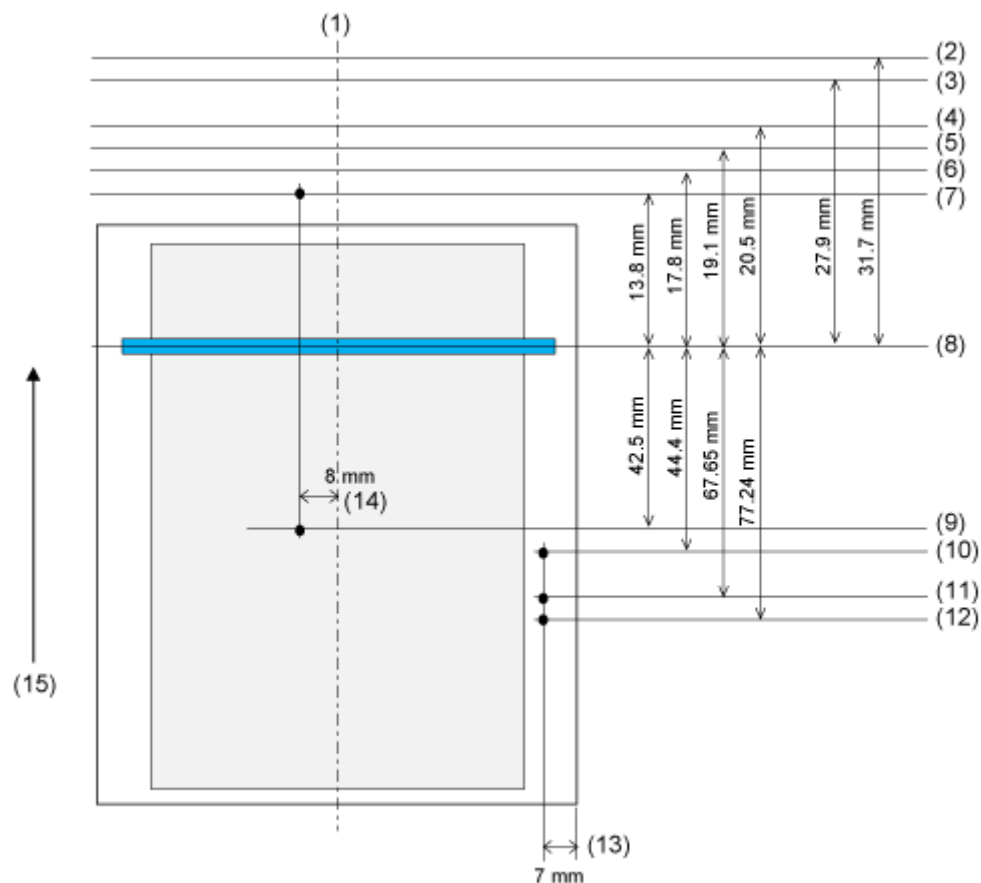
本製品の印字有効範囲は下図のとおりです。



- (1) サーマルヘッド
- (2) 印字有効範囲
- (3) 紙送り方向
- (4) 用紙ガイド
- (5) 最大通紙幅

用紙センサ位置および用紙停止位置

用紙センサおよび各動作モードでの用紙停止位置は下図のとおりです。



- (1) センタ位置
- (2) ノンセパティアオフ位置
- (3) カッタティアオフ位置
- (4) カッタ/ノンセパカッタ位置
- (5) ハクリ停止位置
- (6) ティアオフ位置
- (7) 用紙頭出しセンサ位置
- (8) サーマルヘッド位置
- (9) ギャップセンサ位置
- (10) アイマークセンサ位置
- (11) アイマークセンサ位置 (RFIDモデル)
- (12) ギャップセンサ位置 (RFIDモデル)
- (13) アイマークセンサ位置 (ラベル端から)
- (14) ギャップセンサ/用紙頭出しセンサ位置 (センタ位置から)
- (15) 紙送り方向

印字動作のフロー

印字動作について

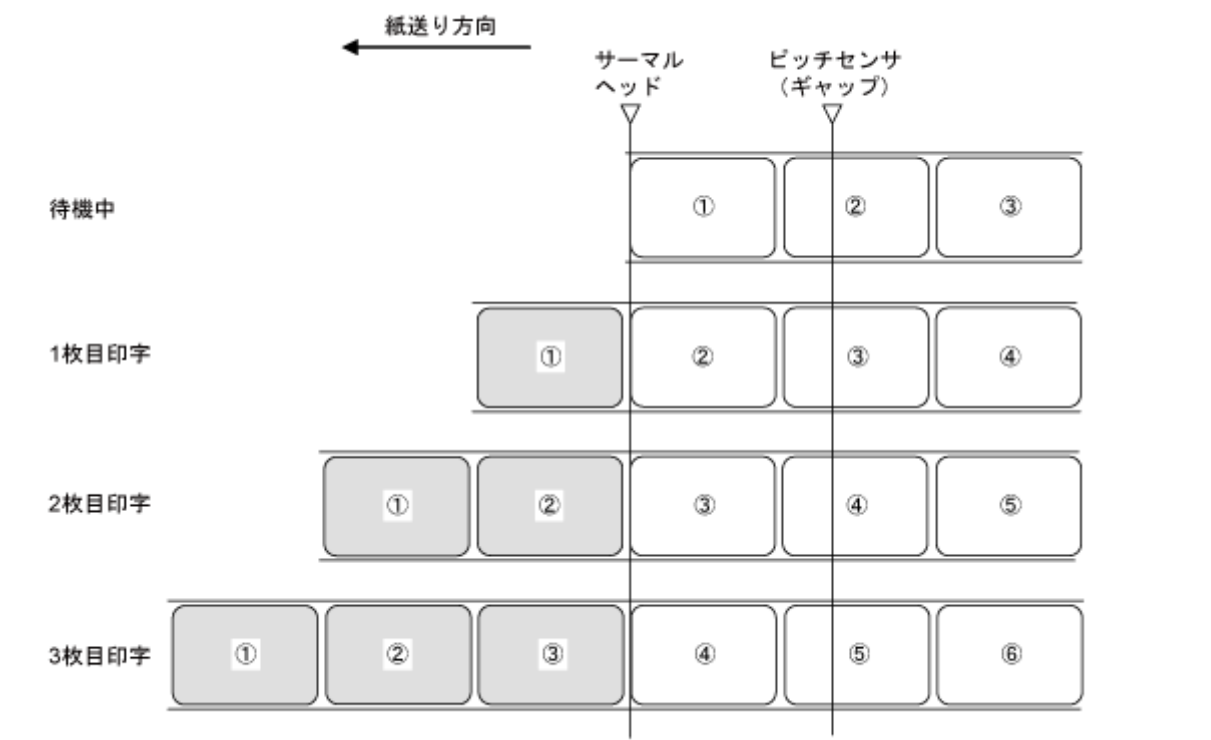
本製品の印字動作は、以下の設定の組合せによって変わります。

- 動作モード
- 用紙センサの有効/無効
- バックフィード動作
- ヘッドチェックの有効/無効

連続発行モードの動作フロー

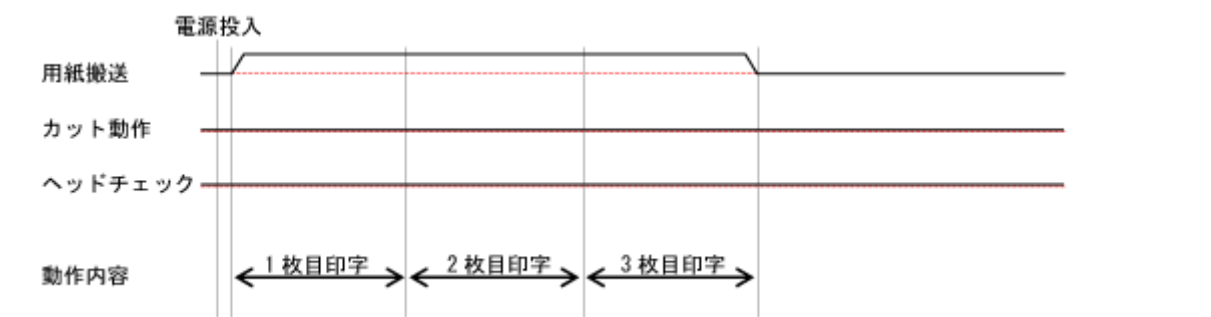
連続発行モード（ヘッドチェック無効）

動作



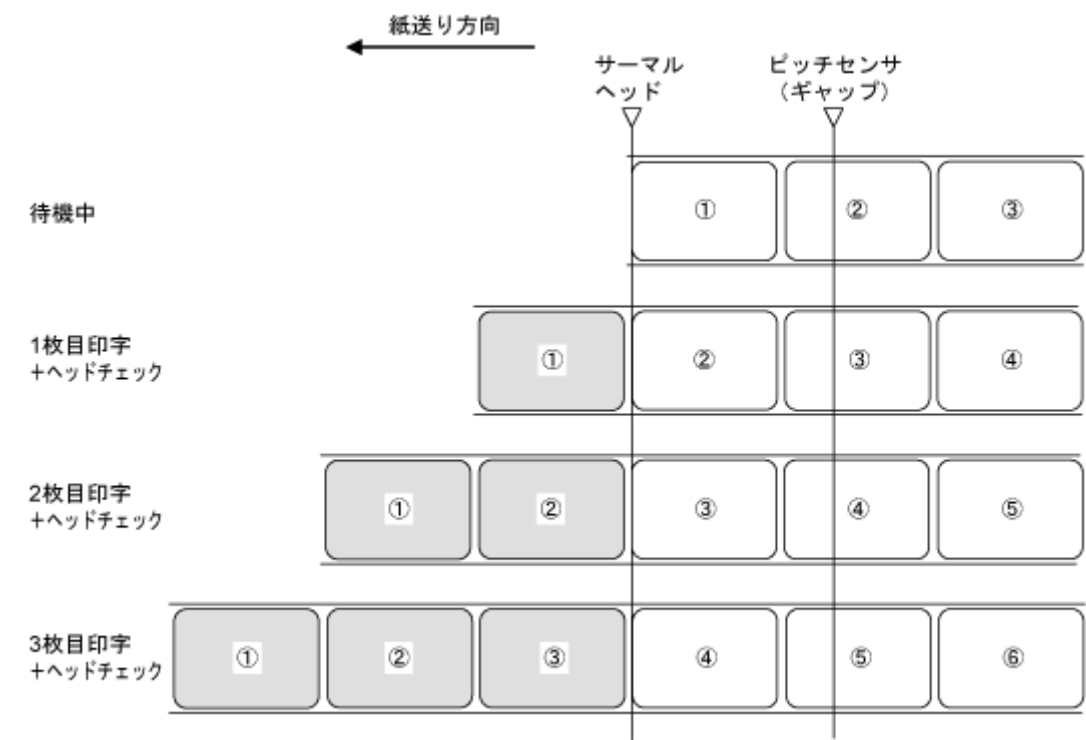
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



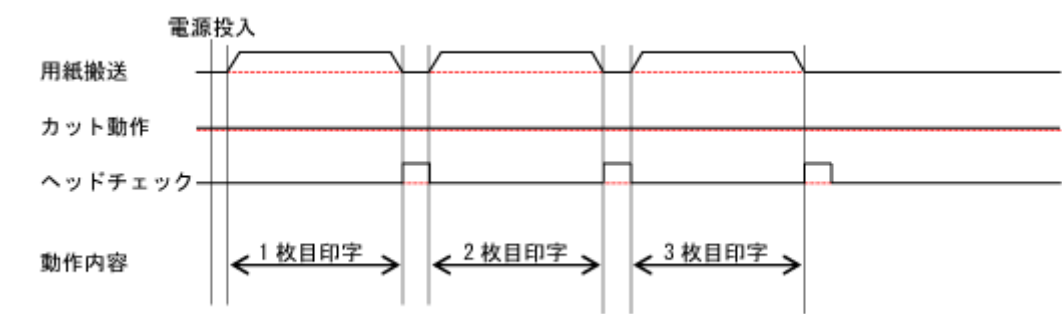
連続発行モード（ヘッドチェック有効）

動作



- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

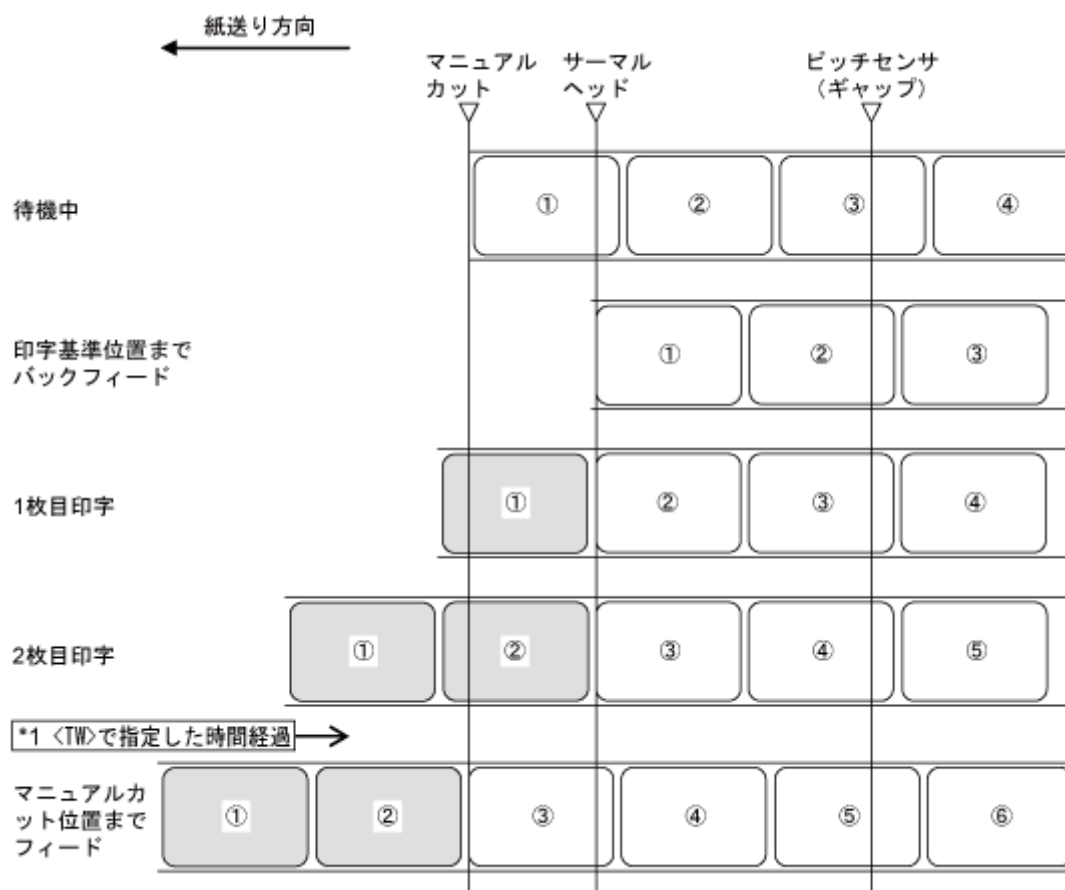
タイミングチャート



ティアオフモードの動作フロー

ティアオフモード（ヘッドチェック無効）

動作

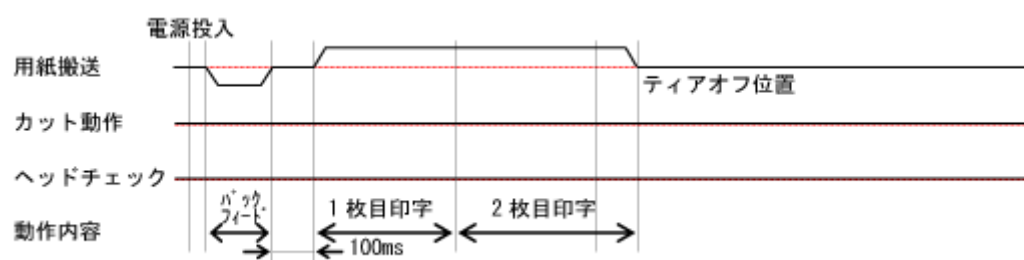


*1 印字が完了してから、オプション動作待機時間指定<TW>で指定した時間（初期値：0ms）が経過して次の印字データがない場合、マニュアルカット位置までのフィードをおこないます。

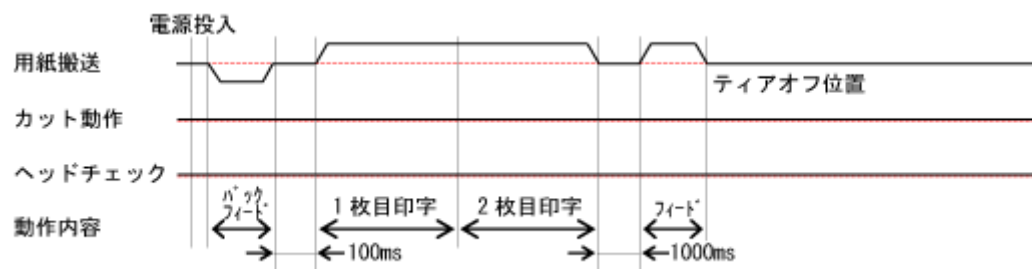


- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート（<TW> 0 指定した場合）

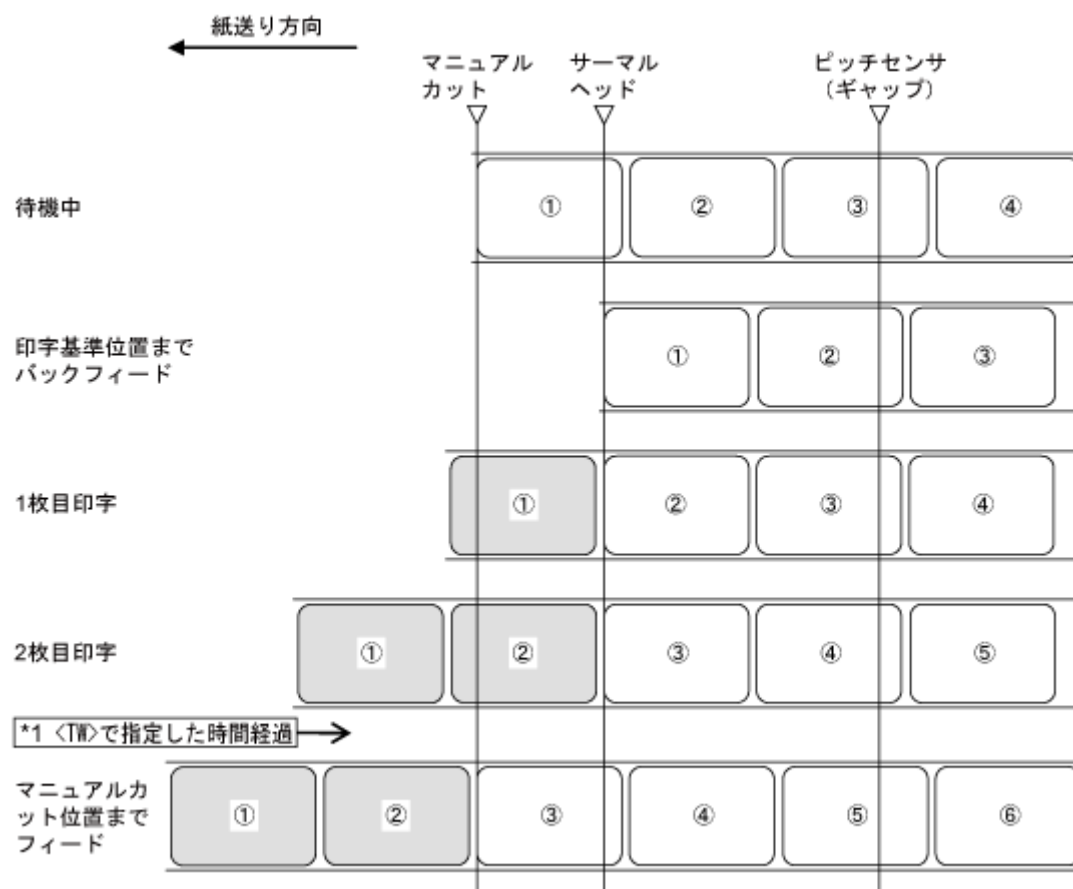


タイミングチャート（〈TW〉 10 指定した場合）



ティアオフモード（ヘッドチェック有効）

動作

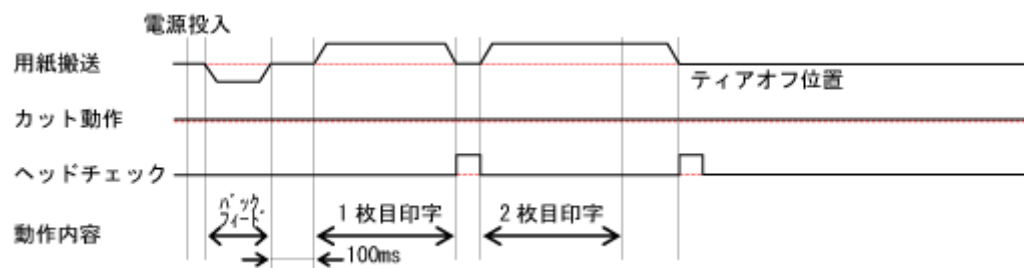


*1 印字が完了してから、オプション動作待機時間指定<TW>で指定した時間（初期値：0ms）が経過して次の印字データがない場合、マニュアルカット位置までのフィードをおこないます。

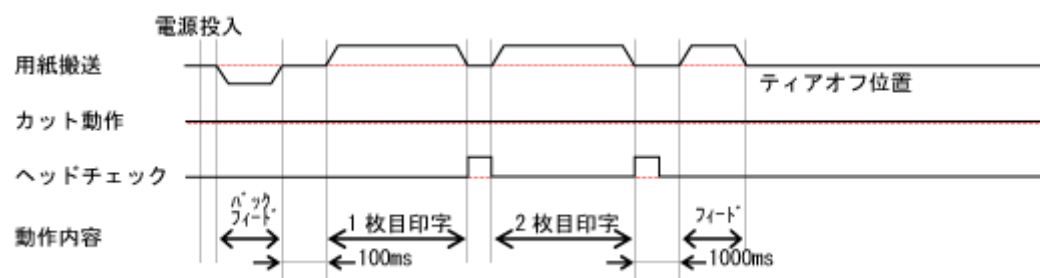


- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート（<TW> 0 の場合）



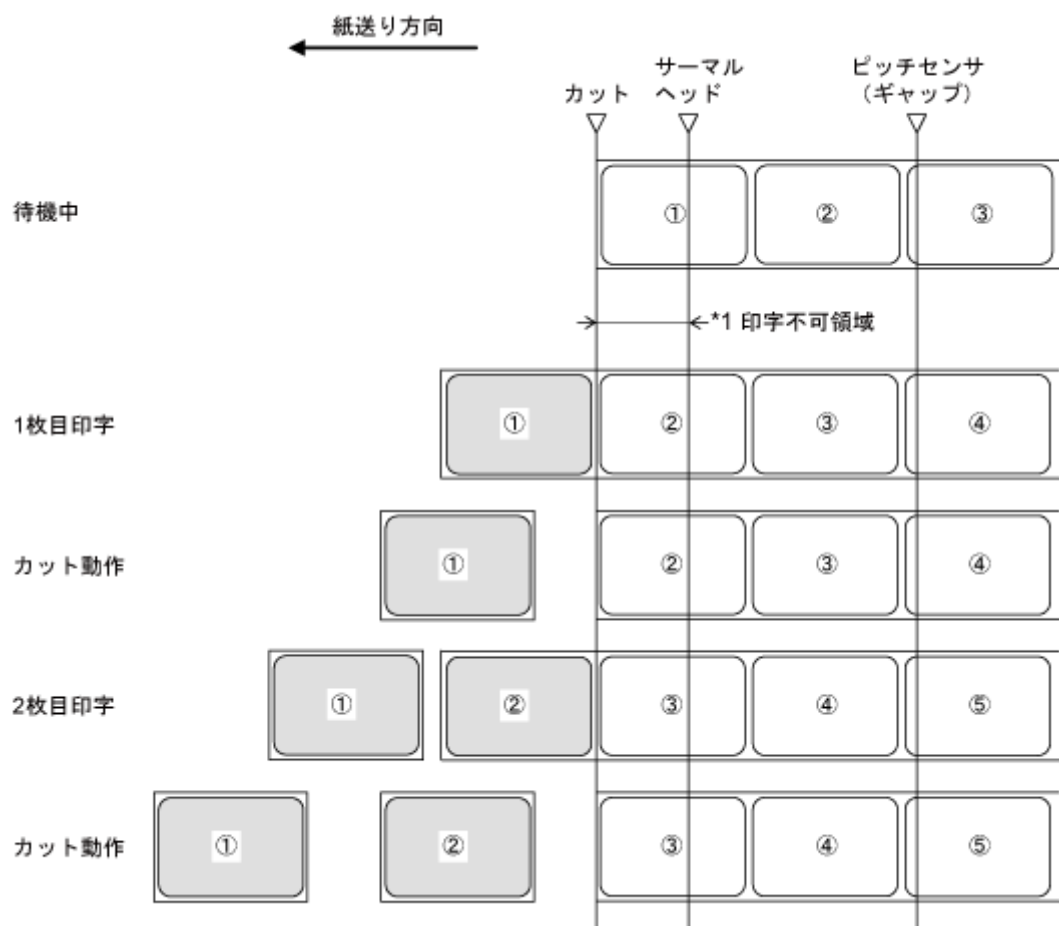
タイミングチャート (<TW> 10 の場合)



カッタモードの動作フロー

カッタモード・バックフィードなし（ヘッドチェック無効）

動作

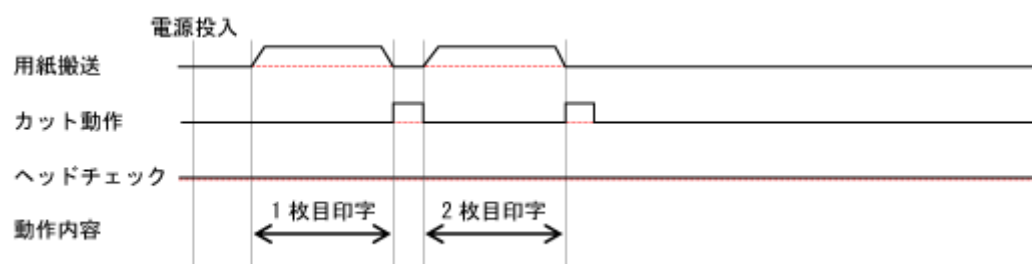


*1 バックフィード動作をおこなわないため、先頭に印字不可領域が発生します。



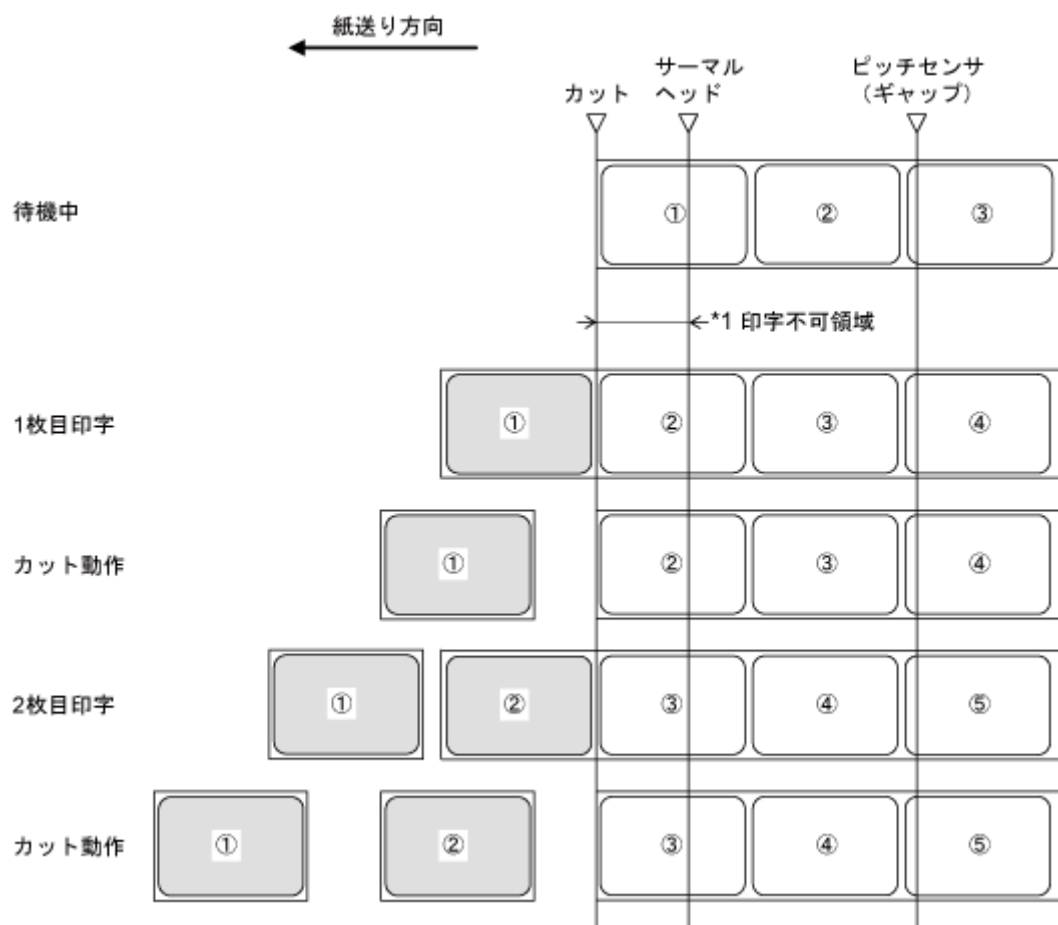
• 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



カタモード・バックフィードなし（ヘッドチェック有効）

動作

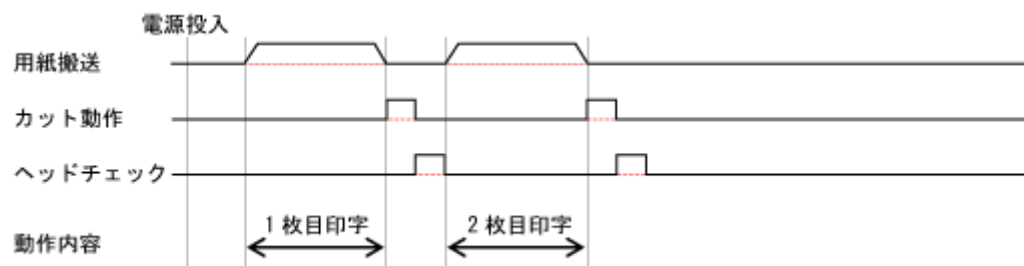


*1 バックフィード動作をおこなわないため、先頭に印字不可領域が発生します。



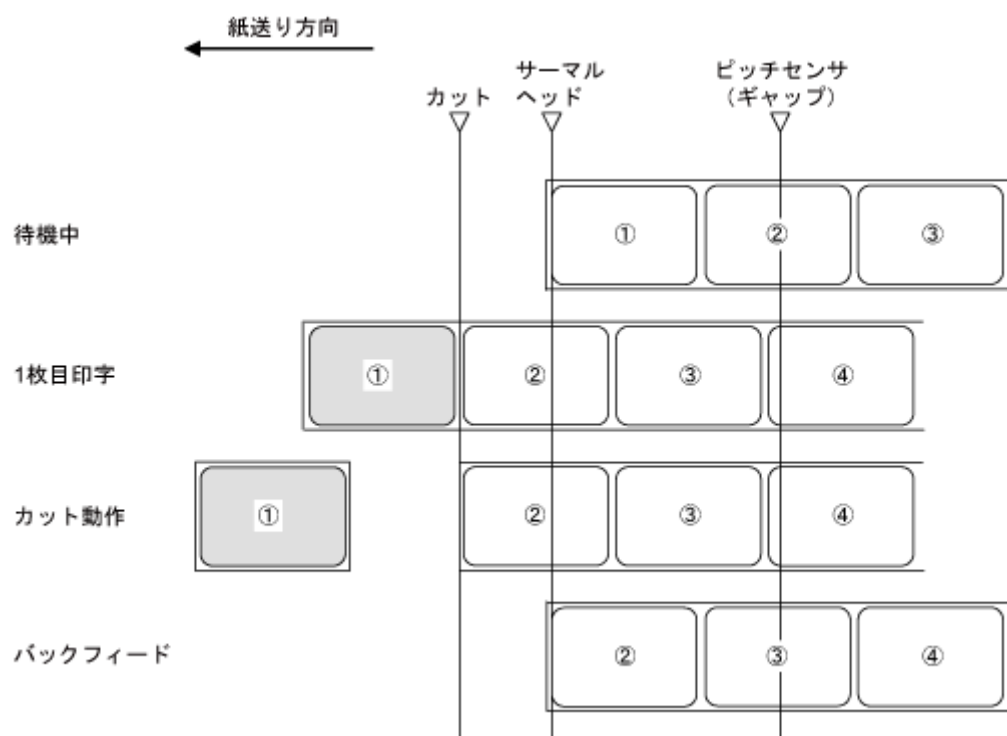
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



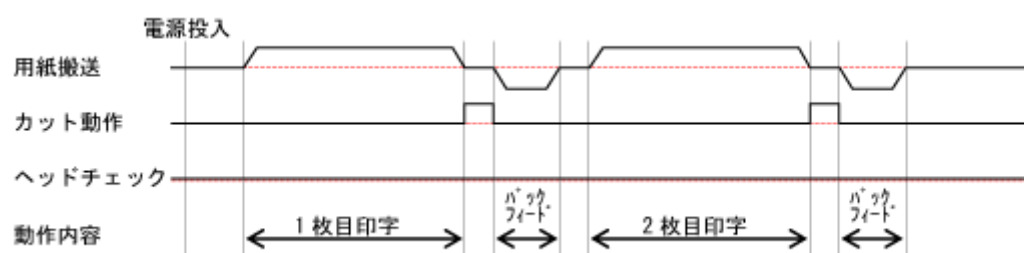
カタモード・印字後バックフィード（ヘッドチェック無効）

動作



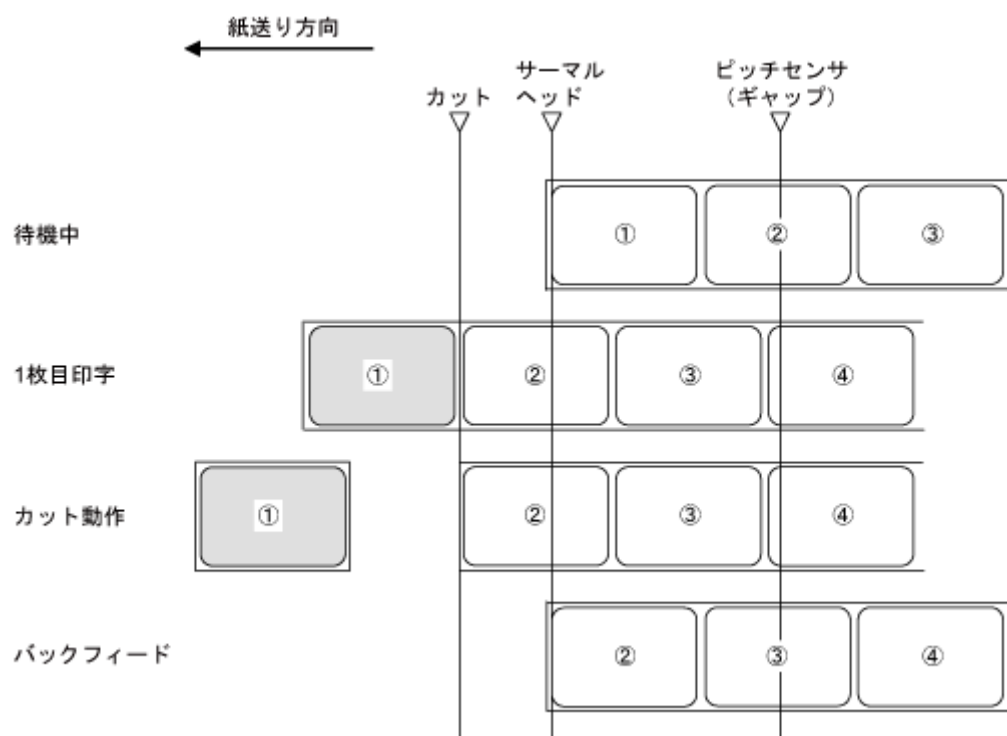
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



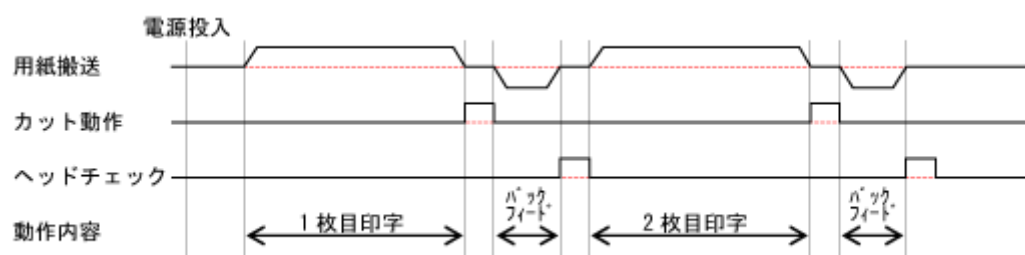
カタモード・印字後バックフィード（ヘッドチェック有効）

動作



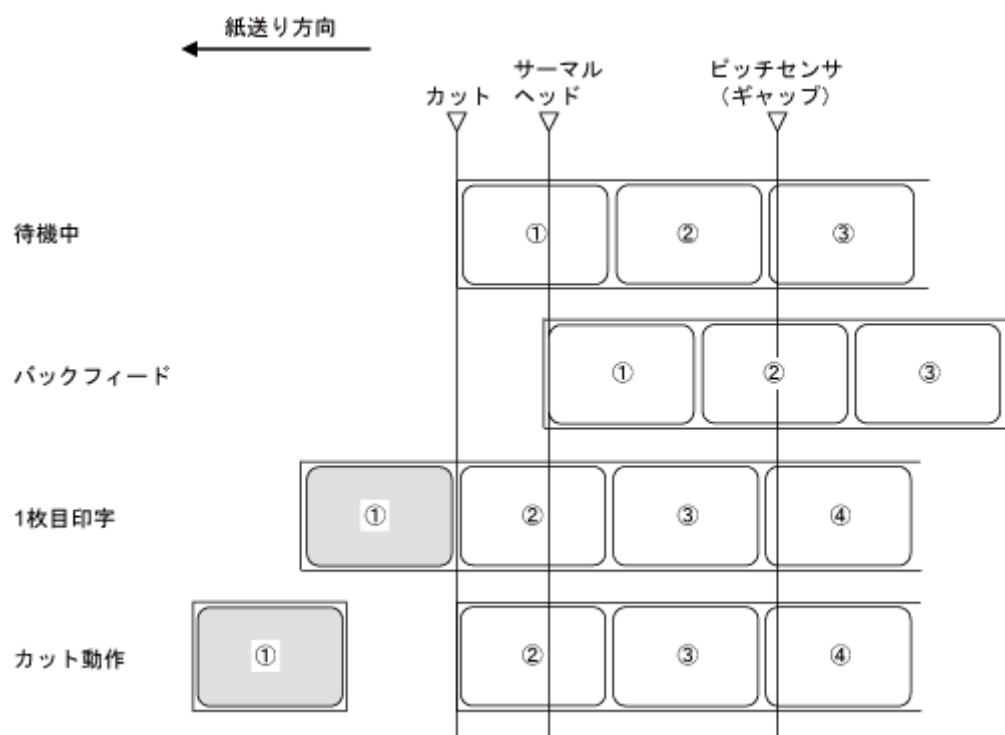
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



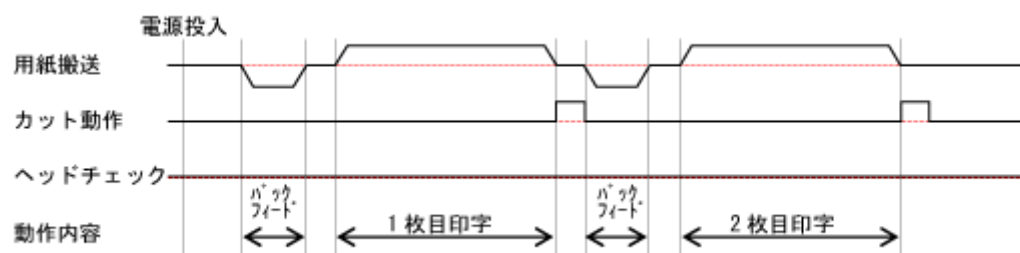
カタモード・印字前バックフィード（ヘッドチェック無効）

動作



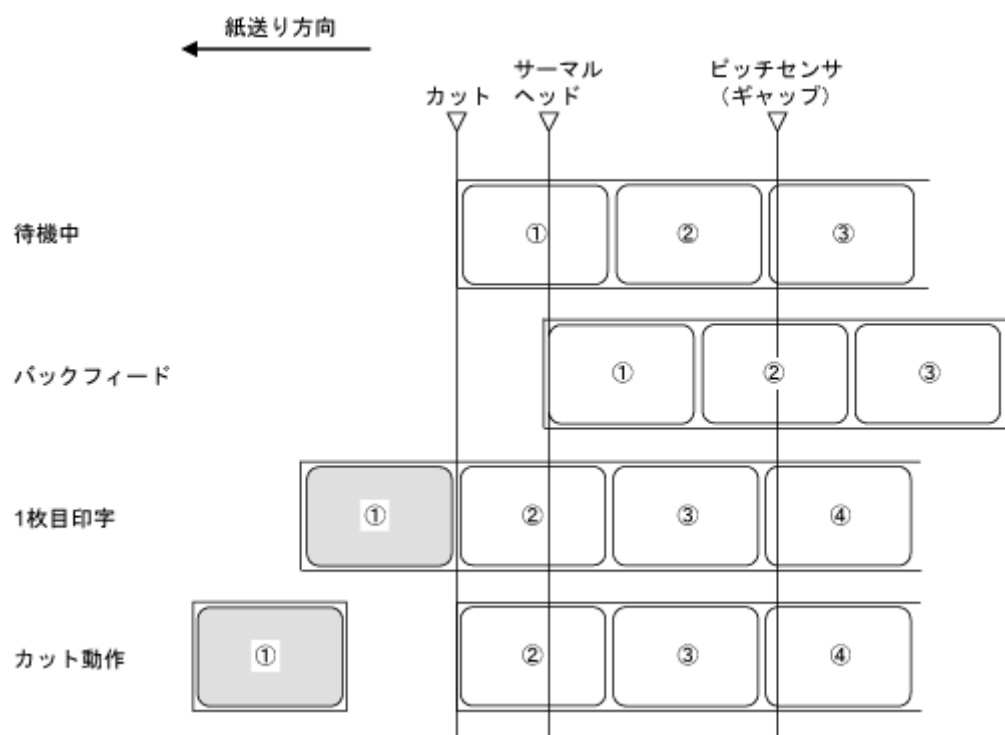
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



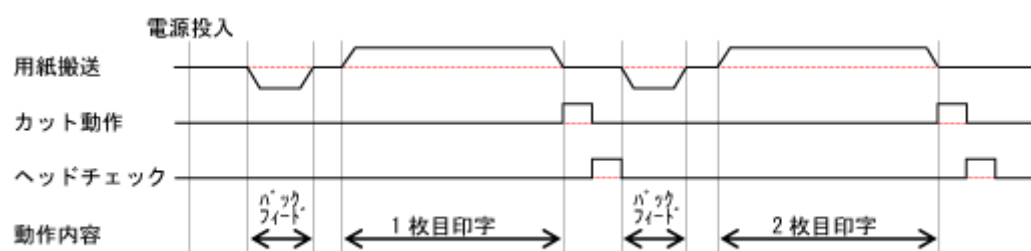
カタモード・印字前バックフィード（ヘッドチェック有効）

動作



- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

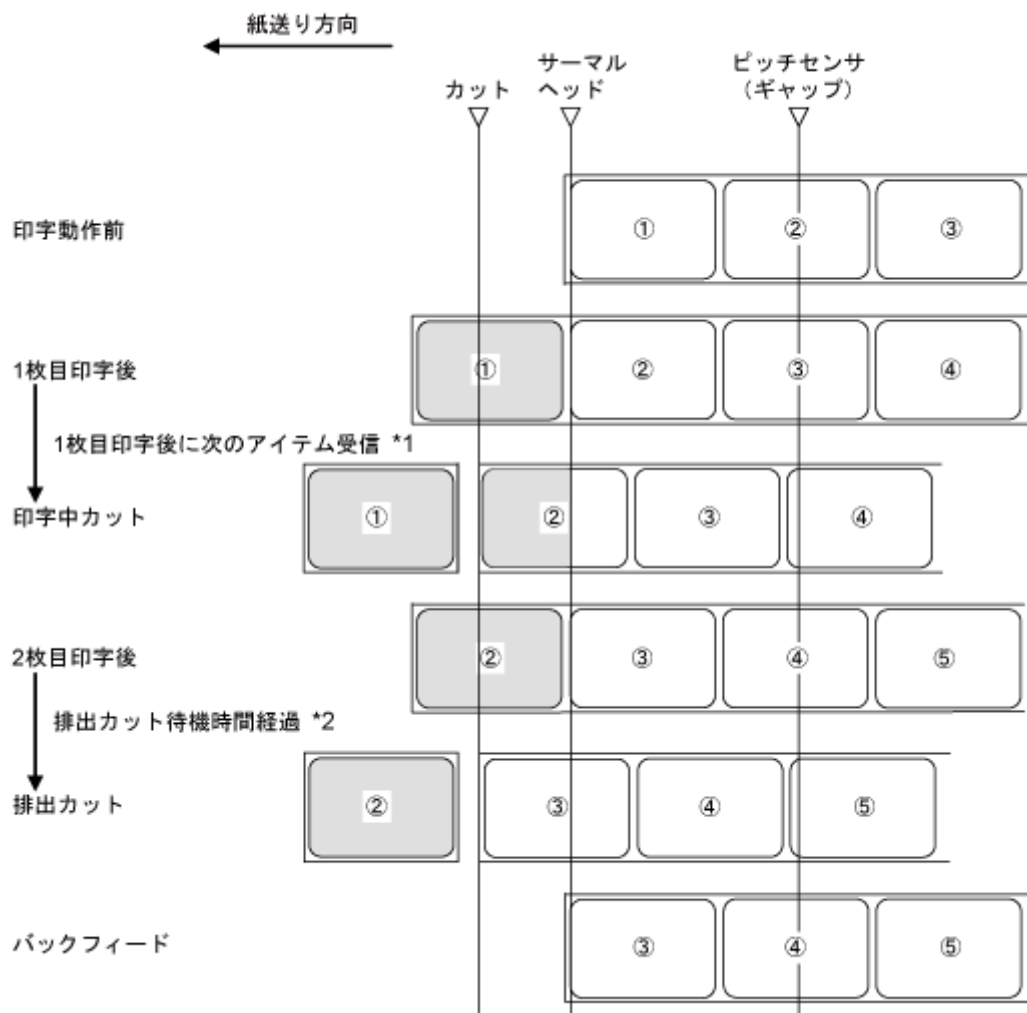
タイミングチャート



印字中カットモードの動作フロー

印字中カットモード（ヘッドチェック無効）

動作



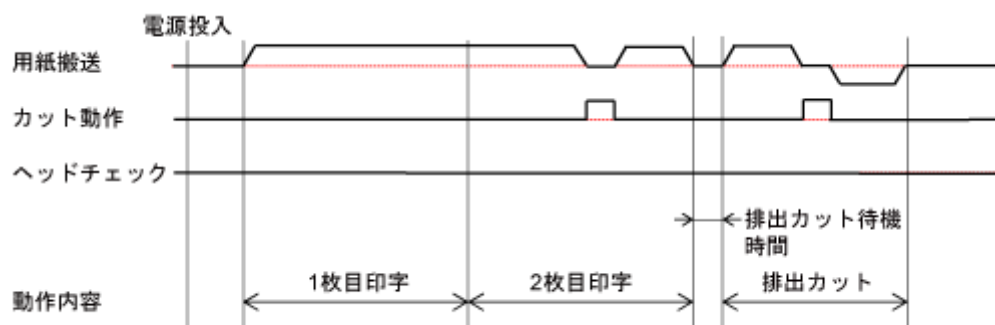
*1 印字が完了してから、次の印字データを受信した場合は次の印字動作をおこない、カット位置でカット動作をおこないます。

*2 印字が完了してから、次の印字データがなく排出カット待機時間が経過したときに排出カット動作をおこないます。



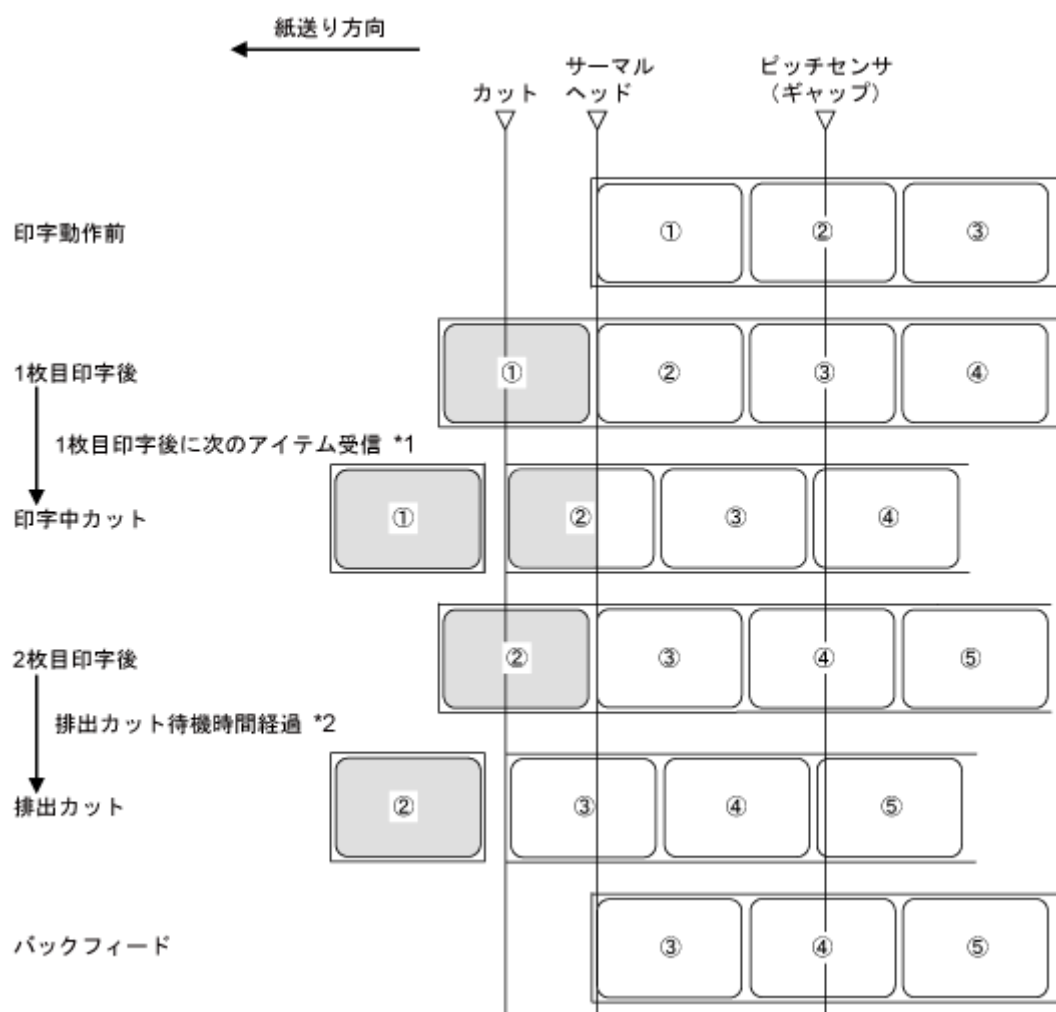
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



印字中カットモード（ヘッドチェック有効）

動作



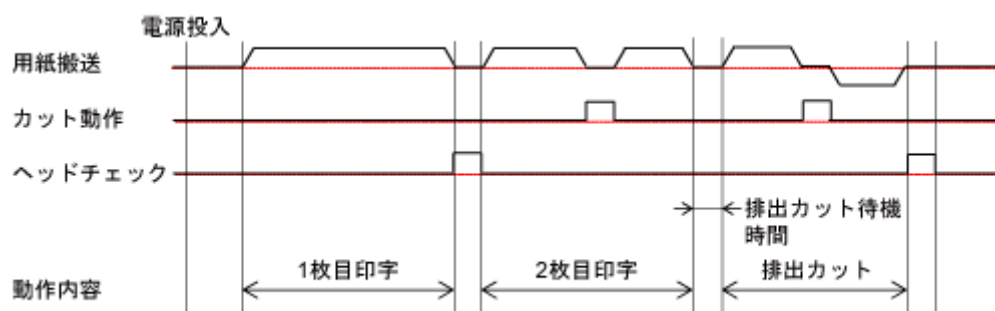
*1 印字が完了してから、次の印字データを受信した場合は次の印字動作をおこない、カット位置でカット動作をおこないます。

*2 印字が完了してから、次の印字データがなく排出カット待機時間が経過したときに排出カット動作をおこないます。



- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

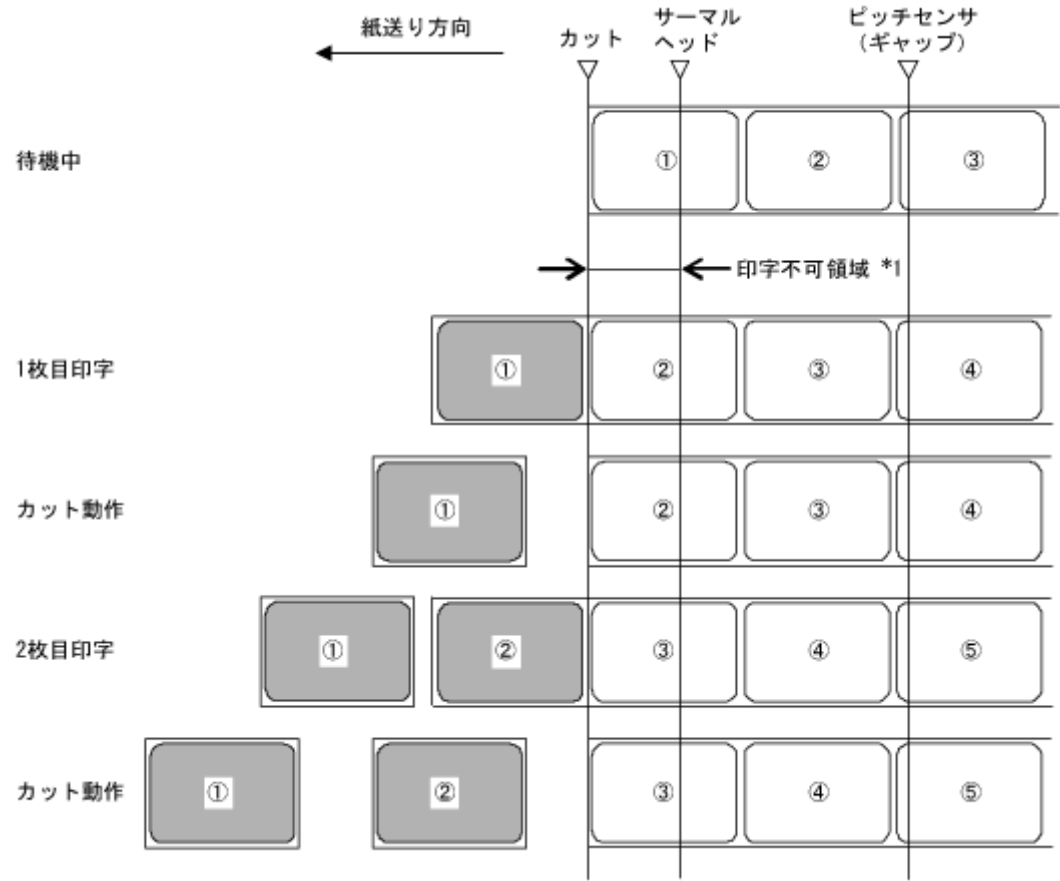
タイミングチャート



パーシャルカッターモードの動作フロー

パーシャルカッターモード・バックフィードなし（ヘッドチェック無効）

動作

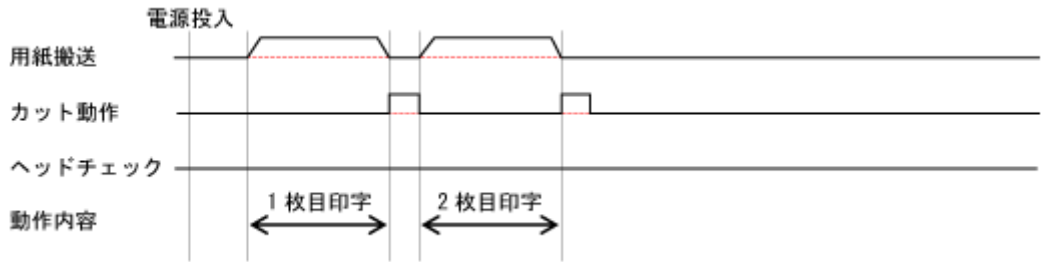


*1 バックフィード動作をおこなわないため、先頭に印字不可領域が発生します。



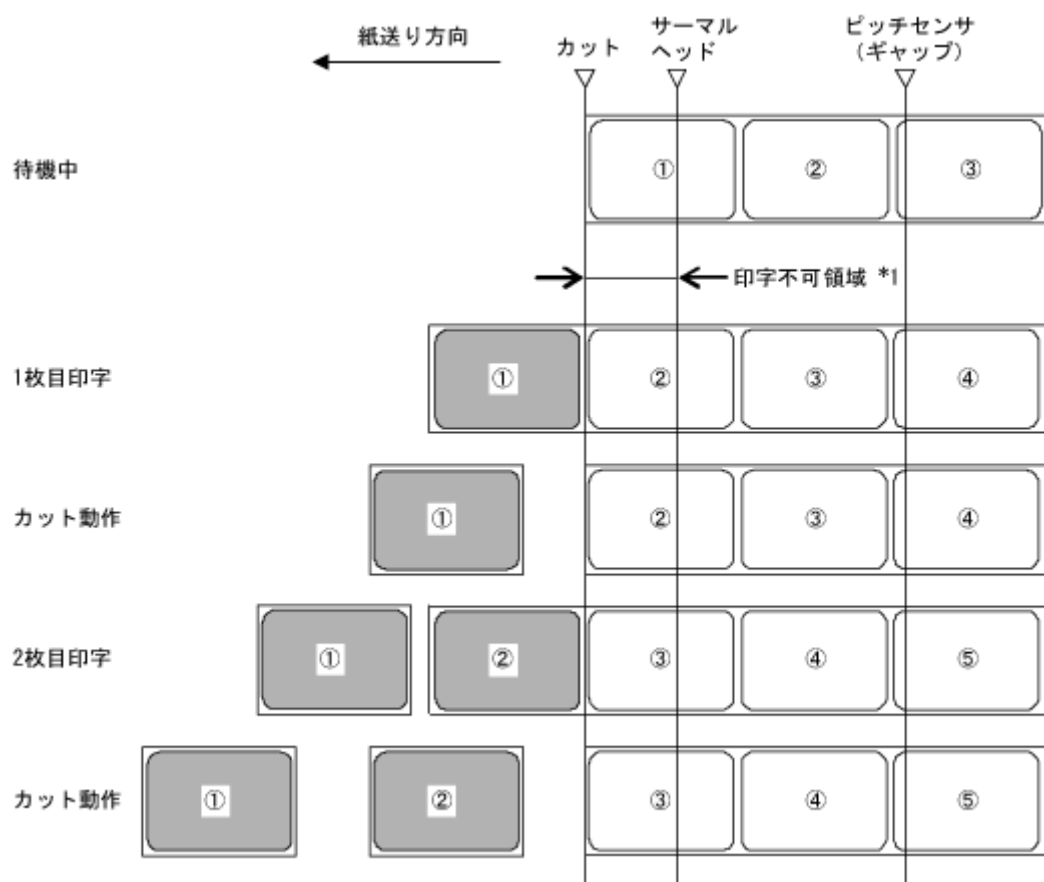
• 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



パーシャルカットモード・バックフィードなし（ヘッドチェック有効）

動作

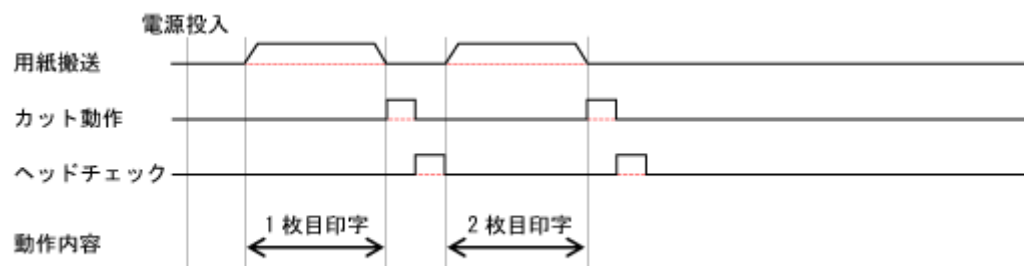


*1 バックフィード動作をおこなわないため、先頭に印字不可領域が発生します。



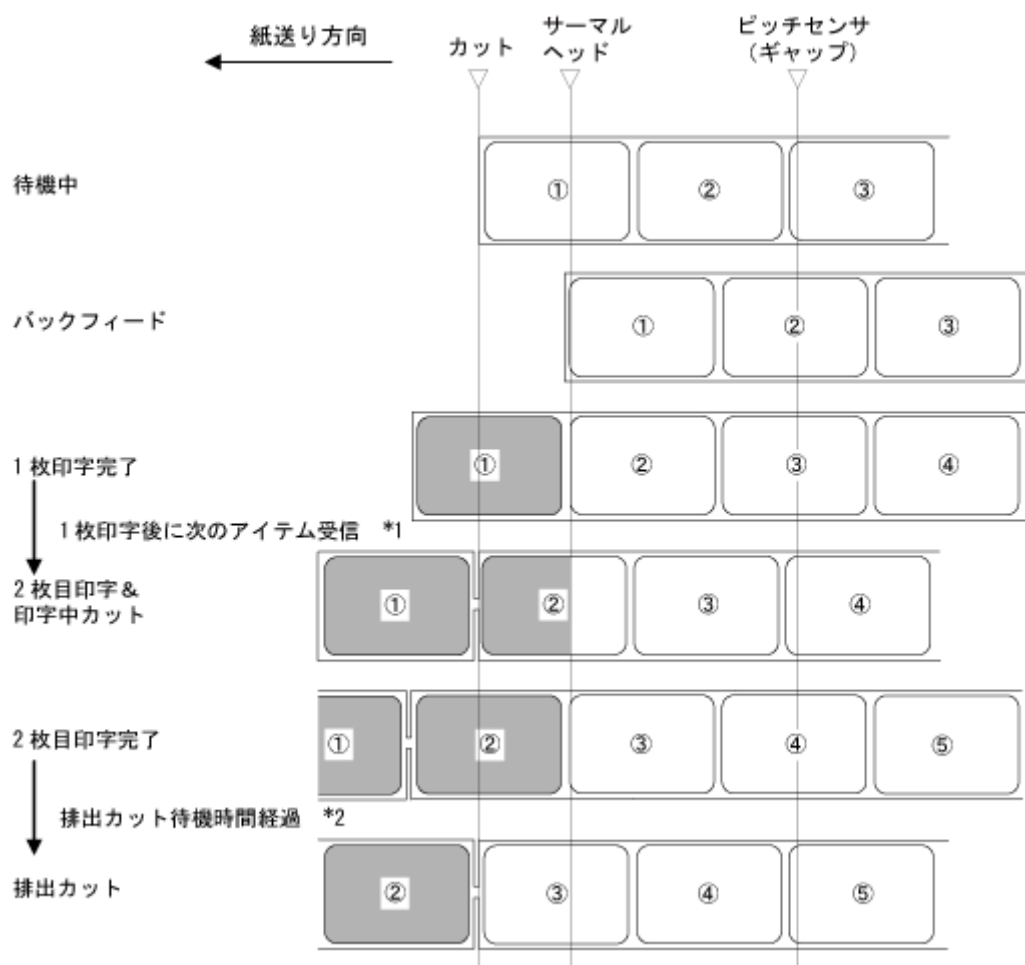
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



パーシャルカットモード・印字前バックフィード（ヘッドチェック無効）

動作



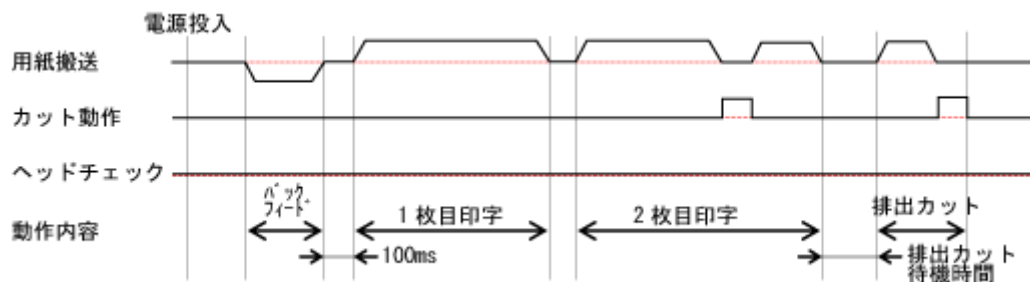
*1 印字が完了してから、次の印字データを受信した場合は次の印字動作をおこない、カット位置でカット動作をおこないます。

*2 印字が完了してから、次の印字データがなく排出カット待機時間が経過したときに排出カット動作をおこないます。



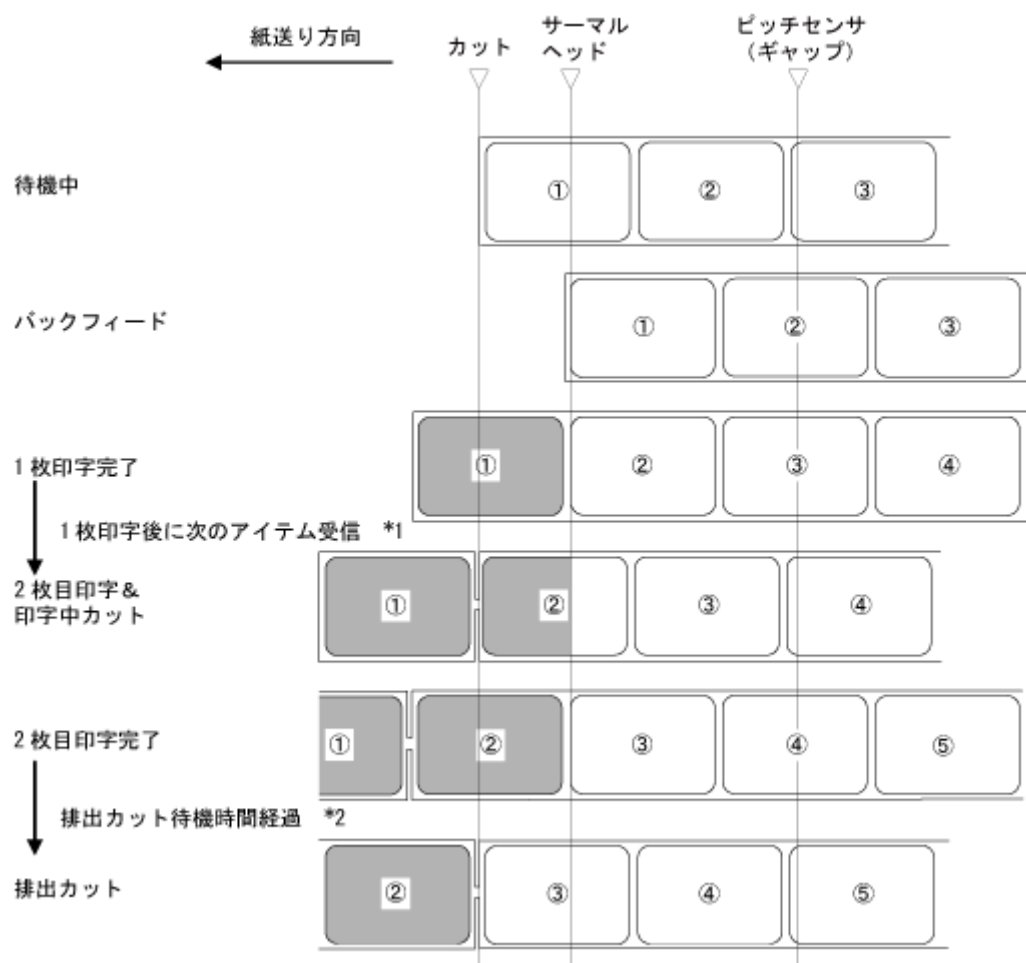
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



パーシャルカットモード・印字前バックフィード（ヘッドチェック有効）

動作



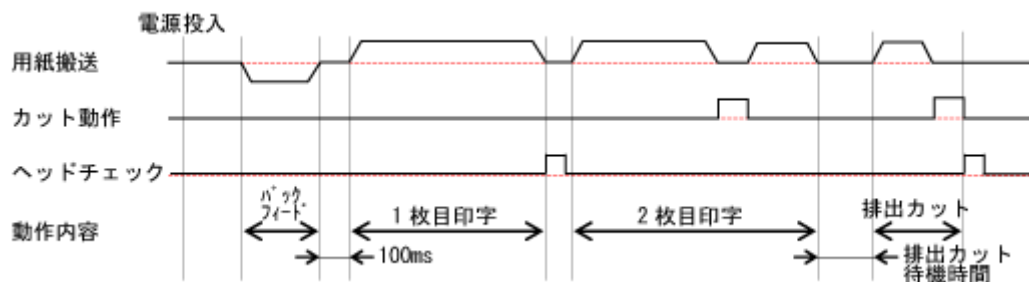
*1 印字が完了してから、次の印字データを受信した場合は次の印字動作をおこない、カット位置でカット動作をおこないます。

*2 印字が完了してから、次の印字データがなく排出カット待機時間が経過したときに排出カット動作をおこないます。



- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

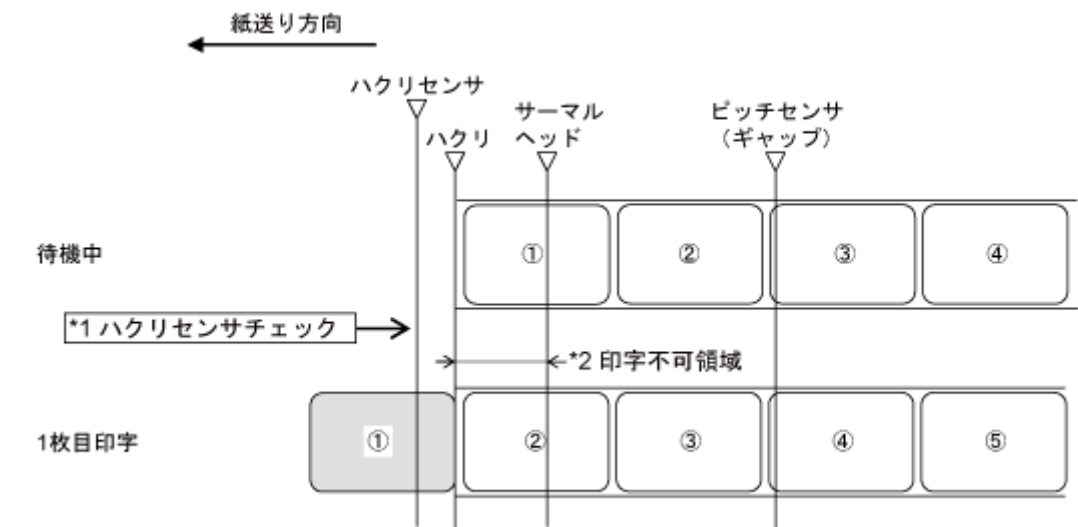
タイミングチャート



ハクリモードの動作フロー

ハクリモード・バックフィードなし（ヘッドチェック無効）

動作



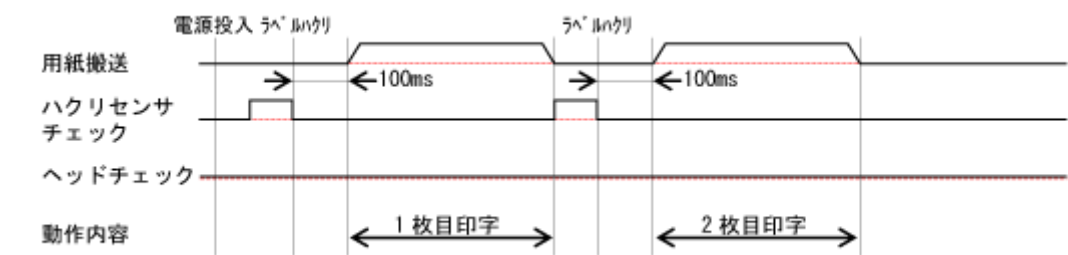
*1 ハクリセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。

*2 バックフィード動作をおこなわないため、印字不可領域が発生します。



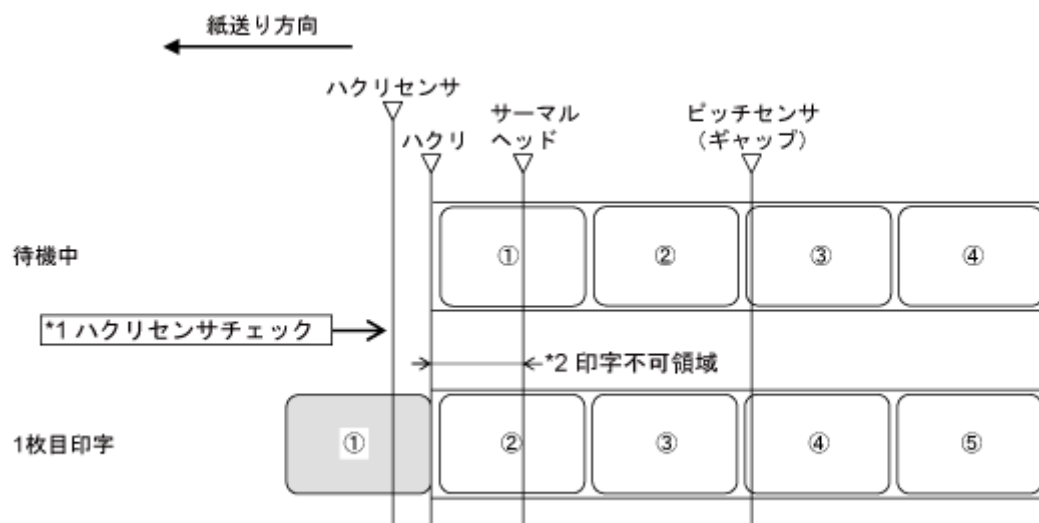
• 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ハクリモード・バックフィードなし（ヘッドチェック有効）

動作



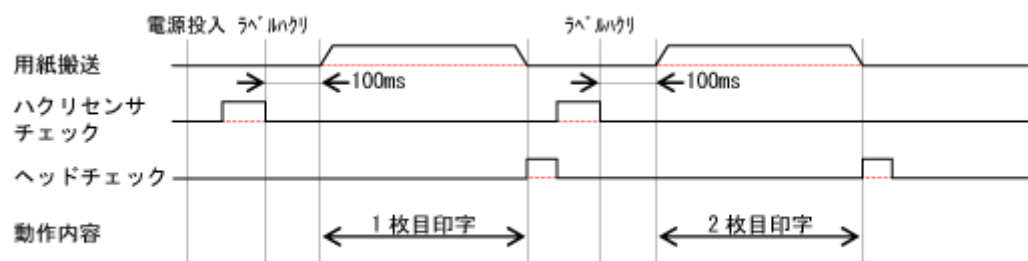
*1 ハクリセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。

*2 バックフィード動作をおこなわないため、印字不可領域が発生します。



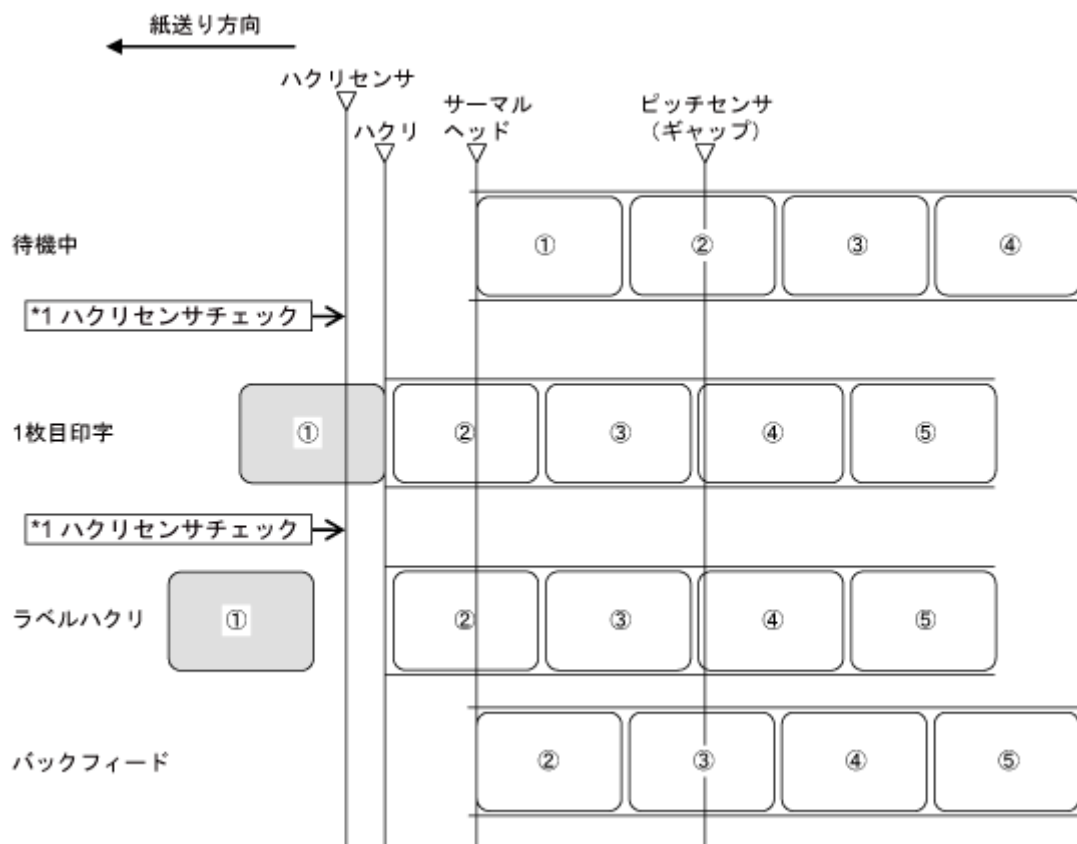
• 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ハクリモード・印字後バックフィード（ヘッドチェック無効）

動作

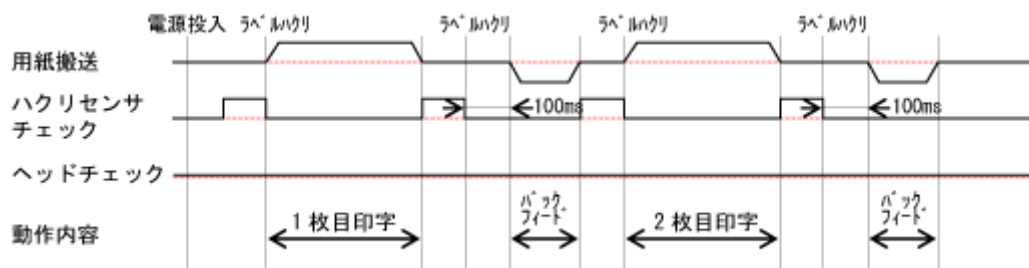


*1 ハクリセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。



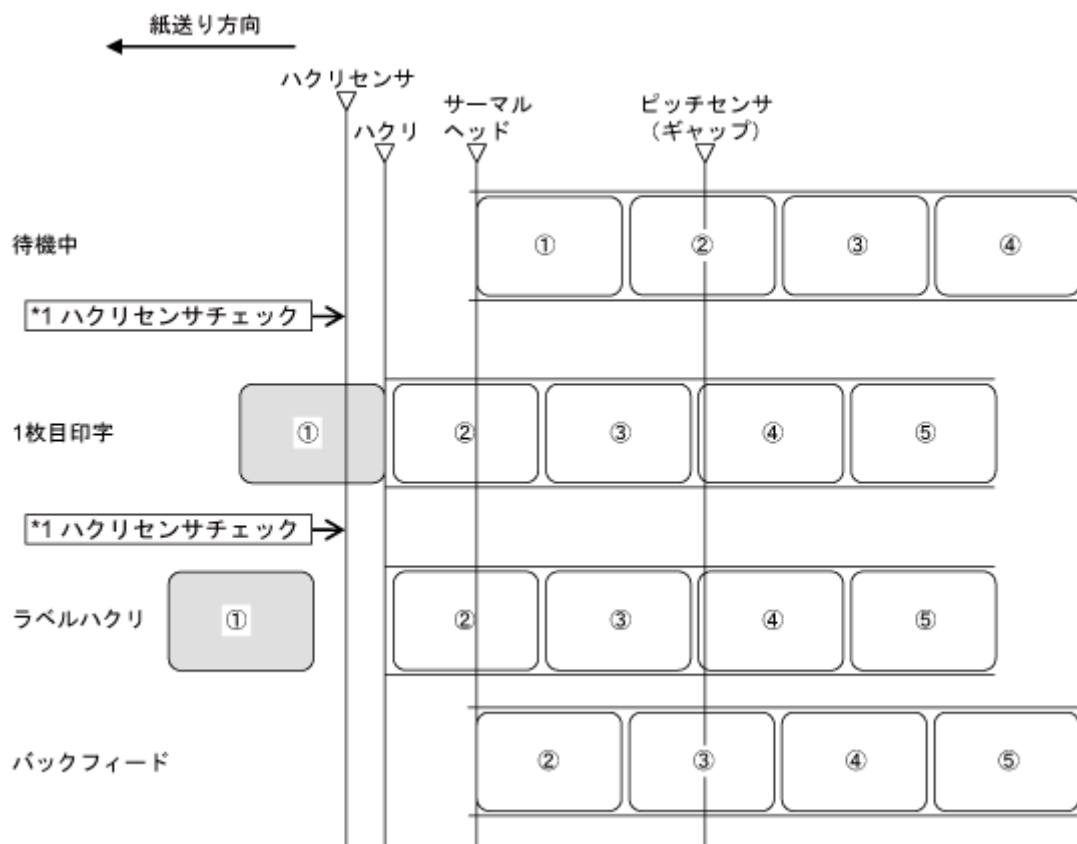
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ハクリモード・印字後バックフィード（ヘッドチェック有効）

動作

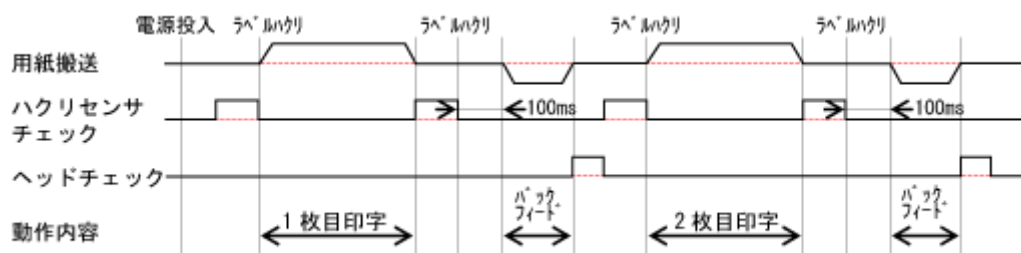


*1 ハクリセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。



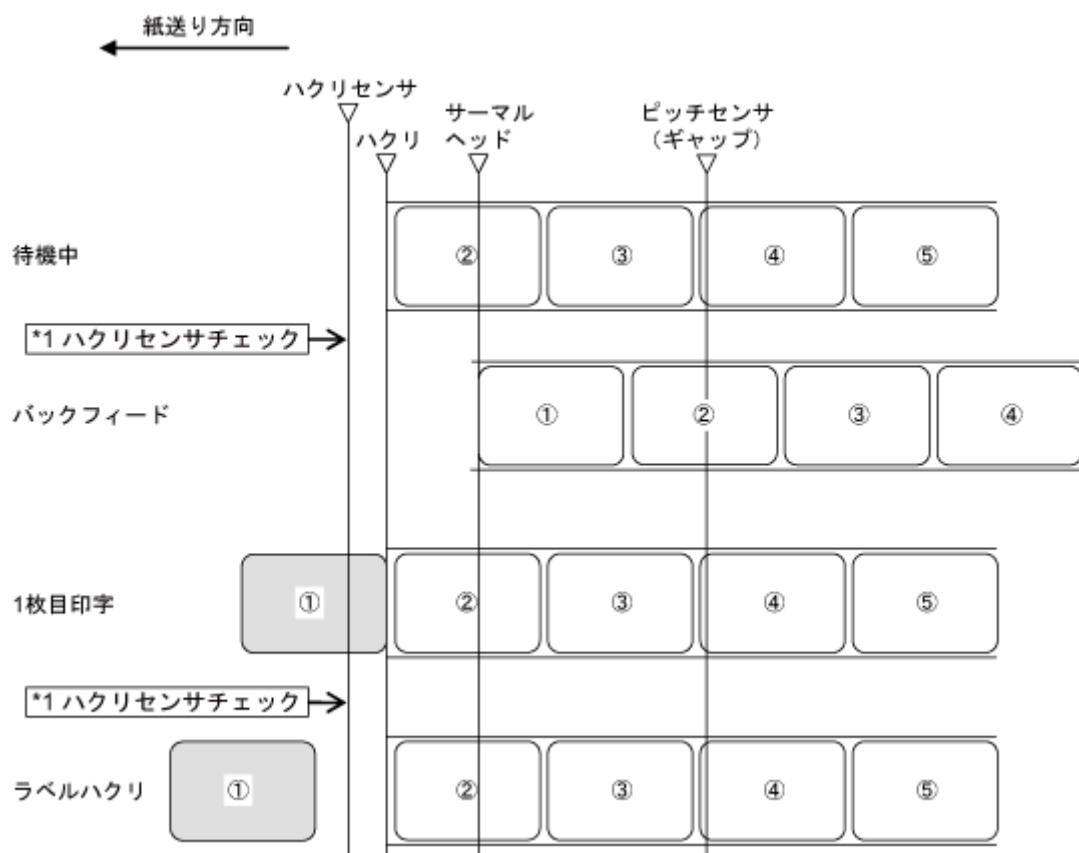
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ハクリモード・印字前バックフィード（ヘッドチェック無効）

動作

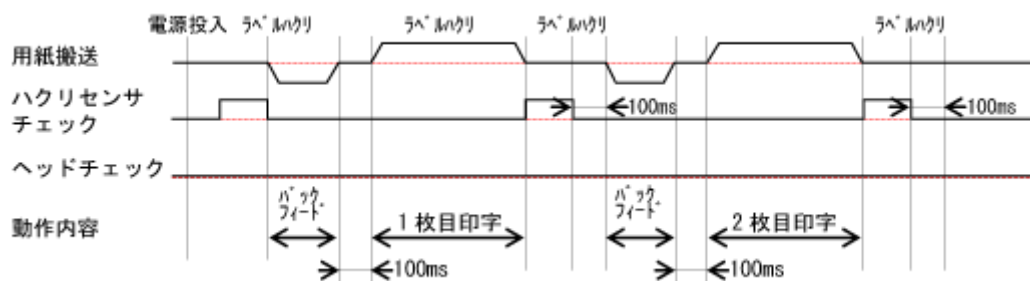


*1 ハクリセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。



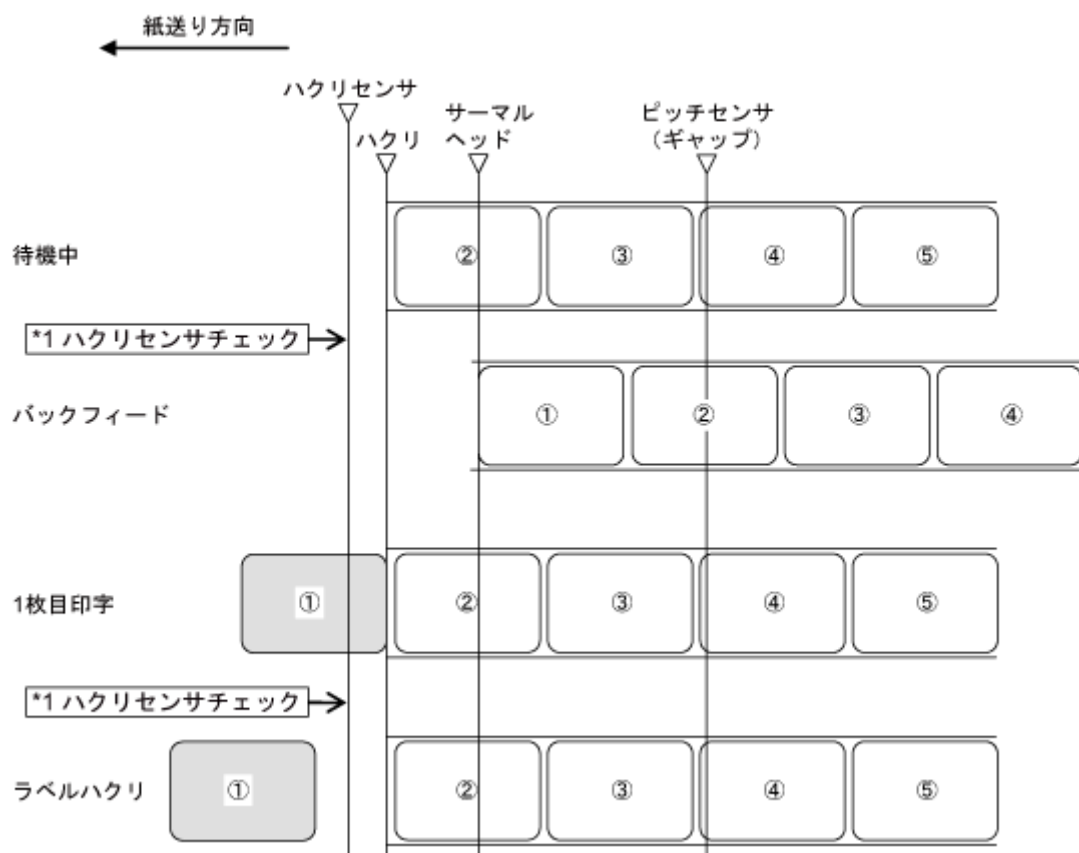
- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ハクリモード・印字前バックフィード（ヘッドチェック有効）

動作

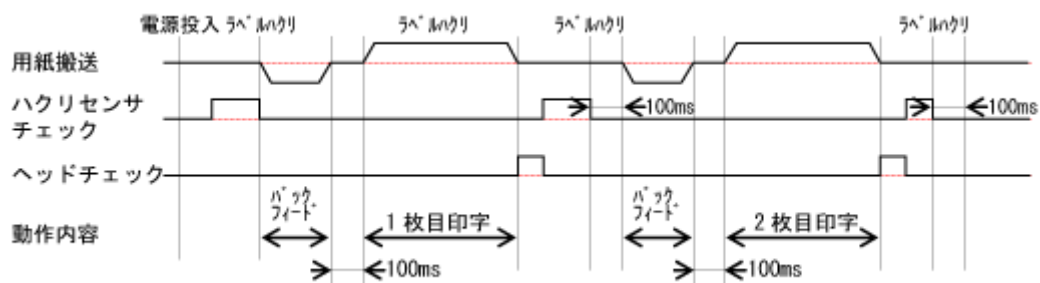


*1 ハクリセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。



- 上図はギャップセンサを使用した場合の基準位置です。

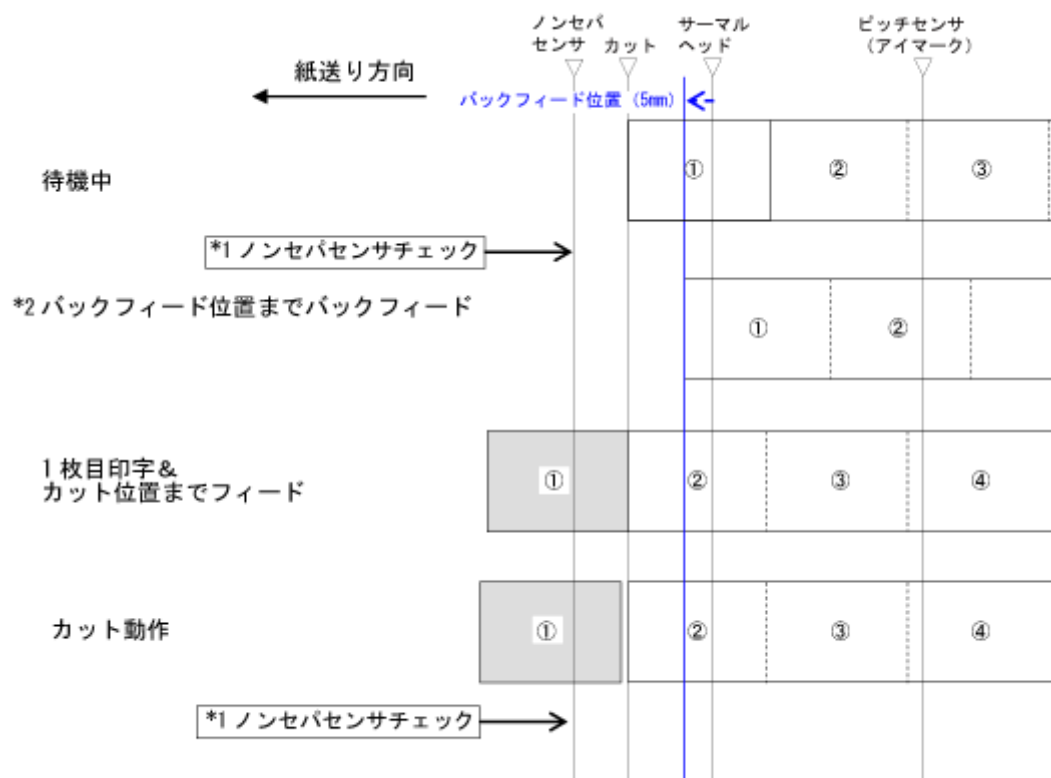
タイミングチャート



ノンセパカッタモードの動作フロー

ノンセパカッタモード・印字後バックフィード（ヘッドチェック無効）

動作



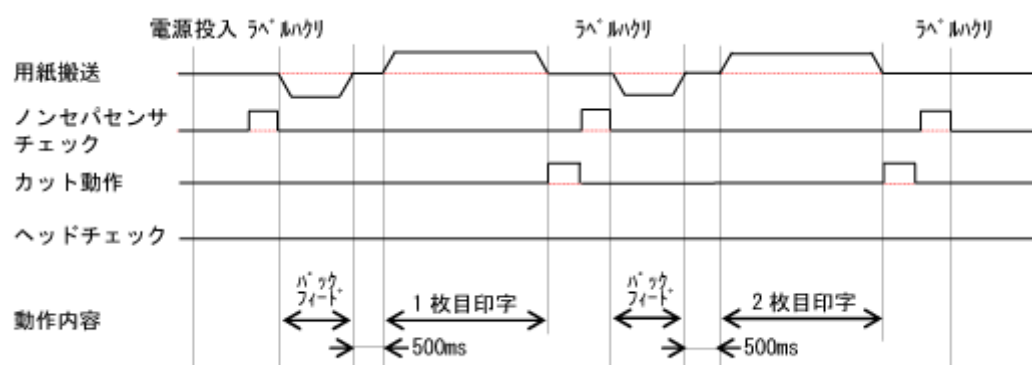
*1 ノンセパセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。

*2 電源投入直後、および印字動作完了後またはフィード動作完了後1時間以上経過した場合、バックフィード速度が2インチ/秒（50.8mm/秒）となります。



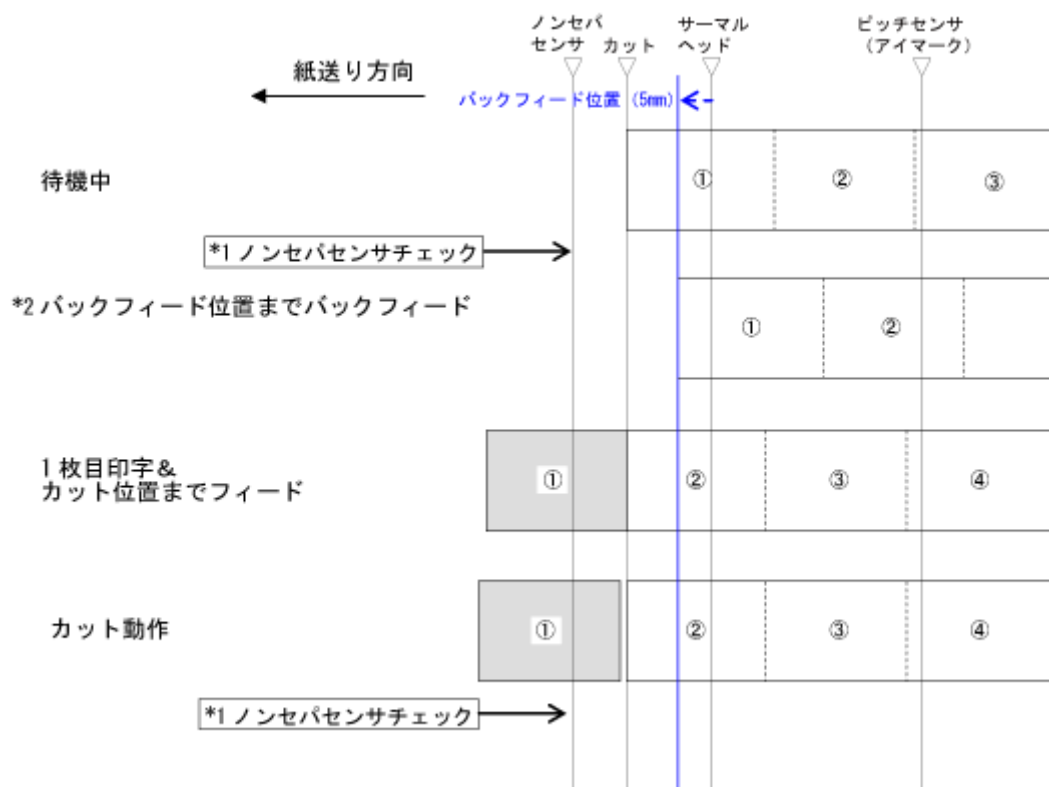
- 上図はアイマークセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ノンセパカタモード・印字後バックフィード（ヘッドチェック有効）

動作



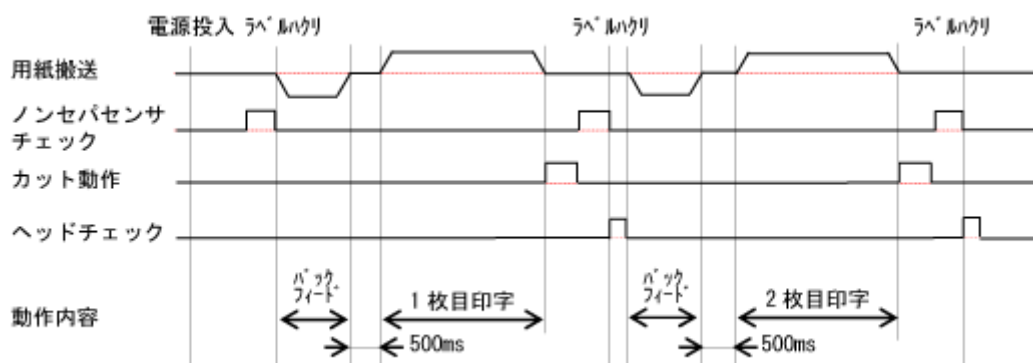
*1 ノンセパセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。

*2 電源投入直後、および印字動作完了後またはフィード動作完了後1時間以上経過した場合、バックフィード速度が2インチ/秒（50.8mm/秒）となります。



• 上図はアイマークセンサを使用した場合の基準位置です。

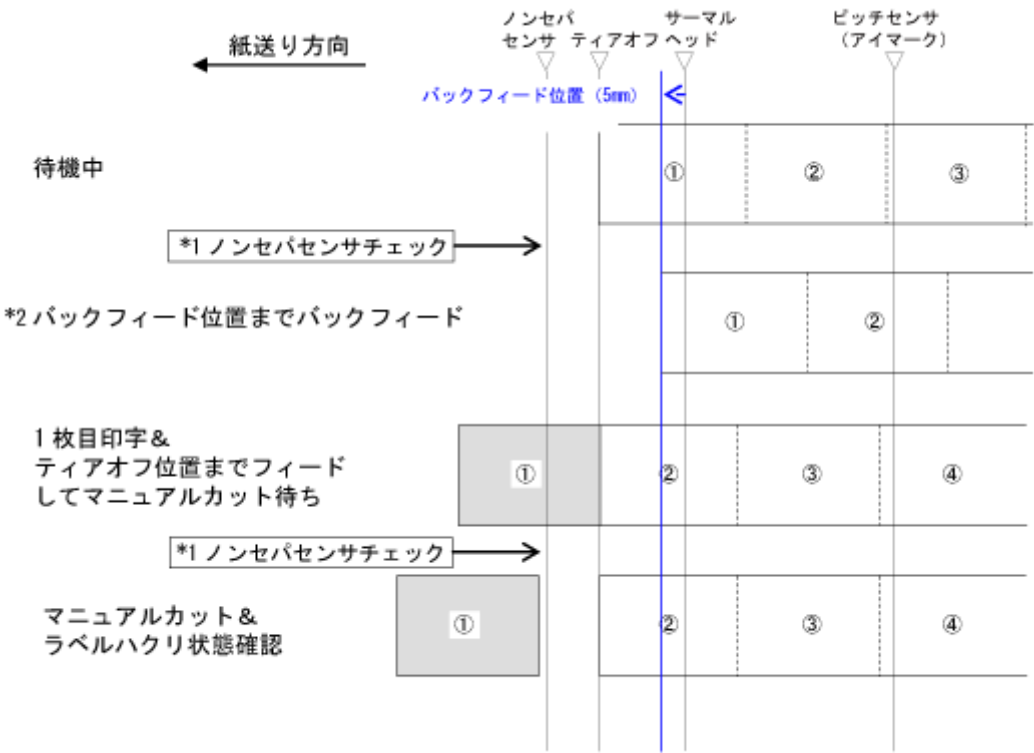
タイミングチャート



ノンセパティアオフモードの動作フロー

ノンセパティアオフモード（ヘッドチェック無効）

動作

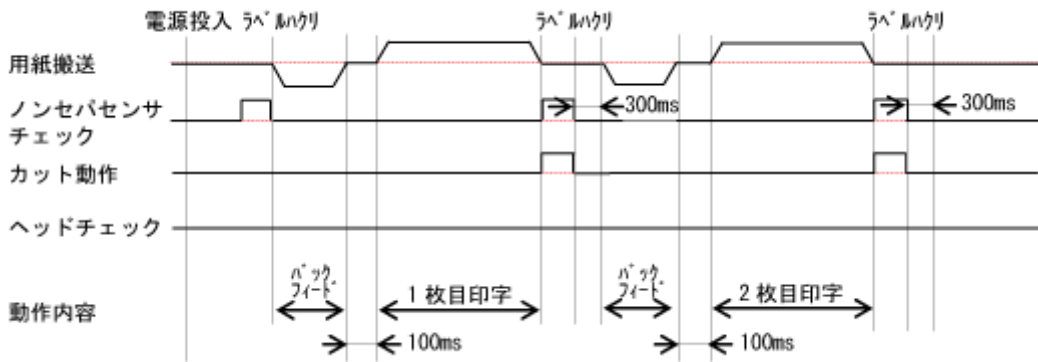


- *1 ノンセパセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。
- *2 電源投入直後、および印字動作完了後またはフィード動作完了後1時間以上経過した場合、バックフィード速度が2インチ/秒（50.8mm/秒）となります。



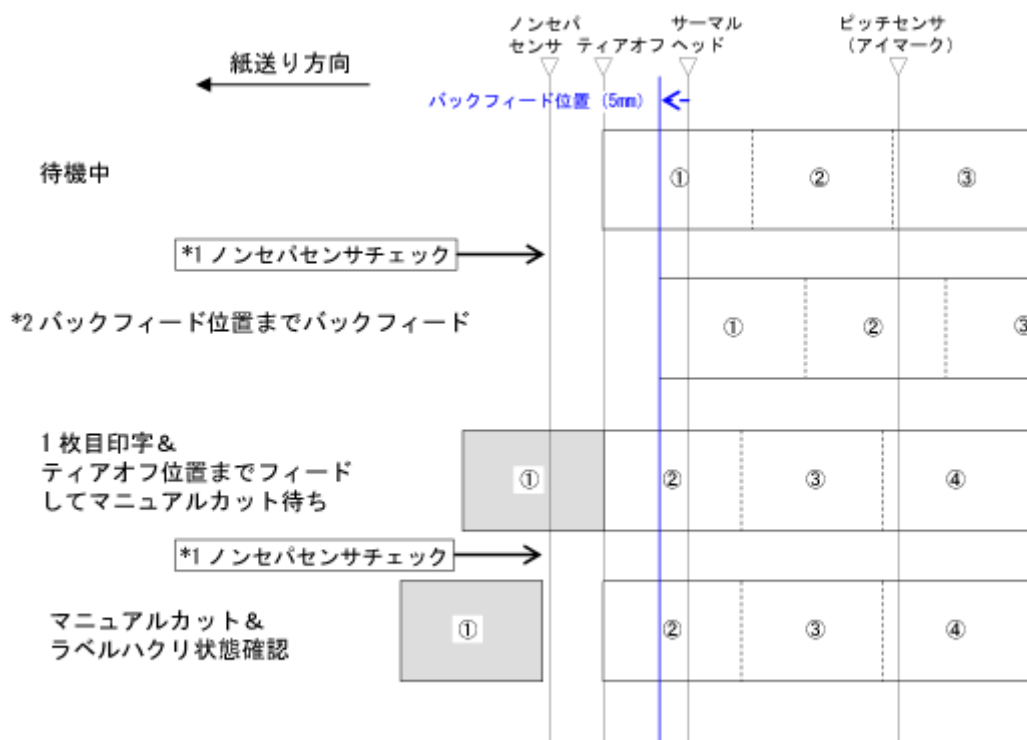
- 上図はアイマークセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



ノンセパティアオフモード（ヘッドチェック有効）

動作



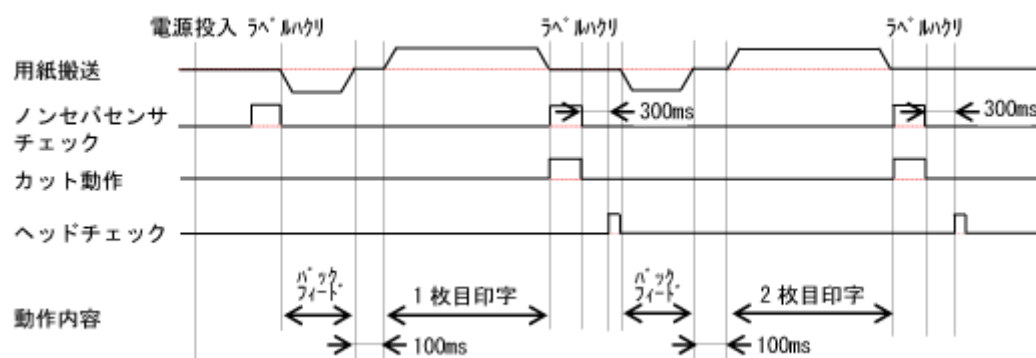
*1 ノンセパセンサよりラベルのハクリ状態の確認をおこない、ハクリされるまで次の動作に移行しません。

*2 電源投入直後、および印字動作完了後またはフィード動作完了後1時間以上経過した場合、バックフィード速度が2インチ/秒（50.8mm/秒）となります。



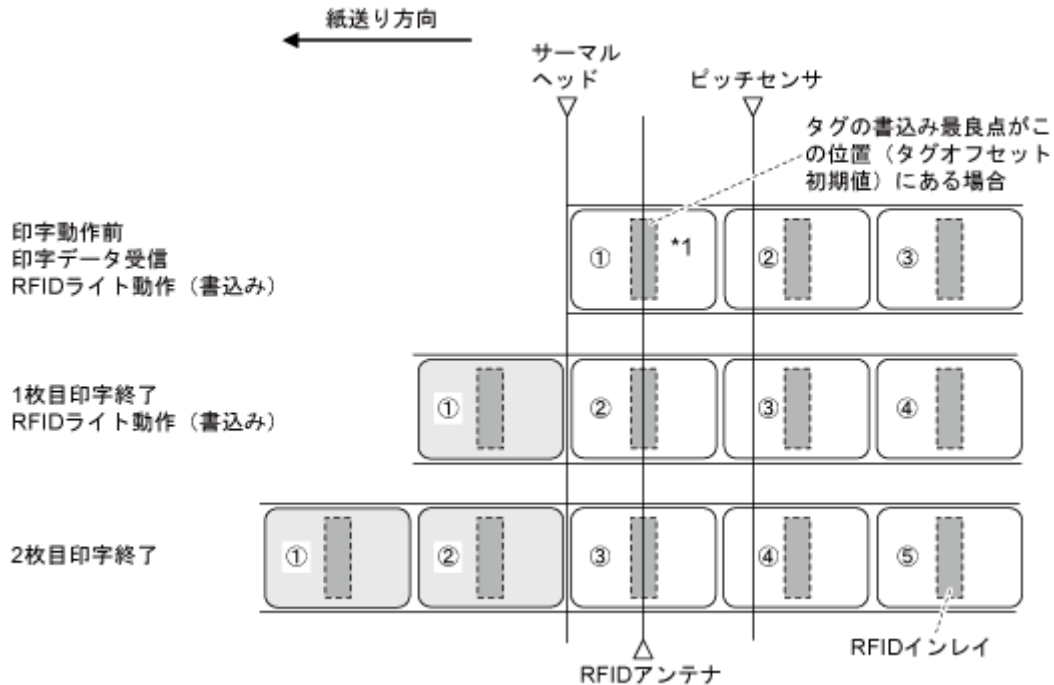
• 上図はアイマークセンサを使用した場合の基準位置です。

タイミングチャート



RFID書き込み時の動作フロー（RFIDモデルのみ）

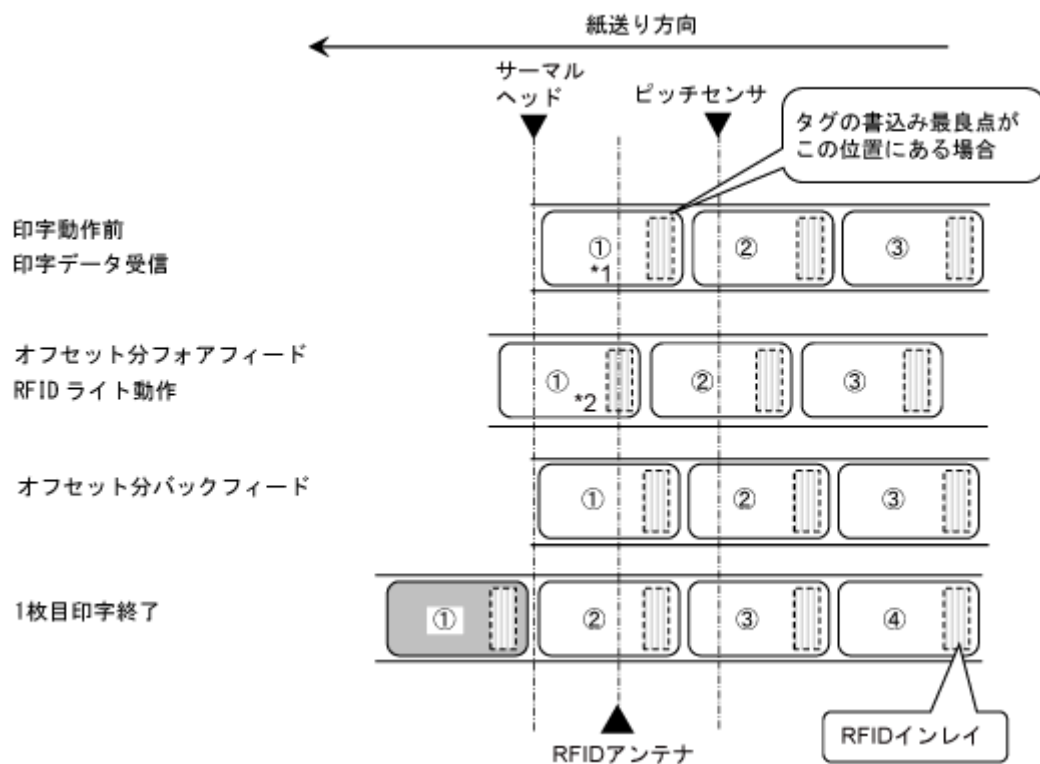
RFID書き込み 連続発行モード（タグオフセット=0）



*1 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み 連続発行モード（タグオフセット>0、印字前フィード）

〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。

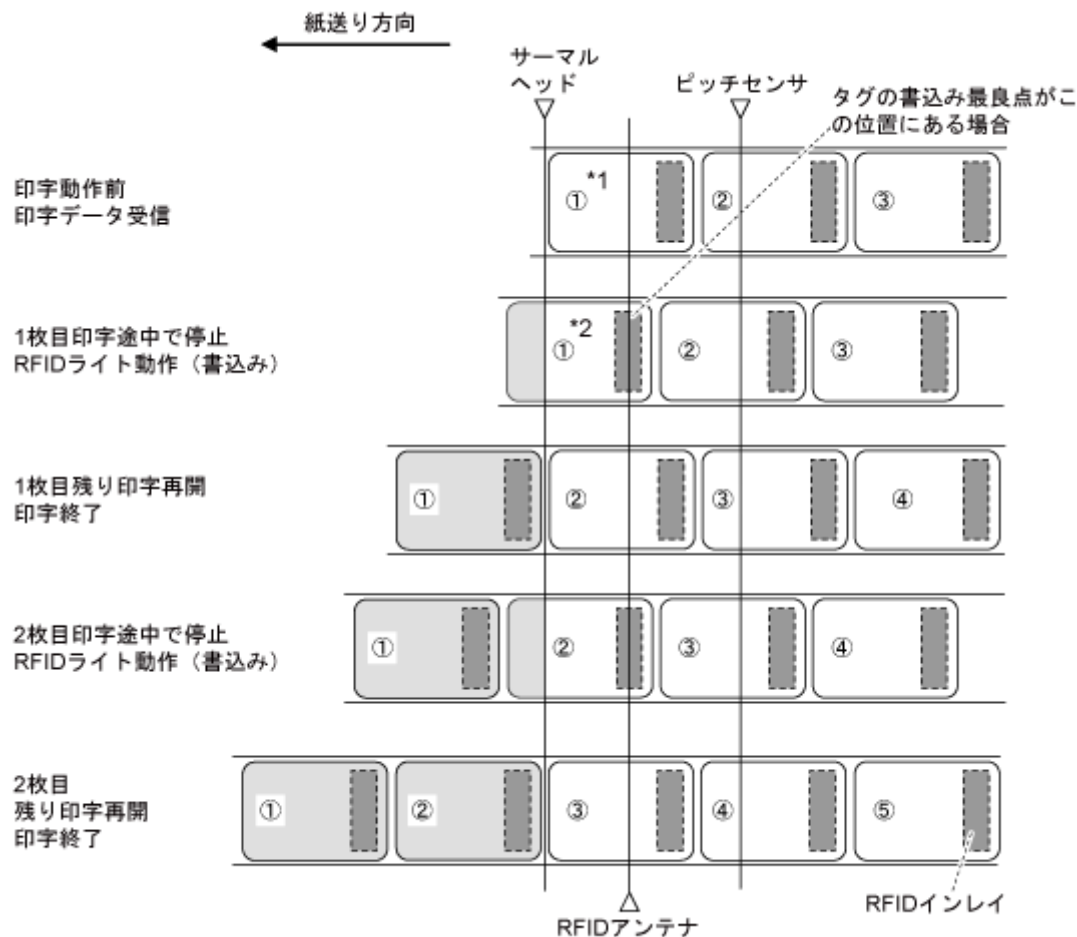


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み 連続発行モード（タグオフセット>0、印字中一時停止）

〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字中一時停止〕を選択すると、本動作をおこないます。また、RFID書込みデータを複数受信した場合、本動作をおこないません。

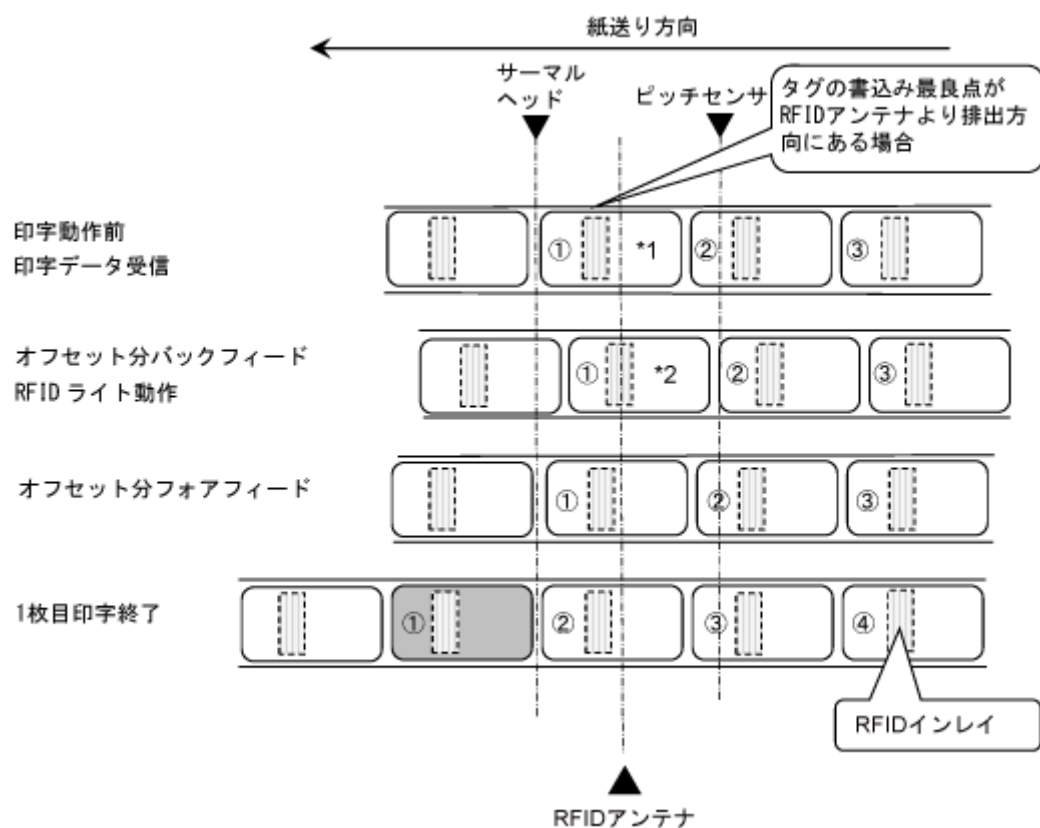


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み 連続発行モード（タグオフセット<0、印字前フィード）

〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。

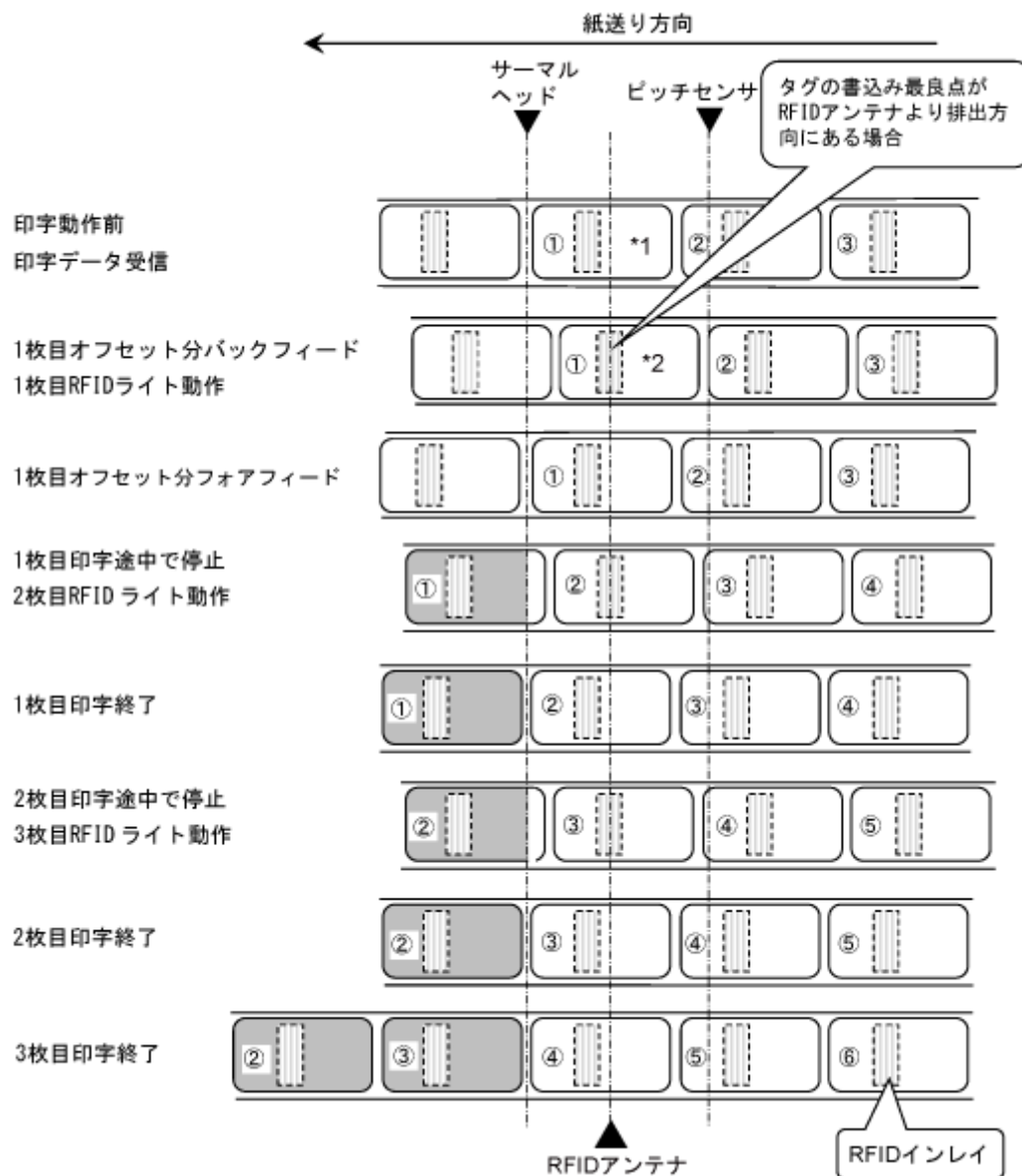


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得しますので使用しないでください。1枚目のタグが無駄になるため、用紙無駄なし機能が使用できません。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み 連続発行モード（タグオフセット<0、印字中一時停止）

〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字中一時停止〕を選択すると、本動作をおこないます。また、RFID書込みデータを複数受信した場合、本動作をおこないません。なお、RFID書込みデータが1アイテムの場合は、連続発行モード（タグオフセット<0、印字前エンコード動作）の動きになります。

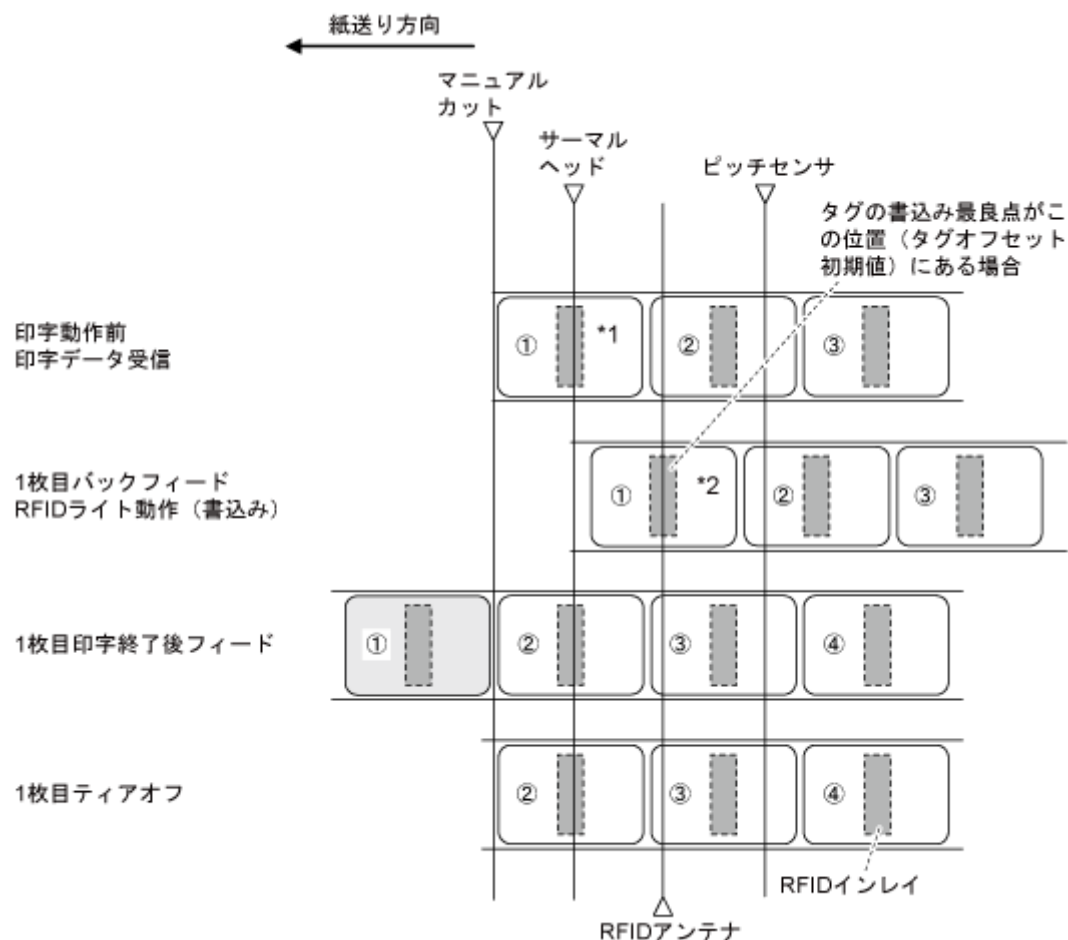


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得しますので使用しないでください。1枚目のタグが無駄になるため、用紙無駄なし機能が使用できません。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ティアオフモード（タグオフセット=0）

ティアオフモードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にマニュアルカット位置で停止します。

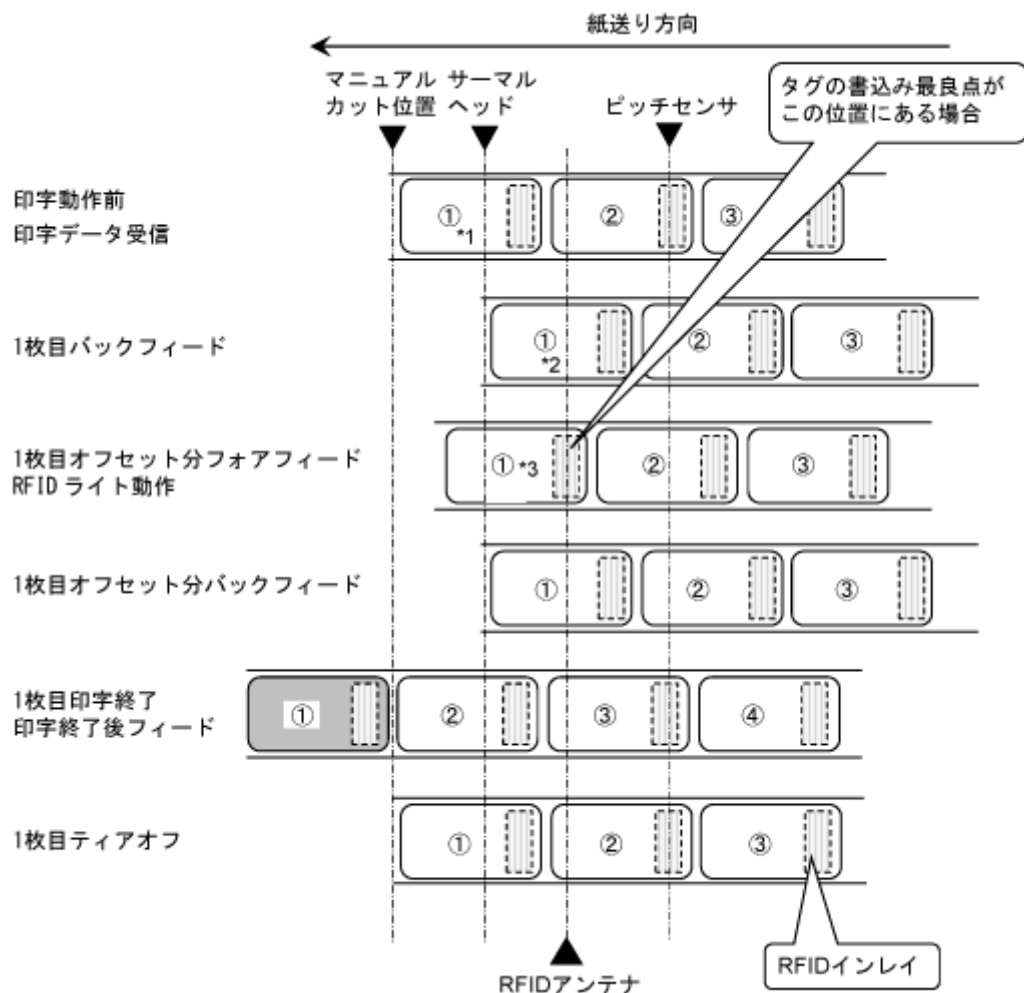


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ティアオフモード（タグオフセット>0、印字前フィード）

ティアオフモードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にマニュアルカット位置で停止します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。



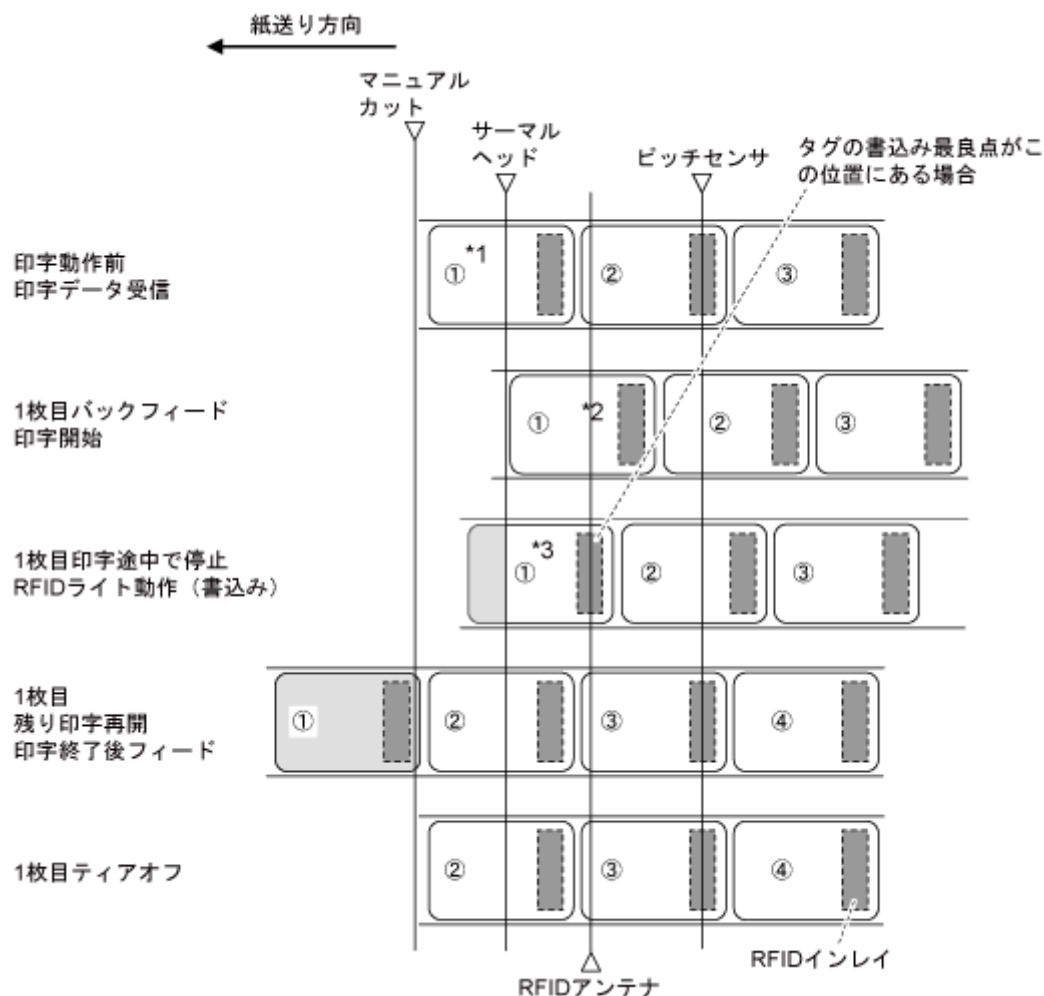
*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*3 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ティアオフモード（タグオフセット>0、印字中一時停止）

ティアオフモードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にマニュアルカット位置で停止します。[通信設定] > [RFID] > [タグオフセット] > [エンコード搬送動作] で、[印字中一時停止] を選択すると、本動作をおこないます。



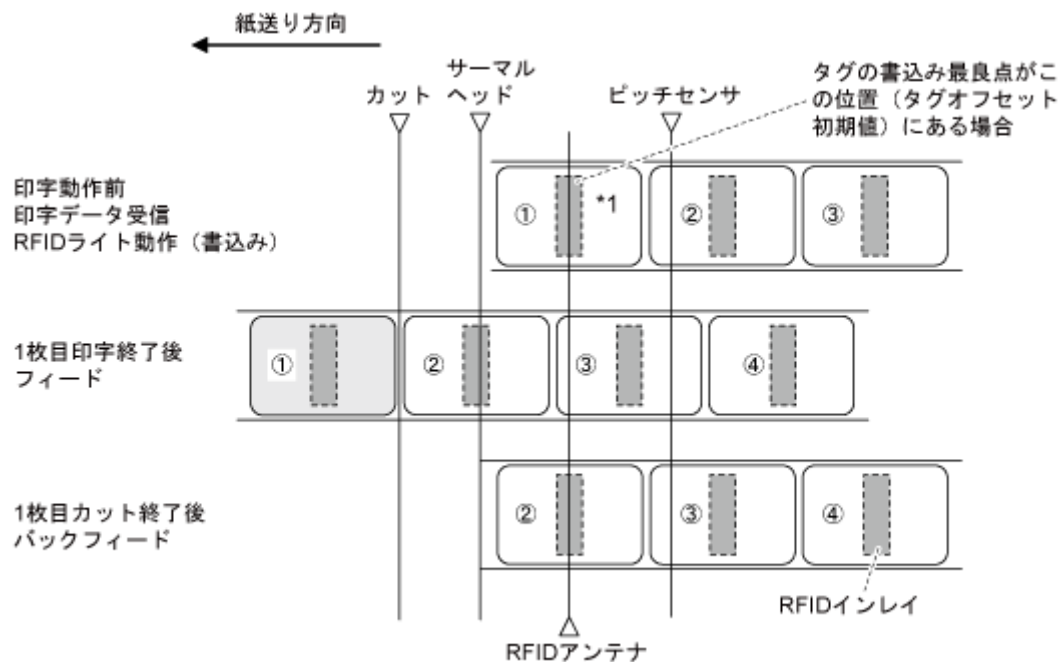
*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*3 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み カッタモード・印字後バックフィード（タグオフセット=0）

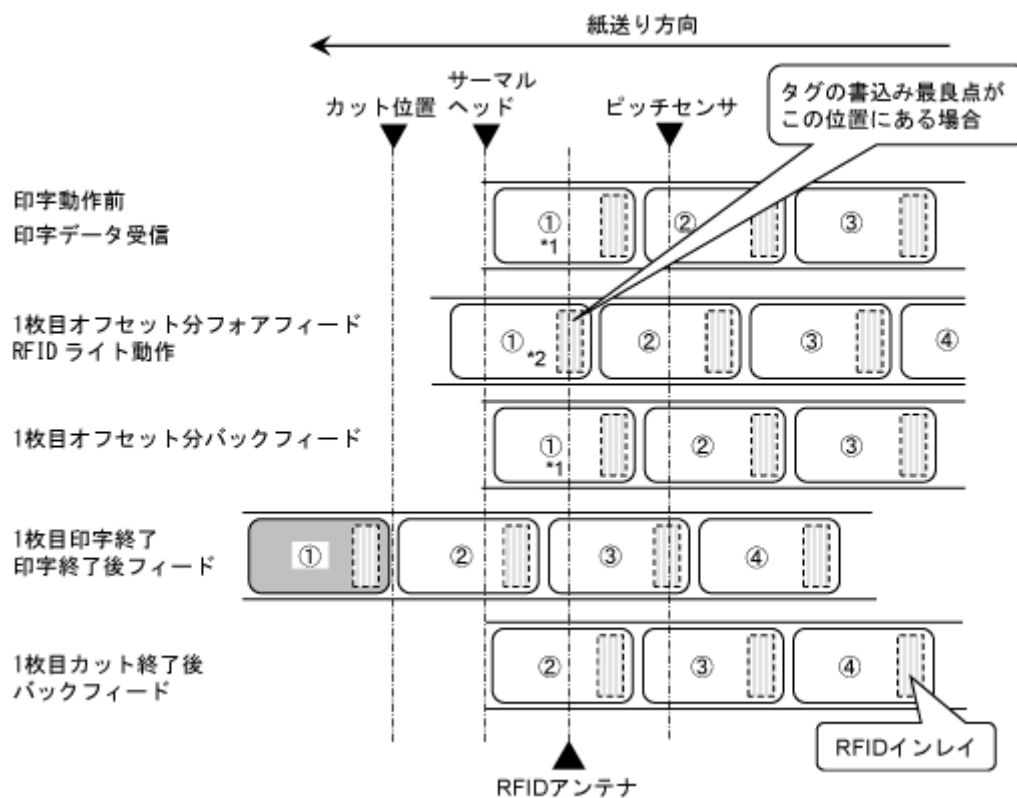
カッタモードで印字後バックフィードを選択した場合、タグはカット後にバックフィードされ、サーマルヘッド位置で停止します。



*1 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み カッタモード・印字後バックフィード（タグオフセット>0、印字前フィード）

カッタモードで印字後バックフィードを選択した場合、タグはカット後にバックフィードされ、サーマルヘッド位置で停止します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。

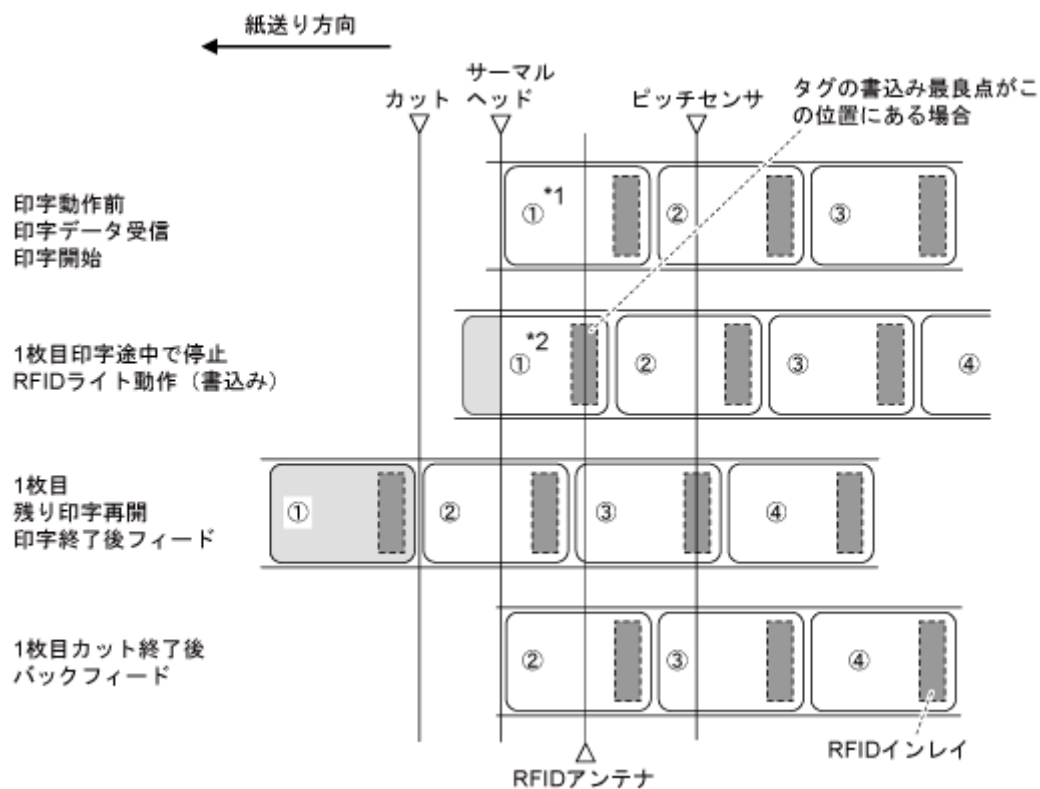


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み カッタモード・印字後バックフィード（タグオフセット>0、印字中一時停止）

カッタモードで印字後バックフィードを選択した場合、タグはカット後にバックフィードされ、サーマルヘッド位置で停止します。[通信設定] > [RFID] > [タグオフセット] > [エンコード搬送動作] で、[印字中一時停止] を選択すると、本動作をおこないます。

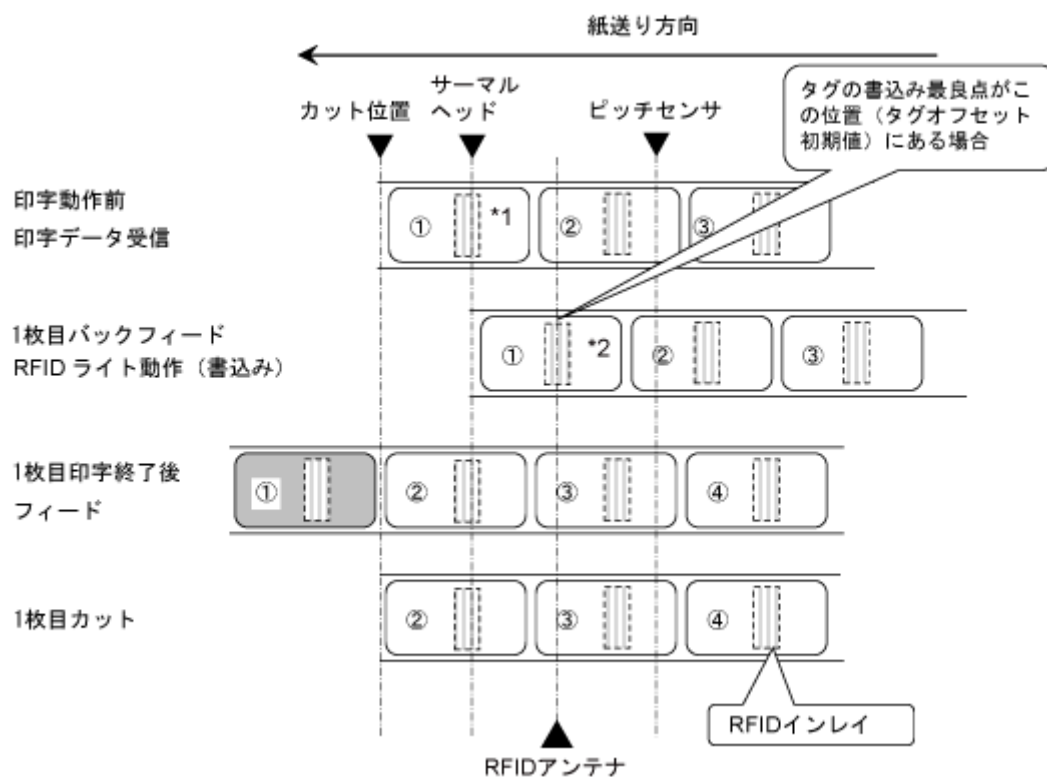


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み カッタモード・印字前バックフィード（タグオフセット=0）

カッタモードで印字前バックフィードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にカット位置で停止します。

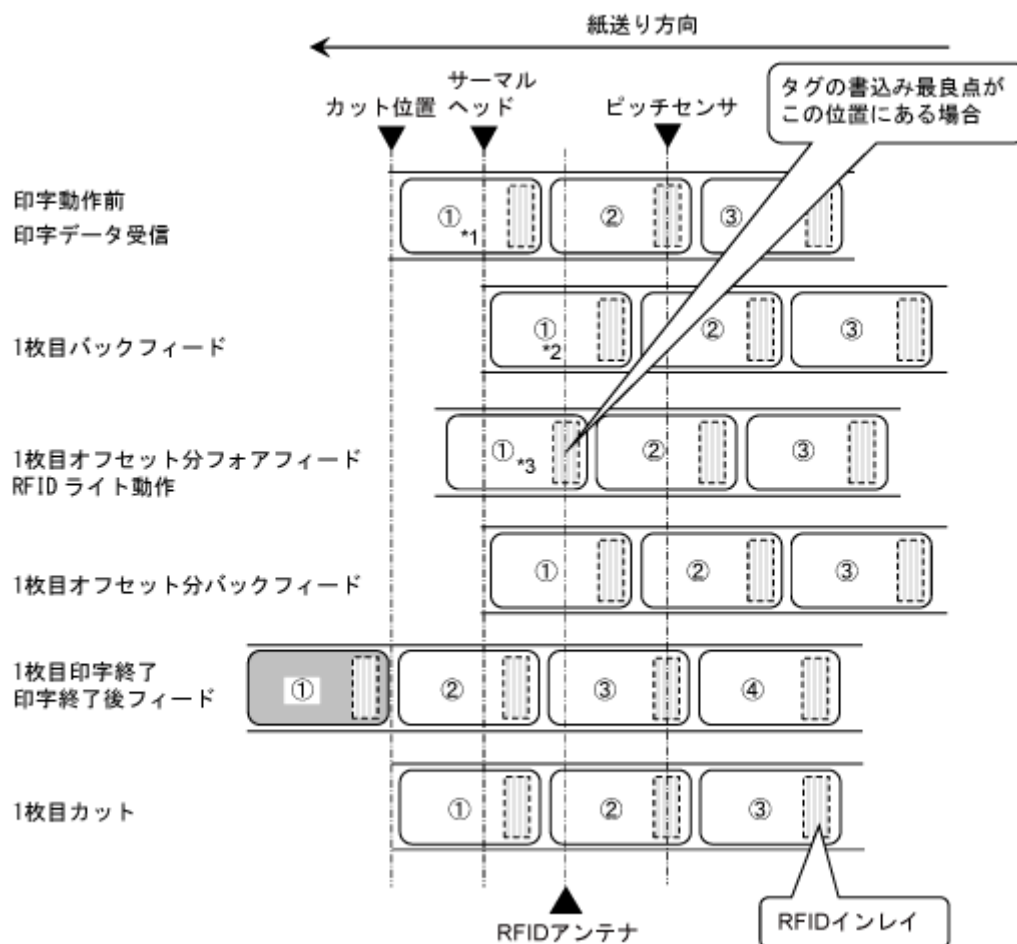


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み カッタモード・印字前バックフィード（タグオフセット>0、印字前フィード）

カッタモードで印字前バックフィードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にカット位置で停止します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。



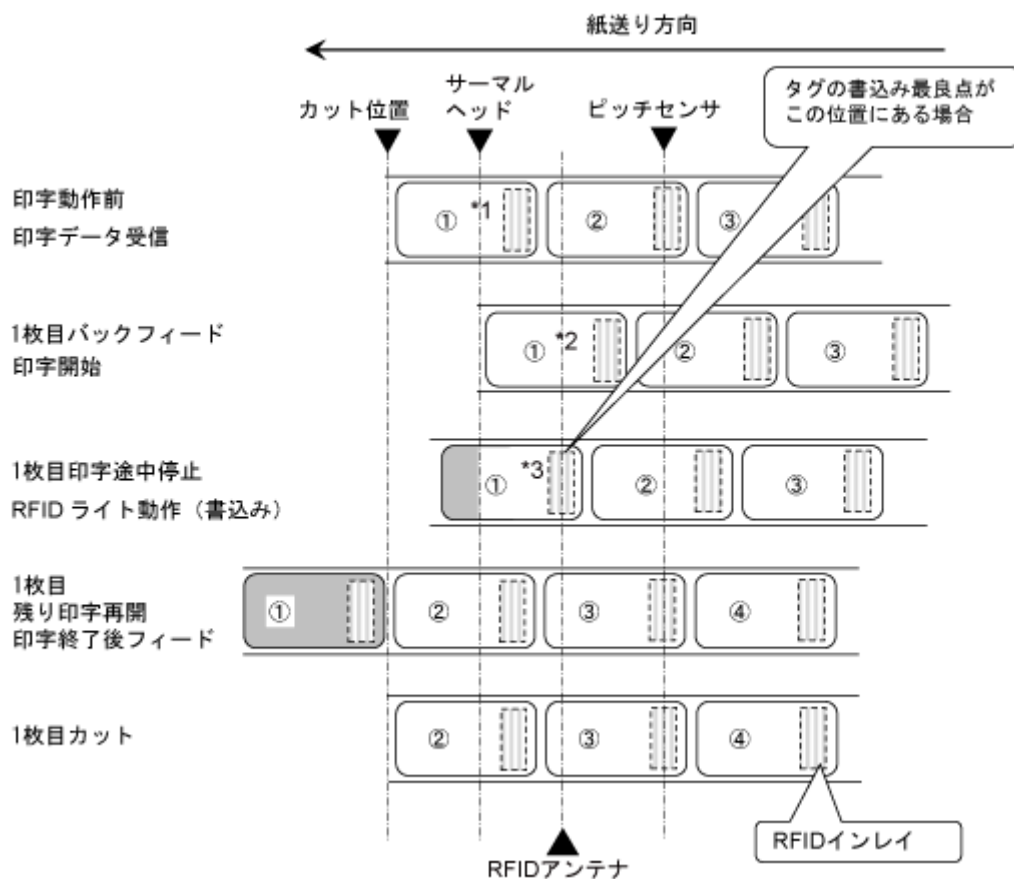
*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*3 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み カッタモード・印字前バックフィード（タグオフセット>0、印字中一時停止）

カッタモードで印字前バックフィードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にカット位置で停止します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字中一時停止〕を選択すると、本動作をおこないます。



*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

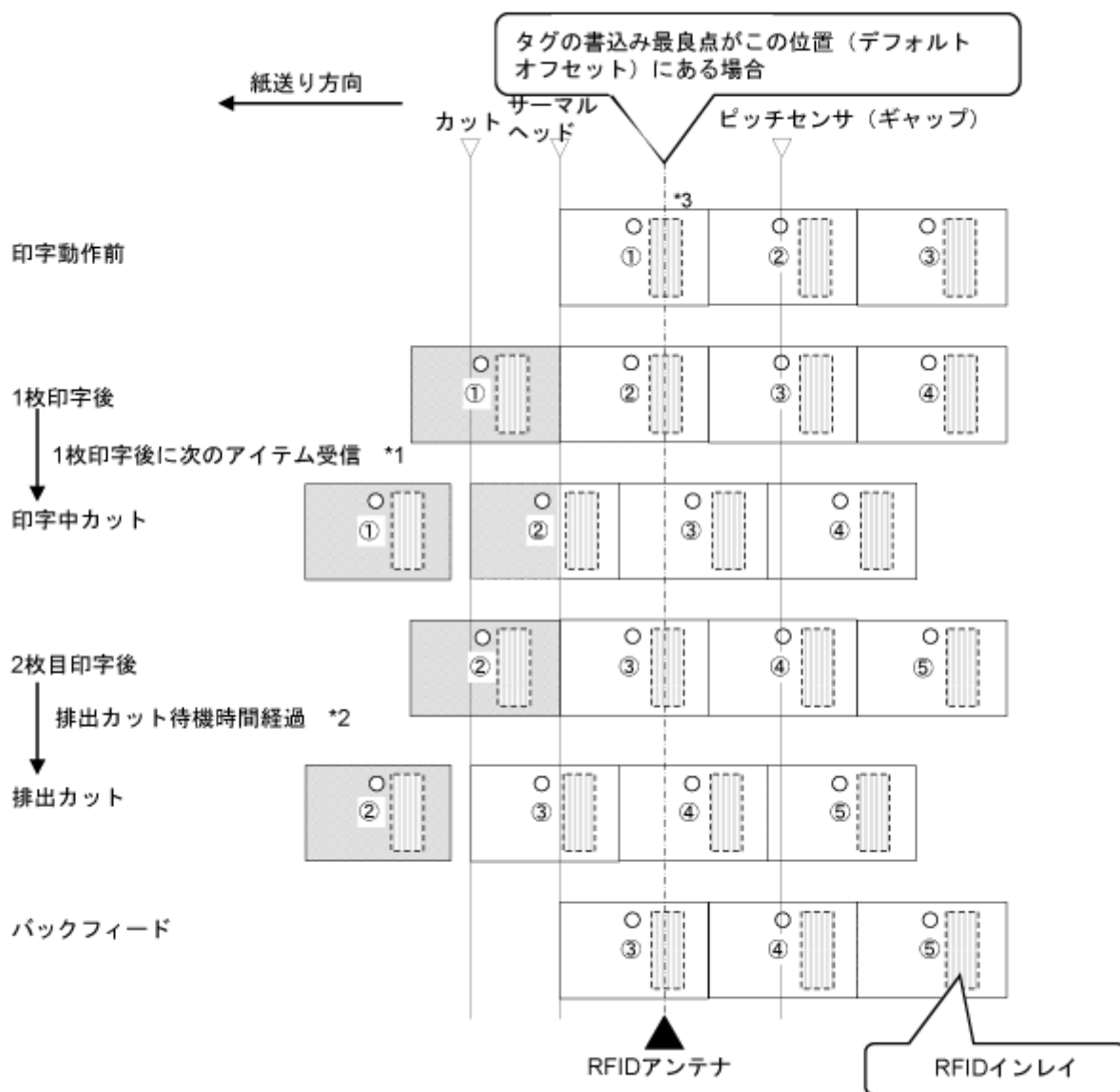
*3 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み 印字中カットモード

印字中カットモードを選択した場合、ヘッド位置で停止している印字前にRFIDのエンコードをおこないます。

印字中カット時に、RFIDのタグオフセットは使用できません。タグオフセットを設定しても設定値は無視します。

また、印字中カット設定になっている場合のRFIDタグエラー印字は、連続発行動作やカッタ動作と同等のエラー印字です。



*1 印字が完了してから、次の印字データを受信した場合は次の印字動作をおこない、カット位置でカット動作をおこないます。

*2 印字が完了してから、次の印字データがなく排出カット待機時間が経過したときに排出カット動作をおこないます。

*3 EPCコードライト指定<IP0> は、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、タグデータ印字<TU>、EPC/TID返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。



- 上記はサイドホールタグにてギャップセンサを使用し、基準位置を<#>で補正した場合の動作です。
-

エラー印字サンプル

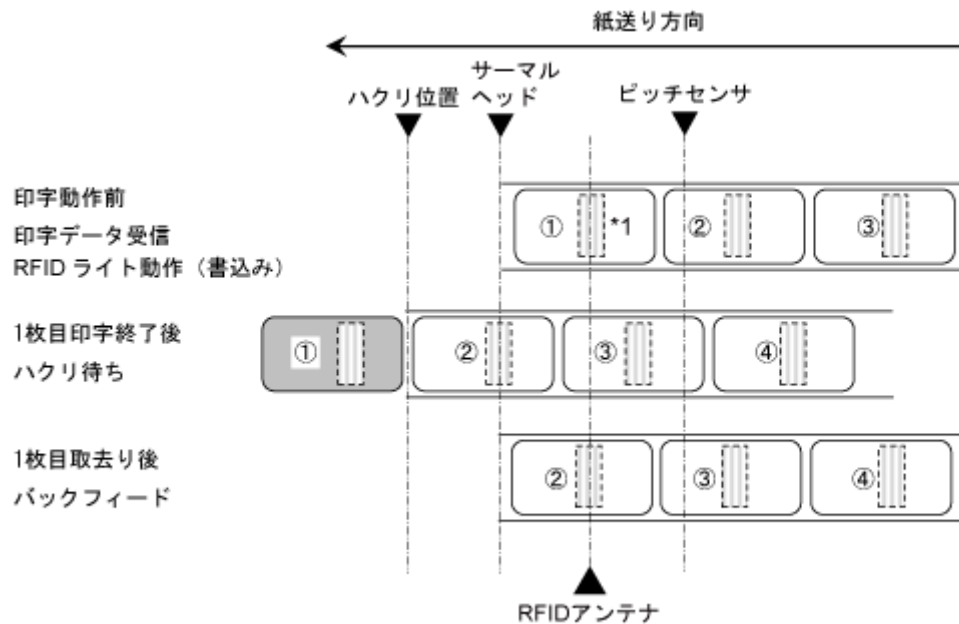
印字中カット設定になっている場合のRFIDタグエラー印字



白筋に注意してください。

RFID書込み ハクリモード・印字後バックフィード（タグオフセット=0）

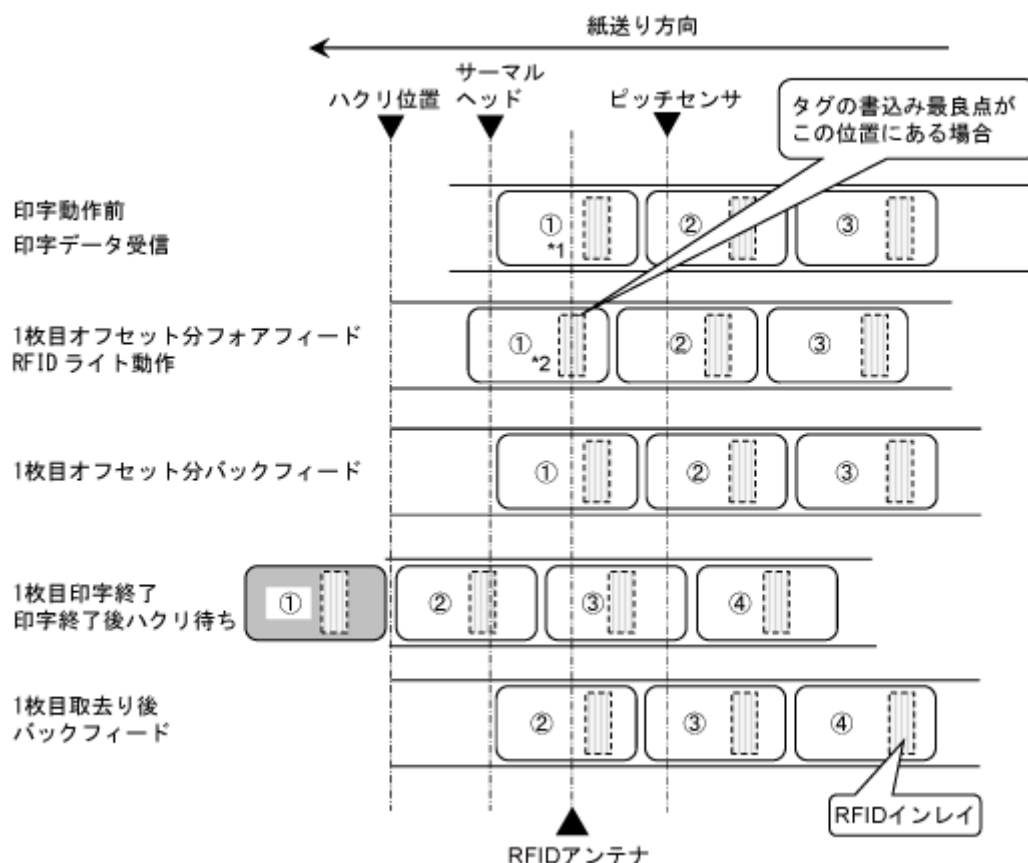
ハクリモードで印字後バックフィードを選択した場合、タグはタグ取去り後にバックフィードされ、サーマルヘッド位置で停止します。



*1 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ハクリモード・印字後バックフィード（タグオフセット>0、印字前フィード）

ハクリモードで印字後バックフィードを選択した場合、ハクリ後にタグを取り去るとバックフィードをしてサーマルヘッド位置で停止し、次のアイテムの解析と印字を実行します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。

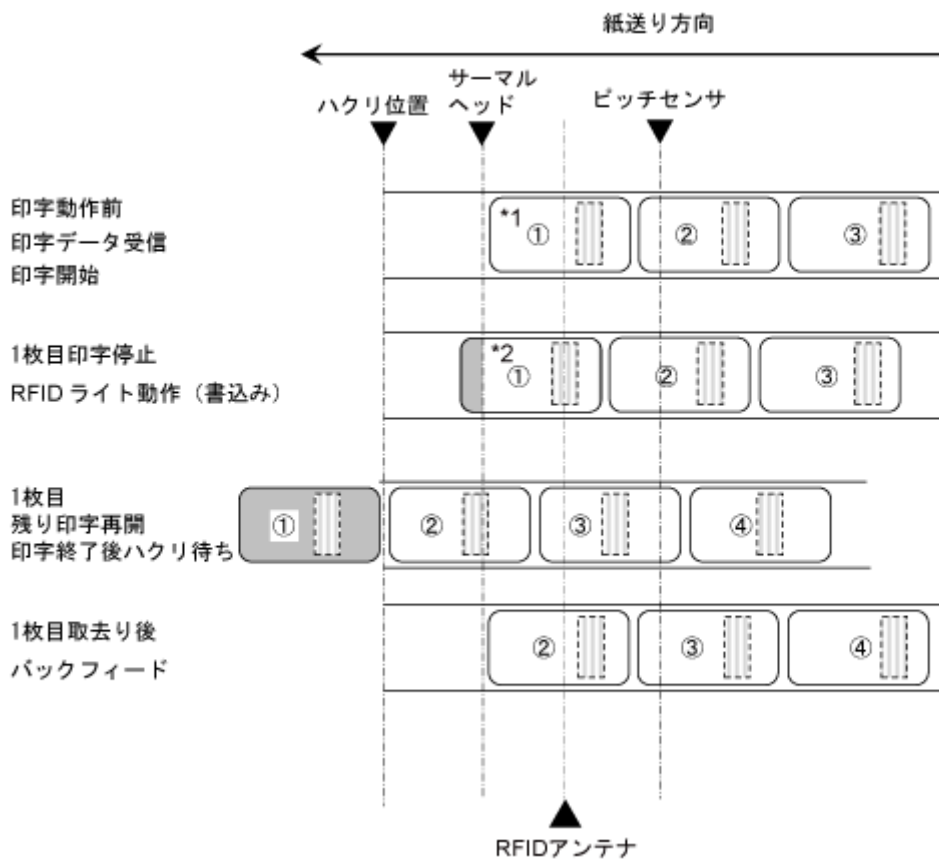


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ハクリモード・印字後バックフィード（タグオフセット>0、印字中一時停止）

ハクリモードで印字後バックフィードを選択した場合、ハクリ後にタグを取り去るとバックフィードをしてサーマルヘッド位置で停止し、次のアイテムの解析と印字を実行します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字中一時停止〕を選択すると、本動作をおこないます。

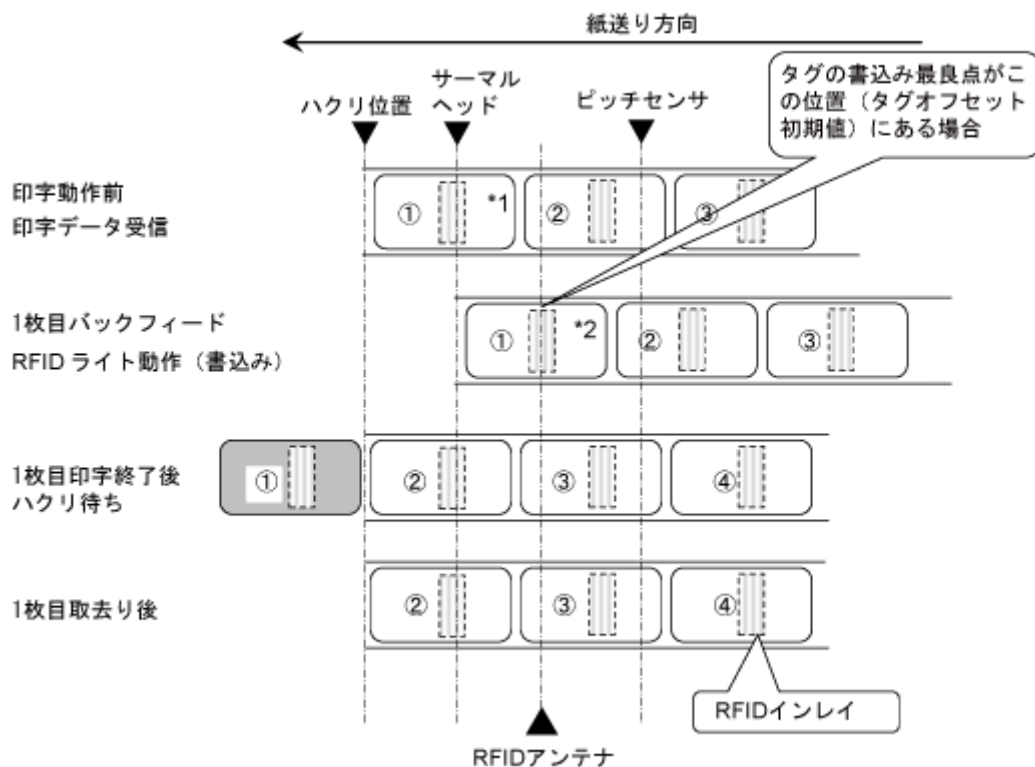


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJ、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ハクリモード・印字前バックフィード（タグオフセット=0）

ハクリモードで印字前バックフィードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にハクリ位置で停止します。

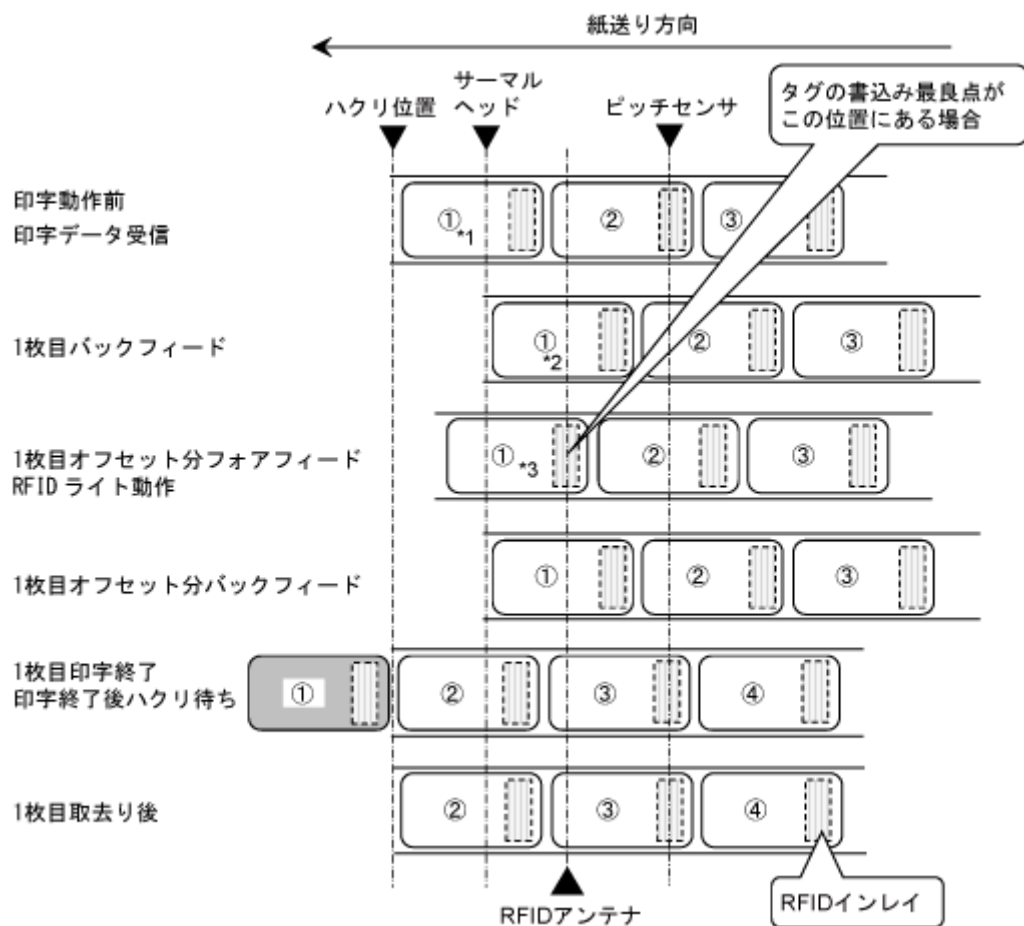


*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ハクリモード・印字前バックフィード（タグオフセット>0、印字前フィード）

ハクリモードで印字前バックフィードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にハクリ位置で停止します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字前フィード〕を選択すると、本動作をおこないます。



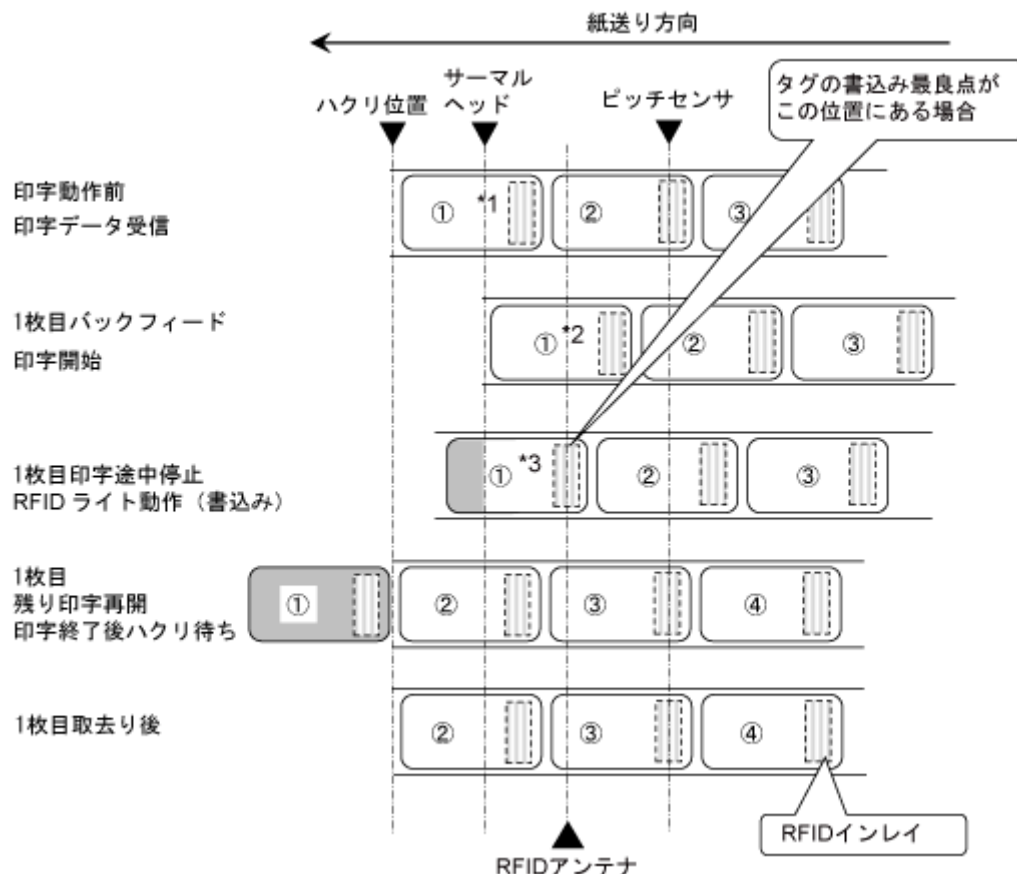
*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

*2 EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*3 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

RFID書込み ハクリモード・印字前バックフィード（タグオフセット>0、印字中一時停止）

ハクリモードで印字前バックフィードを選択した場合、タグは印字前にバックフィードされ、印字後にハクリ位置で停止します。〔通信設定〕＞〔RFID〕＞〔タグオフセット〕＞〔エンコード搬送動作〕で、〔印字中一時停止〕を選択すると、本動作をおこないます。



*1 EPCコードリード指定、RFIDタグ情報要求[DC2]PJコマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、使用しないでください。

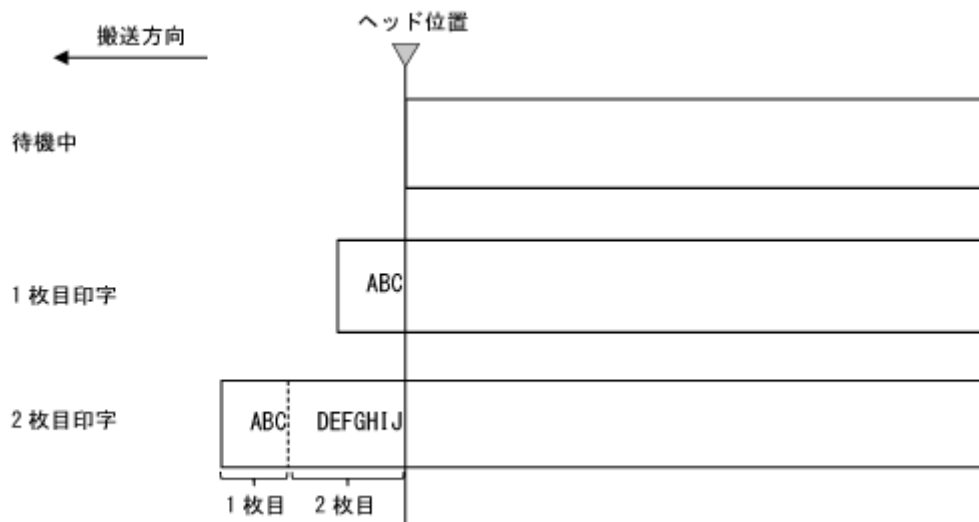
*2 EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得するため、タグオフセットが初期値以外に設定されている場合は使用しないでください。

*3 EPCコードライト指定<IP0>、RFIDライト指定<RK>コマンドは、このインレイ位置でデータを書き込みます。また、EPCコードリード指定、UID/EPC/IDm返送指定<RU>コマンドは、このインレイ位置で情報を取得します。

用紙センサ無効時の動作フロー

用紙センサ無効

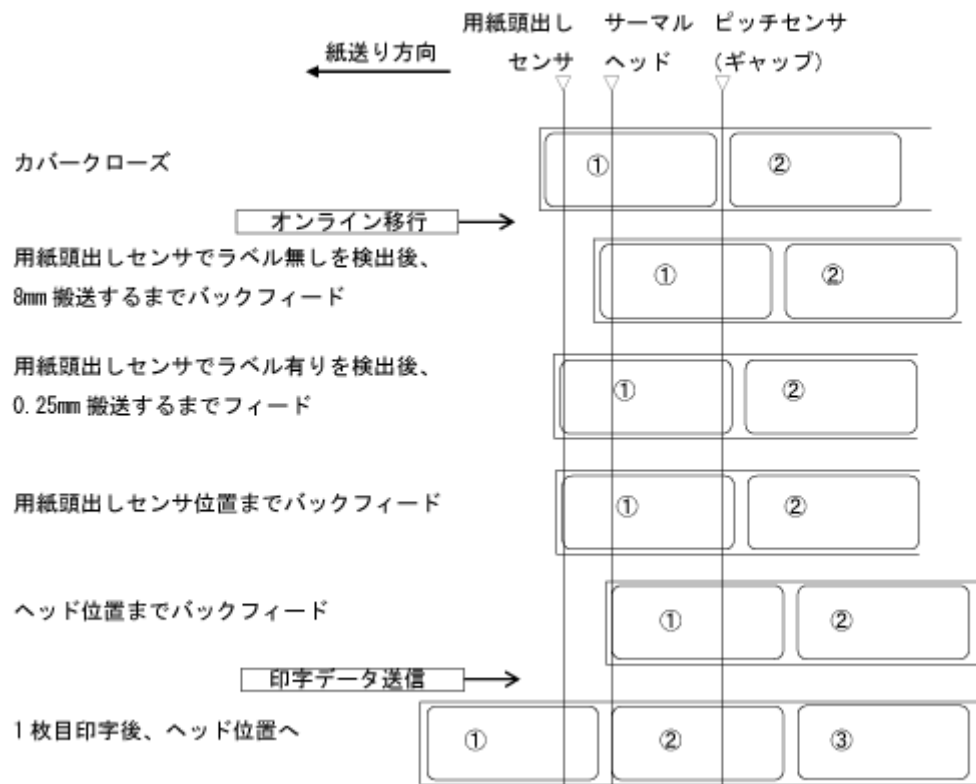
用紙センサを無効にした場合、指定した印字最終ラインで停止します。



- 印字速度によってレイアウトごとの間隔が変わります。上記の図では、印字速度を上げると、1枚目印字と2枚目印字の間のスペースが広がります。

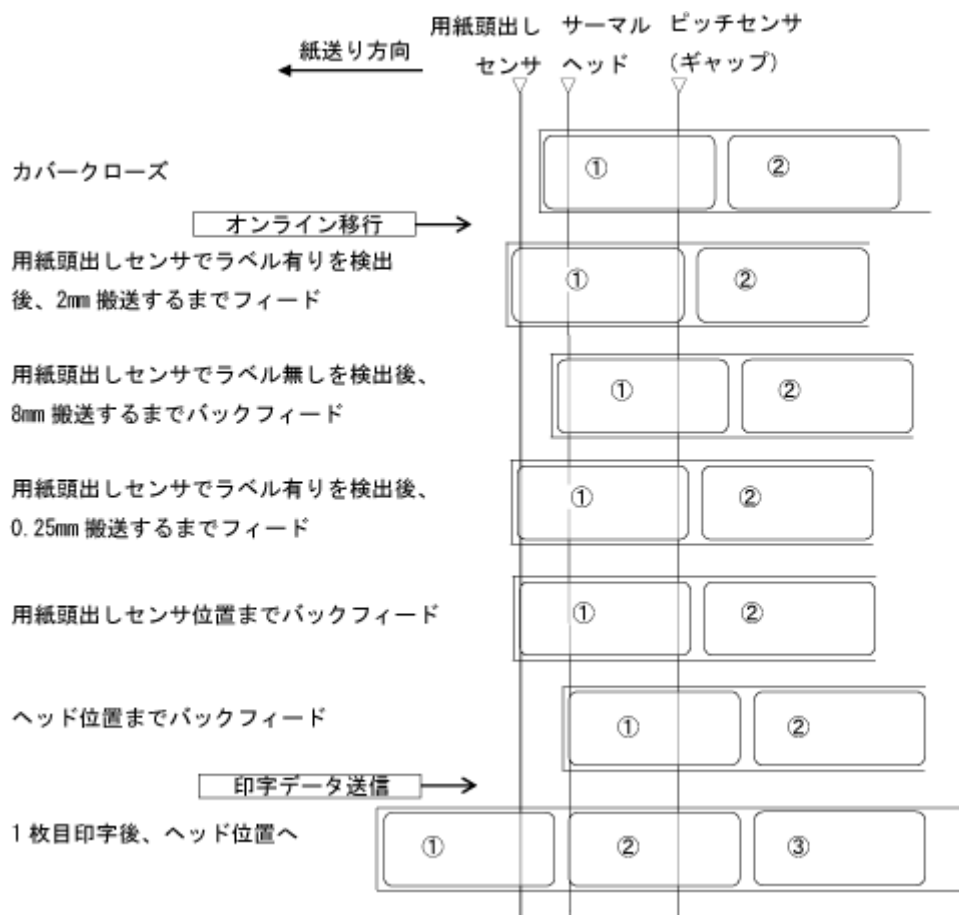
用紙無駄なし機能有効時の動作フロー

連続発行モード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）



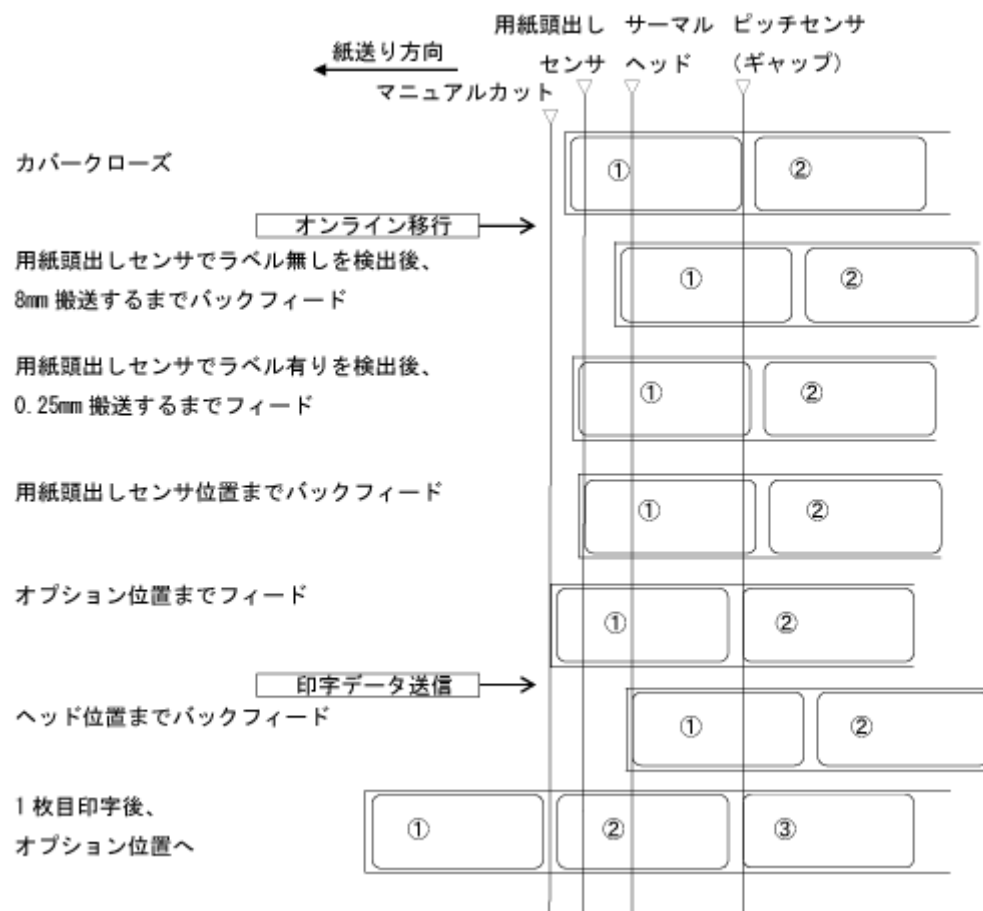
- 頭出し（1 枚目）は下記動作モードも同じ動きとなります。
 - 印字中カット・印字後バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）

連続発行モード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）

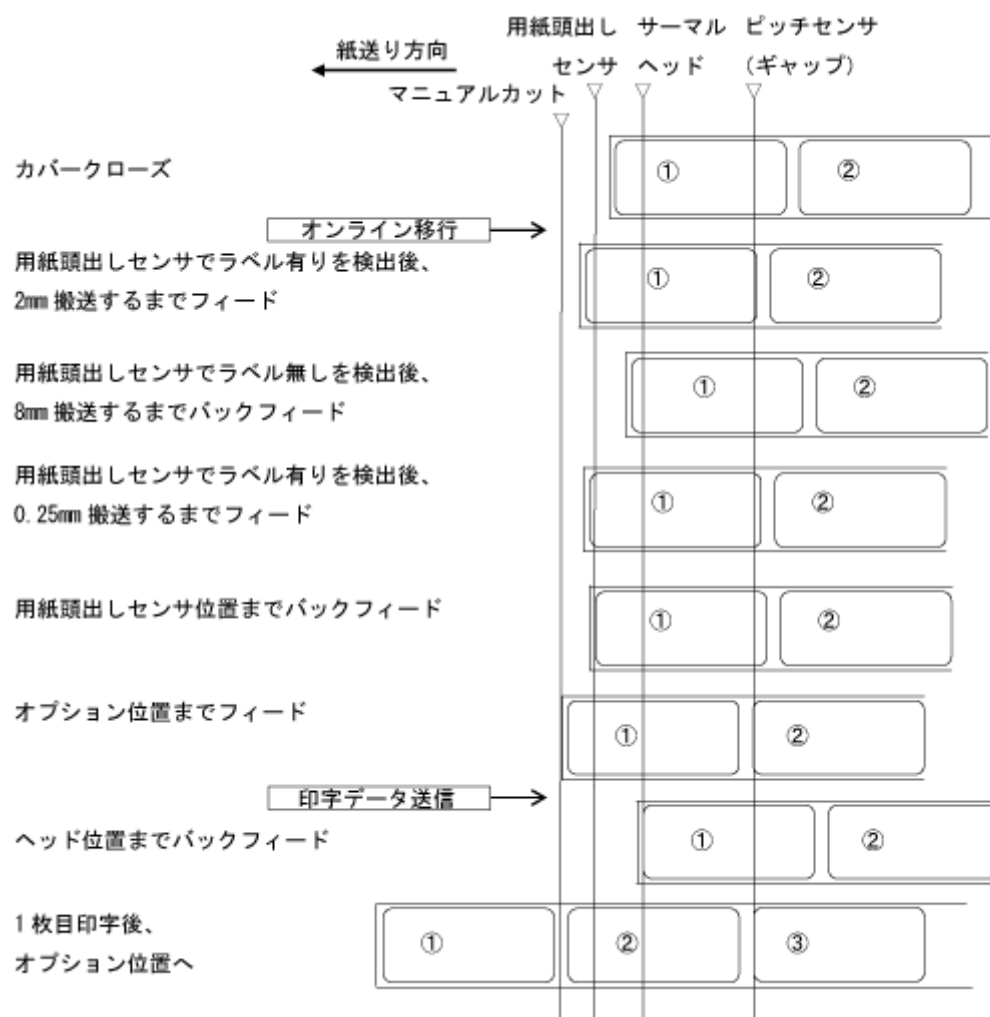


- 頭出し（1 枚目）は下記動作モードも同じ動きとなります。
 - 印字中カット・印字後バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）

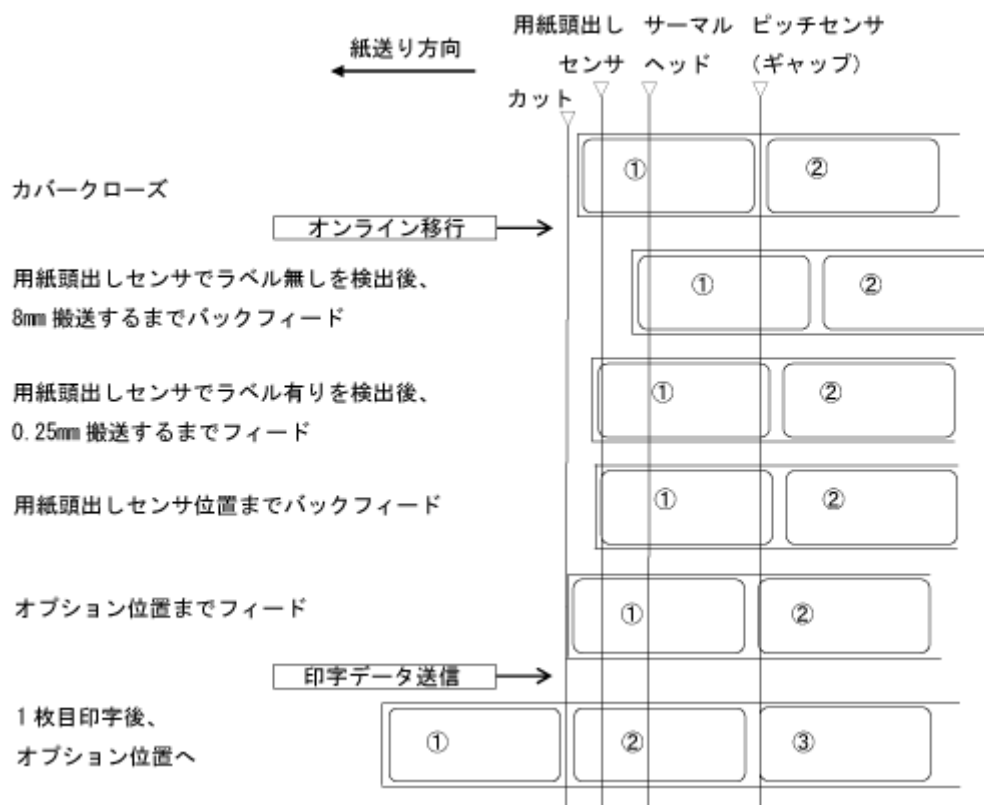
ティアオフモード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）



ティアオフモード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）

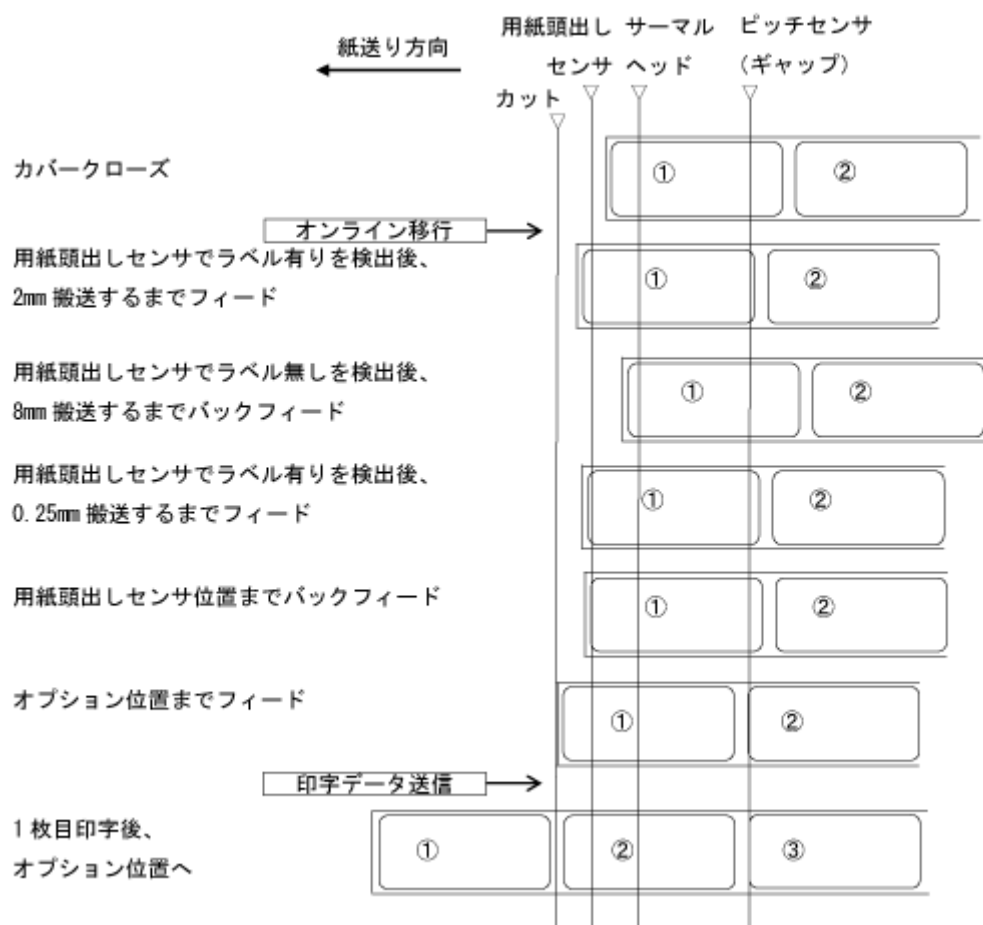


カッタモード・バックフィードなし（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）



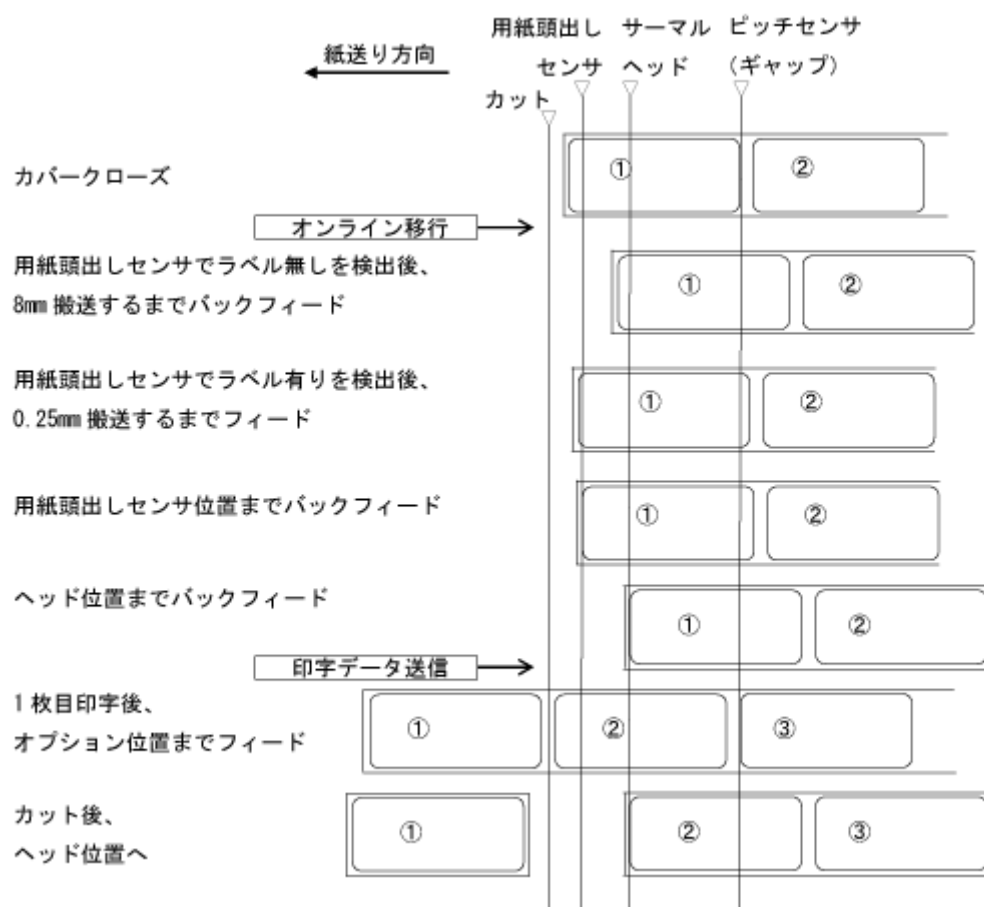
- 頭出し（1 枚目）は下記動作モードも同じ動きとなります。
 - カッタモード・印字前バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）
 - パーシャルカッタモード・バックフィードなし（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）
 - パーシャルカッタモード・印字前バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）

カッタモード・バックフィードなし（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）

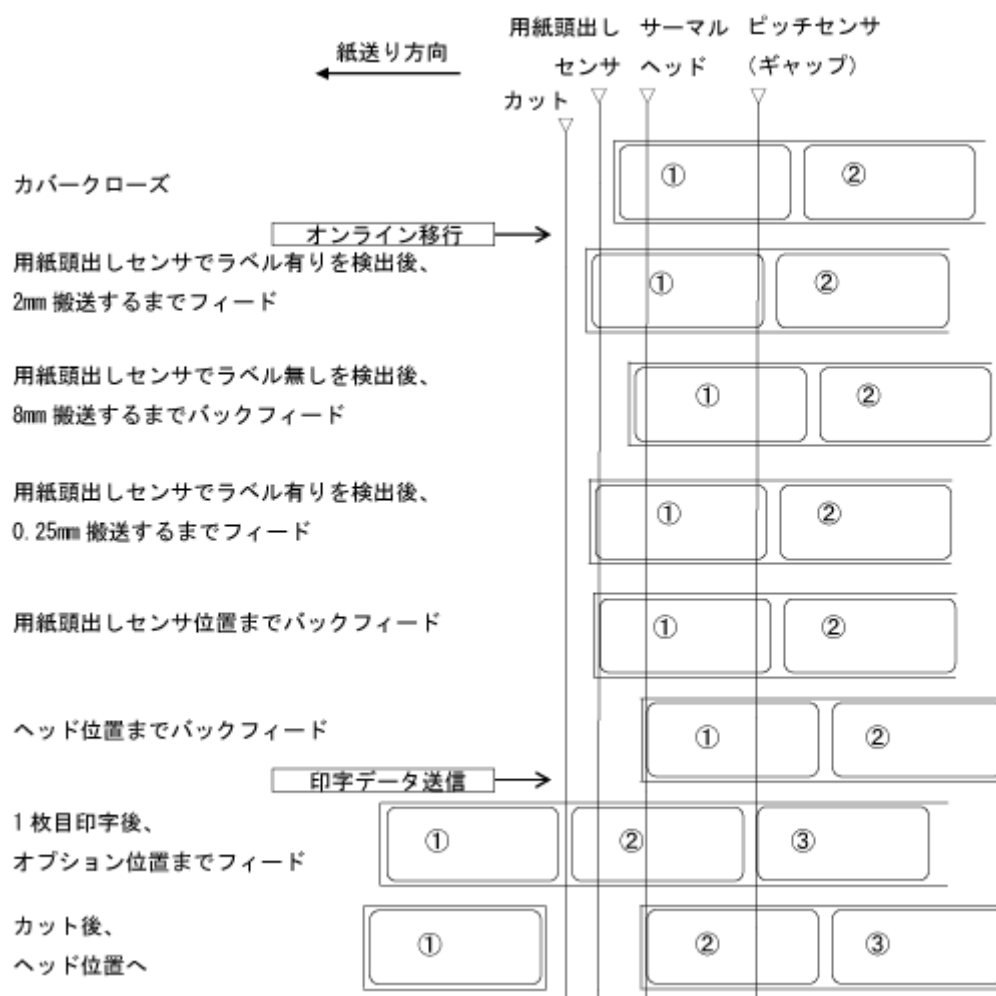


- 頭出し（1 枚目）は下記動作モードも同じ動きとなります。
 - カッタモード・印字前バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）
 - パーシャルカッタモード・バックフィードなし（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）
 - パーシャルカッタモード・印字前バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）

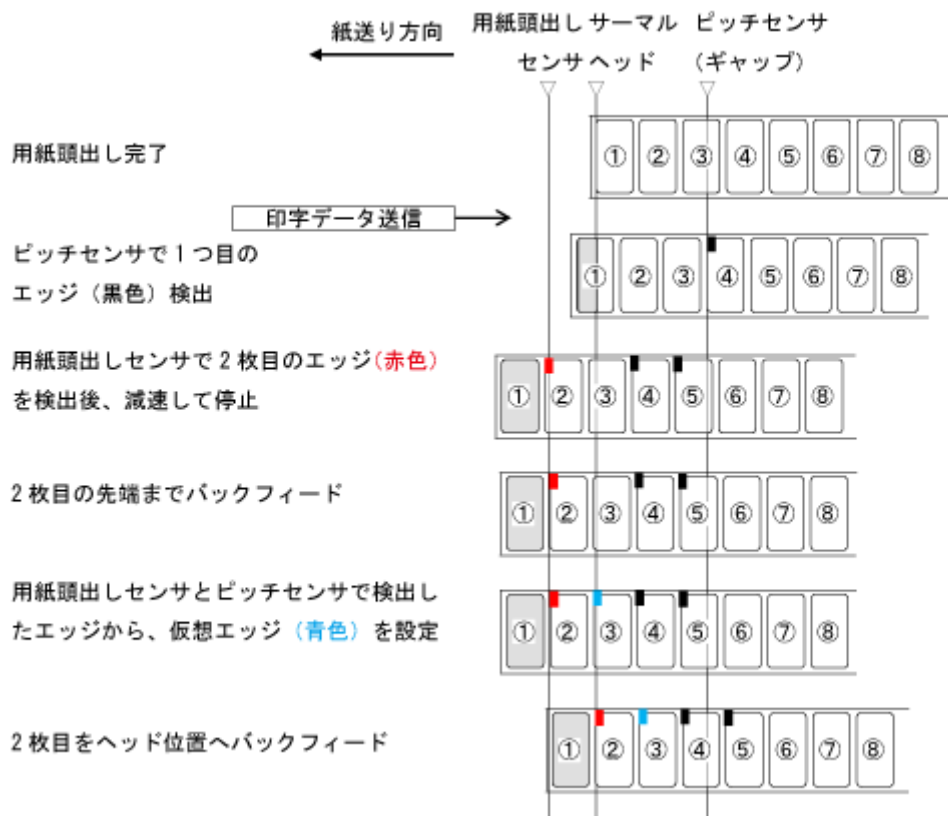
カットモード・印字後バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルあり）



カットモード・印字後バックフィード（トップカバークローズ時、用紙頭出しセンサ上にラベルなし）

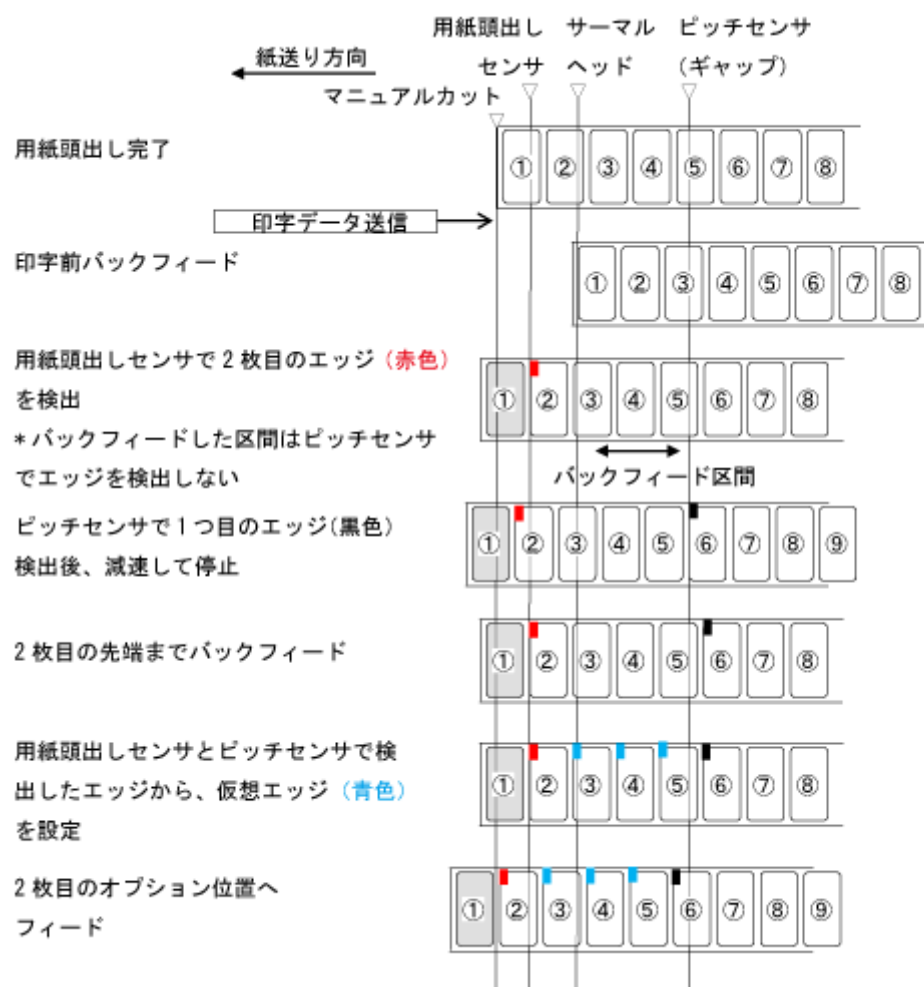


連続発行モード・登録用紙長 =0（自動設定）

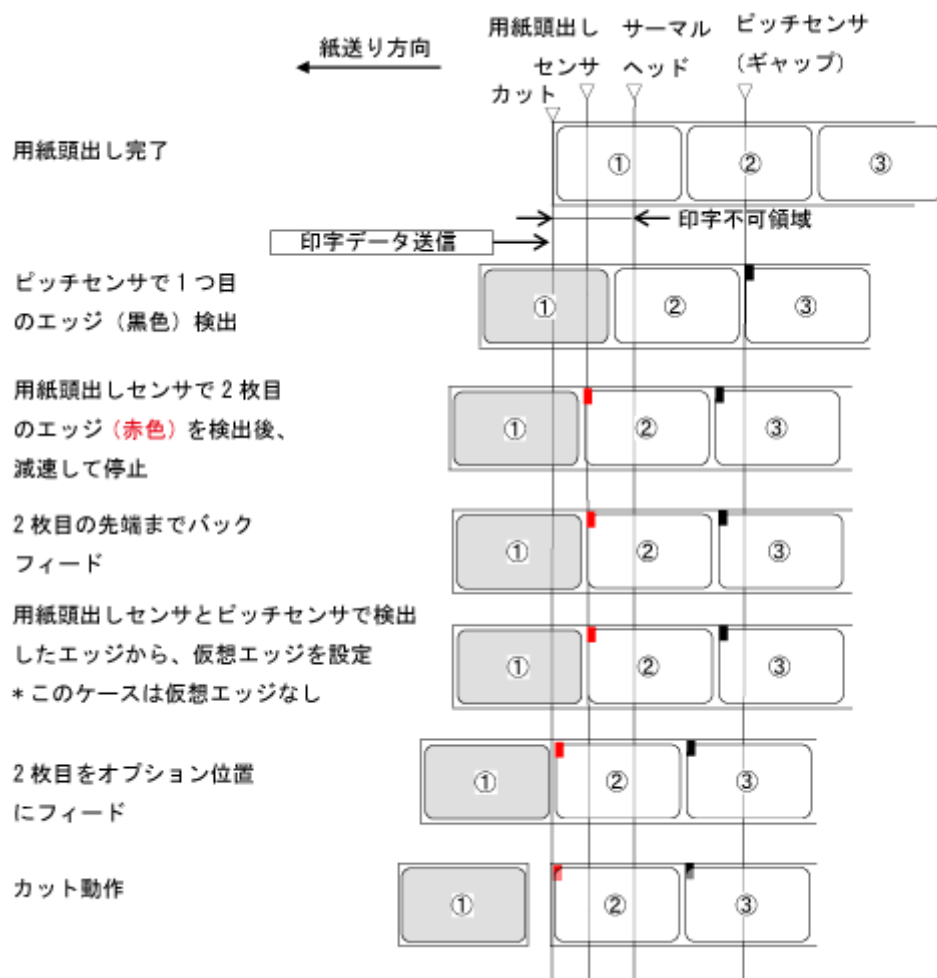


- 「登録用紙長」を0（自動）に設定しているときの1枚目の印字動作は下記動作モードも同じ動きとなります。
 - 印字中カット・印字後バックフィード

ティアオフモード・登録用紙長=0（自動設定）

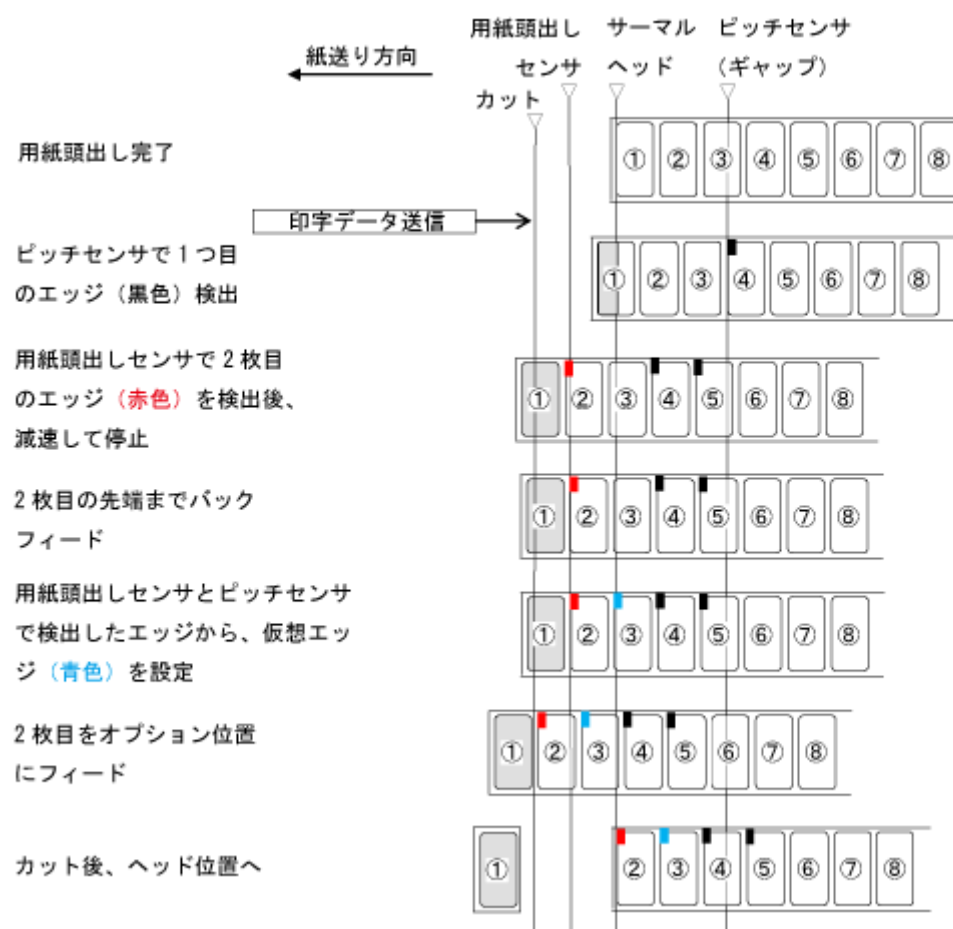


カタモード・バックフィードなし・登録用紙長=0（自動設定）



- 「登録用紙長」を0（自動）に設定しているときの1枚目の印字動作は下記動作モードも同じ動きとなります。
 - パーシャルカット・バックフィードなし

カタモード・印字後バックフィード・登録用紙長=0（自動設定）



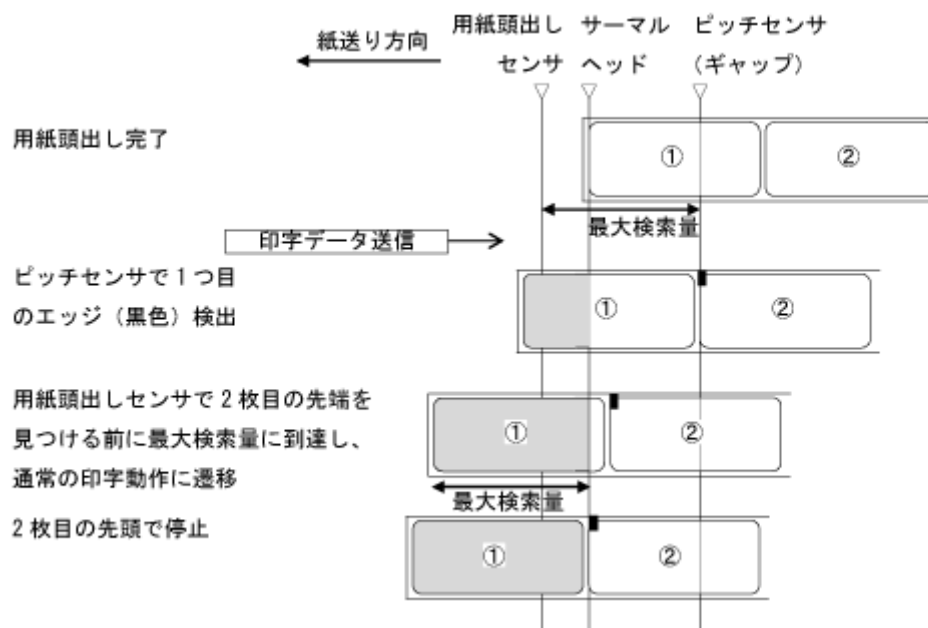
カタモード・印字前バックフィード・登録用紙長=0（自動設定）



パーシャルカットモード・印字前バックフィード・登録用紙長=0（自動設定）



用紙（標準）使用・登録用紙長=0（自動設定）



- 1枚目の印字の搬送を開始してから、最大検索量に到達しても、用紙頭出しセンサで2枚目の先端が見つからない場合、用紙無駄なし専用の動作フローから、通常の印字動作のフローに遷移します。最大検索量は、動作モードにより異なります。

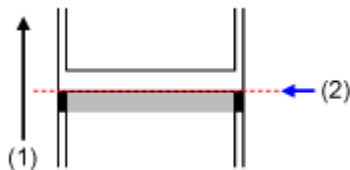
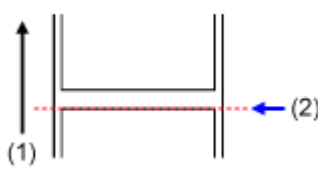
基点を調整する

基点について

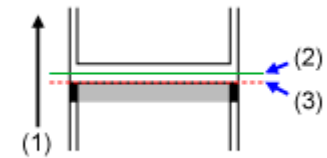
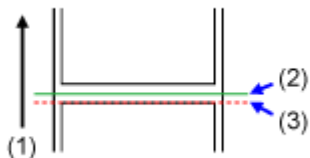
基点は、印字や停止/カット/ハクリの位置を決めるときに基準となる位置です。

基点は、動作モードや使用する用紙センサによって異なります。

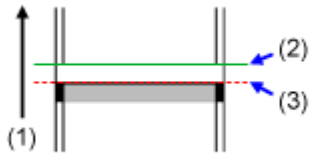
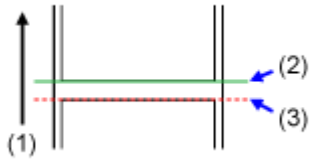
連続発行モード

アイマークラベル	ギャップラベル
 (1) 紙送り方向 (2) 印字位置	 (1) 紙送り方向 (2) 印字位置

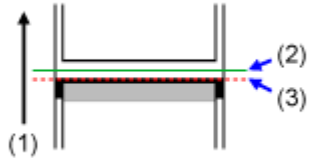
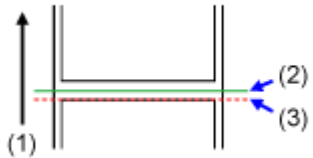
ティアオフモード

アイマークラベル	ギャップラベル
 (1) 紙送り方向 (2) ティアオフ位置 (3) 印字位置	 (1) 紙送り方向 (2) ティアオフ位置 (3) 印字位置

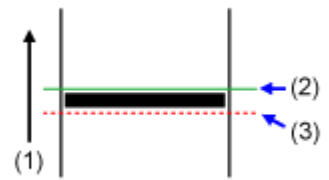
ハクリモード

アイマークラベル	ギャップラベル
 (1) 紙送り方向 (2) ハクリ位置 (3) 印字位置	 (1) 紙送り方向 (2) ハクリ位置 (3) 印字位置

カッタ/パーシャルカッタモード

アイマークラベル	ギャップラベル
 (1) 紙送り方向 (2) カット位置 (3) 印字位置	 (1) 紙送り方向 (2) カット位置 (3) 印字位置

ノンセパカッタモード

アイマークノンセパラベル
 (1) 紙送り方向 (2) カット位置 (3) 印字位置

ノンセパティアオフモード

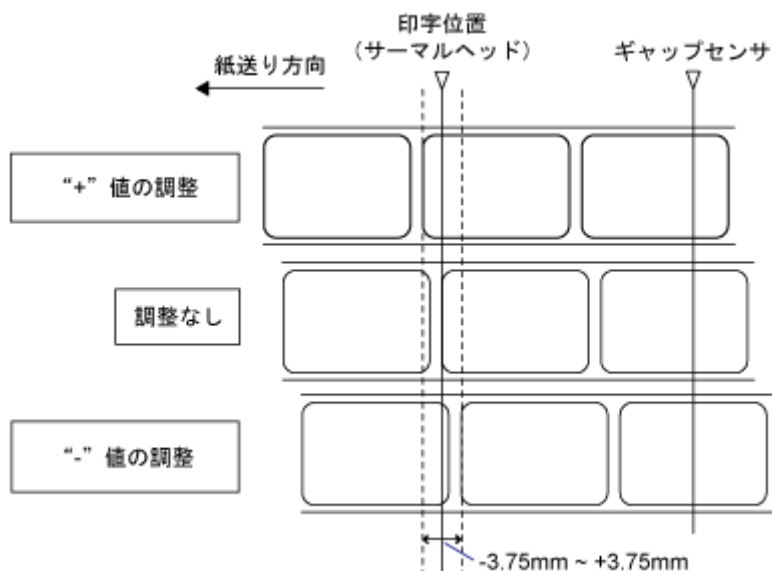
アイマークノンセパラベル



- (1) 紙送り方向
- (2) ティアオフ位置
- (3) 印字位置

印字位置を調整する

印字位置を調整するには、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューで [印字位置調整] を設定します。



- 上記の基点（印字位置）は、センサタイプが透過（ギャップ）に設定されているときの停止位置になります。

1. ホーム画面またはオフライン画面で [設定] をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. [印字] をタップします。



4. [詳細設定] > [調整モード] > [印字位置調整] をタップします。

5. 設定値を変更します。

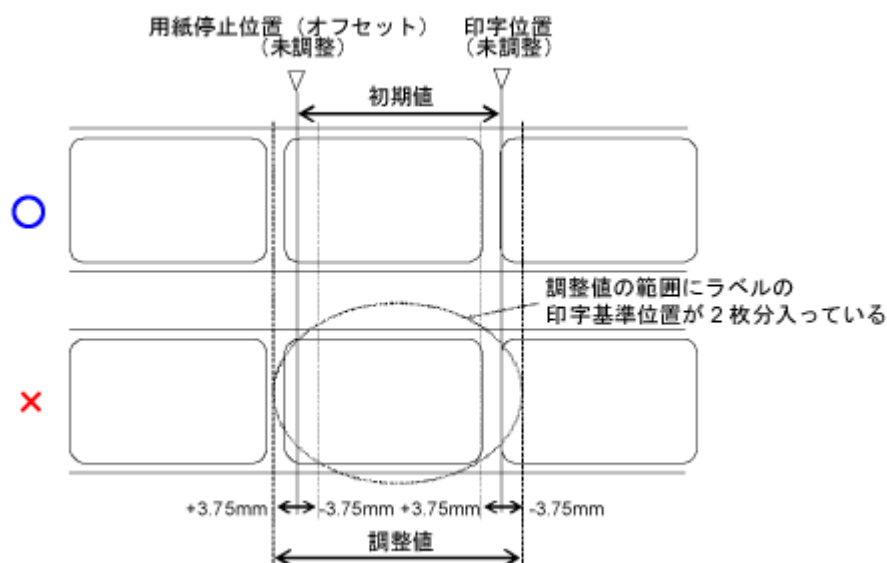


設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot



- 「印字位置調整」と「オフセット調整」の調整後の距離が、用紙1枚分（台紙含む）を超えないようにしてください。



- 「システム」＞「地域」＞「単位」メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

6. をタップして設定値を保存します。

7. （電源/ホーム）ボタンを押して、ホーム画面を表示します。

8. （電源/ホーム）ボタンを押して、オンライン状態にします。

印字を実行して印字位置の調整結果を確認できます。

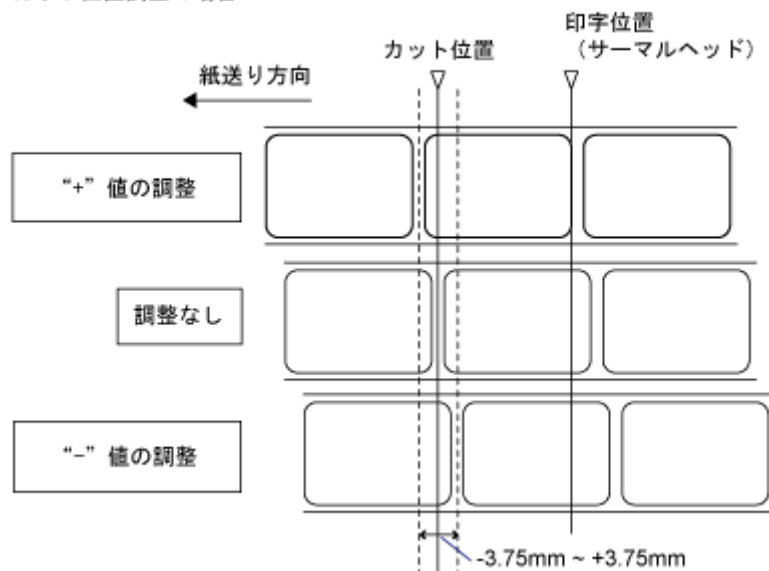


- 印字ジョブの一時停止中は、〔設定〕メニューの代わりに〔調整モード〕メニューが表示され、印字位置を調整できます。
-

用紙停止位置を調整する

用紙停止位置（カット/ハクリ/ティアオフ停止位置）を調整するには、[印字] > [詳細設定] > [調整モード] メニューで [オフセット調整] を設定します。

カット位置調整の場合



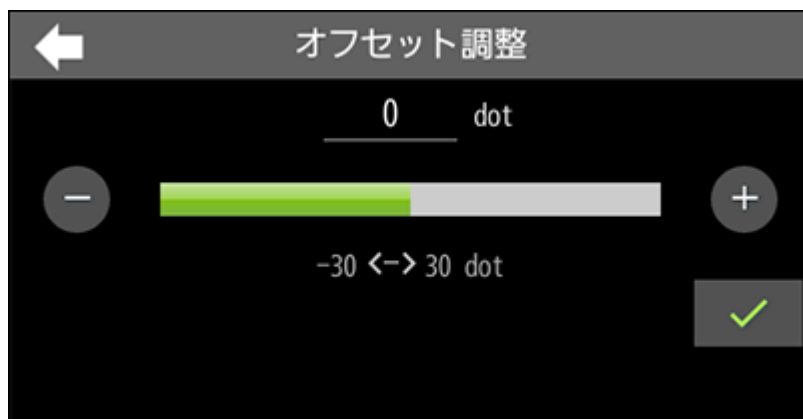
- 上記のカット位置は、センサタイプが透過（ギャップ）に設定されているときの停止位置になります。
- 動作モードにティアオフやハクリを指定した場合も同様に調整できます。

1. ホーム画面またはオフライン画面で [設定] をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. [印字] をタップします。



4. [詳細設定] > [調整モード] > [オフセット調整] をタップします。

5. 設定値を変更します。

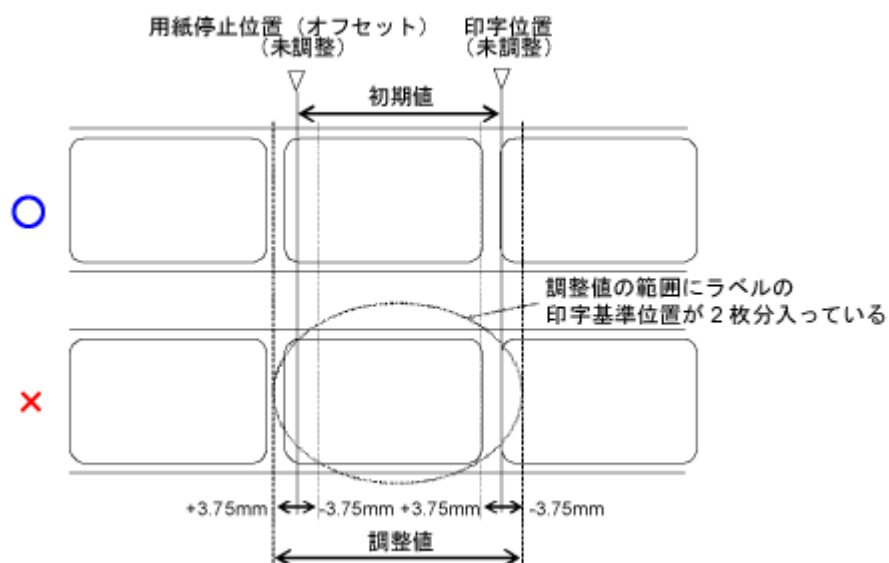


設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot



- 「印字位置調整」と「オフセット調整」の調整後の距離が、用紙1枚分（台紙含む）を超えないようにしてください。



- 「システム」＞「地域」＞「単位」メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。

6. をタップして設定値を保存します。

7. （電源/ホーム）ボタンを押して、ホーム画面を表示します。

8. （電源/ホーム）ボタンを押して、オンライン状態にします。

印字を実行して用紙停止位置の調整結果を確認できます。

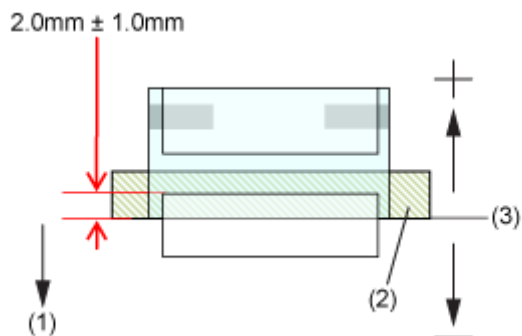


- 印字ジョブの一時停止中は、〔設定〕メニューの代わりに〔調整モード〕メニューが表示され、用紙停止位置を調整できます。
-

さまざまな用紙の停止/カット位置調整ガイドライン

ハクリモードでのラベル停止位置

台紙に残るラベルの幅が約 2 ± 1 mmになる位置が正規の位置です。

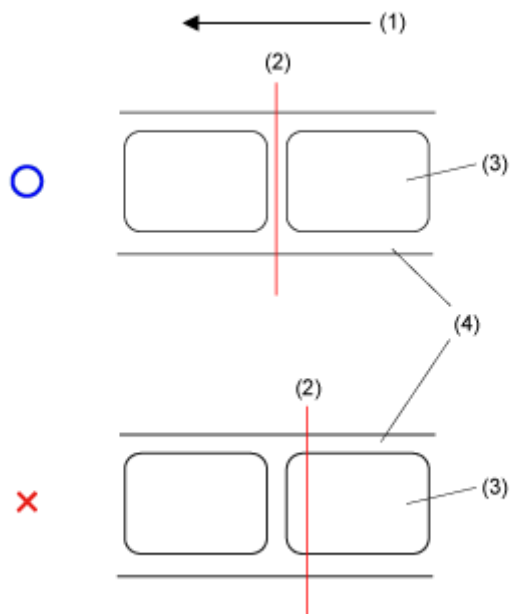


- (1) 紙送り方向
- (2) ハクリバー
- (3) 停止位置

ティアオフ/各カットモードでのラベル使用時のカット位置

ラベルとラベルの間（台紙のみの部分）が正規のカット位置です。

ラベルをカットすると、糊がカッタの刃に付着して、カッタの切れが悪くなります。ラベルをカットすることのないように、カット位置を調整してください。



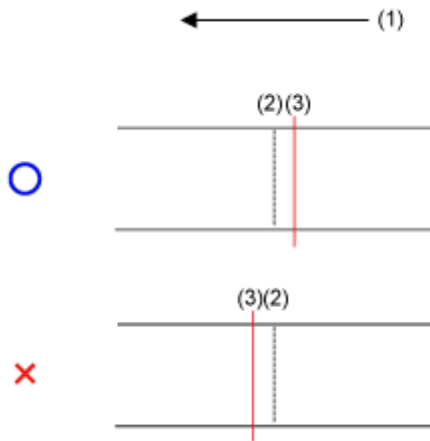
- (1) 紙送り方向
- (2) カット位置（アイマークセンサ/ギャップセンサ）
- (3) ラベル

(4) 台紙

ティアオフ/各カッターモードでのミシン目のある用紙使用時のカット位置

ミシン目のある用紙では、ミシン目およびミシン目の手前で用紙をカットすることのないように、カット位置を調整してください。

この部分で用紙をカットすると、用紙詰まりや故障の原因になります。



(1) 紙送り方向

(2) ミシン目

(3) カット位置

用紙頭出しセンサの位置を調整する

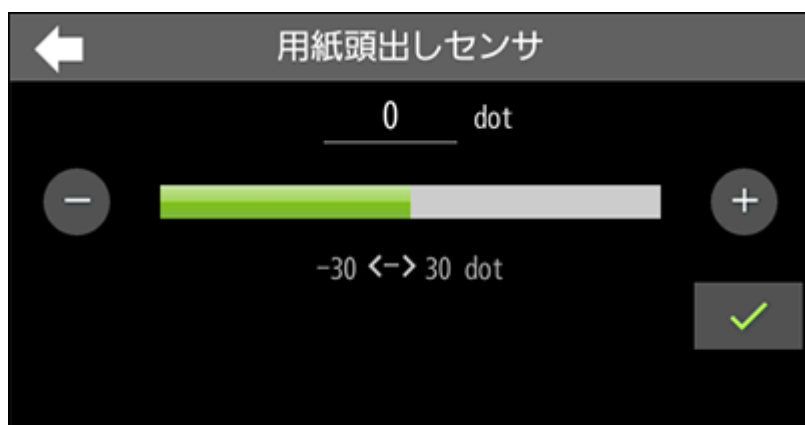
用紙無駄なし機能有効時、用紙排出口にある用紙頭出しセンサで用紙の先端を検出し、用紙を印字開始位置に合わせます。

用紙幅や用紙種類によっては、印字開始位置がずれる場合があります。〔印字〕＞〔詳細設定〕＞〔調整モード〕メニューで〔用紙頭出しセンサ〕を調整します。

1. ホーム画面またはオフライン画面で〔設定〕をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 〔印字〕をタップします。



4. 〔詳細設定〕＞〔調整モード〕＞〔用紙頭出しセンサ〕をタップします。
5. 設定値を変更します。



設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (1dot=0.125mm)	-30～+30dot
305dpi (1dot=0.083mm)	-45～+45dot



- [システム] > [地域] > [単位] メニューで、単位をdot、"（インチ）、mmの間で切替えることができます。
-

6.  をタップして設定値を保存します。

7. （電源/ホーム）ボタンを押して、ホーム画面を表示します。

8. （電源/ホーム）ボタンを押して、オンライン状態にします。

印字を実行して 印字開始位置の調整結果を確認できます。



- 印字ジョブの一時停止中は、[設定] メニューの代わりに [調整モード] メニューが表示され、用紙頭出しセンサの位置を調整できます。
-

印字の品質を調整する

印字濃度の調整

印字濃度の調整手順を説明します。

1. ホーム画面またはオフライン画面で「設定」をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 「印字」をタップします。



4. 「印字濃度」をタップします。
5. 設定値を変更します。



設定範囲は、1～10です。1が最も薄く、10が最も濃くなります。

6.  をタップして設定値を保存します。
7.  (電源/ホーム) ボタンを押して、ホーム画面を表示します。

8. （電源/ホーム）ボタンを押して、オンライン状態にします。

印字を実行して印字品質を確認できます。



- 「印字」＞「詳細設定」＞「調整モード」メニューで「印字濃度調整」を設定することで、印字濃度をさらに微調整できます。
 - 「印字」＞「詳細設定」＞「優先設定」メニューを「コマンド」に設定している場合、コマンドで設定した印字濃度で印字されます。
 - 印字ジョブの一時停止中は、「設定」メニューの代わりに「調整モード」メニューが表示され、印字濃度を調整できます。
-

印字速度の調整

印字速度の調整は、印字速度を変えるだけでなく、印字の品質にも影響します。

設定範囲は本製品の印字解像度によって異なります。

印字速度の設定範囲は以下のとおりです。

解像度	設定範囲
203dpi (8dot/mm)	2～8ips (インチ/秒) (50.8～203.2mm/秒)
305dpi (12dot/mm)	2～6ips (インチ/秒) (50.8～152.4mm/秒)



- オプションのノンセパクタユニットを取り付けている場合は、設定範囲は2～4ips (50.8～101.6mm/秒) です。

1. ホーム画面またはオフライン画面で「設定」をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 「印字」をタップします。



4. 「印字速度」をタップします。

5. 設定値を変更します。



6. をタップして設定値を保存します。

7. (電源/ホーム) ボタンを押して、ホーム画面を表示します。

8. (電源/ホーム) ボタンを押して、オンライン状態にします。

印字を実行して印字品質を確認できます。



- [印字] > [詳細設定] > [優先設定] メニューを [コマンド] に設定している場合、コマンドで設定した印字速度で印字されます。
- 印字ジョブの一時停止中は、[設定] メニューの代わりに [調整モード] メニューが表示され、印字速度を調整できます。

ブザーの音量を調整する

エラーが発生したときに鳴るブザーの音量は、以下の手順で調整します。

1. ホーム画面またはオフライン画面で「設定」をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. 「システム」をタップします。

  をタップするか画面を左右にスライドすると画面を切替えることができます。



4. 「ブザー音」 > 「音量」をタップします。
5. 設定値を変更します。



設定範囲は0～8です。

0が最も小さく、8が最も大きくなります。

0にセットした場合は、消音になります。

6.  をタップして設定値を保存します。



• この項目は、画面をスワイプして表示されるパネルからも設定できます。

- ヘッドセットなどのBluetooth機器を接続中は、[システム] > [ブザー音] > [Bluetooth音量] で音量を調整できます。
-

RFID設定（RFIDモデルのみ）

使用できるRFIDの規格

各RFIDモジュールで使用できるRFIDの規格は以下のとおりです。

RFIDの規格	UHF（920MHz）	HF（13.56MHz）
ISO/IEC18000-63	○	—
ISO/IEC 15693 • ICODE SLI/SLIX/SLIX-S • Tag-it HF-I • my-d	—	○
ISO/IEC 14443 Type A • NTAG203 • NTAG210/213/215/216 • MIFARE UltraLight • MIFARE UltraLight C • my-d move NFC	—	○
ISO/IEC18092 • FeliCa Lite-S	—	○

RFIDタグ型式を読み出す

使用するRFIDタグごとにアンテナ位置や書込み/読出し電波出力などの設定をRFIDタグ型式として登録しておく、RFIDタグを変えるときに本製品の設定を簡単に切替えることができます。



- 通常、出荷時にお客様が使用するRFIDタグに合わせて本製品のRFID設定やRFIDタグ型式の登録が完了しています。ご不明な点やご相談は、弊社営業担当または販売店にお問い合わせください。

登録済みのRFIDタグ型式は、以下のメニューから選択して本製品に適用できます。

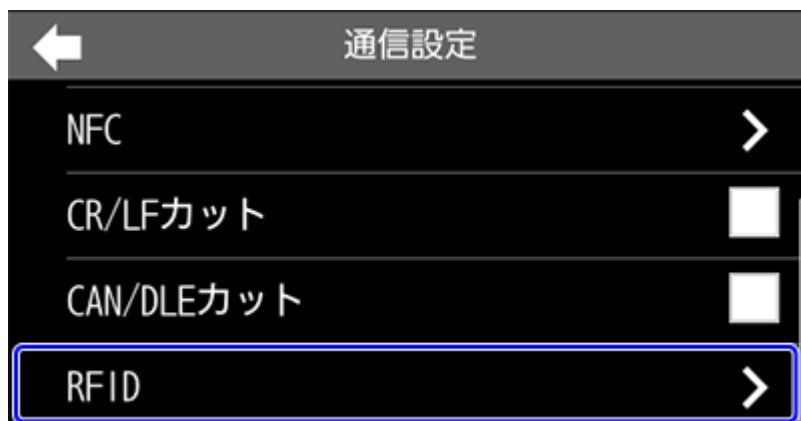
- RFIDタグ型式のみを本製品に適用する場合
[通信設定] > [RFID] > [RFIDタグ型式] > [読出し] メニュー
- 他の用紙設定と併せてRFIDタグ型式を本製品に適用する場合
[ツール] > [メディアスタートアップ] メニュー
- 他の用紙設定と併せてRFIDタグ型式を本製品にプロファイルとして登録する場合
[ツール] > [メディアプロファイル編集] > [メディアプロファイル登録] メニュー

ここでは、[RFIDタグ型式] > [読出し] メニューからRFIDタグ型式を読み出す手順を説明します。

1. ホーム画面またはオフライン画面で[設定]をタップします。
2. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。
3. [通信設定]をタップします。



4. [RFID] をタップします。



5. [RFIDタグ型式] をタップします。



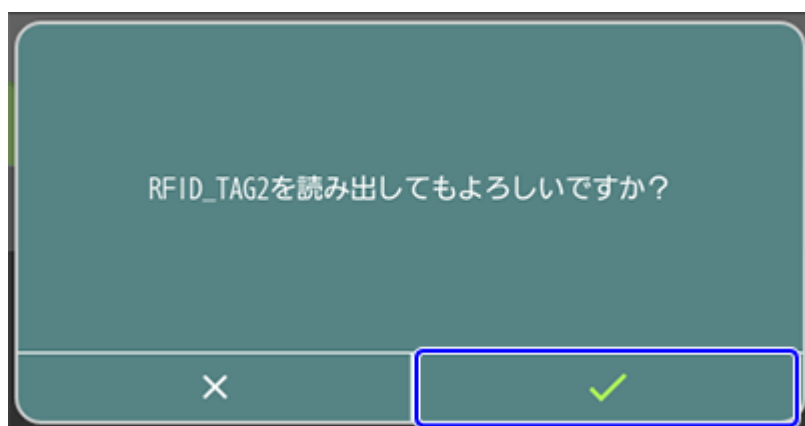
6. [読出し] (Read) をタップします。



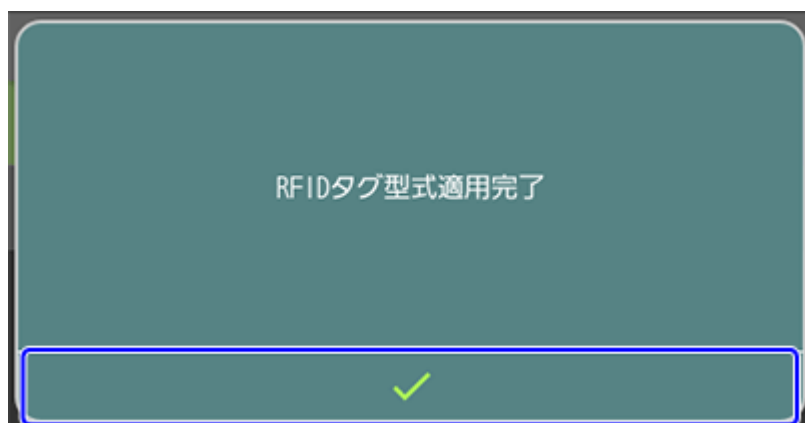
7. 読み出すRFIDタグ型式をタップします。



8. 確認画面で✓をタップします。



9. 完了画面で✓をタップします。



読み出したRFIDタグ型式の設定が本製品に適用されます。[RFIDタグ型式]メニューの[読み出し]の右側に、読み出したRFIDタグ型式名が表示されます。



- [RFIDタグ型式] > [編集] メニューから、登録済みのRFIDタグ型式の設定を変更できます。

RFIDタグの印字エラー

不良タグへの書込みなどが原因で、記録データに不備がある場合は、RFIDタグエラーを不良用紙に印字します。この機能は、タグエラーのある不良用紙の配布を防ぐためのものです。

RFIDタグエラーが発生した場合、本製品は斜線とエラーメッセージ（“WRITE TAG ERROR”や“TAG NOT FOUND”など）を印字します。このメッセージと斜線の印字位置は、用紙サイズ指定<A1>コマンドで指定された用紙サイズに応じて決まります。

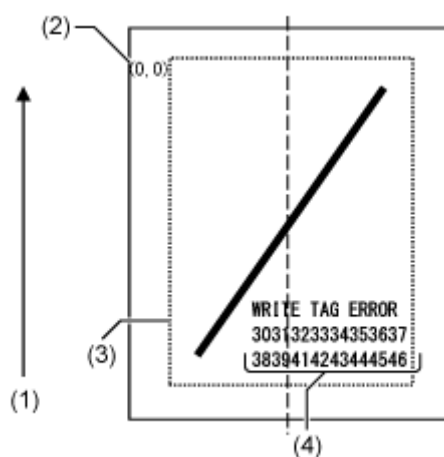
“WRITE TAG ERROR”などの書込みエラーの場合は、本製品は続けて書込みデータの先頭16または32バイト分を印字します。

以下の図は、通常の印字で指定された用紙サイズに基づいて、所定の位置に印字されるメッセージと斜線を示したものです。

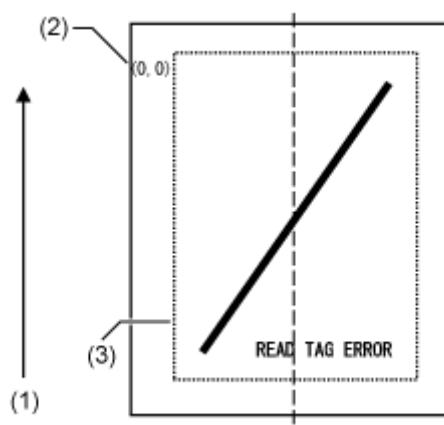


- HFモジュールの場合、タグ種やエラー発生タイミングにより、UIDがダンプ印字される場合があります。

RFID書込みコマンドのWRITE TAG ERROR

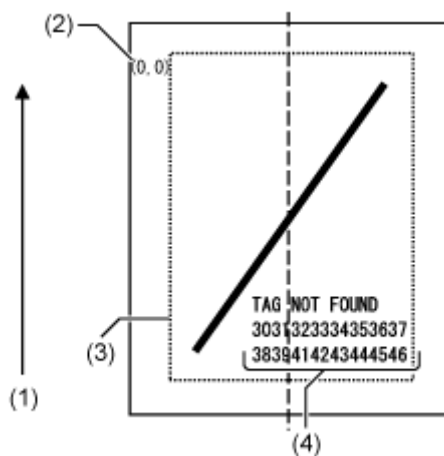


UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドの読取りエラー、またはTAG NOT FOUNDエラー



その他のエラーの場合は、内容に応じてエラーメッセージを印字します。

RFID書き込みコマンドのTAG NOT FOUNDエラー



- (1) 紙送り方向
- (2) 用紙サイズ指定<A1>コマンドによって指定された範囲の起点
- (3) 用紙サイズ指定<A1>コマンドによって指定された範囲
- (4) 書き込みデータの先頭16または32バイト分のダンプ印字

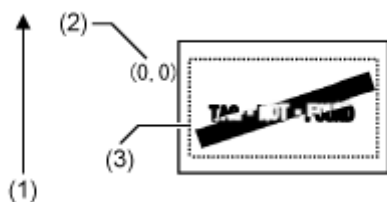


- 斜線と文字が重なった部分は、文字が白黒反転されます。



小さいサイズのタグ（例えば約P30×W40mm）を使用していたり十分な余白を設定できない場合、斜線とエラーメッセージが重なって印刷されます。重なった部分は白黒反転します。ダンプは印字されません。

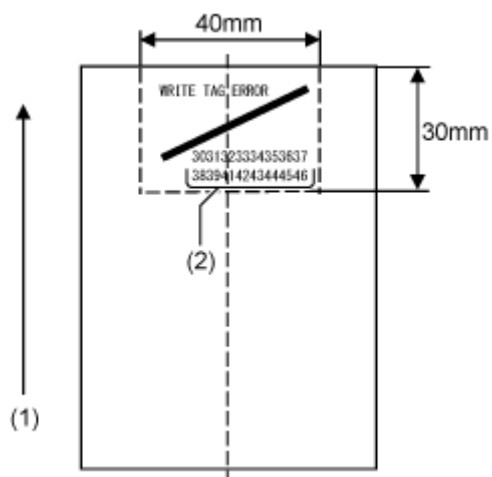
RFID書き込みコマンドのTAG NOT FOUNDエラー



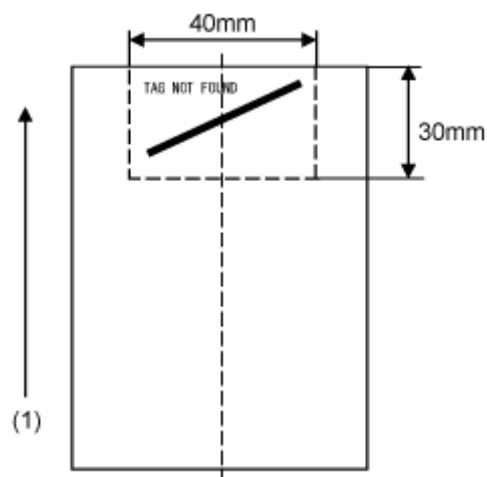
- (1) 紙送り方向
- (2) 用紙サイズ指定<A1>コマンドによって指定された範囲の起点
- (3) 用紙サイズ指定<A1>コマンドによって指定された範囲

用紙サイズ指定<A1>コマンドで指定されていない場合、本製品はRFIDエラーをP30×W40mmの固定サイズで印字します。斜線と文字が重なった部分は、文字が白黒反転します。

RFID書き込みコマンドのWRITE TAG ERROR

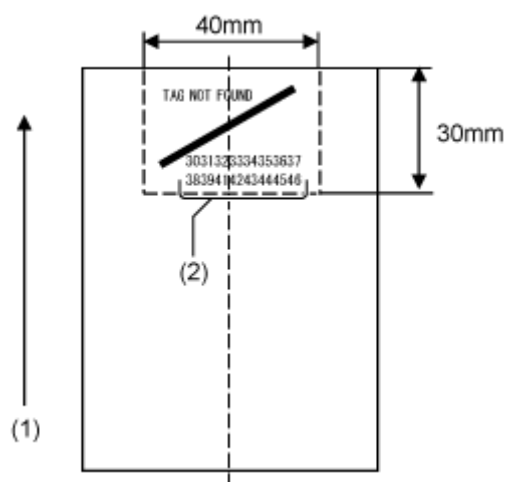


UID/EPC/IDm印字指定<TU>コマンドの読取りエラー、またはTAG NOT FOUNDエラー



その他のエラーの場合は、内容に応じてエラーメッセージを印字します。

RFID書き込みコマンドのTAG NOT FOUNDエラー



- (1) 紙送り方向
- (2) 書き込みデータの先頭16または32バイト分のダンプ印字

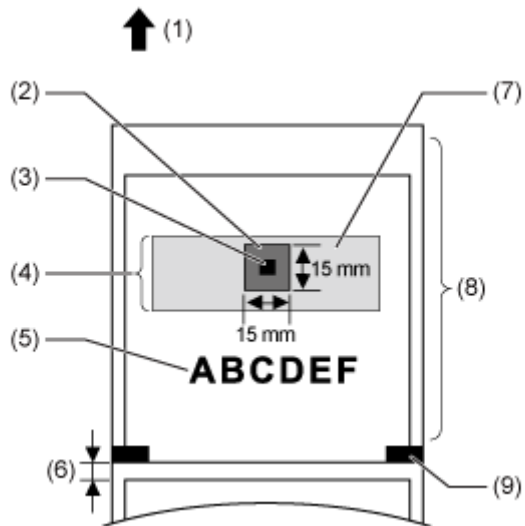
印字されるエラーの種類は以下のとおりです。

メッセージ	原因と対処方法
TAG NOT FOUND	 エラーメッセージ 1114 (タグが見つかりません)
WRITE TAG ERROR	 エラーメッセージ 1115 (書込みに失敗しました)
READ TAG ERROR	 エラーメッセージ 1116 (タグの読出しに失敗)
PROTECT TAG ERR	 エラーメッセージ 1117 (書込みに失敗しました)
VERIFY TAG ERR.	 エラーメッセージ 1118 (書込み読出し値の不一致)
LOCKING ERROR	 エラーメッセージ 1119 (ロック処理に失敗しました)
WRONG TID ERROR	 エラーメッセージ 1120 (不正タグのUIDを読込み)
MULTI TAGS ERROR	 エラーメッセージ 1121 (複数のタグを捕捉しました)
DIFFER EPC ERR.	 エラーメッセージ 1122 (EPCが一貫していません)
READ ONLY ERROR	 エラーメッセージ 1123 (書込みに失敗しました)
DIFFER TAG KIND	 エラーメッセージ 1124 (タグ種の指定が不正です)
LOST HANDLE ERR	 エラーメッセージ 1125 (内部エラーが発生しました)
POWER NOT ENOUGH	 エラーメッセージ 1126 (電波出力が足りません)
UNSUPPORTED TAG	 エラーメッセージ 1129 (サポートされていないタグ種です)
ADDRESS EXCEED	 エラーメッセージ 1131 (アドレスが超過しています)

RFID印字のヒント

推奨される非印字領域

RFIDチップの上に直接、バーコードや文字を印字することは避けてください。表面が平らでないため、印字品質に悪影響を及ぼします。



- (1) 紙送り方向
- (2) 推奨される非印字領域
- (3) ICチップ
- (4) インレイ
- (5) 印字対象
- (6) ギャップ
- (7) アンテナ
- (8) RFIDタグ/ラベル
- (9) アイマーク

本製品の設定とデータを自動バックアップする

オートクローン機能を有効にすると、本製品の設定が変更されたときに、その時点の設定およびインストールされているデータがUSBメモリに自動的に保存されます。これにより、常に最新の設定とデータをバックアップしておくことができます。

故障などの理由で本製品を初期化したり交換したときに、このUSBメモリを対象の製品に挿入すれば以前の設定とデータを復元できます。

本機能を有効にするには、USBメモリを本機能用にフォーマットする必要があります。以下の手順をおこなってください。



- USBメモリを使用する場合は、ウイルスチェックをおこなったうえで本製品に接続してください。USBメモリを使用してウイルス感染した結果生じた本製品の不具合について、弊社は一切の責任を負いません。
- USBフォーマットを実行すると、USBメモリ内のデータがすべて削除されます。必要なデータは事前に別の場所に保存してください。



- USBメモリの容量は4GB以上を推奨します。
- オートクローン機能の実行（設定とデータの保存）には、本製品内部のUSBコネクタ（Type A）を使用します。保存した設定とデータの復元には、本製品背面のUSBコネクタ（Type A）を使用します。

1. 本製品内部のUSBコネクタ（Type A）にUSBメモリを取り付けます。

2. ホーム画面またはオフライン画面で【設定】をタップします。

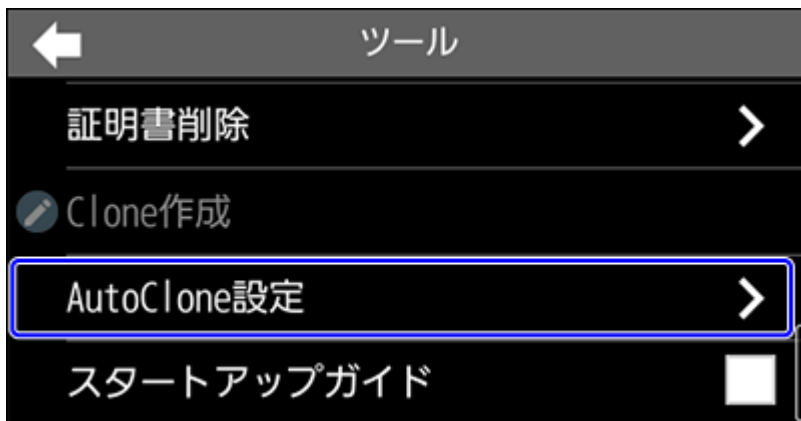
3. パスワードが有効な場合は、パスワードを入力します。

4. 【ツール】をタップします。

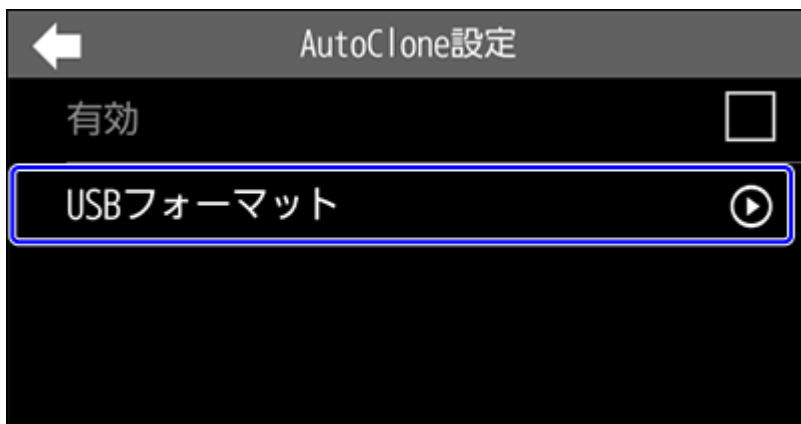
  をタップするか画面を左右にスライドすると画面を切替えることができます。



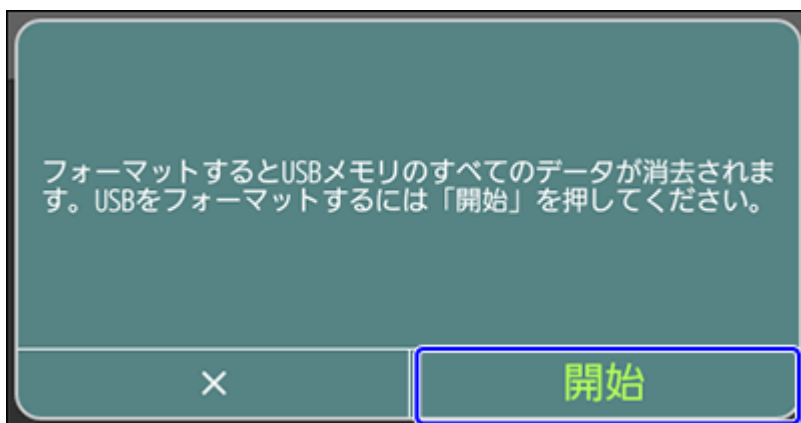
5. [AutoClone設定] をタップします。



6. [USBフォーマット] をタップします。



7. [開始] をタップします。

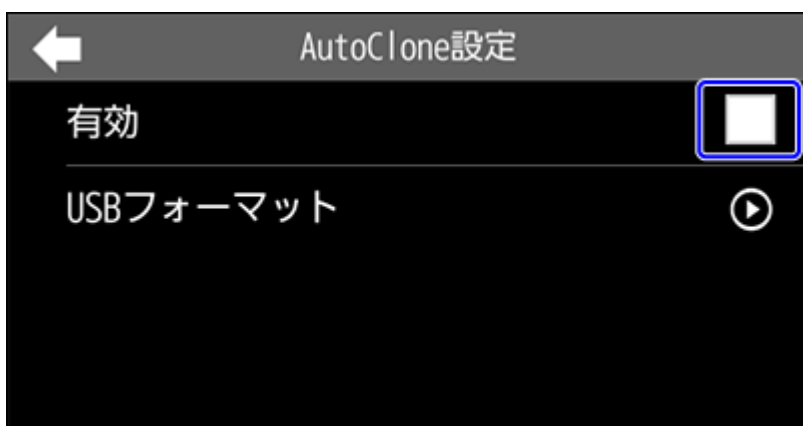


フォーマットが始まります。

8.  をタップします。



9. 「有効」のチェックボックスをタップします。



オートクローン機能が有効になります。



- オートクローン機能有効時にUSBメモリを取り外したり、未フォーマットのUSBメモリに交換するとエラーになります。

本製品の初期化

初期化の手順

本製品のデータや設定値を初期化します。



- 通常、初期化を実行する必要はありません。印字条件が変更される可能性があります。
- 初期化によって失われたデータや設定値は回復できません。初期化する前に必要に応じてバックアップを取ってください。本製品のデータと設定値は、[ツール]メニューから以下のいずれかの機能を使ってバックアップできます。
 - [Clone作成]：現在のデータと設定値をUSBメモリにコピーします。データと設定値を復元するには、作成されたpkgファイルをUSBメモリ経由で本製品に適用します。
 - [AutoClone設定]：本製品内部にUSBメモリを装着しておくで、設定変更時点のデータと設定値が自動的に保存されます。データと設定値を復元するには、このUSBメモリを本製品背面に挿入します。



- 初期化されるデータは、本製品に登録されているフォントやグラフィックです。

1. ホーム画面またはオフライン画面で[設定]をタップします。

2. [ツール]をタップします。

  をタップするか画面を左右にスライドすると画面を切替えることができます。



3. [リセット]をタップします。

4. リセットの種類を選択します。



【データ】

本製品に保存されているデータを初期化します。

【データ&設定】

本製品のデータおよび設定値を初期化します。

【設定】

本製品の設定値を初期化します。

5. 【データ&設定】または【設定】を選択した場合は、初期化する設定項目を選びます。



【ユーザーリセット】

設定値を初期化します。

【ユーザーリセット(-I/F)】

通信設定以外の設定値を初期化します。

【工場リセット】

工場出荷時の状態に初期化します。

【工場リセット(-I/F)】

通信設定以外の項目を工場出荷時の状態に初期化します。

【通信設定】

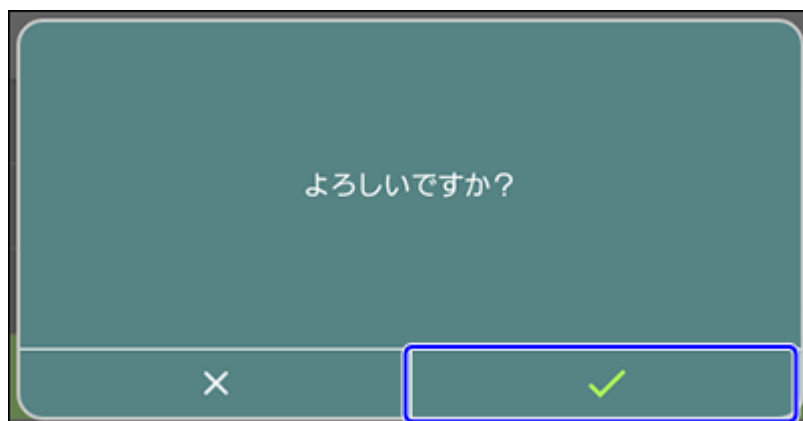
通信設定の設定値を初期化します。

【印字】

【印字】メニューの設定値を初期化します。

6. をタップして初期化します。

初期化をキャンセルするには、 をタップします。



初期化が実行されます。

選択したリセット項目によっては、初期化が完了すると本製品が再起動します。

初期値一覧

【印字】メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できます。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
【メディア種】	ラベル	○/○
【用紙長】	203dpi 3200 dot 305dpi 4800 dot	○/○
【用紙幅】	203dpi 832 dot 305dpi 1248 dot	○/○
【ラベル自動測長】	無効	○/○
【印字方式】	熱転写方式	○/○
【リボンニアエンド】	有効	○/○
【印字速度】	4 ips	○/○
【センサタイプ】	【動作モード】が【ハクリ】、【ティアオフ】、【連続発行】、【カット】、【印字中カット】または【パーシャルカット】に設定されている場合 反射 【動作モード】が【ノンセパクタ】または【ノンセパティアオフ】に設定されている場合 無効	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[自動モード]		有効	○/○
[動作モード]		オプションを取り付けていない場合 ティアオフ ハクリユニットを取り付けている場合 ハクリ カッタユニットを取り付けている場合 カッタ ノンセパカッタユニットを取り付けている場合 ノンセパカッタ	○/○
[バックフィード動作]		【動作モード】が【連続発行】に設定されている場合 なし 【動作モード】が【ティアオフ】、【カッタ】、【パーシャルカッタ】、【ノンセパカッタ】または【ノンセパティアオフ】に設定されている場合 印字前 【動作モード】が【ハクリ】または【印字中カット】に設定されている場合 印字後	○/○
[排出カット]		オフ	○/○
[濃度レンジ]		A	○/○
[印字濃度]		5	○/○
[基点補正]			
	[縦位置補正]	0 dot	○/○
	[横位置補正]	0 dot	○/○
[詳細設定]			
	[センサ調整]		

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[センサ自動調整]	－	－
	[透過センサ]	工場で調整された値	×/×
	[透過スライスレベル]	Auto	×/×
	[反射センサ]	工場で調整された値	×/×
	[反射スライスレベル]	Auto	×/×
	[ヘッドチェック]	すべて	○/○
	[ヘッドチェック方法]	すべて	○/○
	[枚数指定]	1	○/○
	[用紙飛びチェック]	無効	○/○
	[調整モード]		
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
	[用紙頭出しセンサ]	0 dot	×/×
	[オンライン起動]	有効	○/○
	[エラー後 紙送り]	無効	○/○
	[起動時 紙送り]	無効	○/○
	[用紙無駄なし]		
	[有効]	無効	○/○
	[登録用紙長]	203dpi 3200 dot 305dpi 4800 dot	○/○
	[オプションフィード量]	0 dot (標準)	○/○
	[ペーパーエンドセンサ]	反射	○/○
	[優先設定]	コマンド	○/○
	[再発行設定]	無効	○/○

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[印字停止位置]	0 dot	○/○

[通信設定] メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できます。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。

- [\[ネットワーク\]](#) > [\[設定\]](#) > [\[LAN\]](#)
- [\[ネットワーク\]](#) > [\[サービス\]](#) > [\[NTP\]](#) / [\[LPD\]](#) / [\[FTP\]](#) / [\[SNMP\]](#)
- [\[ネットワーク\]](#) > [\[サービス\]](#) > [\[オンラインサービス\]](#)
- [\[ネットワーク\]](#) > [\[詳細設定\]](#)
- [\[RS-232C\]](#) / [\[USB\]](#) / [\[NFC\]](#) / [\[CR/LFカット\]](#) / [\[CAN/DLEカット\]](#)
- [\[RFID\]](#)



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

- [\[ネットワーク\]](#) > [\[設定\]](#) > [\[LAN\]](#)

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[IPv4]		
[モード]	DHCP	○/○
[DHCP]	-	-
[IPアドレス]	0.0.0.0	○/○
[サブネットマスク]	255.255.255.0	○/○
[ゲートウェイ]	0.0.0.0	○/○
[DNS]	0.0.0.0, 0.0.0.0, 0.0.0.0	○/○
[IPv6]		
[モード]	無効	○/○
[DHCP]	-	-
[IPアドレス]	::	○/○
[プレフィックス長]	64	○/○
[ゲートウェイ]	::	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[DNS]	::	○/○
[ポート]			
	[ポート番号1]	1024	○/○
	[ポート番号2]	1025	○/○
	[ポート番号3]	9100	○/○
	[通信プロトコル]	STATUS4 ENQ	○/○
	[TCP接続待ち]	有効	○/○
	[Legacy Status設定]	無効	○/○
	[BCC]	無効	○/○
	[ENQ応答遅延時間]	0 ms	○/○
	[Status4周期応答間隔]	500 ms	○/○
[プロキシ]			
	[有効]	無効	○/○
	[サーバー]	–	○/○
	[ポート番号]	–	○/○
	[ユーザー名]	–	○/○
	[パスワード]	–	○/○
	[プロキシを使用しない]	–	○/○
[DHCPオプション]			
	[DNS更新(オプション81)]	無効	○/○
	[ホスト名]	sato-lan-シリアル番号	○/○

• [ネットワーク] > [サービス] > [NTP] / [LPD] / [FTP] / [SNMP]

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[NTP]			
	[有効]	無効	×/○ ¹

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
	[通信エラー通知]	無効	×/○ ¹
	[NTPサーバーのIPアドレス]	0.0.0.0	×/○ ¹
[LPD]			
	[有効]	有効	○/○
	[DNS Lookup]	無効	○/○
[FTP]			
	[有効]	無効	○/○
	[FTP タイムアウト]	300 秒	○/○
[SNMP]			
	[問い合わせ先]	-	○/○
	[機器名称]	-	○/○
	[設置場所]	-	○/○
	[prtMarkerCounterUnit]	meters	○/○
[エージェント]			
	[SNMP機能]	有効	○/○
[読取り専用]			
	[バージョン]	1 2c 3	○/○
	[コミュニティ]	public	○/○
	[ユーザー]	rouser	○/○
	[セキュリティ]	セキュリティ無し	○/○
	[認証プロトコル]	MD5	○/○
	[認証パスワード]	mypassword	○/○
	[プライバシープロトコル]	DES	○/○
	[プライバシーパスワード]	mypassword	○/○
[書込み許可]			
	[バージョン]	無効	○/○
	[コミュニティ]	private	○/○

設定項目				初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
			[ユーザー]	rwuser	○/○
			[セキュリティ]	セキュリティ無し	○/○
			[認証プロトコル]	MD5	○/○
			[認証パスワード]	mypassword	○/○
			[プライバシープロトコル]	DES	○/○
			[プライバシーパスワード]	mypassword	○/○
	[トラップ]				
			[有効]	無効	○/○
			[バージョン]	1	○/○
			[IPバージョン]	4	○/○
			[送信先選択]	1	○/○
			[送信先1]	0.0.0.0	○/○
			[送信先2]	0.0.0.0	○/○
			[送信先3]	0.0.0.0	○/○
			[コミュニティ]	trapcom	○/○
			[ユーザー]	trapuser	○/○
			[セキュリティエンジンID]	MACアドレスから生成された番号	○/○
			[セキュリティ]	セキュリティ無し	○/○
			[認証プロトコル]	MD5	○/○
			[認証パスワード]	mypassword	○/○
			[プライバシープロトコル]	DES	○/○
			[プライバシーパスワード]	mypassword	○/○

- [ネットワーク] > [サービス] > [オンラインサービス]

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
[SOSモード]		オンデマンド	×/×
[リモートコントロール]		許可	×/×
[MQTT通信方式]		MQTT over WebSocket	×/×
[MQTTプロキシ有効]		有効	×/×
[プリンタ認証登録]		-	-
[連絡先]			
	[電話番号]	0120-951301	-
[定期通知]			
	[通知設定]	無効	×/×
	[カウンター]	サーマルヘッド	×/×
[ヘッド]			
	[走行距離]	1000	×/×
	[前回の更新]	0.0 km	×/×
	[次回の更新]	1.0 km	×/×
	[現在]	0.0 km	×/×
[カッタ]			
	[カット回数]	10000	×/×
	[前回の更新]	0	×/×
	[次回の更新]	10000	×/×
	[現在]	0	×/×
	[通知回数]	1	×/×
	[時間設定1]	00:00	×/×
	[時間設定2]	00:00	×/×
	[時間設定3]	00:00	×/×
	[曜日]	月曜日	×/×
	[日]	1	×/×
	[時間設定]	00:00	×/×

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[通知画面]	通常	×/×
[QRコードオフセット]		
[縦位置補正]	0 dot	×/×
[横位置補正]	0 dot	×/×
[Daily Checkup]	－	－
[ポート診断]	－	－

• [ネットワーク] > [詳細設定]

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[ARP通知]		
[通知拡張]	有効	○/○
[通知周期]	300 秒	○/○

• [RS-232C] / [USB] / [NFC] / [CR/LFカット] / [CAN/DLEカット]

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[RS-232C]		
[ボーレート]	115200	○/○
[パラメータ]	8-N-1	○/○
[通信プロトコル]	STATUS4	○/○
[BCC]	無効	○/○
[USB]		
[通信プロトコル]	STATUS4	○/○
[BCC]	無効	○/○
[USBシリアル変更]	無効	×/○ ¹
[NFC]		

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[I/F有効]	有効	○/○
[CR/LFカット]	無効	○/○
[CAN/DLEカット]	無効	○/○

- [RFID]

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[アンテナ位置]	UHFモジュールの場合 通常 HFモジュールの場合 前方	○/○
[書き込み電波出力]	15 dBm	○/○
[読出し電波出力]	15 dBm	○/○
[タグオフセット]		
[タグオフセット]	0 mm	○/○
[エンコード搬送動作]	印字中一時停止	○/○
[ラベル測長開始]	-	-
[ピッチサイズ]	203dpi 8 dot 305dpi 12 dot	○/○
[リーダー形式]	-	-
[リーダーバージョン]	-	-
[データビュー]		
[メモリ領域指定]	UHFモジュールの場合 EPC	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリ セット/工場リ セットで初期 化
		HFモジュールの場合 USER	
	[データ表示]	-	-
[フィルタ機能]			
	[RSSIフィルタ]	無効	○/○
	[閾値]	-50 dBm	○/○
	[RFID再試行モード]	再試行	○/○
	[RFID再印字回数]	1	○/○
	[不良タグに印をつける]	有効	○/○
	[RFID未検出警告]	警告なし	○/○
	[RFIDログ]	無効	○/○
	[RFIDデータ記録]	EPCとTID	○/○
[カウンタ]			
[ライフカウンタ]			
	[正常総発行枚数]	0	×/○ ¹
	[異常総発行枚数]	0	×/○ ¹
	[印字総発行枚数]	0	×/○ ¹
[ユーザカウンタ]			
	[正常発行枚数]	0	○/○ ²
	[異常発行枚数]	0	○/○ ²
	[印字発行枚数]	0	○/○ ²
[用紙]			
	[基準位置]	0 dot	○/○
[RFIDタグ型式]			
	[読出し]	-Undefined-	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[編集]		
	[アンテナ位置]	UHFモジュールの場合 通常 HFモジュールの場合 前方	○/○
	[アンテナX方向位置]	14 mm	○/○
	[アンテナY方向位置]	5 mm	○/○
	[書込み電波出力]	15 dBm	○/○
	[読出し電波出力]	15 dBm	○/○
	[タグオフセット]		
	[タグオフセット]	0 mm	○/○
	[エンコード搬送動作]	印字中一時停止	○/○
	[ピッチサイズ]	203dpi 8 dot 305dpi 12 dot	○/○
	[名前を付けて保存]	RFID_TAG	○/○
	[削除]	-	-

¹ [工場リセット(-I/F)] でも初期化されます。

² [ユーザーリセット(-I/F)] / [工場リセット(-I/F)] でも初期化されます。

[アプリケーション] メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できます。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。

- [\[プロトコル\]](#) / [\[SBPL\]](#)
- [\[SZPL\]](#) / [\[SIPL\]](#) / [\[STCL\]](#)
- [\[SDPL\]](#) / [\[SEPL\]](#)



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

- **【プロトコル】 / 【SBPL】**

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
【プロトコル】		SBPL	○/○
【Auto Switch Group】			
	【SBPL】	有効	○/○
	【SZPL】	有効	○/○
	【SIPL】	有効	○/○
	【STCL】	有効	○/○
	【SDPL】	有効	○/○
	【SEPL】	有効	○/○
【SBPL】			
	【コマンドエラー表示】	無効 RFIDモデル：有効	○/○
	【プロトコルコード設定】	有効	○/○
	【印刷の向き】	縦	○/○
【フォント設定】			
	【ゼロスラッシュ】	無効	○/○
【漢字設定】			
	【漢字モード】	JP-JISX0208	○/○
	【文字コード】	SJIS	○/○
	【漢字書体】	ゴシック	○/○
	【プロポーショナルピッチ】	無効	○/○
	【コードページ】	X201	○/○
	【ユーロコード】	D5	○/○

- [SZPL] / [SIPL] / [STCL]

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
[SZPL]			
	[ラベル]		
	[基点移動]	0 dot	○/○
	[基点補正]	0 dot	○/○
	[ラベル回転]	0° 回転	○/○
	[キャレット文字]	94 (^)	○/○
	[区切り文字]	44 (,)	○/○
	[チルダ文字]	126 (~)	○/○
	[日時フォーマット]	(なし)	○/○
	[デフォルトフォント]	(なし)	○/○
[SIPL]			
	[フォント設定]		
	[コードページ]	1252	○/○
	[新フォント]	無効	○/○
	[c20プロポーショナルピッチ]	無効	○/○
	[ゼロスラッシュ]	無効	○/○
	[フォーマット保存]	有効	○/○
[STCL]			
	[コマンドヘッド]		
	[制御コード]	自動プロトコル検知	○/○
	[1バイト目のコード]	27	○/○
	[2バイト目のコード]	10	○/○
	[3バイト目のコード]	0	○/○
	[フォント設定]		
	[ゼロスラッシュ]	無効	○/○
	[ユーロコード]	D5	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[コードページ]	850	○/○
	[半角記号]	有効	○/○
	[回転]	0°	○/○
	[用紙サイズ指定コマンド無効]	無効	○/○
	[300DPIヘッド互換]	無効	○/○

• [SDPL] / [SEPL]

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[SDPL]			
	[制御コード]		
	[コード種]	標準	○/○
	[SOH]	01	○/○
	[STX]	02	○/○
	[CR]	0D	○/○
	[CNTBY]	5E	○/○
	[ラベル回転]	0° 回転	○/○
	[SOPエミュレーション]	自動	○/○
	[互換モード]		
	[TTF]	無効	○/○
	[グラフィックス]	無効	○/○
	[互換圧縮モード]	無効	○/○
	[左右逆方向印字]	自動	○/○
	[受信タイムアウト]	0 (オフ)	○/○
	[空白ラベルフィード]	有効	○/○
	[優先設定]		
	[フォーマット属性]	コマンド	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
	[一時停止モード]	コマンド	○/○
	[1バイト文字コードページ]	コマンド	○/○
	[測定単位]	コマンド	○/○
	[スケーラブルフォントスタイル]	コマンド	○/○
	[センサタイプ]	コマンド	○/○
	[フィードバックキャラクタ]	コマンド	○/○
	[SOHコマンド]	コマンド	○/○
	[モジュール選択]	コマンド	○/○
	[印字濃度]	コマンド	-
	[工場オフセット調整]	コマンド	-
	[印字速度]	コマンド	-
	[フォーマット属性]	XOR	○/○
	[一時停止モード]	無効	○/○
	[1バイト文字コードページ]	CP 850	○/○
	[測定単位]	"	○/○
	[スケーラブルフォントスタイル]		
	[ボールド]	無効	○/○
	[イタリック]	無効	○/○
	[フィードバックキャラクタ]	有効	○/○
	[SOHコマンド]		
	[全SOHコマンド]	有効	○/○
	[SOH-Bコマンド]	有効	○/○
	[SOH-Cコマンド]	有効	○/○
	[その他]	有効	○/○
	[モジュール選択]	A	○/○
[SEPL]			
	[ラベル基準位置設定]		

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[横方向オフセット]	0 dot	○/○
	[縦方向オフセット]	0 dot	○/○
	[ラベル回転]	0° 回転	○/○
	[メモリ保存デバイス選択]	ROM	○/○
	[305dpiヘッドシミュレーション]	無効	○/○

【スタンドアロン】メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できません。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[AEP]		無効	×/○
	[起動時の初期画面]	アプリケーション	-
	[初期起動アプリケーション]	Standard Demo	×/○
	[ラベル回転]	無効	○/○
	[区切りラベル]	無効	○/○
	[ソフトウェアキーボード]	使用する	○/○
[ホームキー 確認]		無効	○/○
[アプリケーション削除]		-	-

【システム】メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できません。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
[地域]			
	[表示言語]	日本語	○/○
	[外部キーボード]	English, US	○/○
	[地域言語設定]	English, US	○/○
	[ソフトウェアキーボード]	日本語	○/○
	[単位]	dot	○/○
	[時間]	00:00	×/×
	[日付]	(2000-01-01)	×/×
	[タイムゾーン]	-	○/○
	[地域]	Asia	○/○
	[都市]	Tokyo	○/○
	[表示言語アイコン]	有効	○/○
[お知らせ機能]			
	[プリンタ清掃]		
	[プリントヘッド清掃]	無効	○/○
	[お知らせ間隔]	400 m	○/○
	[サーマルヘッド交換]		
	[サーマルヘッド交換]	無効	○/○
	[お知らせ間隔]	100 km	○/○
	[カッタユニット交換]		
	[カッタユニット交換]	無効	○/○
	[お知らせ間隔]	1000 K cuts	○/○
	[プラテンローラー交換]		
	[プラテンローラー交換]	無効	○/○
	[お知らせ間隔]	100 km	○/○
[ブザー音]			
	[音量]	4	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
	[Bluetooth音量]	-	○/○
	[操作音]	なし	○/○
[低消費電力モード]			
	[自動電源オフ]	0 (オフ)	○/○
[LCD表示濃度]		5	×/○
[総発行枚数表示]		無効	○/○
[パスワード]			
	[パスワード機能]	無効	×/○
	[パスワード解除時間]	10 分	○/○
	[インストール時のセキュリティ機能]	無効	×/○
	[NFCセキュリティ機能]	なし	○/○
[AC電源起動機能]		無効	×/○
[互換]			
[SBPL]			
	[CODE128(C) ゼロ補填]	無効	○/○
	[漢字コマンド]	無効	○/○
	[Font/Logo呼び出し]	無効	○/○
	[OCR文字]	無効	○/○
	[旧ジャーナル文字]	無効	○/○
	[文字間ピッチ]	無効	○/○
	[パラメータ揮発化]	無効	○/○
	[中国漢字コマンド]	無効	○/○
	[解説文字重ね印字]	無効	○/○
	[非対応コマンド応答]	無効	○/○
	[用紙仕様]	のりつきラベル	○/○
	[オプション動作待機時間指定]	無効	○/○
	[BT コマンド Matrix2of5]	無効	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[X20フォント 互換]	無効	○/○
	[部分コピー指定]	無効	○/○
	[印字有効領域]	無効	○/○
[ネットワーク]			
	[ソケットキャンセル機能]	無効	○/○
[Wi-Fi]			
	[Wi-Fi ソケットキャンセル機能]	無効	○/○
[USB]			
	[デバイスID]	無効	○/○
	[RFID]	無効	○/○
[RS-232C]			
	[ENQ応答]	無効	○/○
	[テーマ]	ダーク	○/○

[ツール] メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できません。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[メディアスタートアップ]	-	-
	[メディアプロファイル編集]	-	-
	[メディアプロファイル登録]		
	[メディアプロファイル1] ~ [メディアプロファイル5]	未登録	×/○
	[メディアプロファイル削除]		
	[メディアプロファイル1] ~ [メディアプロファイル5]	未登録	×/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
[テスト印字]			
	[工場設定]		
	[用紙幅]	大	-
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
	[設定一覧]		
	[カテゴリ]	すべて	○/○
	[用紙幅]	小	-
	[用紙長]	203dpi 800 dot 305dpi 1200 dot	○/○
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
	[設定一覧（QRコード）]		
	[カテゴリ]	すべて	○/○
	[用紙幅]	小	-
	[用紙長]	203dpi 800 dot 305dpi 1200 dot	○/○
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
	[用紙センサ]		
	[用紙幅]	小	-

設定項目		初期値	ユーザーリセット/ 工場リセット で初期化
	[用紙長]	203dpi 800 dot 305dpi 1200 dot	○/○
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
[BDアドレス]			
	[用紙幅]	大	－
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
[ヘッドチェック]			
	[用紙幅]	203dpi 832 dot 305dpi 1248 dot	○/○
	[用紙長]	203dpi 160 dot 305dpi 240 dot	○/○
	[印字位置調整]	0 dot	×/×
	[オフセット調整]	0 dot	×/×
	[印字濃度調整]	50	×/×
[HEXダンプ]			
	[HEXダンプモード]	無効	○/○
[リセット]		－	－
[プロファイル]		－	×/×

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[開始]	-	○/○
[サービスモード]		
[工場モード]		
[Wi-Fiサイトサーベイ]	-	-
[証明書登録]	-	○/○
[証明書削除]	-	○/○
[Clone作成]	-	-
[AutoClone設定]		
[有効]	無効	○/○
[ログ採取]		
[有効]	無効	×/○
[追加ログ]		
[Wi-Fiログ有効]	無効	×/×
[保存]	-	-
[削除]	-	-
[スタートアップガイド]	有効	×/○

【インフォメーション】メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できます。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[ヘルプ動画]	-	-
[ビルドバージョン]	-	-
[アプリケーション]	-	-
[インストールログ]	-	-

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[印字モジュール]	-	-
[センサモジュール]	-	-
[FPGAバージョン]	-	-
[カウンタ]		
[サーマルヘッド]		
[総走行距離]	測定値	×/×
[ヘッド走行距離1]	測定値	×/×
[ヘッド走行距離2]	測定値	×/×
[ヘッド走行距離3]	測定値	×/×
[カッタ]	0	×/×
[LAN]	-	-
[Wi-Fi]	-	-
[Wi-Fi Direct]	-	-
[Wi-Fiバージョン]	-	-
[Bluetooth]	-	-
[認証]	-	-

[Bluetooth] メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できます。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目	初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[有効]	有効	○/○
[デバイス名]	SATO PRINTER_XXXXXXXXXXXX (BDアドレス)	○/○
[PINコード]	0000	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
[BDアドレス]		xxxxxxxxxxxx	○/○
[BDバージョン]		-	○/○
[ホストBDアドレス]		-	○/○
[ペアリング]			
	[ペアリングされたデバイス]	-	×/×
[IAP機能]		有効	×/×
[iOS再接続]		無効	○/○
[認証モード]		レベル4	○/○
[ISI]		2048	○/○
[ISW]		18	○/○
[PSI]		2048	○/○
[PSW]		18	○/○
[CRCチェック]		無効	○/○
[通信プロトコル]		STATUS4	○/○

[Wi-Fi] メニュー

初期値とは、本製品の工場出荷時の設定値です。本製品をリセットすると、設定値を初期化できます。以下の表に、各設定項目の初期値と、初期化が可能かどうかを示します。



- 通常は初期化を実行しないでください。初期化を実行すると、お客様によって変更された本製品の設定値が失われます。

設定項目			初期値	ユーザーリ セット/工場 リセットで初 期化
[有効]			有効	○/○
[Wi-Fi設定]				
	[IPv4]			
		[モード]	DHCP	○/○
		[DHCP]	-	-

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[IPアドレス]	0.0.0.0	○/○
	[サブネットマスク]	255.255.255.0	○/○
	[ゲートウェイ]	0.0.0.0	○/○
	[DNS]	0.0.0.0, 0.0.0.0, 0.0.0.0	○/○
[IPv6]			
	[モード]	無効	○/○
	[DHCP]	-	-
	[IPアドレス]	::	○/○
	[プレフィックス長]	64	○/○
	[ゲートウェイ]	::	○/○
	[DNS]	::	○/○
[ポート]			
	[ポート番号1]	1024	○/○
	[ポート番号2]	1025	○/○
	[ポート番号3]	9100	○/○
	[通信プロトコル]	STATUS4 ENQ	○/○
	[TCP接続待ち]	有効	○/○
	[Legacy Status設定]	無効	○/○
	[BCC]	無効	○/○
	[ENQ応答遅延時間]	0 ms	○/○
	[Status4周期応答間隔]	500 ms	○/○
[プロキシ]			
	[有効]	無効	○/○
	[サーバー]	-	○/○
	[ポート番号]	-	○/○
	[ユーザー名]	-	○/○

設定項目		初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
	[パスワード]	-	○/○
	[プロキシを使用しない]	-	○/○
[DHCPオプション]			
	[DNS更新(オプション81)]	無効	○/○
	[ホスト名]	sato-wlan-シリアル番号	○/○
	[Wi-Fi Protected Setup (WPS)]	-	-
[Wi-Fi Direct]			
	[デバイス名]	SATO_PRINTER	○/○
	[接続]	-	-
	[グループを開始]	-	○/○
	[グループを削除]	-	-
	[切断]	-	-
	[SSID]	DIRECT-xx	-
	[IPアドレス]	x.x.x.x	-
	[パスフレーズ]	xxxxxxx	-
	[チャンネル]	-	-
[Wi-Fi接続設定]			
	[SSID]	SATO_PRINTER	○/○
	[ESS-IDステルス機能]	有効	○/○
	[Wi-Fiモード]	Ad-Hoc	○/○
	[周波数帯]	All	○/○
	[チャンネル]	6	○/○
	[セキュリティ]	なし	○/○
[WEP設定]			
	[認証]	オープンシステム認証	○/○
	[キーインデックス]	1	○/○

設定項目				初期値	ユーザーリセット/工場リセットで初期化
			[キー1] ～ [キー4]	-	○/○
		[WPA設定]			
			[WPA認証]	Personal (PSK)	○/○
			[事前共有キー]	-	○/○
		[EAP設定]			
			[EAPモード]	FAST	○/○
			[ECC暗号スイート]	無効	○/○
			[内部方式]	AUTO	○/○
			[ユーザー名]	-	○/○
			[パスワード]	-	○/○
			[外部匿名ID]	-	○/○
			[サーバー証明認証]	有効	○/○
			[秘密鍵パスワード]	-	○/○
			[PACプロビジョニング]	無効	○/○
			[PACパスワード]	-	○/○

メンテナンス

本製品のお手入れ

お手入れについて

サーマルヘッドやプラテンローラーなどが汚れていると、きれいに印字できなくなるだけでなく、エラーや故障の原因にもなります。本製品を安定して稼働させるために、本製品を定期的に清掃してください。



- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
-



- 清掃は、電源コードを電源コンセントから抜いておこなってください。
印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。本製品が冷めるまでお待ちください。
 - サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。
 - 本製品を清掃するときに、カッタの刃に触らないよう注意してください。
 - 清掃には、弊社推奨の清掃用品をご使用ください。硬いものでの清掃は避けてください。故障の原因になります。
 - 清掃の前に、用紙やリボンを取り外してください。
 - ノンセパラベルを長時間印刷に使用しない場合はトップカバーを開け、ノンセパラベルをプラテンローラーからはがしてください。ノンセパラベルがセットされた状態で長時間トップカバーを閉じたままにすると、用紙詰まりが起こることがあります。
-



- プリンタクリーニングキット、ラッピングシートなどの弊社清掃用品をご購入の際は、お客さまヘルプデスク、販売店へお問い合わせください。
-

お手入れ時期の目安

お手入れの時期の目安は以下のとおりです。



- 以下のお手入れ時期はあくまで目安です。目安の時期に達していない場合でも、必要に応じて清掃してください。

- 用紙1巻おき、あるいは用紙50m印字ごと
プリンタ清掃シートで、以下の箇所を清掃します。
 - サーマルヘッド
 - プラテンローラー

プリンタクリーニングキットで、以下の箇所を清掃します。

- 用紙センサ
 - 用紙ガイド
 - 通紙ルート
- 用紙6巻おき、あるいは用紙300m印字ごと
ラッピングシートで、以下の箇所を清掃します。
 - サーマルヘッド

オプションのノンセパユニット取り付け時のお手入れの目安は以下のとおりです。

- ロール紙1巻印字ごとまたは通紙ルートに糊のかすや紙粉があるとき
プリンタ清掃シートやプリンタクリーニングキットで、以下の箇所を清掃します。
 - ノンセパプラテンローラー
 - サーマルヘッド
 - 用紙ガイド
 - 用紙センサ
 - 通紙ルート

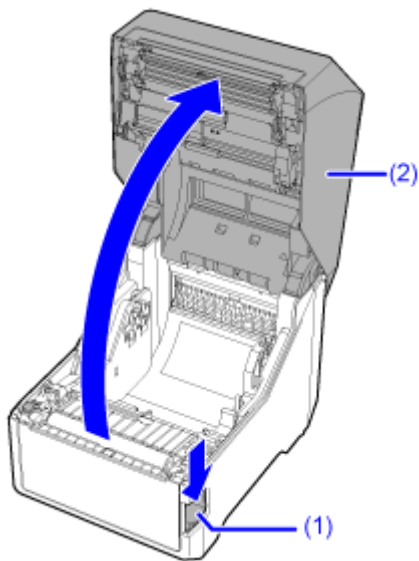
本製品内部のお手入れ

本製品内部のお手入れの手順を説明します。



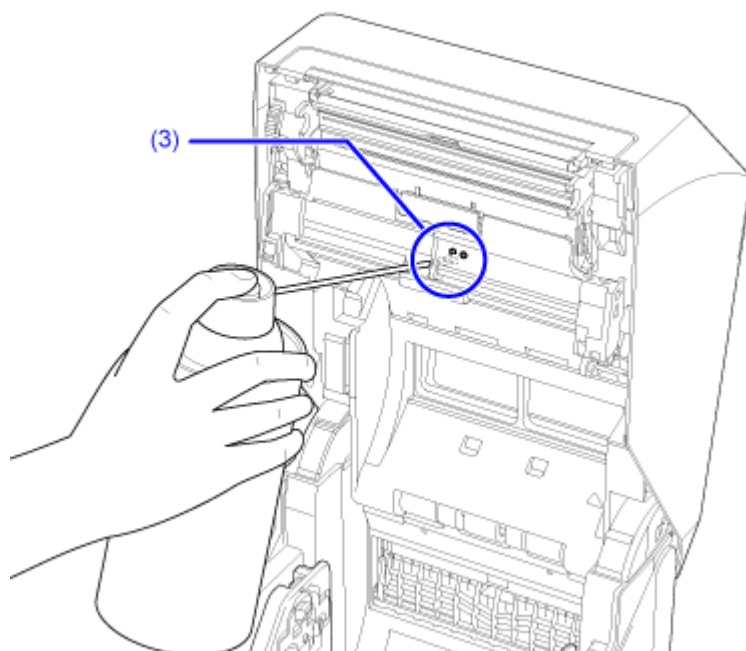
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
-

1. 本製品の電源がオフになっていることを確認し、電源コードを電源コンセントから抜きます。
2. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



3. 用紙とリボンがセットされている場合は取り外します。

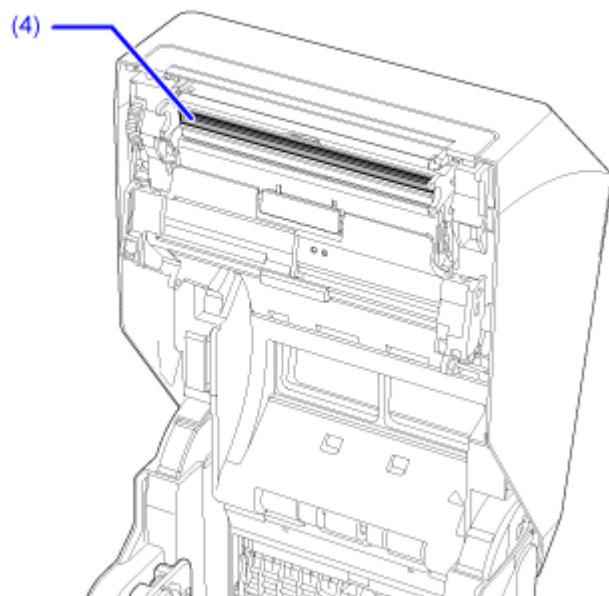
4. センサ (3) をエアダスターで清掃します。



5. プリント清掃シートでサーマルヘッド (4) の汚れを拭き取ります。

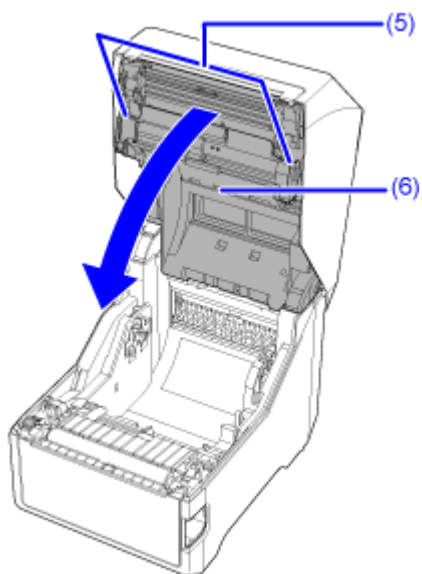


- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。本製品が冷めるまでお待ちください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。

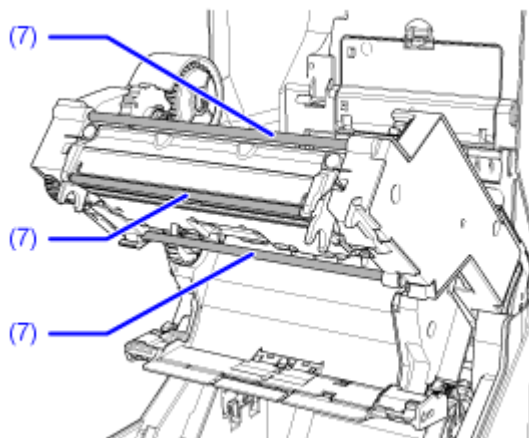


6. 感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合、リボンのルートを清掃します。

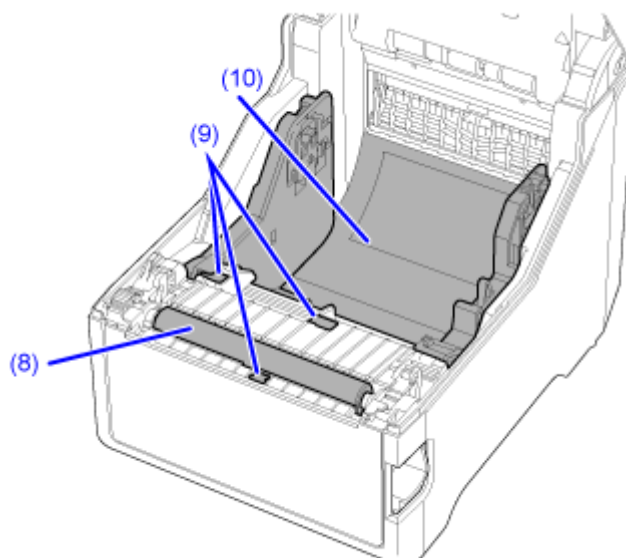
- a. ▼（リボンカバー引き出し）マーク（5）を手前に引き、リボンユニット（6）を手前に開きます。



- b. プリンタ清掃シートでリボンシャフト3箇所（7）の汚れを拭き取ります。



7. プリンタ清掃シートでプラテンローラー（8）、センサ3箇所（9）、および用紙ホルダ（10）の汚れを拭き取ります。



8. 手順3で用紙とリボンを取り外した場合は元に戻します。

9. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。

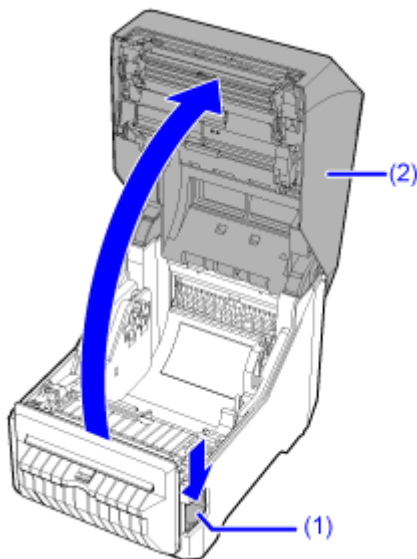
本製品内部のお手入れ（オプションのノンセパユニット取り付け時）

オプションのノンセパユニット取り付け時の、本製品内部のお手入れの手順を説明します。



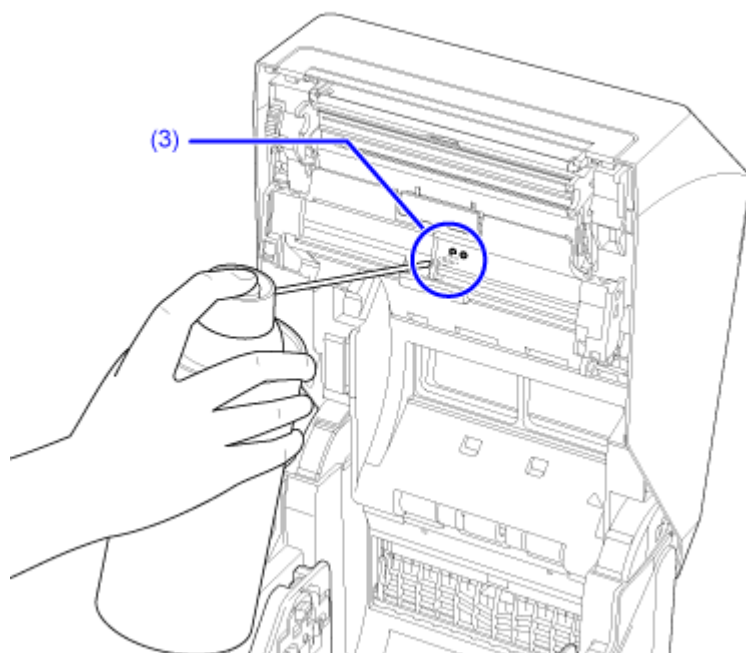
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤は絶対に使用しないでください。
-

1. 本製品の電源がオフになっていることを確認し、電源コードを電源コンセントから抜きます。
2. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



3. 用紙とリボンがセットされている場合は取り外します。

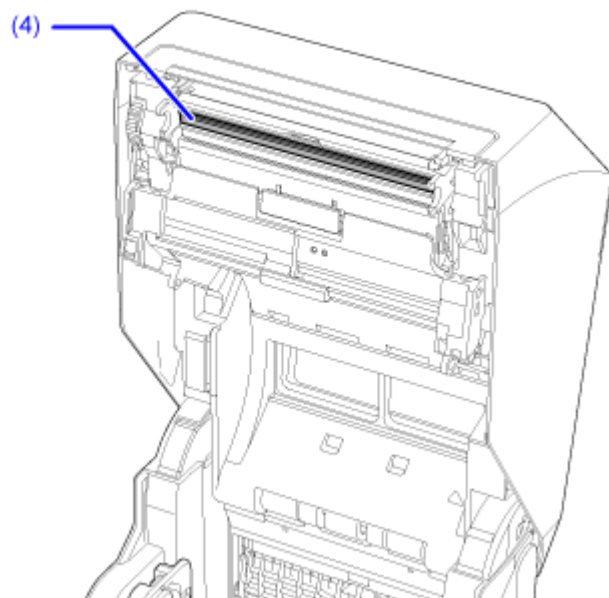
4. センサ（3）をエアダスターで清掃します。



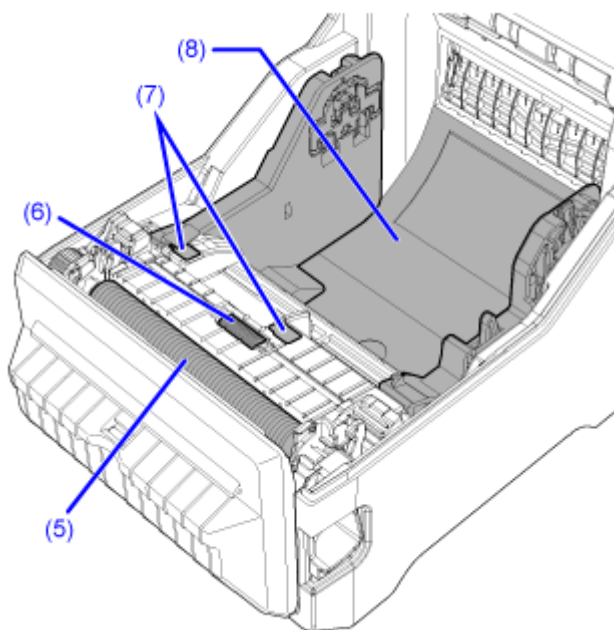
5. プリンタ清掃シートでサーマルヘッド（4）の汚れを拭き取ります。



- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。本製品が冷めるまでお待ちください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。



6. プリンタ清掃シートでプラテンローラー (5) 、ローラー (6) 、センサ2箇所 (7) 、および用紙ホルダ (8) の汚れを拭き取ります。



7. 手順3で用紙とリボンを取り外した場合は元に戻します。

8. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。

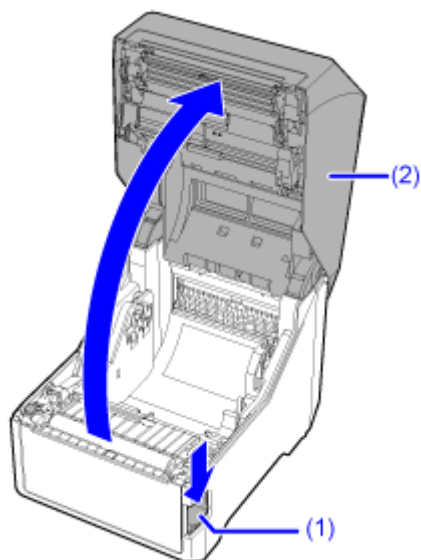
ラッピングシートでのサーマルヘッドのお手入れ

ラッピングシートでのお手入れの手順を説明します。



- オプションのカッターユニットまたはノンセパカッターユニット取り付け時は、ラッピングシートでのお手入れはできません。

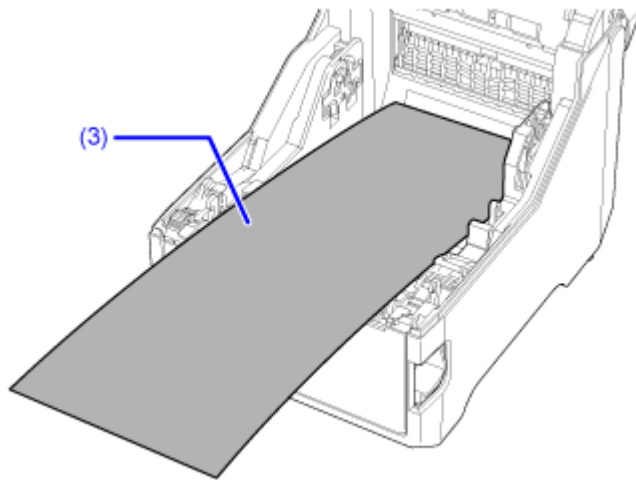
1. 本製品の電源がオフになっていることを確認し、電源コードを電源コンセントから抜きます。
2. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



3. 用紙とリボンがセットされている場合は取り外します。
4. ラッピングシートを10cm程度の幅にカットします。
5. プラテンローラーの上にラッピングシート（3）を載せます。



- ラッピングシートは、ザラザラしている面がトップカバー側になるように載せます。
-



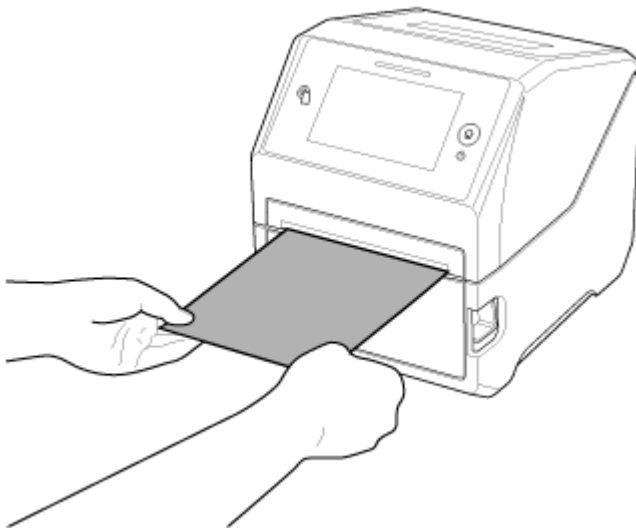
6. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。
-

7. ラッピングシートを両手で持って手前に引きます。

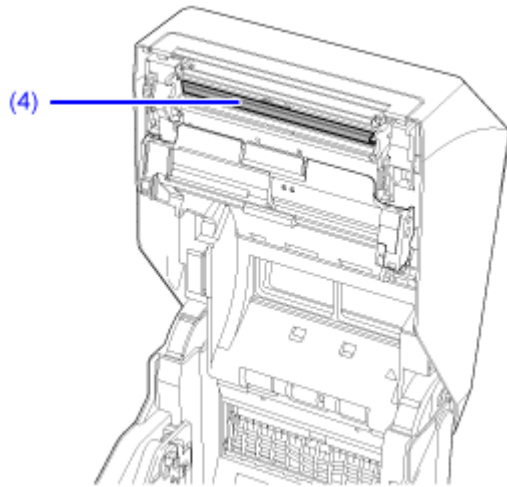


8. ラッピングシートを引き出したあと、手順2～7を2、3回繰り返します。

引き出したラッピングシートに新たな汚れが付着しなくなったら、ラッピングシートでの清掃を終了します。

9. オープンレバーを押し、トップカバーを開きます。

10.プリンタ清掃シートで、サーマルヘッド（4）に付着した汚れを除去します。



11.手順3で用紙とリボンを取り外した場合は元に戻します。

消耗部品の交換

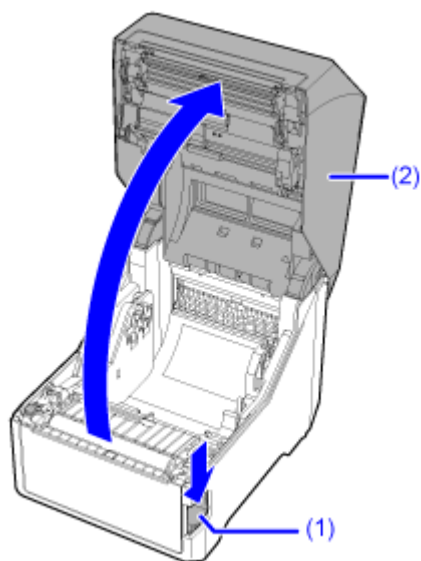
サーマルヘッドを交換する

サーマルヘッドが破損したり、摩耗したりした場合は、かんたんに取り外して交換できます。



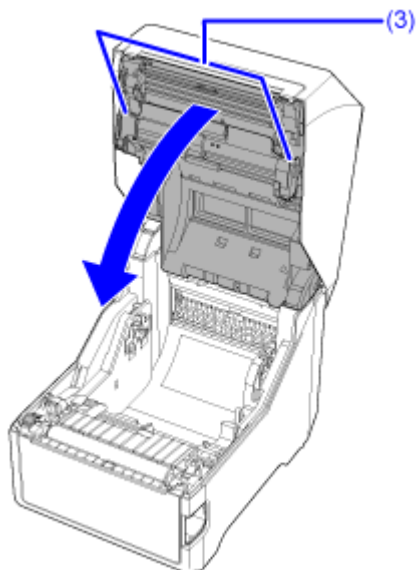
- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- サーマルヘッドの交換は、電源コードを電源コンセントから抜いてからおこなってください。
- サーマルヘッドを傷つけることを防ぐため、手袋をはめてからサーマルヘッドを交換してください。

1. 本製品の電源がオフになっていることを確認し、電源コードを電源コンセントから抜きます。
2. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。



3. ㄨㄨの刻印がある部分（3）を手前に引きます。

感熱方式/熱転写方式兼用モデルの場合、(3)の部分が▼（リボンカバー引き出し）マークで示されています。



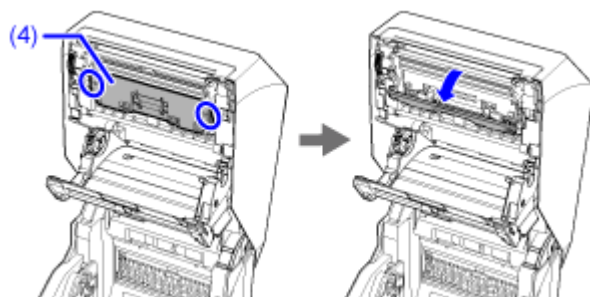
4. 感熱方式/熱転写方式兼用モデルでリボンがセットされている場合は取り外します。

5. ヘッドカバー (4) 側面の左右2か所のツメに指をかけ、ヘッドカバーを手前に開きます。

ヘッドカバーは2段階で開きます。開口部が45度程度になるように開いてください。



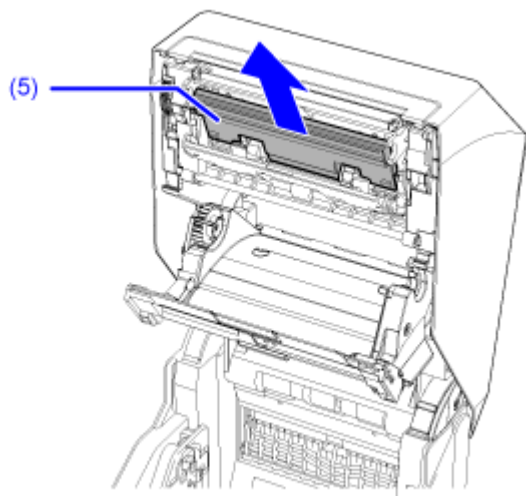
- 印字完了直後は、サーマルヘッドとその付近が熱くなっています。本製品が冷めるまでお待ちください。
- サーマルヘッドの端に素手で触れると、ケガをするおそれがあります。



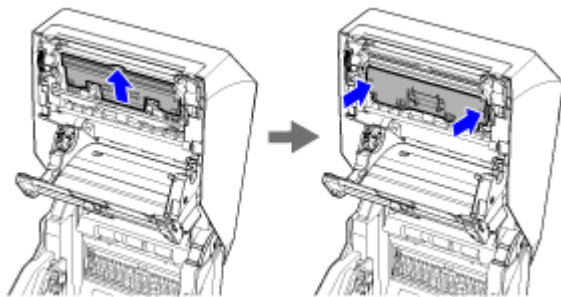
6. サーマルヘッド (5) を取り出します。



- サーマルヘッドのヘッド発熱体および端子部に触れないでください。
-



7. 新しいサーマルヘッドを差し込み、上側に寄せてからヘッドカバーを閉じます。



- サーマルヘッドの取り扱いには注意してください。表面は傷つきやすいため、汚したりひっかいたりしないでください。
-

8. 手順4でリボンを取り外した場合は元に戻します。

9. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。
-

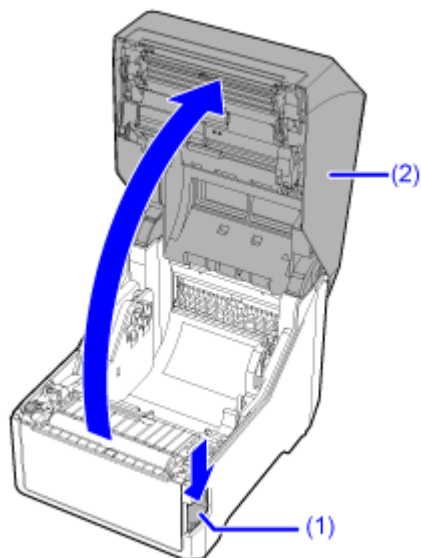
プラテンローラーを交換する

プラテンローラーが破損したり、摩耗したりした場合は、かんたんに取り外して交換できます。

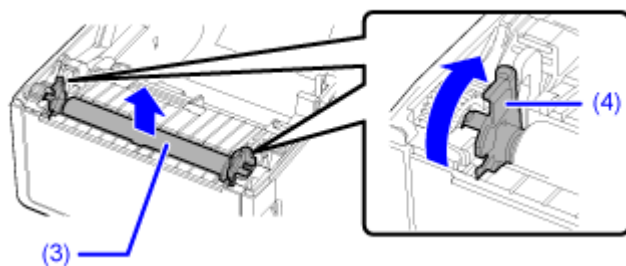


- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- プラテンローラーの交換は、電源コードを電源コンセントから抜いてからおこなってください。

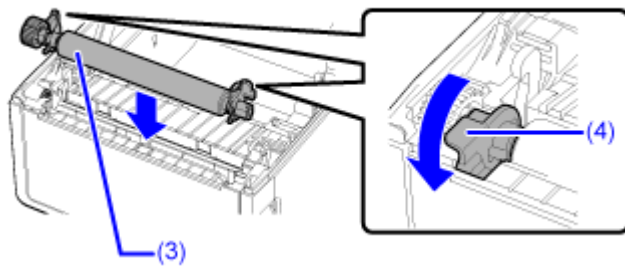
1. 本製品の電源がオフになっていることを確認し、電源コードを電源コンセントから抜きます。
2. オープンレバー (1) を押し、トップカバー (2) を開きます。



3. 用紙がセットされている場合は取り外します。
4. プラテンローラー (3) のレバー (4) 2箇所を立てて、プラテンローラーを取り外します。



5. 新しいプラテンローラー (3) を取り付け、レバー (4) 2箇所を手前に倒します。



6. 手順3で用紙を取り外した場合は元に戻します。

7. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。

オプションのノンセパプラテンローラーを交換する

ノンセパプラテンローラーが破損したり、摩耗したりした場合は、かんたんに取り外して交換できます。



- 濡れた手で電源コードの抜き差しをしないでください。感電するおそれがあります。
- プラテンローラーの交換は、電源コードを電源コンセントから抜いてからおこなってください。

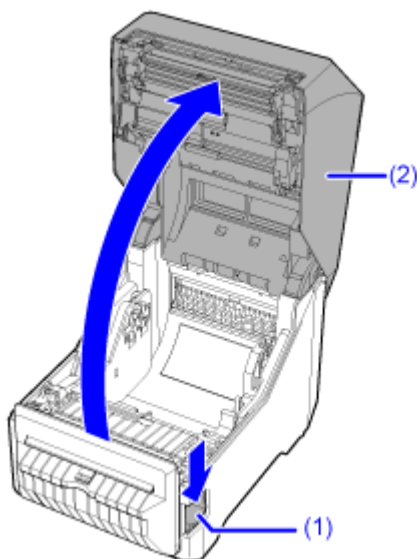
ノンセパプラテンローラーの交換時のガイドライン

ノンセパプラテンローラーにはローラー中央に青いストライプの印があります。青いストライプの印がかすれはじめたときが、ノンセパプラテンローラーの交換の目安です。



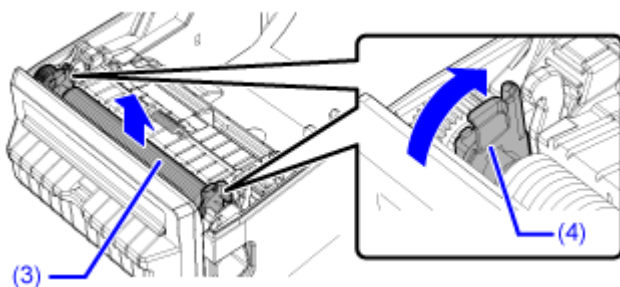
- これは一般的な目安であり、使用する用紙によってノンセパプラテンローラーの消耗具合の状態は変わります。本製品の印刷品質に影響がある場合はノンセパプラテンローラーを交換してください。

1. 本製品の電源がオフになっていることを確認し、電源コードを電源コンセントから抜きます。
2. オープンレバー（1）を押し、トップカバー（2）を開きます。

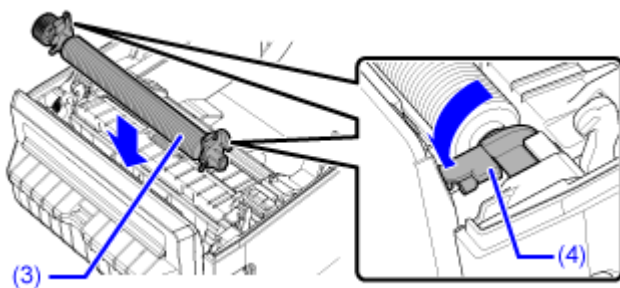


3. 用紙がセットされている場合は取り外します。

4. プラテンローラー (3) のレバー (4) 2箇所を立てて、プラテンローラーを取り外します。



5. 新しいプラテンローラー (3) を取り付け、レバー (4) 2箇所を手前に倒します。



6. 手順3で用紙を取り外した場合は元に戻します。

7. トップカバーを閉じます。

トップカバーの両端を押し、「カチッ」と音がするまでしっかり閉じます。



- トップカバーを閉じるときは、指を挟まないように注意してください。

SOS (SATO Online Services) オンデマンドモードの通知画面の操作方法

SOS (SATO Online Services) では、本製品の情報をSOSクラウドに送って監視・管理します。

本製品の [通信設定] > [ネットワーク] > [サービス] > [オンラインサービス] メニューで [SOSモード] を [オンデマンド] に設定しており、かつ [定期通知] を有効にしている場合、指定した時期にディスプレイにステータスアイコン **SOS!** と通知画面が表示されます。通知画面には本製品の情報がQRコードで表示されます。タブレット端末やスマートフォンからSOS専用アプリでスキャンすると本製品の情報をSOSクラウドに送信できます。

通知画面の操作方法是以下のとおりです。 [通知画面] の設定によって画面上のボタンが変わります。

[通知画面] を [通常] に設定している場合



X をタップすると、定期通知用に表示されたQRコードをリセットせず、オフライン画面に戻ります。

ステータスアイコンは **SOS!** のままです。

✓ をタップすると、定期通知用に表示されたQRコードをリセットして、オフライン画面に戻ります。

ステータスアイコンは **SOS** に変わります。

[通知画面] を [印字] に設定している場合



X をタップすると、定期通知用に表示されたQRコードをリセットして、オフライン画面に戻ります。

ステータスアイコンは **SOS** に変わります。

[印字] をタップすると、定期通知用に表示されたQRコードを印字します。



- QRコードは [Daily Checkup] から表示することもできます。
-

SOS（SATO Online Services）専用アプリについて

本製品でSOS（SATO Online Services）を有効にすると、エラー発生時および定期通知機能で設定した時期にディスプレイにQRコードが表示されます。タブレット端末やスマートフォンのSOS専用アプリでQRコードをスキャンすると、QRコード内の製品情報を元にエラーの対処方法が確認でき、専用アプリからヘルプデスクへ直接電話や、メールで連絡が取れます。

NFC接続を使って製品情報を取得し、SOSクラウドに情報を送ることもできます。

SOS専用アプリでは本製品の稼働情報の確認、クローンの保存や適用、および修理依頼をおこなえます。またSOSクラウドで資産管理機能を使用できます。

SOS専用アプリのインストール方法や利用方法は、SOS専用アプリ利用マニュアルをご覧ください。



https://www.sato-sos.com/support/#sos_use_manual

困ったとき

エラーメッセージが表示されたら

エラーメッセージ 1001（マシンエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

本製品の電源を切ってください。

原因と対処方法	参照先
原因 本製品の異常が発生しています。 対処方法 本製品の電源を入れ直してください。	 電源のオン/オフ

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1002（プログラムエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

本製品の電源を切ってください。

原因と対処方法	参照先
原因 メモリ上でプログラムエラーが発生しています。 対処方法 本製品の電源を入れ直してください。	 電源のオン/オフ

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1003（通信条件の確認（パリティエラー））

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップするか、〔設定〕をタップして設定を調整してください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） RS-232C設定が正しくありません。 対処方法（1） 本製品の通信設定を再設定してください。	 RS-232C
原因（2） RS-232Cケーブルが正しく接続されていません。 対処方法（2） 本製品の電源を切り、RS-232Cケーブルを正しく接続してから再度電源を入れてください。	 電源のオン/オフ  RS-232Cインタフェース接続（オプション）

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1004（通信条件の確認（オーバーランエラー））

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップするか、〔設定〕をタップして設定を調整してください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） RS-232C設定が正しくありません。 対処方法（1） 本製品の通信設定を再設定してください。	 RS-232C
原因（2） RS-232Cケーブルが正しく接続されていません。 対処方法（2） 本製品の電源を切り、RS-232Cケーブルを正しく接続してから再度電源を入れてください。	 電源のオン/オフ  RS-232Cインタフェース接続（オプション）

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1005（通信条件の確認（フレーミングエラー））

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップするか、〔設定〕をタップして設定を調整してください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） RS-232C設定が正しくありません。 対処方法（1） 本製品の通信設定を再設定してください。	 RS-232C
原因（2） RS-232Cケーブルが正しく接続されていません。 対処方法（2） 本製品の電源を切り、RS-232Cケーブルを正しく接続してから再度電源を入れてください。	 電源のオン/オフ  RS-232Cインタフェース接続（オプション）

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1006（送信データが多すぎます）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップするか、〔設定〕をタップして設定を調整してください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） ホストから受信バッファを超える量のデータを受信しました。 対処方法（1） ホストで設定を変更して、受信バッファのサイズを超えるデータを送信しないようにしてください。	-
原因（2） 本製品とホスト間の通信設定が合っていません。 対処方法（2） 本製品とホストの通信設定を再設定してください。 プリンタドライバの設定については、『プリンタドライバ説明書』をご覧ください。	 RS-232C  サポート・ダウンロードへ

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1007（カバーが開いています）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを閉じてください。

原因と対処方法

原因（1）

トップカバーが開いています。

対処方法（1）

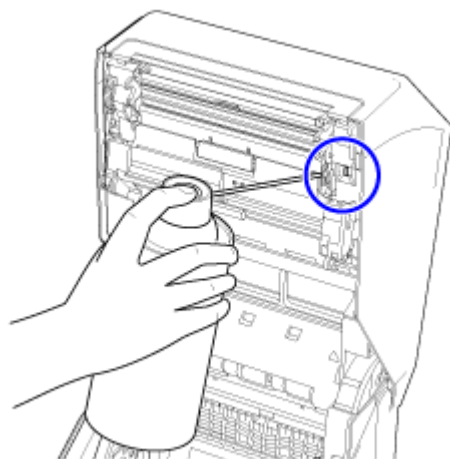
トップカバーを「カチッ」と音がするまでしっかり閉じてください。

原因（2）

トップカバーの開閉を検出するセンサに異常があります。

対処方法（2）

センサをエアダスターで清掃してください。



解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1008（用紙がなくなりました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。
エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。
原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開けて用紙をセットするか、[解除] をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） 用紙がセットされていません。 対処方法（1） 用紙をセットしてください。	 用紙のセット
原因（2） 用紙が正しくセットされていません。 対処方法（2） 用紙を正しくセットしてください。	 用紙のセット
原因（3） 用紙センサレベルが正しく設定されていません。 対処方法（3） 用紙センサレベルを調整してください。	 センサ調整
原因（4） 用紙が詰まっています。	 用紙のセット

原因と対処方法	参照先
対処方法（4） 詰まった用紙を取り除いてください。 用紙経路や、本製品内部の各部位の操作については、用紙セット時の動画をご覧ください。	
原因（5） 用紙センサが正しく動作していません。 ◦ 用紙センサが汚れているか、ラベルが貼り付いています。 ◦ 用紙センサの感度不良です。 対処方法（5） 用紙センサを清掃してください。	 本製品内部のお手入れ

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1009（リボンがなくなりました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開けてリボンをセットするか、[解除] をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） リボンがセットされていません。 対処方法（1） リボンをセットしてください。	 リボンのセット（熱転写方式のみ）
原因（2） リボンが正しくセットされていません。 対処方法（2） リボンや用紙を正しくセットしてください。	 リボンのセット（熱転写方式のみ）  用紙のセット
原因（3） リボンが切れています。 対処方法（3） リボンのルートを清掃して調整してください。	 本製品内部のお手入れ
原因（4） リボンセンサが正しく動作していません。 - リボンセンサが汚れています。 - リボンセンサの感度不良です。	 電源のオン/オフ

原因と対処方法	参照先
対処方法（4） 本製品の電源を入れ直してください。	

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1010（印字飛びエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開閉するか、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） 印字データ用の紙サイズと実際の紙サイズが異なります。 対処方法（1） 印字データ用の紙サイズと実際の紙サイズを再確認してください。 解決しない場合は本製品の電源を入れ直してください。	-
原因（2） 印字データ用の紙サイズが実際の紙サイズより長くなっています。 対処方法（2） 印字データを再確認してください。 解決しない場合は本製品の電源を入れ直してください。	-
原因（3） センサレベルが正しくないため、用紙が通常より長く送られています。	 センサ調整

原因と対処方法	参照先
対処方法（3） 用紙センサレベルを調整してください。 解決しない場合は本製品の電源を入れ直してください。	



- 印字飛びエラーは、[印字]メニューの[詳細設定]で[用紙飛びチェック]が[有効]に設定されているときに表示されます。



[用紙飛びチェック](#)

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1012（ヘッドが断線しています）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

本製品の電源を切るか、〔設定〕をタップしてヘッドチェックの条件を変更してください。

 [ヘッドチェック](#)

〔解除〕をボタン全体が青くなるまでロングタッチすると、オフライン状態に切り替わり、本製品の電源を切るまでヘッドチェックを一時的に無効にできます。

原因と対処方法	参照先
原因 サーマルヘッドが摩耗または損傷しています。 対処方法 サーマルヘッドを交換してください。	 サーマルヘッドを交換する

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- ヘッドエラー発生後に発行したラベルについては、お手持ちのスキャナなどを使って印字したバーコードを読み取って確認してください。

エラーメッセージ 1013（USBメモリ読み書きエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。
エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。
原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法

原因（1）

書き込み中にUSBメモリが抜かれました。

対処方法（1）

USBメモリを挿入してください。

原因（2）

USBメモリに十分な保存領域がありません。

対処方法（2）

USBメモリに十分な保存領域があるか確認してください。

原因（3）

USBメモリへの書き込みが失敗しました。

対処方法（3）

USBメモリを交換してください。

原因（4）

USBメモリがフォーマットされていません。

対処方法（4）

USBメモリをFAT32形式でフォーマットしてください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1014（メモリの空き容量がありません）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

十分な空き領域のあるUSBメモリを挿入するか、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法

原因

USBメモリに十分な空き領域がありません。

対処方法

USBメモリ内の不要なデータを削除するか、十分な空き領域のあるUSBメモリを挿入してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1015（用紙が切れませんでした）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「カッタアクション」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） カッタで用紙詰まりが発生しています。 対処方法（1） カッタから詰まった用紙を取り除いてください。 用紙経路や、本製品内部の各部位の操作については、用紙セット時の動画をご覧ください。  • 用紙を取り除くときは、カッタの刃でケガをしないように注意してください。 解決しない場合は本製品の電源を入れ直してください。	 ロール紙をセットする（オプションのカッタユニット取り付け時）
原因（2） カッタの刃が所定の位置に戻っていません。 対処方法（2） 「カッタアクション」をタップして、カッタの刃を所定の位置に戻してください。 解決しない場合は本製品の電源を入れ直してください。	-

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1017（データが不正です）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

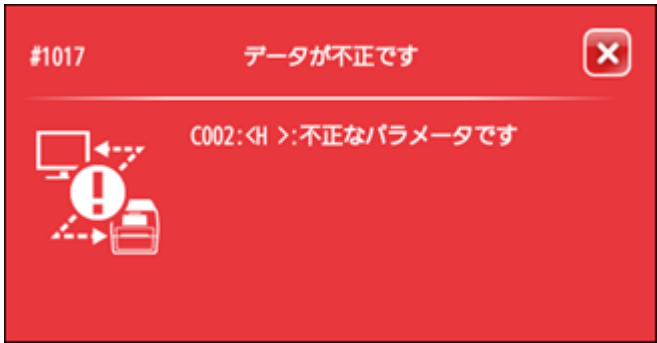
エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「キャンセル」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 印字データ中に不正なコマンドまたはパラメータを検出しました。 エラーの詳細は、エラーメッセージの詳細画面にある「Caaa: <bb>: cc」の表示を確認してください。  ◦ Caaa：エラー発生位置 ◦ <bb>：エラーコマンド名 ◦ cc：エラー内容 対処方法 印字データを確認してください。 解決しない場合は本製品の電源を入れ直してください。	 コマンドエラー情報の見かた  コマンドエラー表示

原因と対処方法	参照先
 コマンドエラーは、[アプリケーション] メニューの [SBPL] で [コマンドエラー表示] が [有効] に設定されているときに表示されます。	

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

コマンドエラー情報の見かた

エラー発生箇所

コマンドエラーメッセージの “Caaa” はコマンドエラーの発生箇所を示しています。
データ送出開始指定<A>コマンドからESCコマンドの数は “aaa” に示されています。
データ送出開始指定<A>コマンドはESCコマンドの数（999まで表示されます）には含まれていません。

例）コマンドエラーが水平印刷位置<H>コマンドで検知されたとき

```
-----: [ESC]A
C001: [ESC]V100
C002: [ESC]H999999
C003: [ESC]L0202
C004: [ESC]M,ABCDEF
C005: [ESC]Q1
C006: [ESC]Z
```

この場合、C002がエラーの発生箇所です。

エラーコマンド名

コマンド名は “<bb>” 内に表示されます。エラーはコマンド名の中で検知されます。

- 1バイトのコマンド名は左詰めになります。

エラーの説明

コマンドエラーの原因は、エラーメッセージ（「Caaa:<bb>cc」）の「cc」に表示されます。

説明（「cc」）	原因
不正なコマンドです	不適切なコマンドが検出されました。
不正なパラメータです	不適切なパラメータを受信しました。
コマンドテーブルの読み込みエラーです	コマンドテーブルの読み込みに失敗しました。
不正なグラフィック・外字データです	画像や外字データが不適切です。

説明（「cc」）	原因
不正な登録領域の指定です	- 指定されたメモリ部（カードスロット）が不適切です。 - 書き込み禁止のメディアに書き込もうとしました。
指定された番号は登録済みです	登録コマンドで指定された数字がすでに使用されています。
登録領域の上限を超えました	登録エリアを超過しています。（メモリフル）
データが登録されていません	フォームオーバーレイなどのデータが登録されていません。
印字位置が印字可能領域外です	指定された印字開始位置が印字領域外です。
バーコードの印字イメージが印字可能領域を超えました	印字イメージが印字領域外です。（バーコードのみ）
PDF417の指定が不正です	PDF417の指定に誤りがあります。
QRコードの生成エラーです	QRコードの生成に失敗しました。

エラーメッセージ 1019（RFIDシステムエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

本製品の電源を切ってください。

原因と対処方法	参照先
原因 RFIDモジュールが正しく動作していません。 対処方法 RFIDモジュールの修理または交換が必要です。お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1020（カレンダーエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔設定〕をタップして、日時が正しく設定されているか確認してください。

その後、エラー画面で〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） カレンダーの日付と時間が正しくありません。 対処方法（1） カレンダーを再設定してください。	 地域
原因（2） カレンダー用電池の残量が少なくなっています。 対処方法（2） カレンダー用電池を交換する必要があります。お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1021（BCCが一致していません）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

［キャンセル］または［印字］をタップします。

原因と対処方法

原因

送信データ（1アイテム分）のBCCコードが正しくありません。

対処方法

送信データと通信設定を確認してください。

- ［印字］：BCCエラーが発生した印字データから印字を再開します。
- ［キャンセル］：BCCエラーが発生した印字データをキャンセルし、次のアイテムから印字を再開します。
- SUBコマンド送信：BCCエラーを解除し、停止した場所から印字を再開します。
- CANコマンド送信：BCCエラーが発生した印字データをキャンセルし、次のアイテムから印字を再開します。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1022（オーバーヒートエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

本製品の操作を停止し、温度が下がるまでお待ちください。

原因と対処方法

原因

本製品の温度が許容値を超えました。

対処方法

本製品の操作を停止し、温度が下がるまでお待ちください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1023（NTPエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップするか、〔設定〕をタップしてタイムサーバーとの接続設定を変更してください。

原因と対処方法	参照先
原因 タイムサーバーに接続できず、日時を設定できませんでした。 対処方法 - タイムサーバーのアドレスが正しいか確認してください。 - タイムサーバーと接続できているか確認してください。 - RTCキットが取り付けられている場合、日時は手動で設定でき、NTP機能なしで操作を再開できます。	 NTPサーバーのIPアドレス  地域

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1024（ヘッド密度変更）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

表示されるメッセージを確認してください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） サーマルヘッドが取り付けられていません。 対処方法（1） サーマルヘッドを取り付けてください。	 サーマルヘッドを交換する
原因（2） 解像度の異なる新しいサーマルヘッドが取り付けられています。 対処方法（2） 使用していたサーマルヘッドと同じ解像度のサーマルヘッドを取り付けてください。	 サーマルヘッドを交換する

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1028（ギャップが見つかりません）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開閉するか、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） 用紙が曲がっています。 対処方法（1） 用紙を正しくセットしてください。	 用紙のセット
原因（2） 用紙センサ部にラベルが貼り付いています。 対処方法（2） 用紙センサ部を清掃してください。	 本製品内部のお手入れ
原因（3） 用紙センサタイプが正しくありません。 対処方法（3） 使用する用紙に合った用紙センサタイプを設定してください。	 用紙センサタイプ
原因（4） 用紙センサレベルが正しくありません。	 センサ調整

原因と対処方法	参照先
対処方法（4） 用紙センサレベルを調整してください。	

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1035（アイマークが見つかりません）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開閉するか、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） 用紙が曲がっています。 対処方法（1） 用紙を正しくセットしてください。	 用紙のセット
原因（2） 用紙センサ部にラベルが貼り付いています。 対処方法（2） 用紙センサ部を清掃してください。	 本製品内部のお手入れ
原因（3） 用紙センサタイプが正しくありません。 対処方法（3） 使用する用紙に合った用紙センサタイプを設定してください。	 用紙センサタイプ
原因（4） 用紙センサレベルが正しくありません。	 センサ調整

原因と対処方法	参照先
対処方法（4） 用紙センサレベルを調整してください。	

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1046（EAP認証エラー（EAP認証の失敗））

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。
エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。
原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔設定〕をタップしてWi-Fi設定を変更するか、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 EAP認証が失敗しました。 対処方法 Wi-Fi設定を適切におこなってください。	 EAP設定

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1047（EAP認証エラー（EAPのタイムアウト））

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「解除」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 EAP認証が失敗しました。  • EAP認証サーバーとの認証がタイムアウトした場合に発生します。アクセスポイントとの接続がされていない状態の場合は、本エラーは発生しません。 対処方法 アクセスポイント（AP）および認証サーバーの設定を適切におこなってください。	 EAP設定

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1050（Bluetoothモジュールエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔設定〕をタップしてBluetooth設定を変更するか、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 Bluetoothモジュールの故障が検出されました。 対処方法 Bluetoothモジュールの修理が必要です。お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1058（CRCチェックエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「設定」をタップしてCRCチェックの設定を変更するか、「キャンセル」または「印字」をタップします。

原因と対処方法

原因

- CRCがデータに追加されていません。
- CRCが一致しません。

対処方法

送信データと通信設定を確認してください。

- 「印字」：CRCエラーが発生した印字データから印字を再開します。
- 「キャンセル」：CRCエラーが発生した印字データをキャンセルし、次のアイテムから印字を再開します。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1066（用紙詰まり）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開いて用紙をセットし直してください。

原因と対処方法	参照先
原因（１） 用紙が詰まっています。 対処方法（１） 詰まった用紙を取り除いてください。 用紙経路や、本製品内部の各部位の操作については、用紙セット時の動画をご覧ください。	 用紙のセット
原因（２） 用紙が正しくセットされていません。 対処方法（２） 用紙を正しくセットしてください。用紙の先端がカッタの刃よりも手前になるようにセットしてください。	 ロール紙をセットする（オプションのノンセパクタユニット取り付け時）

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1068（WLANエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「解除」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 無線LANモジュールが破損しています。 対処方法 無線LANモジュールの交換が必要です。お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1073（RFID未検出警告）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「キャンセル」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 「RFID未検出警告」が有効なときに、RFIDタグに対してRFIDコマンドがない印字ジョブが送信されました。 対処方法 - 印字ジョブにRFIDコマンドを追加してください。 「RFID未検出警告」を無効にしてください。 - 通常用紙に交換してください。	 RFID未検出警告

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1075（NFCエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「解除」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 NFCモジュールが正常に動作していません。 対処方法 NFCモジュールの交換が必要です。お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1076（NFCコマンドエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「解除」をタップしてください。

原因と対処方法

原因

コマンドエラーが発生し、正常に設定が反映できませんでした。

対処方法

コマンドを確認してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1099（設定初期化）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 電源が入った状態で電源コードを抜くなど、不適切な方法で電源が切られました。 対処方法 - 本製品の電源を正しく切ってください。 - 設定メニューで本製品を再設定してください。	 本製品の電源を切る  本製品の設定メニュー

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1111（用紙無駄なしエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

トップカバーを開け、用紙の先端を用紙排出口に合わせてセットし、トップカバーを閉じてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） 用紙のセット位置が正しくありません。 対処方法（1） 用紙の先端を用紙排出口に合わせてセットしてください。 オプションのカッタユニットを取り付けていて、用紙長が20mm以下の用紙を使用する場合は、用紙の先端を用紙排出口から本製品の内側へ10mm程度引いた位置にセットしてください。	 用紙無駄なし機能について
原因（2） 用紙が正しく検出されていません。 対処方法（2） 〔センサ自動調整〕で用紙センサレベルを調整してください。	 センサ自動調整
原因（3） オフセット位置や印字基準位置の調整値が大きすぎます。 対処方法（3） 〔設定〕メニューの〔印字〕＞〔詳細設定〕＞〔調整モード〕＞〔オフセット調整〕または〔通信設定〕＞	 オフセット調整  基準位置

原因と対処方法	参照先
[RFID] > [用紙] > [基準位置] などの調整値を変更してください。	

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。



[困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1114（タグが見つかりません）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 タグが見つからなかったか、タグの読込みに失敗しました。 対処方法 本製品とアンテナの設定、およびインレイを確認してください。	 RFID設定（RFIDモデルのみ）  RFID

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1115（書込みに失敗しました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 インレイの書込みに失敗しました。	 RFID設定（RFIDモデルのみ）  RFID
対処方法 本製品とアンテナの設定、およびインレイを確認してください。	

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1116（タグの読出しに失敗）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「再試行」をタップして「RFID再試行モード」で設定した再試行/リリース動作を実行するか、「中止」をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、「キャンセル」をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 タグデータ印字指定<TU>コマンドでタグの読込みに失敗しました。 対処方法 - 本製品とアンテナの設定、およびインレイを確認してください。 - インレイの容量を超えるアドレスを指定していないか確認してください。	 RFID設定（RFIDモデルのみ）  RFID

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1117（書込みに失敗しました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法

ISO/IEC 15693、FeliCaのみ

原因（1）

書込みロック状態のインレイに書き込もうとしました。

対処方法（1）

ロックされていないタグを使用してください。

ISO/IEC 15693、FeliCaのみ

原因（2）

書込み不可のアドレスに書き込もうとしました。

対処方法（2）

ロックされていないタグを使用してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。
-

エラーメッセージ 1118（書き込み読み出し値の不一致）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
FeliCa以外 原因（1） 書き込んだ値と読み出した値が一致しません。 対処方法（1） 本製品とアンテナの設定、およびインレイを確認してください。	 RFID設定（RFIDモデルのみ）  RFID
FeliCaのみ 原因（2） 書き込んだ値と読み出した値が一致しません。減算レジスタに元データより大きな値が書き込まれました。 対処方法（2） 減算レジスタへ適切な値を書き込んでください。	-

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。
-

エラーメッセージ 1119（ロック処理に失敗しました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法

原因

インレイのロックに失敗しました。

対処方法

インレイを確認してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1120（不正タグのUIDを読み込み）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法

ISO/IEC 15693、ISO/IEC14443 Type Aのみ

原因

指定タグ以外のタグのUIDを読み込みました。

対処方法

タグ種の設定どおりのタグを使用しているか確認してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1121（複数のタグを捕捉しました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
FeliCa以外 原因（1） 複数のインレイを同時に取り込みました。 対処方法（1） 本製品とアンテナの設定、およびインレイを確認してください。	 RFID設定（RFIDモデルのみ）  RFID
FeliCaのみ 原因（2） 処理間に取り込んだカードのIDmが一致しません（目的外のカードに書き込もうとしました）。 対処方法（2） 本製品とアンテナの設定、およびインレイを確認してください。	 RFID設定（RFIDモデルのみ）  RFID

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。
-

エラーメッセージ 1122 (EPCが一貫していません)

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「再試行」をタップして「RFID再試行モード」で設定した再試行/リリース動作を実行するか、「中止」をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、「キャンセル」をタップしてください。

原因と対処方法

UHFのみ

原因

一連の処理間で一貫しない異なるEPCを検出しました。

対処方法

タグを確認してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1123（書込みに失敗しました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
UHFのみ 原因（1） 書込みロック状態、またはEPC書込みを64桁以上おこなったインレイに書き込もうとしました。 対処方法（1） ロックされていないタグを使用してください。	-
UHFのみ 原因（2） 書込み電力不足の状態でインレイに書き込もうとしました。 対処方法（2） 〔書込み電波出力〕 / 〔読出し電波出力〕を調節してください。	 書込み電波出力  読出し電波出力

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。
-

エラーメッセージ 1124（タグ種の指定が不正です）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法

ISO/IEC 15693、ISO/IEC14443 Type Aのみ

原因

タグ種を間違えて指定しました。

対処方法

タグ種を確認し、正しいタグ種を指定してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1125（内部エラーが発生しました）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法

ISO/IEC 15693、ISO/IEC14443 Type A、FeliCaのみ

原因

IDの取得に失敗しました。

対処方法

電波状態の改善が必要です。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1126（電波出力が足りません）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
UHFのみ 原因 〔RSSIフィルタ〕機能を有効にして、インレイのRSSI値が〔閾値〕で設定した値以下になりました。 対処方法 - タグを確認してください。また、〔閾値〕の設定を確認してください。 〔書込み電波出力〕 / 〔読出し電波出力〕を調節してください。	 閾値  書込み電波出力  読出し電波出力

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1127（オートクローンエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔設定〕をタップしてオートクローン機能を無効にするかUSBフォーマットを実行してください。または、〔解除〕をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因（1） USBメモリが挿入されていません。 対処方法（1） 本製品内部のUSBコネクタ（Type A）にUSBメモリを挿入してください。	-
原因（2） USBメモリがフォーマットされていません。 対処方法（2） 〔USBフォーマット〕メニューでUSBメモリをフォーマットしてください。	 USBフォーマット
原因（3） USBメモリが正しく認識されていません。 対処方法（3） USBメモリを交換してください。	-

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)

エラーメッセージ 1128 (Bluetooth MFiチップエラー)

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

[解除] をタップしてください。

原因と対処方法	参照先
原因 BluetoothモジュールのMFiチップが破損しています。 対処方法 Bluetoothモジュールの交換が必要です。お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1129（サポートされていないタグ種です）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔再試行〕をタップして〔RFID再試行モード〕で設定した再試行/リリース動作を実行するか、〔中止〕をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、〔キャンセル〕をタップしてください。

原因と対処方法

UHF、ISO/IEC 15693、FeliCaのみ

原因

サポートされていないタグ種、または書込み不可能なエンコード済みのタグを使用しています。

対処方法

インレイの製造元と型式を確認してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1131（アドレスが超過しています）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

「再試行」をタップして「RFID再試行モード」で設定した再試行/リリース動作を実行するか、「中止」をタップしてください。

 [RFID再試行モード](#)

印字ジョブ全体をキャンセルする場合は、トップカバーを開閉して本製品をオフライン状態に切替え、「キャンセル」をタップしてください。

原因と対処方法

ISO/IEC 15693のみ

原因

- 範囲を超えるアドレスのメモリに書き込もうとしました。
- 書き込み先のメモリブロックのアドレスにメモリが存在しません。

対処方法

- インレイの容量を超えるアドレスを指定していないか確認してください。
- データサイズを確認してください。

解決しない場合は、お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。

 [困ったときのお問い合わせ先](#)



- RFIDタグエラーが発生したRFIDタグは使用できません。エラーが発生したRFIDタグにはエラーメッセージが印字されます。

エラーメッセージ 1132（RTCモジュールエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

〔解除〕をタップしてください。

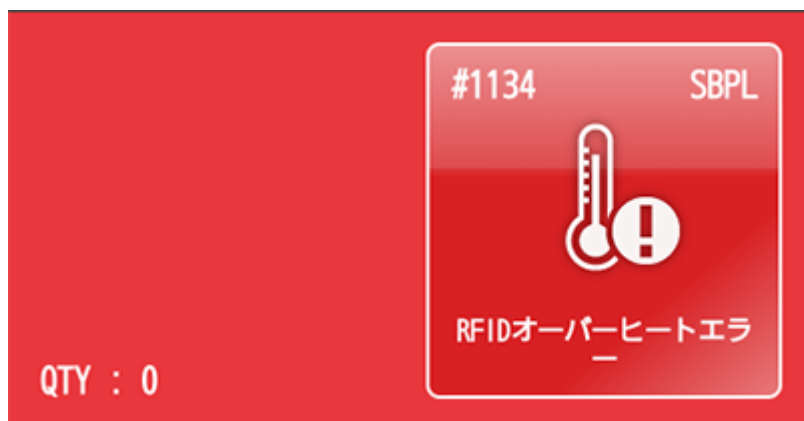
原因と対処方法	参照先
原因 RTCモジュールまたは本製品のRTCモジュール接続ポートが破損しています。 対処方法 RTCモジュールまたは本製品の部品の交換が必要です。 お客さまヘルプデスクにお問い合わせください。	 困ったときのお問い合わせ先

エラーメッセージ 1134（RFIDオーバーヒートエラー）

本製品にエラーが発生した場合、ディスプレイにエラーメッセージが表示されます。

エラー番号のボタンをタップすると詳細画面が表示されます。

原因と対処方法を確認のうえ、対処してください。



エラーの解除方法：

本製品の操作を停止し、温度が下がるまで15分お待ちください。

原因と対処方法	参照先
原因 RFIDモジュールの温度が許容値を超えました。 対処方法 本製品の操作を停止し、温度が下がるまで15分お待ちください。	 困ったときのお問い合わせ先

SOS (SATO Online Services) 有効時のエラーメッセージ表示と操作方法

SOS (SATO Online Services) 有効時、エラーメッセージにSOSアイコンが表示されます。SOSアイコンをタップすると、エラー情報を含んだQRコードや連絡先の電話番号が表示されます。



タブレット端末やスマートフォンでQRコードや本製品のNFCマークをスキャンすると、SOS専用アプリのメニューが表示されます。スキャンにはSOS専用アプリが必要です。

表示される電話番号の初期値は、お客さまヘルプデスクのSOS専用ダイヤルです。電話でエラーの対処法を確認する場合は、画面に表示されるプリンタシリアルおよびエラー番号をオペレータに伝えてください。

SOS（SATO Online Services）有効時のプロビジョニングエラーメッセージ

SOSに本製品を追加する際に、サーバー認証に失敗するとプロビジョニングエラーが発生します。表示されるメッセージは原因により異なります。下記の対処方法を確認のうえ、対処してください。

リターンコード	メッセージ	対処方法
400	RetCode:400 情報取得エラー、SOSモードを一旦無効にし、再設定してください。	SOSモードの再設定をおこなっても解決しない場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。
403	RetCode:403 認証エラー、SOSモードを一旦無効にし、再設定してください。	SOSモードの再設定をおこなっても解決しない場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。
405	RetCode:405 機種エラー、SOSに接続できない機種です。	最寄りの販売店にお問い合わせください。
406	RetCode:406 シリアル番号がSOSに登録されていません。登録を確認してください。	SOSアカウントの管理者に登録を確認してください。
407	RetCode:407 プロキシサーバーの設定に問題があります。設定を確認してください。	プロキシサーバーの設定を変更しても解決しない場合は、管理者に確認してください。
408	RetCode:408 HTTPSリクエストのタイムアウトが発生しました。	プロキシサーバーの設定またはネットワークの通信状態を確認してください。 通信状態が正常に関わらずエラーが表示される場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。
409	RetCode:409 プリンタにシリアル番号が設定されていません。設定を確認してください。	最寄りの販売店にお問い合わせください。
500	RetCode:500 SOSシステムエラー、ヘルプデスクにお問い合わせください。	SOSまたはプロキシサーバーでシステムエラーが発生しています。しばらくお待ちいただいても解決しない場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。
503	RetCode:503 SOSサーバーのメンテナンス中です。	メンテナンス中はご利用いただくことができません。メンテナンス終了までお待ちください。
-	不明なエラーです。ヘルプデスクにお問い合わせください。	しばらくお待ちいただいても解決しない場合は、最寄りの販売店にお問い合わせください。

困ったときのお問い合わせ先

お客さまヘルプデスク

0120-696310

受付時間：24時間365日

弊社ホームページのお問い合わせページ



<https://www.sato.co.jp/contact/>

製品仕様

ハードウェア

寸法および重量

項目	内容
外形寸法	178mm（幅） x 238mm（奥行き） x 214mm（高さ）（足含む/突起物含まず）
重量	感熱方式専用モデル 約3.3kg（用紙・オプション含まず） 感熱方式/熱転写方式兼用モデル 約3.4kg（用紙・オプション含まず） RFIDモデル（感熱方式/熱転写方式兼用） 約3.6kg（用紙・オプション含まず）

電源

項目	内容
入力電圧	AC 100～240V
出力電圧	DC24V ±5.0% 2.7A
周波数	50／60Hz
消費電力	入力電圧条件：AC 100～240V、50～60Hz ピーク時 155VA/95W（AC100V、印字率30%） 187VA/88W（AC240V、印字率30%） 待機時 18VA/8W（AC100V） 24VA/8W（AC240V）

処理

項目	内容
Flash ROM	4GB
SDRAM	1GB

項目	内容
ユーザー登録領域	最大1GB
受信バッファ	バッファフル 2.95MB バッファニアフル 2MB発生、1MB解除

操作

項目	内容
LCD	TFT カラー4.3インチ
LED	ステータス 青/赤
表示言語	英語/ドイツ語/フランス語/スペイン語/イタリア語/ポルトガル語/ ポルトガル語(ブラジル)/チェコ語/デンマーク語/オランダ語/フィン ランド語/ギリシア語/ハンガリー語/ノルウェー語/ポーランド 語/ルーマニア語/ロシア語/スロヴァキア語/スウェーデン語/トル コ語/中国語（簡体字）/中国語（繁体字）/韓国語/日本語/アラビ ア語/タイ語/ベトナム語/ペルシア語/インドネシア語/ヒンディ語/ ブルガリア語

使用環境条件

項目	内容
使用温度	ノンセパカッタモード以外 0～40° C ノンセパカッタモード 5～35° C
保存温度（サプライ製品を除く）	-10～60° C
使用湿度	ノンセパカッタモード以外 30～80%RH（結露無きこと） ノンセパカッタモード 30～75%RH（結露無きこと）

項目	内容
保存湿度（サプライ製品を除く）	15～90%RH（結露無きこと）

印字

項目	内容
印字方式	感熱方式、感熱方式/熱転写方式 兼用
印字速度	203dpi 2～8インチ/秒（50.8～203.2mm/秒） 305dpi 2～6インチ/秒（50.8～152.4mm/秒） ノンセパクタモード 2～4インチ/秒（50.8～101.6mm/秒）
解像度（ヘッド密度）	203dpi（8dot/mm） 305dpi（12dot/mm）
印字禁止領域	長さ方向（台紙を除く） 上 1.5mm ノンセパラベル：5mm 下 1.5mm 幅方向（台紙を除く） 左 1.5mm 右 1.5mm
印字有効範囲	203dpi 長さ2500mm x 幅104mm 305dpi 長さ1500mm x 幅104mm
印字停止位置	203dpi（1dot=0.125mm） 0～20000dot（2500mm）

項目	内容
	305dpi (1dot=0.083mm) 0～18000dot (1500mm)
印字濃度	濃度レベル 1～10 印字濃度レンジ A

センサ

項目	内容
アイマーク（反射）	調整可能（自動、手動）
ギャップ（透過）	調整可能（自動、手動）
用紙頭出しセンサ（透過）	調整可能（自動のみ）
ヘッドオープン/カバー オープン（透過）	固定
ペーパーエンドセンサ	アイマークセンサまたはギャップセンサによる検出
リボンエンド/リボンニア エンド（透過）	固定
ノンセパ（反射）	固定 オプションのノンセパカッタユニットを取り付けている場合。
ハクリ（反射）	固定 オプションのハクリユニットを取り付けている場合。



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

インタフェース

対応インタフェース

本製品は、ホストとデータ通信をおこなうため、以下のインタフェースに対応しています。

標準（内蔵）

- USBインタフェース（Type B）
- LANインタフェース（イーサネット）
- NFCインタフェース

オプション

- RS-232Cインタフェース（DB9ピン、メス）
- 無線LANインタフェース
- Bluetoothインタフェース



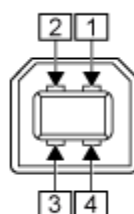
- 本製品のインタフェース設定は、[設定] メニューの [通信設定] 、 [Bluetooth] 、または [Wi-Fi] からおこないます。
-

USBインタフェース

本インタフェースは、USB2.0 規格に準拠しています。

使用する前に、コンピュータにUSBドライバをインストールしてください。

基本仕様	
コネクタ	USB Type Bコネクタ
プロトコル	- STATUS4 - STATUS5
電源	バスパワー（ケーブル経由）



ピン配列	
ピン番号	説明
1	VBus
2	D-
3	D+
4	GND

ケーブル仕様	
ケーブルコネクタ	USB Type Bコネクタ
ケーブル長	5m以下



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

NFCインタフェース

このインタフェースは、NFC Forum Type 2 Tagに準拠しています。



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。
-

LANインタフェース

基本仕様	
コネクタ	RJ-45 レセプタクル
プロトコル	• STATUS3 • STATUS4 • STATUS5
IPアドレス	• IPv4 • IPv6
サブネットマスク / プレフィックス長	• IPv4 • IPv6
ゲートウェイアドレス	• IPv4 • IPv6

ケーブル仕様	
ケーブル	10BASE-T/100BASE-TX/1000BASE-Tカテゴリ5以上
ケーブル長	100m以下

ソフトウェア仕様	
サポートされているプロトコル	TCP/IP
ネットワーク層	• IP • ICMP
セッション層	• TCP • UDP
アプリケーション層	• LPR • FTP • DHCP • HTTP/HTTPS • SNMP • NTP



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

Bluetoothインタフェース

このインタフェースは、Bluetooth4.1標準に準拠しています。

基本仕様	
信号レベル	クラス2
通信距離	10m
プロファイル	- Serial Port Profile (SPP) - Human Interface Device Profile (HID) - Headset Profile (HSP) - Hands-Free Profile (HFP)
セキュリティレベル	- なし - レベル2-1 - レベル2-2 - レベル3 - レベル4
PIN コード	4～16桁のASCIIコード（20H、21H、23H～7EH）
切断タイムアウト（LMP層）	60秒

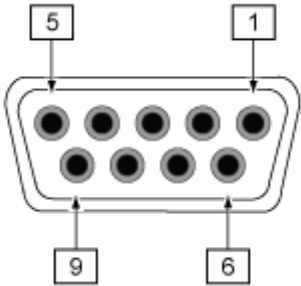


- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

RS-232Cインタフェース

本インタフェースは、RS-232C規格に準拠しています。

基本仕様	
非同期ASCII	半二重通信 双方向通信
データ伝送速度	2400、4800、9600、19200、38400、57600、115200 bps
伝送形式	スタート、b1、b2、b3、b4、b5、b6、b7、b8、ストップ  7ビット単位を使用する場合、“b8”は省略されます。
データ長	7または8ビット（初期値）
ストップビット	1または2ビット（初期値）
パリティビット	ODD、EVEN、NONE（初期値）
使用コード	ASCII文字コード 7ビット グラフィック 8ビット
制御コード	STX (02H)、ETX (03H)、ACK (06H)、NAK (15H)
コネクタ	DB-9メスまたは同等品
信号レベル	High = +5～+12V、Low = -5～-12V
プロトコル	- READY/BUSY Multi - XON/XOFF Multi - STATUS3 - STATUS4 - STATUS5



コネクタピン仕様		
ピン番号	I/O	説明
1	-	データキャリア検出
2	入力	データ受信
3	出力	データ送信
4	出力	データ端末レディ
5	基準	信号用アース
6	入力	データセットレディ
7	出力	送信要求
8	入力	送信可
9	-	未接続

ケーブル仕様	
ケーブルコネクタ	DB-9オスまたは同等品
ケーブル長	5m以下



- READY/BUSY制御を使用する場合、ホストからデータを送信する前に、本製品の電源が入っていることを確認してください。
- XON/XOFF、STATUS3、STATUS4、またはSTATUS5の通信プロトコルで、受信バッファサイズ（2.95MB）を超えるデータを受信すると受信バッファフルエラーが発生します。データを送信するときは、本製品の状態を確認し、送信データを2.95MB 未満に抑えるようにしてください。
- パリティエラーは、エラーがデータ送出開始指定<A>コマンド受信後に発生した場合に検知されます。
- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

無線LANインタフェース

本インタフェースは、IEEE802.11a/b/g/n/ac規格に準拠しています。



- 医療機器や医療施設の近くで無線LANを使用する場合は、システム管理者にご相談ください。

基本仕様	
プロトコル	- STATUS3 - STATUS4 - STATUS5
IP アドレス	- IPv4 - IPv6
サブネットマスク / プレフィックス長	- IPv4 - IPv6
ゲートウェイアドレス	- IPv4 - IPv6
データ転送方式	802.11a 最大54Mbps 802.11n 最大135Mbps 802.11b 最大11Mbps 802.11g 最大54Mbps 802.11ac 最大433.3Mbps  これらは無線LAN仕様に基づく理論値であり、実際のデータ転送速度とは異なります。
周波数帯	2.4GHz (2.412～2.472GHz) 5GHz (5.180～5.825GHz)
通信チャンネル	1～13 36～64 100～140 149～165

基本仕様	
SSID	任意の英数字および記号（最大32）
認証方式	• オープンシステム • 共有鍵 • WPA/WPA2 • 802.1x（EAP-TLS、EAP-LEAP、EAP-TTLS、EAP-PEAP、EAP-FASTプロトコル）によるRADIUSサーバー認証
暗号化方式	• なし • WEP（64ビット/128ビット） • TKIP（WPA-PSK、WPA-802.1x） • AES（WPA2-PSK、WPA2-802.1x）
通信モード	• Infrastructure • Ad Hoc

ソフトウェア仕様	
サポートされているプロトコル	TCP/IP
ネットワーク層	• IP • ICMP
セッション層	• TCP • UDP
アプリケーション層	• LPR • FTP • HTTP/HTTPS • SNMP • DHCP • NTP



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

プリンタ言語

- SBPL
- SZPL
- SDPL
- SIPL
- STCL
- SEPL



- RFIDコマンドは、SBPLおよびSZPLでのみ使用できます。
-

規格

項目	内容
安全規格	電源コード PSE
EMC規格	VCCI B
環境規格	RoHS指令に対応
節電機能	ErP指令効率規制レベルVI対応アダプタ使用



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。
-

使用できる用紙



- 弊社指定のサプライ製品を使用してください。

種類

- ロール紙（裏巻き/表巻き）
- ファンフォールド紙
- リストバンドロール（表巻き）

RFIDモデル：

- ロール紙（表巻き）
- ファンフォールド紙

サイズ（ラベルタイプ）

- 連続発行

項目	内容
用紙長さ	7～397mm RFIDタグ：25～397mm
用紙長さ（台紙含む）	10～400mm RFIDタグ：28～400mm
用紙幅	22～115mm
用紙幅（台紙含む）	25～118mm



- 上記の用紙長さと用紙幅はダイカットラベルの場合に有効です。タグなどの台紙のない用紙については、「台紙含む」の項目をご覧ください。

- ティアオフ

項目	内容
用紙長さ	22～397mm RFIDタグ：25～397mm
用紙長さ（台紙含む）	25～400mm RFIDタグ：28～400mm
用紙幅	22～115mm
用紙幅（台紙含む）	25～118mm



- 上記の用紙長さと用紙幅はダイカットラベルの場合に有効です。タグなどの台紙のない用紙については、「台紙含む」の項目をご覧ください。

- ティアオフ（カッタユニット装着時）

項目	内容
用紙長さ	32～397mm RFIDタグ：同上
用紙長さ（台紙含む）	35～400mm RFIDタグ：同上
用紙幅	22～115mm
用紙幅（台紙含む）	25～118mm



- 上記の用紙長さと用紙幅はダイカットラベルの場合に有効です。タグなどの台紙のない用紙については、「台紙含む」の項目をご覧ください。

- ティアオフ（ノンセパカッタユニット装着時）

項目	内容
用紙長さ	25～100mm
用紙幅	25～110mm

- カッタ/ハクリ

項目	内容
用紙長さ	20～397mm RFIDタグ：25～397mm
用紙長さ（台紙含む）	23～400mm RFIDタグ：28～400mm
用紙幅	22～115mm
用紙幅（台紙含む）	25～118mm



- 上記の用紙長さと用紙幅はダイカットラベルの場合に有効です。タグなどの台紙のない用紙については、「台紙含む」の項目をご覧ください。

- ノンセパカッタ

項目	内容
用紙長さ	25～100mm
用紙幅	25～110mm

サイズ（糊なしタイプ）

- 連続発行

項目	内容
用紙長さ	10～399mm RFIDタグ：25～399mm
用紙幅	25～118mm

- ティアオフ

項目	内容
用紙長さ	25～399mm RFIDタグ：同上
用紙幅	25～118mm

- カッタ

項目	内容
用紙長さ	20～399mm RFIDタグ：25～399mm
用紙幅	25～118mm



- 対応できるラベルサイズや印字品質は、発行速度、用紙、リボンとの組み合わせ、本製品の設定や使用環境などにより異なります。ご使用環境にて事前に動作確認を推奨します。

用紙外径（ロール紙）

- ロール紙
最大φ128mm（φ5.0インチ）
- リストバンドロール
最大φ115mm（φ4.5インチ）

RFIDモデル：

- ロール紙/リストバンドロール
最大φ115mm（φ4.5インチ）



- RFIDタグの仕様については、弊社営業担当にお問い合わせください。
-

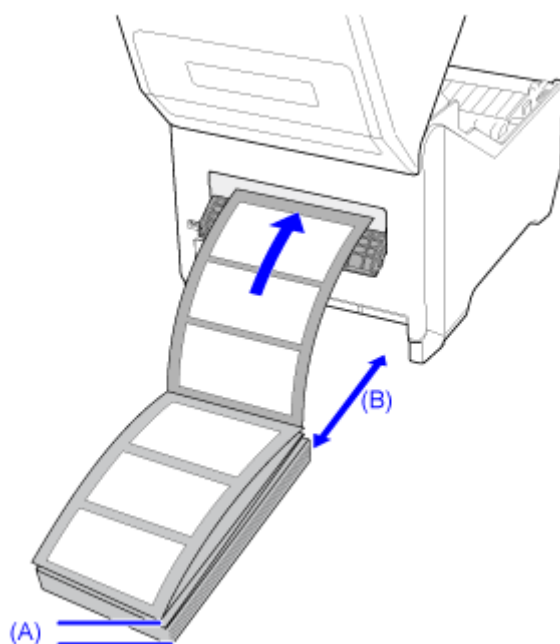
支管内径（ロール紙）

- ロール紙/リストバンドロール
φ40mm（φ1.5インチ）
- RFIDタグ ロール紙
φ76.2mm（φ3インチ）
- RFIDタグ リストバンドロール
φ40mm（φ1.5インチ）



- RFIDタグの仕様については、弊社営業担当にお問い合わせください。
-

高さ（ファンフォールド紙）



(A) 用紙の高さ（机上より）：100mm以内

(B) 本製品背面と用紙の距離：用紙1枚分以上 / RFIDタグは用紙2枚分以上



- 用紙設置場所により高さが制限される場合があります。
- 用紙を背面の同机上ではなく机下などから引き込んで使用する場合は、印字動作の障害にならないように設置してください。

- ミシン目によりハクリ機能に影響があるため、ファンフォールド紙はハクリモードでは使用できません。
-

用紙厚

- 80～190 μ m (0.08～0.19mm)

使用できるリボン



- 弊社指定のサプライ製品を使用してください。

項目	内容
サイズ	長さ 最大100m（最大外径φ39mm） 幅 45～111mm（支管幅45mm、76mm、111mm）  - リボンの最大長は、リボン種によって異なります。 - 幅が用紙の幅よりも広いリボンを使用してください。
巻き方向	表巻き
巻取り方法	支管巻き

使用できるフォント

ビットマップフォント

項目	内容
X20	縦9dot x 横5dot
X21	縦17dot x 横17dot
X22	縦24dot x 横24dot
X23	縦48dot x 横48dot
X24	縦48dot x 横48dot
U	縦9dot x 横5dot
S	縦15dot x 横8dot
M	縦20dot x 横13dot
WB	縦30dot x 横18dot
WL	縦52dot x 横28dot
XU	縦9dot x 横5dot
XS	縦17dot x 横17dot
XM	縦24dot x 横24dot
XB	縦48dot x 横48dot
XL	縦48dot x 横48dot
OCR-A	203dpi 縦22dot x 横15dot 305dpi 縦33dot x 横22dot
OCR-B	203dpi 縦24dot x 横20dot 305dpi 縦36dot x 横30dot
JIS X 208漢字フォント（明朝/ゴシック）	- 縦16dot x 横16dot - 縦24dot x 横24dot - 縦22dot x 横22dot - 縦32dot x 横32dot

項目	内容
	縦40dot x 横40dot
JIS X 0213漢字フォント（ゴシック）	- 縦16dot x 横16dot - 縦24dot x 横24dot - 縦22dot x 横22dot - 縦32dot x 横32dot - 縦40dot x 横40dot
互換漢字フォント（明朝/ゴシック）	- 縦16dot x 横16dot - 縦24dot x 横24dot
互換漢字フォント（ゴシック）	縦22dot x 横22dot
中国語簡体字	- 縦16dot x 横16dot - 縦24dot x 横24dot
中国語繁体字	縦24dot x 横24dot
韓国語	- 縦16dot x 横16dot - 縦24dot x 横24dot

スケラブルフォント

項目	内容
ラストライザフォント	- SATO CG Sleek - SATO CG Stream - SATO 0 - SATO Alpha Bold Condensed - SATO Beta Bold Italic - SATO Folio Bold - SATO Futura Medium Condensed - SATO Gamma - SATO OCR-A - SATO OCR-B - SATO Sans - SATO Serif - SATO Symbol Set - SATO Vica - SATO WingBats
ラストライザフォント（多言語）	SATO UD Mincho Japanese

項目	内容
	• SATO UD Gothic Japanese • SATO UD Song Simplified Chinese • SATO UD Hei Simplified Chinese • SATO UD Ming Traditional Chinese • SATO UD Hei Traditional Chinese • SATO UD Batang Korean • SATO UD Dotum Korean • SATO UD Serif • SATO UD Sans • SATO UD Naskh Arabic • SATO UD Kufic Arabic • SATO UD Serif Hebrew • SATO UD Sans Hebrew • SATO UD Serif Thai • SATO UD Sans Thai • SATO UD Serif Hindi • SATO UD Sans Hindi
アウトラインフォント	• Helveticaアウトラインフォント • JIS0208漢字アウトラインフォント



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。

X20フォント

X20フォントは、基本サイズ縦9dot x 横5dotのビットマップフォントです。

固定ピッチのみに対応しています。

フォントサンプルは下図のとおりです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P		p				-	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q				ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r				イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s				ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t				エ	ト	セ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヨ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w				キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x				ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y				ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z				コ	ハ	レ		
B	+	;	K	¢	k	-				サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	-				シ	フ	ワ		
D	-	=	M		m					ス	ヘ	ン		
E	.	>	N		n	!				セ	ホ	ハ		
F	/	?	O		o					ソ	マ	キ		

X21フォント

X21フォントは、基本サイズ縦17dot x 横17dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

フォントサンプルは下図のとおりです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p				ー	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	!			ヤ	シ	フ	ワ		
D	ー	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ソ		
E	.	>	N	^	n	~			ヨ	セ	ホ	°		
F	/	?	O	_	o				ッ	ソ	マ	°		



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション]メニューの[SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ]を有効にするか、コマンドで指定します。

X22フォント

X22フォントは、基本サイズ縦24dot x 横24dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

フォントサンプルは下図のとおりです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	`	p				ー	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	”	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	!			ヤ	シ	フ	ワ		
D	ー	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	^	n	~			ヨ	セ	ホ	°		
F	/	?	O	_	o				ッ	ソ	マ	°		



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション]メニューの[SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ]を有効にするか、コマンドで指定します。

X23フォント

X23フォントは、基本サイズ縦48dot x 横48dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

フォントサンプルは下図のとおりです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	`	p				一	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	!			ヤ	シ	フ	ワ		
D	—	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	^	n	~			ヨ	セ	ホ	°		
F	/	?	O	_	o				ッ	ソ	マ	°		



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ] を有効にするか、コマンドで指定します。

X24フォント

X24フォントは、基本サイズ縦48dot x 横48dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

フォントサンプルは下図のとおりです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p				一	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	[	k	{			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	!			ヤ	シ	フ	フ		
D	-	=	M	]	m	}			ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	^	n	~			ヨ	セ	ホ	°		
F	/	?	O	_	o				ツ	ソ	マ			



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション]メニューの[SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ]を有効にするか、コマンドで指定します。

Uフォント

Uフォントは、基本サイズ縦9dot x 横5dotのビットマップフォントです。

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、コードページX201が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P		p				-	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q				ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r				イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s				ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t				エ	ト	セ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヨ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w				キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x				ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y				ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z				コ	ハ	レ		
B	+	;	K	¢	k	-				サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	-				シ	フ	ワ		
D	-	=	M		m					ス	ヘ	ン		
E	.	>	N		n	!				セ	ホ	ゝ		
F	/	?	O		o					ソ	マ	＊		



- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

Sフォント

Sフォントは、基本サイズ縦15dot x 横8dotのビットマップフォントです。

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、コードページX201が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P		p				-	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q				ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r				イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s				ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t				エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			.	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	シ		
B	+	;	K	¢	k	-			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	=			ヤ	シ	フ	ワ		
D	-	=	M		m				ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N		n	!			ヨ	セ	ホ	”		
F	/	?	O		o				ツ	ソ	マ	°		



- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

Mフォント

Mフォントは、基本サイズ縦20dot x 横13dotのビットマップフォントです。

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、コードページX201が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P		p				ー	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q				ア	チ	ム		
2	”	2	B	R	b	r				イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s				ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t				エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			.	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヨ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	ø	k	ー			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	ー			ヤ	シ	フ	ワ		
D	ー	=	M	½	m	l			ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	¼	n	l			ヨ	セ	ホ	ゝ		
F	/	?	O	¾	o				ツ	ソ	マ	°		



- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

WBフォント

WBフォントは、基本サイズ縦30dot x 横18dotのビットマップフォントです。

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、コードページX201が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p				-	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q				ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r				イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s				ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t				エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			.	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヨ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	Ø	k	-			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	-			ヤ	シ	フ	ワ		
D	-	=	M	½	m				ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	¼	n	!			ヨ	セ	ホ	ゝ		
F	/	?	O	¾	o				ツ	ソ	マ	°		



- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

WLフォント

WLフォントは、基本サイズ縦52dot x 横28dotのビットマップフォントです。

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、コードページX201が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p				-	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q				ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r				イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s				ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t				エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			.	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヨ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ア	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			イ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ウ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			エ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	Ø	k	-			オ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	-			ヤ	シ	フ	ワ		
D	-	=	M	½	m	l			ユ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	¼	n	l			ヨ	セ	ホ	ッ		
F	/	?	O	¾	o				ツ	ソ	マ	°		



- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

XUフォント

XUフォントは、基本サイズ縦9dot x 横5dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

下図は、コードページ858が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	`	p	Ç	É	á	Ø		ø	ó	-
1	!	1	Á	Q	a	q	Ü	æ	í			Ð	þ	±
2	"	2	B	R	b	r	é	Æ	ó			È	ò	=
3	#	3	C	S	c	s	á	ô	ú			Ê	õ	¾
4	\$	4	D	T	d	t	ä	ö	ñ			É	ï	¶
5	%	5	E	U	e	u	à	ò	ñ	Á		€	ø	§
6	&	6	F	V	f	v	á	û	æ	Â	ã	í	µ	÷
7	'	7	G	W	g	w	ç	ù	ø	À	Ä	î	þ	,
8	<	8	H	X	h	x	ê	ÿ	¿	Ø		ï	þ	°
9	>	9	I	Y	i	y	ë	ö	æ				ó	¨
A	*	:	J	Z	j	z	è	Ü	¬				ô	+
B	+	;	K	[	k	{	ï	ø	¼				ù	!
C	,	<	L	\	l		î	£	¼				ý	³
D	-	=	M	]	m	}	ì	¥	;	¢		!	ý	²
E	.	>	N	^	n	~	ÿ	×	«	¥		ì	~	
F	/	?	O	_	o	¸	À	f	»		¸		'	



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ] を有効にするか、コマンドで指定します。
- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

XSフォント

XSフォントは、基本サイズ縦17dot x 横17dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

下図は、コードページ858が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p	Ç	É	á	Ø		Š	Ó	-
1	!	1	A	Q	a	q	ü	æ	í			Đ	ß	±
2	"	2	B	R	b	r	é	Æ	ó			È	Ô	=
3	#	3	C	S	c	s	â	ô	ú			Ê	Ò	¾
4	\$	4	D	T	d	t	ä	ö	ñ			Ë	Õ	¶
5	%	5	E	U	e	u	à	ò	Ñ	À		€	Ö	§
6	&	6	F	V	f	v	â	û	ä	Â	ã	Í	µ	÷
7	'	7	G	W	g	w	ç	ù	ó	Ä	Å	Î	þ	,
8	(	8	H	X	h	x	ê	ÿ	¿	©		Ï	ƒ	°
9	)	9	I	Y	i	y	ë	ö	®				Ú	¨
A	*	:	J	Z	j	z	è	ü	¬				Ů	•
B	+	;	K	[	k	{	ï	ø	½				Ű	¹
C	,	<	L	\	l	!	î	£	¼				Ý	³
D	-	=	M	]	m	}	ì	Ø	¡	¢		!	Ÿ	²
E	.	>	N	^	n	~	Ä	×	«	¥		!	˘	
F	/	?	O	_	o	■	Å	f	»		α		˘	



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ] を有効にするか、コマンドで指定します。
- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

XMフォント

XMフォントは、基本サイズ縦24dot x 横24dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

下図は、コードページ858が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	`	p	Ç	É	á	Ø		ð	Ó	-
1	!	1	A	Q	a	q	ü	æ	í			Ð	β	±
2	"	2	B	R	b	r	é	Æ	ó			Ê	Ô	=
3	#	3	C	S	c	s	â	ô	ú			Ë	Ò	¾
4	\$	4	D	T	d	t	ä	ö	ñ			È	õ	¶
5	%	5	E	U	e	u	à	ò	Ñ	Á		€	Õ	§
6	&	6	F	V	f	v	ã	û	ä	Â	ã	Í	μ	÷
7	'	7	G	W	g	w	ç	ù	ó	À	Ã	Î	þ	,
8	(	8	H	X	h	x	ê	ÿ	¿	©		Ï	ƒ	°
9	)	9	I	Y	i	y	ë	Ö	®				Ú	™
A	*	:	J	Z	j	z	è	Ü	¬				Û	•
B	+	;	K	[	k	{	ï	ø	½				Ü	¹
C	,	<	L	\	l	!	î	£	¼				Ý	³
D	—	=	M	]	m	}	ì	Ø	ï	¢		!	Ý	²
E	.	>	N	^	n	~	Ä	x	<<	¥		ì	-	
F	/	?	O	_	o		Å	f	>>		α		´	



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ] を有効にするか、コマンドで指定します。
- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

XBフォント

XBフォントは、基本サイズ縦48dot x 横48dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

下図は、コードページ858が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	`	p	Ç	É	á	Ø		ø	Ó	—
1	!	1	A	Q	a	q	ü	æ	í			Ð	β	±
2	"	2	B	R	b	r	é	Æ	ó			Ê	Ô	≡
3	#	3	C	S	c	s	â	ô	ú			È	Ò	³ / ₄
4	\$	4	D	T	d	t	ä	ö	ñ			È	õ	¶
5	%	5	E	U	e	u	à	ò	Ñ	Á		€	Õ	§
6	&	6	F	V	f	v	å	û	ä	Â	ã	Í	μ	÷
7	'	7	G	W	g	w	ç	ù	ó	À	Ã	Î	þ	,
8	(	8	H	X	h	x	ê	ÿ	¿	©		Ï	Þ	°
9	)	9	I	Y	i	y	ë	Ö	®				Ú	..
A	*	:	J	Z	j	z	è	Ü	¬				Û	•
B	+	;	K	[	k	{	ï	ø	¹ / ₂				Ü	¹
C	,	<	L	\	l	!	î	£	¹ / ₄				Ý	³
D	—	=	M	]	m	}	ì	Ø	ì	¢		!	Ý	²
E	.	>	N	^	n	~	Ä	×	«	¥		ì	-	
F	/	?	O	_	o		Å	f	»		α		´	



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ] を有効にするか、コマンドで指定します。
- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

XLフォント

XLフォントは、基本サイズ縦48dot x 横48dotのビットマップフォントです。

固定ピッチとプロポーショナルピッチの選択ができます。

下図は、コードページ858が指定されている場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p	Ç	É	á	Ø		ø	Ó	-
1	!	1	A	Q	a	q	ü	æ	í			Ð	β	±
2	"	2	B	R	b	r	é	Æ	ó			Ê	Ô	=
3	#	3	C	S	c	s	â	ô	ú			Ë	Ò	¾
4	\$	4	D	T	d	t	ä	ö	ñ			È	õ	¶
5	%	5	E	U	e	u	à	ò	Ñ	Á		€	Õ	§
6	&	6	F	V	f	v	ã	û	ª	Â	ã	Í	μ	÷
7	'	7	G	W	g	w	ç	ù	º	À	Ã	Î	þ	,
8	(	8	H	X	h	x	ê	ÿ	¿	©		Ï	ƒ	°
9	)	9	I	Y	i	y	ë	Ö	®				Ú	•
A	*	:	J	Z	j	z	è	Ü	¬			≡	Û	·
B	+	;	K	[	k	{	ï	ø	½			■	Ü	¹
C	,	<	L	\	l	!	î	£	¼			▒	ý	³
D	-	=	M	]	m	}	ì	Ø	ì	¢		!	Ý	²
E	.	>	N	^	n	~	Ä	x	«	¥		ì	'	
F	/	?	O	_	o	■	Å	f	»		α	≡		



- プロポーショナルピッチを選択するには、[アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [プロポーショナルピッチ] を有効にするか、コマンドで指定します。
- [アプリケーション] メニューの [SBPL] > [フォント設定] > [コードページ] の設定またはコマンドで指定するコードページによって、キャラクタセットが変化します。

OCR-Aフォント

OCR-Aフォントはビットマップフォントです。基本サイズは、以下のように印字解像度によって異なります。

印字解像度	基本フォントサイズ
203dpi (8dot/mm)	縦22dot x 横15dot
305dpi (12dot/mm)	縦33dot x 横22dot

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、印字解像度305dpi (12dot/mm) の場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0		P										
1		1	A	Q										
2		2	B	R										
3		3	C	S										
4	4	4	D	T										
5		5	E	U										
6		6	F	V										
7		7	G	W										
8		8	H	X										
9		9	I	Y										
A			J	Z										
B			K											
C			L											
D			M											
E	.	>	N											
F	/		◇											

OCR-Bフォント

OCR-Bフォントはビットマップフォントです。基本サイズは、以下のように印字解像度によって異なります。

印字解像度	基本フォントサイズ
203dpi (8dot/mm)	縦24dot x 横20dot
305dpi (12dot/mm)	縦36dot x 横30dot

固定ピッチのみに対応しています。

下図は、印字解像度305dpi (12dot/mm) の場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P										
1	!	1	A	Q										
2	"	2	B	R										
3	#	3	C	S										
4	\$	4	D	T										
5	%	5	E	U										
6	&	6	F	V										
7	'	7	G	W										
8	(	8	H	X										
9	)	9	I	Y										
A	*	:	J	Z										
B	+	;	K	¥										
C	/	<	L	¥										
D	-	=	M											
E	.	>	N											
F	/	?	O											

スケーラブルフォント

本製品は、さまざまなスケラブルフォントを内蔵しています。

下図は、スケーラブルフォントのサンプルです。

SATOCGSleek:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOCGStream:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SAT00CRA:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SAT00:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOALPHABC:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOBETABI:	<i>ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123</i>
SATOFOLIOB:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOFUTURAMC:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOGAMMA:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SAT00CRB:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOSANS:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOSERIF:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOSYM:	f/...√∞¬HΘIηθι678
SATOVICA:	ABCXYZabcdefghijklmnopqrstuvwxyz123
SATOWING:	✌️👉✎✖️⬛☾🌀♏️☒☑️⚔️📁📄📜

多言語フォント

本製品は、さまざまな多言語フォントを搭載しています。

下図は、多言語フォントのサンプルです。

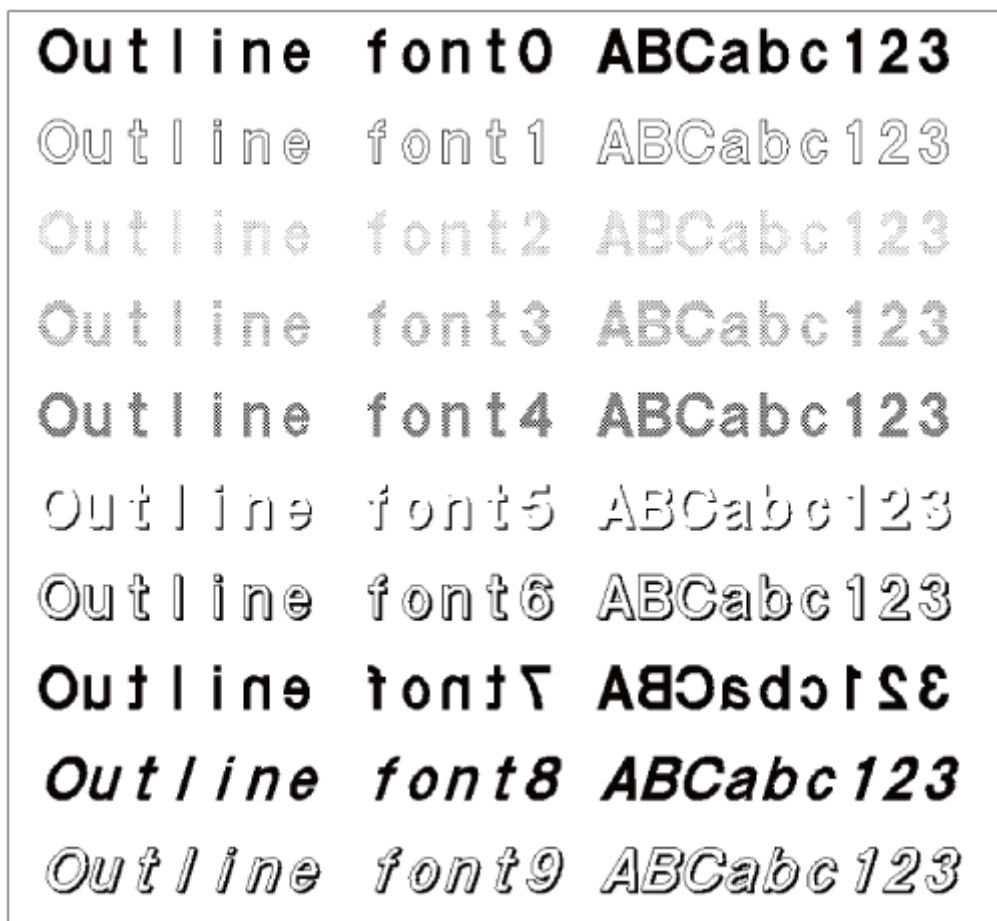
b= 0: This is fontsample.
b= 8: **This is fontsample.**
b= 1: هذه عينة من الخط.
b=13: هذه عينة من الخط.
b= 2: นี่คือตัวอย่างของตัวอักษร
b= 3: इस फ़ॉन्ट का एक नमूना है
b=14: זהה דוגמא של הגופן.
b= 4: 這是字體的樣本。
b= 9: 這是字體的樣本。
b= 6: 这是字体的样本。
b=11: 这是字体的样本。
b= 5: これはフォントのサンプルです。
b=10: これはフォントのサンプルです。
b= 7: 이것은 글꼴의 샘플입니다.
b=12: 이것은 글꼴의 샘플입니다.

アウトラインフォント

アウトラインフォントは、フォント種、フォントの大きさ、フォント形状を指定できます。

フォント種で固定ピッチかプロポーショナルピッチを指定できます。または、漢字も指定できますが、漢字は固定ピッチのみに対応しています。

下図は、フォント形状のサンプルです。標準、白抜き、灰色、影付き、鏡反転、斜体などの形状を指定できます。



下図は、標準フォントの場合のフォントサンプルです。

	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0		0	@	P	'	p				ー	タ	ミ		
1	!	1	A	Q	a	q			。	ア	チ	ム		
2	"	2	B	R	b	r			「	イ	ツ	メ		
3	#	3	C	S	c	s			」	ウ	テ	モ		
4	\$	4	D	T	d	t			、	エ	ト	ヤ		
5	%	5	E	U	e	u			・	オ	ナ	ユ		
6	&	6	F	V	f	v			ヲ	カ	ニ	ヨ		
7	'	7	G	W	g	w			ァ	キ	ヌ	ラ		
8	(	8	H	X	h	x			ィ	ク	ネ	リ		
9	)	9	I	Y	i	y			ゥ	ケ	ノ	ル		
A	*	:	J	Z	j	z			ェ	コ	ハ	レ		
B	+	;	K	[	k	{			ォ	サ	ヒ	ロ		
C	,	<	L	¥	l	!			ャ	シ	フ	ワ		
D	—	=	M	]	m	}			ュ	ス	ヘ	ン		
E	.	>	N	^	n	~			ョ	セ	ホ	°		
F	/	?	O	_	o				ッ	ソ	マ	°		



- フォントの大きさは1～999dotの範囲で指定できますが、フォント形状に対してフォントの大きさが小さい場合、フォントと判断できなくなりますのでご注意ください。また、フォントの大きさの指定が小さすぎると、フォントによってはつぶれる可能性があります。

使用できるバーコード

コードの種類	内容
バーコード	• UPC-A/UPC-E • JAN/EAN • CODE39、CODE93、CODE128 • GS1-128 (UCC/EAN128) • CODABAR (NW-7) • ITF • インダストリアル2 of 5 • NECマトリックス 2 of 5 • MSI • カスタマバーコード • POSTNET • UPCアドオンコード • BOOKLAND • USPSコード • GS1 DataBar Omnidirectional • GS1 DataBar Truncated • GS1 DataBar Stacked • GS1 DataBar Stacked Omnidirectional • GS1 DataBar Limited • GS1 DataBar Expanded • GS1 DataBar Expanded Stacked
二次元コード	• QRコード • マイクロQRコード • セキュリティQR • PDF417 • マイクロPDF • MAXIコード • GS1データマトリックス • データマトリックス (ECC200) • Aztecコード • GS1 QRコード
合成シンボル	• EAN-13 Composite (CC-A/CC-B) • EAN-8 Composite (CC-A/CC-B) • UPC-A Composite (CC-A/CC-B)

コードの種類	内容
	• UPC-E Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Truncated Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Stacked Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Expanded Stacked Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Expanded Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Stacked Omnidirectional Composite (CC-A/CC-B) • GS1 DataBar Limited Composite (CC-A/CC-B) • GS1-128 Composite (CC-A/CC-B/CC-C)



- 仕様は、予告なく変更されることがあります。
-

保証と保守について

保証登録について

本製品は同梱の保証書の保証規定に基づき、無償修理をおこなっております。修理ご依頼時には、保証登録が必要です。

保証登録に関する詳細情報は、弊社営業担当までお問い合わせください。

保守サポートについて

サトーではお客様に安心して製品をご利用いただくために、保守サポートをご提供しています。
詳細は、サトーホームページをご覧ください。



<https://www.sato.co.jp/support/service/>

保証規定について

本製品の保証については、弊社の規定により定められています。

詳細は、サトーホームページでご確認ください。



https://www.sato.co.jp/support/service/prINTER_support.html

製品保証期間における消耗部品の保証について

消耗部品となる下記部品は、弊社指定のサプライ製品をご使用の条件で、本体保証期間に関係なく下記の走行距離または納入から6か月間の早い方が無償修理対応期限となります。

- サーマルヘッド：30km
- プラテンローラー：30km
- カッタ：30万回

よくあるご質問（Q&A）・関連マニュアル

よくあるご質問（Q&A）

プリンタやプリンタドライバ、ラベル発行ツールなどの関連ソフトウェアやサプライ品などに関してよくいただくご質問については、サトーホームページのよくあるご質問をご覧ください。



<https://www.sato.co.jp/support/faq/>

関連マニュアル

プリンタドライバなどのソフトウェアやマニュアルは、サトーホームページのサポート・ダウンロードページからダウンロードできます。



<https://www.sato.co.jp/support/>

